総合イノベーション工学専攻 鈴鹿工業高等専門学校 (ロボットテクノロジーコース

開講年度

平成31年度 (2019年度)

学科到達目標

本プログラムは、高専教育の特徴である早期7年一貫教育により、主となる専門分野(機械、電気・電子・情報、化学・生物、材料)の知識に加えて、中京地区の伝統的特徴である素材から工業製品に至る"ものづくり"に必要な生産システムに関する工学基礎知識、豊富な実験技術および新たな価値を創り出すことができる力(*注)を身に付け、国際的に活躍できる実践的技術者を育成する。

本プログラムの修了者は、以下の姿勢・知識・能力を身に付けている必要がある。

- (*注)社会のニーズに対応して有用な製品や良質のサービスを実現するため、習得した知識・技術をもとに自ら進んで、技術的諸問題の解決や 新たな"ものづくり"に取り組める能力
- (A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)
- <視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。 (a)
- <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。(b)
- <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。(e, g)
- (B) 基礎・専門の知識とその応用力(c,d,e,h,i)
- <基礎> 数学, 自然科学および情報技術の知識の内容を習得し, それを活用できる。(c)
- <専門> 基礎工学および主となる専門分野に加えて、生産システムに関する専門工学(生産・素材・計測に関する工学ならびに知識に関する工学)の知識を習得し、それを活用できる。(d)
- <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し,協力しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。 (c, d, e, h, i)
- (C) コミュニケーション能力(f)
- <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)
- <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)
- 注:文末のアルファベットはJABEEの基準1(2)との対応関係を示す。

						学年別週当授業時数				
科目	区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	専1年	1	専2年	ı	担当教員
						前	後	前	後	
一般	必修	環境保全工学	0001	学修単位	2	2				甲斐 穂高
一般	選択	化学総論	0002	学修単位	2		2			甲斐 穂高
一般	選択	応用物理学	0003	学修単位	2		2			仲本 朝基
一般	選択	グローバル・リーダー論	0005	学修単位	2		2			平井信充 八十二年 信元 一十二年 信元 一十二年 高元 一十二年 一十二年 一十二年 一十二年 一十二年 一十二年 一十二年 一十二年
一般	必修	技術英語 I	0015	学修単位	1	1				Lawson Michael
一般	必修	英語総合 I	0016	学修単位	1		1			古野 百合
一般	必修	技術者倫理	0017	学修単位	2		2			横山藤博, 伊津田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
一般	必修	応用情報工学	0018	学修単位	2	2				浦尾 彰
一般	必修	データベース論	0019	学修単位	2		2			田添 丈博
一般	必修	代数学特論	0021	学修単位	2		2			大貫 洋介
一般	選択	数理解析学 I	0022	学修単位	2	2				桑野 一成
一般	選択	数理解析学Ⅱ	0023	学修単位	2		2			桑野 一成
一般	選択	実践工業数学 I	0024	学修単位	1	1				白井 達也 ,柴垣 寛治 ,箕浦 弘人
一般	選択	実践工業数学Ⅱ	0025	学修単位	1	1				山口 雅裕 ,和田 憲幸 ,兼松 秀行
一般	必修	信頼性工学	0026	学修単位	2	2				民秋 実
一般	選択	インターンシップ I	0034	学修単位	2					インター ンシップ 担当教員
一般	選択	インターンシップⅡ	0035	学修単位	4					インター ンシップ 担当教員
一般	選択	インターンシップⅢ	0036	学修単位	6		,			インター ンシップ 担当教員

 一般 選択 国際インターンシップ I 一般 選択 国際インターンシップ II 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 上級英会話 事門 ス択 資源 エ学 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 有機化学特論 専門 ス	0037 0038 0039 0040 0041 0042 0004 \$(1年 0006 0007 0008 0009 0010	学修 学	2 4 3 2 1 2 2 5 2 2	2 1 2.5 2	2 2 2.5			イン担 イン担 近箕和西山 近箕和西山 日 兼甲 近下和山箕西 特工員 長ンシ当 ンシ当 旋浦田村口 藤浦田村口 藤浦田村口 下 松斐 藤野田口浦村 別指 タッ教 タッ教 邦弘憲一雅 邦弘憲一雅 邦弘憲一雅 隆 秀穂 邦晃憲雅弘一 研導 滋一プ員 一プ員 和人幸寛裕 和人幸寛裕 和人幸寛裕 司 行高 和 幸裕人寛 究教
 一般 選択 海外語学実習Ⅲ 一般 選択 海外語学実習Ⅱ 一般 選択 海外語学実習Ⅰ 一般 選択 上級英会話 専門 コス沢 資源工学 専門 必修 特別研究Ⅰ 専門 選択 有機化学特論 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 エネルギー移送論 	0039 0040 0041 0042 0004 (1年 0006 0007 0008 0009	学修単位	3 2 1 2 2 2 5	2.5	1			イン担 近箕和西山 近箕和西山 日 兼甲 近下和山箕西 特1員クッ教 邦弘憲一雅 邦弘憲一雅 降 秀穂 邦晃憲雅弘一 究導 中 の で おり から
一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 上級英会話 専門 ス選 資源工学 専門 必修 総介 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 有機化学特論 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 エネルギー移送論 専門 ス沢	0040 0041 0042 0004 0004 年 0006 0007 0008 0009	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位	2 1 2 2 2 5	2.5	1			近箕和西山 近箕和西山 日 兼甲 近下和山箕西 特工員際浦田村口 藤浦田村口 藤浦田村口 下 松斐 藤野田口浦村 別指邦弘憲一雅 邦弘憲一雅 降 秀穂 邦晃憲雅弘一 守利 別指 東京 一年
 一般 選択 海外語学実習 I 一般 選択 上級英会話 専門 ス選 資源工学 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 クチ生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 エネルギー移送論 	0041 0042 0004 0006 0007 0008 0009	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位	1 2 2 2 5	2.5	1			(第和西山) 近箕和西山 日 兼甲 近下和山箕西 特 I 員 和 幸裕人
一般 選択 上級英会話 専門 フス選 資源工学 専門 必修 総合イノベーション工学実験 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 有機化学特論 専門 選択 分子生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 ス選 エネルギー移送論 専門 スス選	0042 0004 0006 0007 0008 0009	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位	2 2 2 5	2.5	1			集和西山 日 兼甲 近下和山箕西 附指 医 秀穂 邦晃憲雅弘一 究教 上員 特工員 特工員 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫 医乳球虫
専門 ス選択 資源工学 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 有機化学特論 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 エネルギー移送論択	0004 (1年 0006 0007 0008 0009	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位	2 2 5 2	2.5	1			兼松斐 邦晃 東野田 近下和山第 八五川
東門 必修 専門 必修 特別研究 I 専門 選択 有機化学特論 専門 選択 サクチ生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 ス選 エネルギー移送論	(1年 0006 0007 0008 0009	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位	5 2	2.5	1			世界 では できます (中学) では できます (中学) では がった (中学) では がった (中学) では) では (中学) では
専門 必修 特別研究 I 専門 選択 内機化学特論 専門 プス選 分子生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 選択 化学情報工学 専門 プス選 エネルギー移送論 択	0000 0007 0008 0009	学修単位学修単位	5 2	2.5				,下野 晃 ,和田 雅裕 ,其浦 弘] 特別研究 I 指導教
専門 選択 有機化学特論 専門 コース選 分子生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 ス選 エネルギー移送論 択 オート	0008	学修単位	2	2	2.5			I 指導教 員
専門 コース選択 分子生命科学界 専門 選択 化学情報工学 専門ス選択 エネルギー移送論択	0009	学修単位						長原 滋
専門 ス選択 分子生命科学 専門 選択 化学情報工学 専門 ス選択 エネルギー移送論択			2					T T
専門 ス選 エネルギー移送論 択	0010	学修畄位		2				山口 雅裕
択		アルナル	2	2				長原 滋
	0011	学修単位	2		2			藤松 孝裕
コー 専門 ス選 マイクロプロセス工学 択	0012	学修単位	2	2				柴垣 寛治
専門 選択 応用電子回路論	0013	学修単位	2		2			近藤一之
マス選	0014	学修単位	2	2				横山 春喜
専門 ス選 択必 情報通信工学特論 修	0020	学修単位	2	2				森 育子
専門 選択 非破壊検査工学	0027	学修単位	2	2				未次 正寛
専門 ス選 流体力学特論 修	0028	学修単位	2	2				近藤 邦和
コー 専門 ス選 択必 修 を 複合材料工学	0029	学修単位	2		2			民秋 実
専門 選択 材料物理学	0030	学修単位	2		2			江﨑 尚和
専門ス選組織制御学択	0031	学修単位	2	2				南部 智憲
専門 選択 相変態工学	0032	学修単位	2		2			小林 達正
専門 選択 基礎電子化学	0033	学修単位	2	2				和田憲幸
一般 必修 英語総合 Ⅱ	0044	学修単位	1			1		松尾 江津
一般 必修 技術英語 II	0045	学修単位	1				1	子 Lawson Michael
一般 必修 国際関係論	0046	学修単位	2				2	三瀬 貴弘 ,藤野 月子

									渡邉 潤爾
一般	選択	経営学	0047	学修単位	2		2		
一般	選択	言語表現学特論	0048	学修単位	2			2	石谷 春樹
一般	選択	海外語学実習 [0049	学修単位	1				全学科 全 教員
一般	選択	海外語学実習 II	0050	学修単位	2			,	全学科 全 教員
一般	選択	海外語学実習Ⅲ	0051	学修単位	3	-			全学科 全教員
一般	選択	国際インターンシップ I	0066	学修単位	2				インター ンシップ 担当教員
一般	選択	国際インターンシップⅡ	0067	学修単位	4				インター ンシップ 担当教員
専門	必修	センサ工学	0043	学修単位	2			2	西村 一寛 ,横山 春喜
専門	選択 必修	電子材料特論	0052	学修単位	2		2		伊藤 明,西村 一寛
専門	選択必修	データ処理システム	0053	学修単位	2			2	青山 俊弘
専門	コス択修	ヒューマンインターフェース	0054	学修単位	2		2		箕浦 弘人
専門	選択	実践工業数学 I	0055	学修単位	1		1		白井 達也 ,柴垣 寛治 ,箕浦 弘人
専門	選択	実践工業数学Ⅱ	0056	学修単位	1		1		山口 雅裕 ,和田 憲幸 ,兼松 秀行
専門	コー ス必 修	実践メカトロニクス	0057	学修単位	2			2	打田 正樹
専門	選択	生命工学	0058	学修単位	2			2	丹波 之宏
専門	必修	物性工学	0059	学修単位	2		2		江﨑 尚和
専門	コー ス 択 修	有機材料工学	0060	学修単位	2			2	下古谷 博司
専門	コス選択修	材料強度工学	0061	学修単位	2		2		黒田 大介
専門		エコマテリアル	0062	学修単位	2			2	小俣 香織
専門	選択	インターンシップ I	0063	学修単位	2				インター ンシップ 担当教員
専門	選択	インターンシップ Ⅱ	0064	学修単位	4				インター ンシップ 担当教員
専門	選択	インターンシップⅢ	0065	学修単位	6				インター ンシップ 担当教員
専門	選択	生産設計工学	0068	学修単位	2			2	平井 信充 ,横山 春喜 ,飯塚 昇
専門	選択	電気理論特論	0069	学修単位	2		2		西村 高志
専門		総合イノベーション工学輪講	0070	学修単位	2		2		全学科 全 教員
専門	必修	総合イノベーション工学実験(2年 次)	0071	学修単位	2		2		全学科 全 教員
専門	必修	特別研究Ⅱ	0072	学修単位	7		3.5	3.5	全学科 全 教員
専門	コス択修	移動現象論	0073	学修単位	2		2		船越 邦夫
専門	コー ス選 択必	生体機能工学	0074	学修単位	2		2		今田 一姫
専門	修	細胞情報科学	0075	学修単位	2		2		山口 雅裕
	·			1	1-	<u> </u>		1	

専門	ス選 電子線機器工学	0076	学修単位	2		2	西村 高志
	修						

鈴鹿	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教	科名	環境保全工学
斗目基礎			•		•			
4目番号		0001			科目区分		一般 必修	
受業形態		授業			単位の種別と単	单位数	学修単位	: 2
設学科		総合イノベ- ロジーコープ		ズ(ロボットテクノ	対象学年		専1	
		前期			週時間数		2	
教科書/教	**	教科書:「係	建康と環境の科学	生」編集:川添禎浩	講談社サイエン	テフィク	参考書:	「新・公害防止の技術と法規 大気
211日/32 日当教員	173	」公害防止の 甲斐 穂高	の技術と法規編集	[委員会編(産業公]	善防止協会)			
230页 到達目標	<u> </u>	中安 徳同						
		かに関連したヨ	置境保全の知識な			を基にして	- 様々か環	 環境問題の現状を把握するとともに
これらの	D問題を解決す	する方法を説	明できるようにな	36.	全所 ひ, これり	E-241CO	2136.4.05	
レーブリ	リック				.			
			理想的な到達レ		標準的な到達し	バルの目	l安	未到達レベルの目安
評価項目1			気候変動に関する 後の影響についてを説明でき、 際的な対策を説	る現在の状況と今 て各データを用い 呼来に向けての国 明できる.	各データに基づする現在の状況 明できる.	がいて気候 引と今後の	変動に関	気候変動に関する現在の状況や 後の影響を説明できない.
評価項目2			大気汚染に関する 後の影響についてを説明でき、こ 際的な対策を説	る現在の状況と今 て各データを用い 将来に向けての国 明できる.	各データに基づする現在の状況 明できる.	がいて大気 記と今後の	汚染に関 影響を説	大気汚染に関する現在の状況や 後の影響を説明できない.
評価項目3			低環境負荷社会 廃棄物処理が抱	を実現するために えている問題を説 を解決する対応や る.	廃棄物処理問題 ついて, データ きる.	見の現状や アを踏まえ	悪影響に て説明で	廃棄物処理問題の現状や悪影響 ついて説明できない.
 学科の至	連目標項目]との関係						•
教育方法	 :等							
地球規模で起る 既要 発生メカニズム		起こっている環境 ズムや対策,産業 手法を理解する.	問題の現状や自然接乗物の処理方法	への影響を学び, などを物理, 化学	これらの 学, 生物の)技術的な)基礎知識	対策について理解する. 環境問題 を踏まえて理解し, 問題解決のたと	
授業の進& 容・方法	か方と授業内	に取り組むる グループ学習	こと. 習では, 与えられ	1た課題をとりまと	めて,発表を行う	5ポスター	-ツアー形	る. ・プ学習では与えられた課題を積極的 :式を取り入れて行う. に相当するものとする.
主意点		こてはく1成2でく学く有くではく1成2でく学く有くではく1成2でく学ら機しボッチーを開発して成ら化ボースを開発しては、1、あ単業の機とでは、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1	うえで説明ができる。 えで説明ができる。 のかいでは、はので説明ができる。 からないでで記さい。 からないできる。 からないできる。 はいでもな。 はいでもな。 はい	能力」において示さるようになること 「評価基準>」得点に0.6を乗じた。 「評価基準> で開点が60点以上でに関試験を無断欠席と関試験を無断欠席となること。 「対職の範囲>」 「対職のでであること、を対して、他対策のでは、他であること。」	. これらについて た点数(60点分) あれば単位認定 した場合(試験関	て定期試懸 , および とする. 骨始時まて	食で確認を が提出を義 ごに担任等	NT, 理論的な考え方や原理等につたでう。各到達目標に関する重みづいる付けられた課題(40点分)を学ぶへの欠席の連絡がない場合)も同様に理解していることが望ましい。
受業計画		I.=			ı			
	週	授業内容・プ	·		週	ごとの到達	主目標	
	1週	授業の進め7 地球温暖化			1.	・地球の流	過去の気象	象状況と温暖化の現状を説明できる
	2週	地球温暖化	(2)		2.	温暖化	のメカニス	ズムと影響を説明できる.
	3週	地球温暖化	(3)					明できる.
	4週	ポスターツス	アー I 温暖化扛	制について				こきた内容をもとに, 温暖化の技術 E説明できる.
	5週	ポスターツ	 アー I 温暖化払		4.	これまで	で学習して	こきた内容をもとに,温暖化の技術
	6週	大気汚染と			<u> </u>			E説明できる。 質と発生メカニズムを説明できる。
	7週	大気汚染と						直生,構造物への影響を説明できる ■糖 レ影響を説明できる
前期	8週	大気汚染と 	疫性的 (3)					種類と影響を説明できる. こまた内容をもよに、ま気活効の理
	9週 ポスターツアー II 大気汚染の現状について 8. これまで学習してきた内について説明できる.		ついて説明	<u> 閉できる.</u>	こさに内谷をもとに、大丸汚染の現			
110/2 27 2 7/20/32/27 70/27 2				- 334 22 1 -				

10週

11週

12週

13週

14週

15週

ポスターツアーⅡ 大気汚染の現状について

ポスターツアーⅢ 中間処理の概要について

ポスターツアーⅢ 中間処理の概要について

廃棄物処理(1)

廃棄物処理(2)

廃棄物処理(3)

8. これまで学習してきた内容をもとに,大気汚染の現状について説明できる.

9. 廃棄物の種類と概要(関連法を含む)を説明できる.

12. これまで学習してきた内容をもとに,廃棄物の適正 処理を具体的に説明できる.

12. これまで学習してきた内容をもとに,廃棄物の適正 処理を具体的に説明できる.

10. 廃棄物の最終処分について説明できる.

11. 廃棄物の中間処理を説明できる.

16週	期末試験						
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
配点	60	40	0	0	0	0	100

	工業高等専	 門学校	開講年度	—————————————————————————————————————	2019年度)		教科名	 化学総論	
科目基礎		113312	1/1507172	113,02112 (2	-010 1/2/		37111	10 3 4/6/4/10	
科目番号		0002			科目区分		一般 選択		
授業形態		授業			単位の種別と		学修単位:	2	
開設学科		総合イノベ	一ション工学専攻	(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		ロジーコー 後期	人)		週時間数		2		
用取用 教科書/教标	,		 講 著:芝哲夫	ル学同↓					
教科音/教》 担当教員	4	甲斐 穂高)两 有,人召入	10子四人					
空马教员 到達目標		十文 応同							
			要とする基本的な	化学の概念(無機				 学)を理解し,	 これらを様々な分野
において応	用できるよう	5になること	を目指す.	۱۳۱۱ کا ۱۳۱۸ کا ۱۳۱۸	103 / 1312/10	3 / 1 1 1 2 1 1	0 1 / X 2010) C-1/1+0/	
ルーブリ	ック		T					1	
			理想的な到達レク		標準的な到過	をレベルの	目安	未到達レベノ	レの目安
評価項目1			金属の化学的性質 ,実際に身の回り 事例をあげて化学 ら説明できる.	こに使われている	金属の化学的 きる.	的性質や特	徴を説明で	金属の化学的	り性質や特徴を説明で
する。			5 造を示しながら	水の性質にて	ついて説明	できる.	水の性質にこ	ついて説明できない.	
身の回りにある 学反応や物質の , 有機化合物の			学反応や物質の構	5のを例示し,化 構造を示しながら 性質や特徴を説明	有機化合物の)性質や特	徴を説明で	有機化合物の きない.	D性質や特徴を説明で
 学科の到]との関係			1				
<u>,[1653]</u> 教育方法		200 1/1							
	7.3	数多くの物	 質を取り扱う技術	 者が必要とする基	 本的な化学の	既念(無機		 化学,生物化学	
概要		し, これら	を様々な分野にお	いて応用できるよ [.]	うになること	を目指す.			
では、すべて、学習・記録業の進め方と授業内をできます。 ここでの学習内容は、すべて、学習・記録業の進め方と授業内では、与えられた課題をできませば、 「授業計画」における各週の「到達目)における各週の「到達目)					めて.発表を征	ェラ形式て	"進める.		
価点とし、 2. 再試調である。 く単立修績 学業成績 くあらかし			績は、期末試験の 学業成績評価点が は実施しない、定 要件> 価点が60点以上 め要求される基礎 ,生物,有機化学	得点に0.6を乗じた60点以上であれば期試験を無断欠席 であること・ 知識の範囲〉 ,無機化学,分析	単位認定とす した場合(試験	る. 検開始時ま	でに担任等	への欠席の連絡	0点分)を学業成績評 8がない場合)も同様 こいることが望ましい
授業計画									
<u>, </u>	週	授業内容・	 方法			 週ごとの3			
	1週	授業の進め	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				カテについて	理解する.	
	2週	銅と文明			-			<u></u> 説明できる.	
	3週	鉄と文明				2. 鉄の(上学的性質を	説明できる.	
	4週	貴金属の利	用と性質			3. 貴金属	属の利便性・	特徴・影響を調	説明できる.
	5週	重金属の利	用と性質			4. 重金属	属の利便性・	特徴・影響を調	説明できる.
	6週	様々な金属	 の利用と性質			4. 重金属の利便性・特徴・影響を説明できる. 5. 身の回りにある様々な金属の利便性・特徴・影響を			更性・特徴・影響を訪
	7週	水の性質				明できる. 6 水の(と学的性質を	 説田できス	
	7週 8週	水と生命						<u> </u>	
後期	9週		とアミノ酸					ノ酸の性質を理	里解している
	10週		<u>こだると酸</u> 性(代謝と解毒)					プ酸の圧負で3 毒の作用を理解	
				 質		10.身			<u>#0 (</u>
	11週 日常生活の中での有機化学物質 12週 フェロモンと農薬と殺虫剤					る. 11 農芸	市レ処中学	4つ1455年	生を細盤に アハマ
	12週	大衆薬の性							<u> </u>
	13週							を理解している 射生廃棄物の詞	
		科学技術と							
	15週	化学総論の	まこめ			や事柄に	ついて化学的	な視点での解説	とに, 身の回りの事象 説や説明ができる.
	16週								
評価割合			T	T	T			1	T
··· ^ ' ·	試験		課題	相互評価	態度	発表	₹	その他	合計
総合評価割	合 60		40	0	0	0		0	100

#1±	60	40	0	^	^	0	100
[100 元]	160	40	U	U	U	U	100

鈴鹿	工業高等	5号门子仪	開講年度	平成31年度 (2	-0+0+1/2/	7.7	科名	芯用物理学		
科目基礎					•		·			
科目番号		0003			科目区分	-	一般 選択			
授業形態		授業			単位の種別と単	位数 :	学修単位:	2		
開設学科		総合イノベロジーコー		女(ロボットテクノ	対象学年	Ī	專1			
開設期		後期			週時間数		2			
教科書/教	材	自作テキス								
旦当教員		仲本 朝基								
到達目標	Ē									
1らが物性	<u> きとどのよ</u>	の基本概念を理 うに結び付いて	解し, 工学の基礎 いるかについての	礎となる物性を考え の本質的理解を得る	る上において, そ ことが出来る.	その構成要	素である粉	立子の力学体系の	本質的理解と,そ	
レーブリ	<u> </u>									
			理想的な到達レ		標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安		
平価項目1			量子力学に関すことができる.	る応用問題を解く	量子力学に関する基本問題を解く ことができる.		量子力学に関することができない。	る基本問題を解く		
評価項目2		+	関する応用問題を る.	古典統計力学に解くことができ		本問題を	+	関する基本問題を		
平価項目3			量子統計力学に 解くことができ	関する応用問題を る.	量子統計力学に 解くことができ		本問題を	量子統計力学に 解くことができ	関する基本問題を ない.	
学科の到	達目標	項目との関係	Ŕ							
教育方法	 法等									
既要		現代工学のレベルにま	最先端領域において で反映させるため かつ本質的なる	ハて,物性の基となる めの手段として量子終 考え方・ものの見方(る電子・原子の特殊計力学を活用す こついて身に付け	微を理解 ることは ることを	するために 必要不可ク 日指す	ニ量子力学を, そしてである. この授業	してそれらを物性 業では, それらの	
授業の進め方と授業内 ・すべての内!			内容は学習・教育	育到達目標(B) <記 間の「到達目標」は	基礎>とJABEE基	準1(2)(c	:)に相当す	 る. [相当するものと]	 する.	
主意点		くあらかじ) , 古典力 なっている	が要求される基礎 学,電磁気学,繋)	る. で60点以上を取得す 楚知識の範囲>数学 熱力学,波動学(す ^っ	全般(確率・統計 なわち,「物理」	「応用物	理Ⅰ・Ⅱ亅	「物理学特講」(等の学習が基礎と	
	<u> </u>		が要求される基礎 学,電磁気学,熱) > 授業で保証する 習時間の総計が, 典力学と量子力	楚知識の範囲>数学:	全般(確率・統計 なわち,「物理」 ・復習(中間試験 学習内容である. カ学,統計力学と	「応用物 ・定期試	理Ⅰ・Ⅱ」 騒・小 ー フ	「物理学特講」等 ストのための学習ま	等の学習が基礎と	
		く) かじから から か	め要求される基係学,電磁気学,電磁気学,系)) > 授業で保証する。習時間の総計が、 典力学と量子力等。 ることを十分認証	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 はわち、「物理」 ・復習(中間試験 学習内容である. 力学、統計力学と こと・	「応用物 ・定期試 〔熱力学,	理Ⅰ・Ⅱ」 験・小テン などをまっ	「物理学特講」等 ストのための学習ま	等の学習が基礎と	
	週 1週		め要求される基礎学、電磁気学、電磁気学、電磁気学、で保証するで保証する。 と授業で保証する。 習時間の総計が、 典力学と量子力等。 あことを十分認証	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 なわち,「物理」 ・復習(中間試験 学習内容である。 力学,統計力学と こと・ 週こ	「応用物 ・定期試 熱力学, ごとの到達 光の粒子	理 I ・ II 」 験・小テン などをまっ は目標	「物理学特講」(ストのための学習) ったく別の学問たか	等の学習が基礎と 5含む)に必要な 5と考えず,深い	
	週 1週	く)なく標準備りから古て己学なく標準備りから古て己学なく標準に関わります。 関切	め要求される基礎学、電磁気学、電磁気学、電磁気学、で保証するとのではます。 といる では でいま でき でいま でいま でいま でいま でいま かい	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 はわち、「物理」 ・復習(中間試験・学習内容である。 力学、統計力学と こと・ 週こ 1・で	「応用物 ・定期試 熱力学, ごとの到道 光の粒子 きる.	理 I ・ II) 験・小テン などをまっ <u>目標</u> 性、電子の	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たった	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず,深い 質波について説明	
	週 1週 2週	く)なく標準備りから古て己学なく標準備りから古て己学なく標準に関わります。 関切	め要求される基礎学、電磁気学、電磁気学、電磁気学、で保証するで保証する。 と授業で保証する。 習時間の総計が、 典力学と量子力等。 あことを十分認証	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 ・復習(中間試験 ・復習(容である) 力学,統計力学と して、 週でである。 カ学、 のである。 カ学、 のである。 カ学、 のである。 カ学、 のである。 カ学、 のである。 もである。 している。 のである。 している。 のである。 している。 のである。 している。 のである。 している。 のである。 している。 している。 のである。 してい。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 してい。 している。 してい。 している。 している。 している。 している。 して、 してい。 している。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。	「応用物 ・定期試 ・ 定期 ・ 定数力学, ごとの到達 ・ 光の粒子 ・ シュレー	理 I ・ II) 験・小テン などをまっ 目標 性、電子(ディンガ-	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たった の波動性など、物 一方程式の成り立	等の学習が基礎と ち含む)に必要な ちと考えず,深い 質波について説明 ちを説明できる.	
	週 1週 2週 3週	く)なく標準(関) 受前 は シカ がく 標準 (関) で 力 (利) を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	め要求される基係学, の要求される基係学, の要でででででででででででででででででででででででででででででででいます。 できることを十分認証 方法 カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カ	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 ・復習(中間試験 学習内容である。 カ学、統計力学 こと・ 週こ 1・ こと・ 3・ 4・	「応用物」では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次のなった。 シュ 財 神 値に は いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん	理 I ・ II] 験・小テン などをまっ 目標 上性、電子(- ディンガ・	「物理学特講」 ストのための学習 ったく別の学問た つ次動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず,深い 質波について説明 ちを説明できる. 明できる.	
	週 1週 2週 3週 4週	く)なく標を関した。 (で)力のでは、 (で)力ので)では、 (で)かのでは、 (で)かのでは	め要求される基係 学, の要求で保証する と で保証する と で保証する と で保証する と で解計がた。 ではま子分認言 方法 方法 で インガー方程式 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統語 はわち、「物理」 ・復習(中間試験 学習内容である。 カ学、統計力学 こと・ 週こ 1・できる。 3・ 4・できる。	「応用物」では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	理 I ・ II 」 験・小テラ などをまっ 目標 性、電子(ディンガ・ (について)	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たま つ た の 決動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 章でき、不確定性	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず,深い 質波について説明 ちを説明できる. 明できる.	
	週 1週 2週 3週	く)なく標準(関) 受前 は シカ がく 標準 (関) で 力 (利) を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	め要求される基係 学, の要求で保証する と で保証する と で保証する と で保証する と で解計がた。 ではま子分認言 方法 方法 で インガー方程式 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	楚知識の範囲> 数学: 熱力学,波動学(すっ る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計:	全般(確率・統計 ・復習(中間試験 ・復習(内間試験 学習内容である・ 力学・ ・ 道。 1・で 2・・ 3・ 4・で 5・・ 5・・ 第四内をある・ 1・で 2・・ 3・ 4・で 5・・ 5・・	「応用物」では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	理 I ・ II) 験・小テス などをまっ 目標 一性、電子な でについては ついて計り 効果につい	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たす の波動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 章でき,不確定性 いて説明できる。	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる. 明できる. 原理について説明	
	週 1週 2週 3週 4週	く)なく標く関一方の古て己的学生(関一方の古で記の音準備り一方の古で記の音楽(関一方の音楽(関一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(大)一方の音楽(め要求される基係 学, の要求で保証する と で保証する と で保証する と で保証する と で解計がた。 ではま子分認言 方法 方法 で インガー方程式 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(すずる) る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計: 就しながら学習する。	全般(確率・統計 ・復習(中間試験 ・復習(今である。 ・復習内容である。 カランと・ 週こ 1・できる。 2・ 3・ 4・できる。 5・ 6・	「応用物」では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	理 I ・ II) 験・小テス などをまっ 目標 一性、電子な でについては ついて計り 効果につい	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たす の波動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 章でき,不確定性 いて説明できる。	等の学習が基礎と ち含む)に必要な ちと考えず,深い 質波について説明 ちを説明できる.	
	週 1週 2週 3週 4週 5週	く)なく標く関授 前 シ波原告て己的学が)内 量 リ 関原 子 一 数期 ト 水水 原か 不 の	め要求される基係 学)))>授業で保証する 習時間のと量子の総計が、 選時で総計がから 選供力学とを十分認証 方法 「インガー方程式」 確定性原理	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計: 就しながら学習する。	全般(確率・統計 ・復習(中間試動 ・復習(今である) ・復習内容である) ・復習内容である。 ・復習内容である。 ・復習内容である。 ・復習内容である。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習内容・ のである。 ・復習の容・ のである。 ・復記の容・ のである。 ・復記の容・ のである。 ・復記の容・ のである。 ・できる。 ・で。 ・で。 ・できる。 ・でを。	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I ・ II] 験・小テンなどをまった性標 電子でについて計算 効果については	「物理学特講」 《トのための学習等 かたく別の学問たき の波動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 章でき、不確定性 いて説明できる。 量子力学的記述を	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる. 明できる. 原理について説明	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	く)なく標く関授 前 シ波原告て己的学が)内 量 リ 関原 子 一 数期 ト 水水 原か 不 の	め要求される基係 学, か で	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計: 就しながら学習する。	全般(確率・統計) ・復習(中間試動・学習内統計力学と ・復習内統計力学と ・週 ・1・で ・ 2・ 3・ 4・で ・ 5・ 6・成 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・	「 ・	理 I・ II] 験・小テン などをまっ	「物理学特講」等 ストのための学習等 ったく別の学問たま つたく別の学問たま つたく別の学問たま つたく別の学問たま つたの成り立 つ現代的解釈が説 章でき、不確定性 いて説明できる。 量子力学的記述に が説明できる。	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	 く)なく標く関 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の目標を関 一方の目標を表 一方の目標を表	め要求される基係 学, か で	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計: 就しながら学習する。	全般(確率・統語) ・復習(であると) ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・でである。 ・でできでである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・ででである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でですでですでである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・でである。 ・ででである。 ・でである。 ・でですででである。 ・でである。 ・でである。 ・ででででである。 ・ででででですででである。 ・でですでででででですででででででですででででですででででででででででででで	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I・ I I I I I I I I I I I I I I I I I I	「物理学特講」 《トのための学習等 》たく別の学問たま の波動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 章でき、不確定性 いて説明できる。 量子力学的記述に が説明できる。 た内容を説明でき に内容を説明でき 計算,典型的な統	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	 く)なく標く関 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の自準備的 一方の目標を関 一方の目標を表 一方の目標を表	め要求される基係 学)、 学)、 学業で保証する 経験での 経験での での での での での での での での での での	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) る学習時間と,予習 90時間に相当する 学,量子力学と統計: 就しながら学習する。	全般(確率・統計) ・復習(内間 試動 と ・復習内 統計) ・復習内 統計) ・復習内 統計) ・復習内 統計) ・ 2	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I・II 対	「物理学特講」 《トのための学習者のたく別の学問たるのたく別の学問たるのなり立の現代的解釈が説質でき、不確定性のて説明できる。 量子力学的記述にいる説明できる。 こ内容を説明できる。 こ内容を説明できまけり、典型的な統	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。 計分布やStirlingの	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	く)なく標く関 授 前 シ波 期 トン素 素 間 計 学ら古て己的学な/が 容 子 一数 東 東 原 試 力 と 東 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	め要求される基係 学)、 学)、 学業で保証する 経験での 経験での での での での での での での での での での	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(す) る学習時間と,予習 90時間に相当する データの学子のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	全般(確率・統語) ・復習(である) ・復習内を語力) ・復習内を語力 ・復習内を語力 ・ 復習内を語力 ・ できる。	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I・I I I I I I I I I I I I I I I I I I	「物理学特講」 《トのための学習者のたく別の学問たるのたく別の学問たるのなり立の現代的解釈が説質でき、不確定性のて説明できる。 量子力学的記述にいる説明できる。 こ内容を説明できる。 こ内容を説明できまけり、典型的な統	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。 計分布やStirlingの 仮説について説明	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	く)なく標く関 授 前 シ波 期 ト 水 水 中 統 学 正 分 か の 率 布 か か の で 率 布 か か か か か か か か か か か か か か か か か か	め学の で	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(す) る学習時間と,予習 90時間に相当する データの学子のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	全般(確率・統語) ・復習(内間 試る) ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・である。 ・でもな。 ・でも、 ・でもな。 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I・I サーデル サーデル	「物理学特講」 《トのための学習等 》たく別の学問たま の波動性など、物 一方程式の成り立 の現代的解釈が説 でき、不確定性 いて説明できる。 量子力学的記述に できるが説明できる。 に内容を説明できま に内容を説明できま に内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま にた内容を説明できま	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。 計分布やStirlingの 仮説について説明	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	く) なく標く関 授 前 シ波 期 ト 水 水 中 統 力 小古の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方の 一方	が学り、 で総計が、 でのでで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 で、 で、 で、 で、 で、 で	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) 3学習時間と,予習 90時間に相当する デ,量子がら学習する。 1)	全般(確率・統語) ・復習(であった) ・復習内を語かう ・復習内を語かう ・復習内を語かう ・復習内を語かう ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも ・でも	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I・I 対 と	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「大人のための学習を 「かたく別の学問たる」 「力波動性など、物 「方程式の成り立 「力現代的解釈が説 「できる」 「できる」 「おいできる」 「おいできる」 「た内容を説明できます。 「はいている。 「ないている。 「ないているいる。 「ないているいるいるいではいるいるいではいるいるいではいるいではいるいではいるいでは	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。 計分布やStirlingの 仮説について説明	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	く) なく標く関 授 前 シ波 期 ト 水 水 中 統 力 小古正め、つ自準備的 業 期 ユ動 待 ン 素 素 間 計 学 正典準の出入。 京原 試 力 と 準統分の 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	が学り、 一次でになっています。 一次でにはいます。 一次でにはいます。 一次でにはいます。 一次でにはいます。 一方程式 一方程式 一方程式 一方程式 一次では、 一方程式 一次では、 一方程式 一次では、 一がでは、	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(する) 3学習時間と,予習 90時間に相当する デ,量子がら学習する。 1)	全般(確率・統語 ・復習(である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・復習(容である) ・である。 ・できる。 ・で。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・でを。 ・でを。 ・でをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I ・ I I I I I I I I I I I I I I I I I	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「大人のための学習を 「かたく別の学問たな」 「力波動性など、物理式の成りが説算でき、不確定性ができる。 「一方程代的解釈が説算でき、明明的記述になる。 「一方でき説明できる。 「できいてきる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。 「できる。	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる. 明できる. 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る. 計分布やStirlingの 仮説について説明	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	く)な/標/関 類前シ波期ト水水中統分の合作(別 要 前シ波期 か 水水中統分が容子一数 , 小古正パカーの音等は か と 準統分り 内量 レ関値、ルタ子の 東 証 かと 準統分りの でした できます で ない アイ・ス かい の の で か に か の の の の の の の の の の の の の の の の の	が学り、 対学り、 対学ので総量がある基準のでのでは、 でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	歴知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(すった) 次数学(すった) 次数学(すった) 次数学(では、一条) では、一条) では、一条 では、一条 では、一条 では、一条 では、一条 では、一条 では、 できない できない かんり 学習する できない かんり 学習する できない かんり 学習する できない かんり 学習する できない アンド・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	全般(確率・統計 ・復習(容である) ・復習(容であう) ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 1. である。 2. 3. 4. である。 4. である。 5. 信義 7. がる。 8. 9公司 1. である。 1. でる。 1.	「・・熱」と光るシ波期るトルす水びこ場等、る・・・ボルカのの・・ユ動待・・ン素る素とれ合の先・ボボ比フ用期学・到対・レー製に、ルラ・ラですの説明・レンツの川物試、、過学・一製に、ルラ・ラでて、数明・ルンツの川	理 I ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「人のための学習できたく別の学問たったく別の学問たった人別の学問たった。」 「力現代的解釈が説真でき、不確定性」 いて子力学できる。 「言説明でき記述にいた。」 「記明でき説明できまい。」 「記明できまいます。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記録しています。」 「対象により、「物理を見います。」 「物理を見います。」 「ものます。」 「特別では、「特別では	等の学習が基礎とも含む)に必要ならと考えず、深い質波について説明できる。明できる。原理について説明をあための準おいて、電子軌道る。計分布やStirlingの仮説について説明できる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	く)な/標/関 類前シ波期ト水水中統分の合作(別 要 前シ波期 か 水水中統分が容子一数 , 小古正パカーの音等は か と 準統分り 内量 レ関値、ルタ子の 東 証 かと 準統分りの でした できます で ない アイ・ス かい の の で か に か の の の の の の の の の の の の の の の の の	が学り、 対学り、 対学ので総量がある基準のでのでは、 でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	選知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(す) る学習時間と,予習 90時間に相当統計 との対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	全般(確率・統計 ・復習(容である) ・復習(容であう) ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 1. である。 2. 3. 4. である。 4. である。 5. 信義 7. がる。 8. 9公司 1. である。 1. でる。 1.	「・・熱」と光るシ波期るトルす水びこ場等、る・・・ボルカのの・・ユ動待・・ン素る素とれ合の先・ボボ比フ用期学・到対・レー製に、ルラ・ラですの説明・レンツの川物試、、過学・一製に、ルラ・ラでて、数明・ルンツの川	理 I ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「人のための学習できたく別の学問たったく別の学問たった人別の学問たった。」 「力現代的解釈が説真でき、不確定性」 いて子力学できる。 「言説明でき記述にいた。」 「記明でき説明できまい。」 「記明できまいます。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記録しています。」 「対象により、「物理を見います。」 「物理を見います。」 「ものます。」 「特別では、「特別では	等の学習が基礎とも含む)に必要ならと考えず、深い質波について説明できる。明できる。原理について説明をあための準おいて、電子軌道る。計分布やStirlingの仮説について説明できる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	く)な/標/関 類前シ波期ト水水中統分の合作(別 要 前シ波期 か 水水中統分が容子一数 , 小古正パカーの音等店を ・ 論 データ へ 水水中統分 の で 上典準ウリカーの で カーシャー かって かんしょう はんしょう かんしょう かんしん かんしょう かんしょう かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	が学り、 対学り、 対学ので総量がある基準のでのでは、 でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	選知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(す) る学習時間と,予習 90時間に相当統計 との対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	全般(確率・統計 ・復習(容である) ・復習(容であう) ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 1. である。 2. 3. 4. である。 4. である。 5. 信義 7. がる。 8. 9公司 1. である。 1. でる。 1.	「・・熱」と光るシ波期るトルす水びこ場等、る・・・ボルカのの・・ユ動待・・ン素る素とれ合の先・ボボ比フ用期学・到対・レー製に、ルラ・ラですの説明・レンツの川物試、、過学・一製に、ルラ・ラでて、数明・ルンツの川	理 I ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「人のための学習できたく別の学問たったく別の学問たった人別の学問たった。」 「力現代的解釈が説真でき、不確定性」 いて子力学できる。 「言説明でき記述にいた。」 「記明でき説明できまい。」 「記明できまいます。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記録しています。」 「対象により、「物理を見います。」 「物理を見います。」 「ものます。」 「特別では、「特別では	等の学習が基礎とも含む)に必要ならと考えず、深いらと考えず、深いらと考えず、深いらと考えず、深いらな説明できる。明できる。原理について説明理解するための準むいて、電子軌道る。計分布やStirlingの仮説について説明できる。 て説明できる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	く)な/標/関 類前シ波期ト水水中統分の合作(別 要 前シ波期 か 水水中統分が容子一数 , 小古正パカーの音等店を ・ 論 データ へ 水水中統分 の で 上典準ウリカーの で カーシャー かって かんしょう はんしょう かんしょう かんしん かんしょう かんしょう かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	が学り、 対学り、 対学ので総量がある基準のでのでは、 でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	選知識の範囲>数学: 熱力学,波動学(す) る学習時間と,予習 90時間に相当統計 との対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	全般(確率・統計 ・復習(容である) ・復習(容であう) ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 ・復習内統計 1. である。 2. 3. 4. である。 4. である。 5. 信義 7. がる。 8. 9公司 1. である。 1. でる。 1.	「・・熱」と光るシ波期るトルす水びこ場等、る・・・ボルカのの・・ユ動待・・ン素る素とれ合の先・ボボ比フ用期学・到対・レー製に、ルラ・ラですの説明・レンツの川物試、、過学・一製に、ルラ・ラでて、数明・ルンツの川	理 I ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「人のための学習できたく別の学問たったく別の学問たった人別の学問たった。」 「力現代的解釈が説真でき、不確定性」 いて子力学できる。 「言説明でき記述にいた。」 「記明でき説明できまい。」 「記明できまいます。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「記明できる。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを説明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記明できまいます。」 「コートースを記録しています。」 「対象により、「物理を見います。」 「物理を見います。」 「ものます。」 「特別では、「特別では	等の学習が基礎とも含む)に必要ならと考えず、深い質波について説明をきる。明できる。原理について説明まないの。電子軌道る。計分布やStirlingの仮説について説明できる。で説について説明できる。で説明できる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週	く) なく標く関 授 前 シ波 期 ト 水 水 中 統 カ 小古正パ ボーら古て己的学古を ・ 論 デ 本 東 雨 計 学 正典準ウ ー が カ 小古正パ ボール かっこう かい	が学り、 一次では気がいます。 一次では気がいます。 一次では気がいます。 一次では気がいます。 一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、	歴知識の範囲を が表現の範囲を が表現のでは のでは のでは のでは のでは のでは のでは のでは	全般(確率・統語) ・復習(中間試る) ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・復習内を計力。 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、 ・でも、	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 I ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「物理学特講」 「物理学特講」 「物理学特講」 「大人のための学問たったく別の学問たったく別の学問たった。 「大人別の大人別のできない。」 「大人別できない。」 「大人別できる」 「大人のできる」 「	等の学習が基礎と も含む)に必要な ちと考えず、深い 質波について説明 ちを説明できる。 明できる。 原理について説明 理解するための準 おいて、電子軌道 る。 計分布やStirlingの 仮説について説明 ・ 明できる。 ついて説明できる。	

	工業高等専	 門学校	開講年度 平成31年度 (2	2019年度)	数科名	
科目基礎		,,,,,,,	173513 122 17302 1722 (3		,	хі і п	
科目番号	CII J FIX	0005		科目区分		一般 選択	
授業形態		授業		単位の種別	ル単位数	学修単位:	2
開設学科		1	ーション工学専攻(ロボットテクノ ス)	対象学年	7C LLX	専1	_
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教	· /材	無		•		•	
担当教員		平井 信充,小		慶子,新田 係	以,橋本 正敏	<u></u>	
到達目標							
		が身につける ともに, グル	べき素養・資質について,基礎的な ープ討議等を通じ,ブラッシュアッ	知識を学習でプを図り、	するとともに 自らのグロー.	, グローバル バル・リー:	レ・リーダーのあり方について、自 ダー論を展開する能力の向上を図る
ルーブリ	<u> </u>		理想的な到達レベルの目安		 達レベルの	 3安	未到達レベルの目安
			グローバル・リーダーが身につけ	+			グローバル・リーダーが身につけ
評価項目:	呼価項目 1 るべき素養・資質について具 に説明できる。						るべき素養・資質について説明で
評価項目2	仕り方について説明できる。			一般的なグローバル・リーダーの 在り方を説明できる。			グローバル・リーダーの在り方を 説明できない。
自らの目指すグローバル 評価項目 3 ー論を展開し、発言や行 げることができる。			自らの目指すグローバル・リーダー論を展開し、発言や行動につなげることができる。	自らの目指すグローバル・リーダ ー論を展開することができる。			
	到達目標項目	目との関係					
教育方法	去等						
世界規模ないし地球規模の視野を持って,産業界 概要					経験・考え方!	についてのi	講義を聴き,つづいてその講義の中
授業の進め方と授業内 ・すべての内・授業は講義			内容は,学習・教育到達目標(A)<花 義形式で行う.講義中は集中して聴 画」における各週の「到達目標」は	講する.	•		, , , , ,
, 発 <単 注意点 くあ く自 業的		、発表会に く単位修得 点で60点以 くあらかじ。 く自己学習> 準的な学習	.上. か要求される基礎知識の範囲>特にた	ペート25点満 ポートならび なし. ・復習, 課題 内容である	点. に最終レポー の準備, レオ	- 卜をすべて 弋ート作成,	提出し,発表会で発表し,100点満 プレゼンテーション作成に必要な標
		に要求される	ひれる。 女子でもいり プロー・ペル	・リーターと		あるべきか(こついての自らの考えを構築するこ
运業計 項		に要求される	なる。	・リーター ¿ 		あるべきか(こついての自らの考えを構築するこ
授業計画		とか重要に	なる.	・リーター(こついての自らの考えを構築するこ
授業計画	週	授業内容・	なる. 方法		週ごとの到	達目標	
授業計画	週 1週	授業内容・プローバ	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方	について	週ごとの到 1. 「グロ て説明でき	達目標 ーバル・リ る.	ーダー論」のねらいと進め方につい
授業計画	週	授業内容・プローバ	なる. 方法	について	週ごとの到 1. 「グロ て説明でき	達目標 ーバル・リ る.	
授業計 _個	週 1週	授業内容・プロフェッジ	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方	について	週ごとの到 1. 「グロ て説明でき 2. グロー	達目標 ーバル・リ る. バル・リー	ーダー論」のねらいと進め方につい
授業計画	週 1週 2週	授業内容・2 「グローバ。 プロフェッ: プロフェッ:	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー	について	週ごとの到 1.「グロ て説明でき 2. グロー る.	達目標 ーバル・リ る. バル・リー じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
授業計画	週 1週 2週 3週	授業内容・プローバルプロフェッ: プロフェッ: 地方の時代(なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー	について	週ごとの到 1.「グロ て説明でき 2.グロー る. 上記 2 に同	達目標 ーバル・リ る. バル・リー じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週	授業内容・プロフェッジ プロフェッジ 地方の時代 地方の時代	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論	について ダー論 ダー論	週ごとの到 1.「グロ て説明でき 2. グロー る. 上記 2 に同 上記 2 に同	達目標 一バル・リ る. バル・リー じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容・プロフェッ: プロフェッ: 地方の時代! 地方の時代!	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論	について ダー論 ダー論 論	週ごとの到 1.「グロて説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーパル・リ る. バル・リー じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容・ 「グローバ プロフェッ: プロフェッ: 地方の時代(地方の時代(今後のビジョ 今後のビジョ	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー	について ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1.「グロ て説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーパル・リ る. パル・リー じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業内容・プロフェッ: プロフェッ: 地方の時代! 地方の時代! 今後のビジラ後のビジョ創造的エン:	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1.「グロ て説明でき 2. グロー る. 上記 2 に同 上記 2 に同 上記 2 に同 上記 2 に同 上記 2 に同	達目標 ーバル・リ る. バル・リー じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容・プロフェッ: プロフェッ: 地方の時代 地方の時代 ・一つでのででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 一つでである。 一つでである。 一つでである。 一つでである。 一つでである。 一つである。 一つである。 一つである。 一つである。 一つである。 一つである。 一つでは、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一つでも、 一と 一つでも、 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロ て説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リ る. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容・プロフェッジ カー フェッジ 地方の時代 地方の時代 今後のビジラ 創造的エンジョ まちづくり	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ におけるグローバル・リーダ	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロ て説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リる. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容・プロフェッジ プロフェッジ 地方の時代 地方の時代 今後のビジラ うきのビジョ きちづくり まちづくり まちづくり	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ ごおけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロー て説明でき 2. グロー 3. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 一バル・リる. び. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー(GL)の資質や役割を説明でき
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容・プロフェッジ プロフェッジ 地方の時代 地方の時代 今後のビジラ うきのビジョ きちづくり まちづくり まちづくり	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ におけるグローバル・リーダ	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロー て説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容・プローバルプロフェッジ地方の時代(今後のビジラ) 創造的エン・まちづくり(まちつ) オローバル	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ ごおけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロー て説明でき 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 一パル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	授業内容・デブローバル プロフェッジ地方の時代(中方の時代のビジラ後のビジラ後のビジョ 創造的エンジョをあることでは、 まちづくりにまちづくりによっていた。 プローバル	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロマラン 1. 「グロー て説明できる。 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー る. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー ごコアに関するグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会 ・リーダー論発表会	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロラ て説明できる。 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー る. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロマラン 1. 「グロース) 2. グロース。 上記2に同上記2に同上記2に同上記2に同上記2に同上記2に同上記2に同上記2に同	達目標 ーバル・リー る. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
後期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダー ごコアに関するグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会 ・リーダー論発表会	だついて ダー論 ダー論 論 論	週ごとの到 1. 「グロラ て説明できる。 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー る. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
後期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会 ・リーダー論発表会	について ダー論 ダー論 ニー論	週ごとの到 1. 「グロラ て説明できる。 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー る. バル・リー じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ.	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ ジニアに関するグローバル・リーダー におけるグローバル・リーダー におけるが、アーマごとのレポート、ディスカッ	について ダー論 ぶ論 一一論	週ごとの到 1. 「グロラ て説明できる。 2. グロー る. 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同 上記2に同	達目標 ーバル・リー こ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ
後期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・ 「グローバ、プロフェッ・ 地方の時代。 一つのででである。 地方のででである。 一つででである。 一つででである。 一つででである。 一つでである。 できるででである。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	なる. 方法 ル・リーダー論」のねらいと進め方 ショナルのためのグローバル・リー ショナルのためのグローバル・リー におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ネスに必要なグローバル・リーダー ネスに必要なグローバル・リーダー ジニアに関するグローバル・リーダ におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 におけるグローバル・リーダー論 ・リーダー論発表会 ・リーダー論発表会	について ダー論 ぶ論 一一論	週ごとの到 1. 「グロさ 2. グロー 2. グロー 上記 2 に同 上記 3 に同 上記 3 に同 上記 3 に同 上記 3 に同	達目標 ーバル・リー こ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ. じ	ーダー論」のねらいと進め方につい ダー (GL) の資質や役割を説明でき ーバル・リーダー像について、プレ 説明できる.

鈴鹿工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	.019年度)	 教科名	技術英語 I
科目基礎情報			•			
科目番号	0015			科目区分	一般 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数 学修単位:		: 1	
開設学科	総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ ロジーコース)			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	1	
教科書/教材	1. Documen	ts downloaded	from Internet file	e storage. 2. Mater	rial as distribu	ited in class.
担当教員	Lawson Mich	nael				
到達目標						
The objective of this	course is to ir	ntroduce stude	nts to techniques	to help them crea	te and give E	nglish-language oral presentations.
ルーブリック						
	I	里想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レベル	レの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	・七二村一七二で言る	うや	マケス は で は で が で が で が で が で が で で で で で で で	母うやます。 母うと目ができました。 母うと目ができました。 知さりにからなどのいからができました。 外の姿にシュチデないなりにからいできました。 外のでは、 かのでは、 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできました。 のできまり、 のできました。 のできまり、 のできまりをもなりをもなりをもなりをもなりをもなりをもなりをもなりをもなりをもなりをもな	5. 5. まくい 大極アイー的と近なりである。 大極アイーのといがなりである。 でいるでする。 でいるでは、 でいるでいるでは、 でい	うとする姿勢をもち、実際の場これ を目的に応じて、 を関いなした。 に応じて、 を関いないでは、 を関いないでは、 はたいでは、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 がいに、 はいないで、 でいる。 でいる。 でいる。 はいないがいる。 はいないがいる。 はいないがいる。 はいないがいる。 はいないでは、 はいないでは、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 はいないで、 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関した。 はいないで、 に関した。 に関いないで、 に関いない。 はいないで、 に関いない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はいない。 に関いない。 はい。

評価項目1	二ケーションティー (繰り返しやりを) ターション方・マック (繰りイン) マンスチャー・アゲーが (マーク) マンカー (マーク) マンカー (マーク) マッカー (マー	は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	コートーションでは、 一ケーション方を ・解・アイージンクク ・は、ジェスチャー・ングージ)フを通 切に用いながら,積極のにつきない。また、日常分のできない。また、日常分のできない。まして、自分のな表現を用いて英語で話しまして、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができない。
評価項目2	自分の大学を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	申報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報	自分のでは、 のする場合では、 のする場合では、 のする場合では、 のする場合では、 のする場合では、 のするのでは、 の内容が対話いなどのでは、 の内容が対話いなどのでは、 の内容が対話いなどのでは、 の内容が対話がでいますがでは、 の内容が対話がでいますがでは、 の内容が対話がでいますがでは、 の内容が対話がでいますがでは、 の内容が対話がでいますがでは、 の内容が対話がでいますがでいますがでいますができますが、 ののシベトの母とがも時間にいますがでいますがでいますがでいますが、 をできないでいますが、 ののは、 ののは、 ののは、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 ののでいますが、 のいますが、 のいますが、 のいますが、 のいますが、 のいますが、 のいまない。 のいない。 のいない。 のいない。 のいない。 のいないないないない。 のいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな
評価項目3	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い,その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら,その国の生活習慣や宗教的信条,価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明,解釈の適用ができる.	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い,その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら,その国の生活習慣や宗教的信条,価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し,解釈できる.	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない.
学科の到達目標項目との関係	-		
教育方法等			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
+/	
XX 	

概要	The objectives of this course are to 1) have students select a topic for an English oral presentation, 2) to teach students how to create an outline to crystallize their thoughts into a cogent discussion of their topic that will then be used in the development of a PowerPoint presentation; 3) to teach students to actually give a presentation in English; and 4) to select three students to participate in the 12thAnnual English Presentation Contest for Students of Colleges of Technology
授業の進め方と授業内	

容・方法

The following content conforms to the learning and educational goals:(C) < English > [JABEE Standard 1(1)f].

<到達目標の評価方法と基準> <判達目標の評価方法と基準>
Students' English oral presentation ability will be evaluated through one "Main" English oral presentation to be given on the 15th week of class. Students will have attained the goal of this course provided that they have earned 60% of the total points possible which includes the 1 "Main" presentation. <学業成績の評価方法および評価基準>
Students are required to give 1 "Main Presentation". The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study/presentation time outside of the classroom. Failure to meet any of these requirements will reduce a group's final course score by 10% for each infraction. infraction Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> A good command of basic English syntax; a practical level of reading and listening comprehension, and some ability to converse in English as achieved through their first five years at Suzuka Kosen.
<レポートなど> Students will be given weekly assignments, such as, topic selection, weekly outline and PowerPoint updates. Failure to meet the deadlines for these assignments will result in a 10% reduction of the 注意点 for each infraction. Students are required to obtain an email account which can send and receive Word and PowerPoint documents. During the last class session prior to the presentation contest, students must meet four main assignment deadlines: 1) Final PowerPoint files on USB must be downloaded to Lawson's computer, 2) Final scripts with presentation titles on the first page on USB must be downloaded to Lawson's computer, 3) Speaking order sheets using student numbers (not names) on USB must be downloaded to Lawson's computer, and 4) actual hardcopy student number "name" tags must be given to Lawson. You may contact me at: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp. 授業計画 週 週ごとの到達目標 授業内容・方法 Introduce class, Select Groups, Discuss 5-step presentation process, Discuss topic, Discuss purpose Students will learn about Discuss 5-step presentation 1週 process, Discuss topic, Discuss purpose of outline. of outline To develop English oral presentation ability by studying effective presentation techniques such as eye-contact, gestures etc., and by conducting weekly in-class presentations. 2. To learn practical and useful words, phrases and 2週 expressions for oral presentations.

3. Students will learn how to prepare for oral presentation and shape their idea into logical and Discuss Outlines draft 1 persuasive presentation.

4. Students will improve their ability to give an oral presentation in English. 3週 Discuss Outlines draft 2 $1\sim4$ listed above. 4週 Discuss Outlines draft 3 $1\sim4$ listed above. 前期 5週 Discuss PowerPoint draft 1 $1\sim4$ listed above. $1\sim$ 4 listed above. 6週 Discuss PowerPoint draft 2 7週 Discuss PowerPoint draft 3 $1\sim4$ listed above 8週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim$ 4 listed above. 9週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim$ 4 listed above. 10週 $1\sim$ 4 listed above. Practice "Main Oral Presentation" 11週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim4$ listed above. 12週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim4$ listed above. 13週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim4$ listed above. 14週 Practice "Main Oral Presentation" $1\sim4$ listed above. 15週 ORAL PRESENTATIONS IN THE AUDIO/VISUAL ROOM $1\sim4$ listed above. 16週

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
配点	90	10	0	0	0	0	100

鈴鹿	工業高等專	引士仪	開講年度 平成31年度 (2019年度)		科名	英語総合 I
科目基礎							
科目番号		0016		科目区分	-	一般 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単	位数	学修単位:	1
開設学科		総合イノベロジーコー	ーション工学専攻(ロボットテクノ フ)	対象学年	Ī	專1	
 開設期		後期	<u>~)</u>			<u> </u>	
<u>//100/////</u> 教科書/教	 材	15-57-75	guro,Never Let Me Go; Main版	J.C. 31,0327		<u>-</u>	
担当教員		古野 百合	50.07	(, a.s., a	,		
到達目標		1					
		がら読解力を	強化するとともに、登場人物の心理	や物語のテーマに	ついて理	解し、そ	れについて英語で論じることが出来
ルーブリ	J ック						_
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達し	ベルの目	安	未到達レベルの目安
評価項目1			自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握で、情報を聞き取り、その内容の把握を他に適用することができる。	自分の専門分野 ある内容や関心 る報告や対話な 度の速度で聞い 、情報を聞き取 握することがで	のある事だを毎分! どを毎分! て、概要だし、その!	柄に関す 120語程 を把握し	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握することができない。
評価項目2	!		関心のあるトピックや自分の専門 分野に関する論文やマニュアルな どの概要を把握し、必要な情報を 読み取り、その内容の把握を他に 適用することができる。	関心のあるトピ 分野に関する論 どの概要を把握 読み取り、その とができる。	文やマニ し、必要	ュアルな な情報を	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取り、その内容を把握することができない。
評価項目3	3		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的なす。 を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる。	それぞれの国の を払い、その をさが、その であがら、、 価値観の 信く もり、 解釈でき	いを受け、 ることを 生活習慣 どの基本 化と関連	入れる寛 認識しな や宗教的 的な事象	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。
学科の到	達目標項	目との関係		•			
教育方法	<u> </u>	英語 I ~V Ishiguroの	で修得した英語力を活用し、より高 小説 Never Let Me Go を読み、語	度な英語のリーデ 彙力や読解力を強	イングカ 化し、情	を養うこ 報を正確(とを目指す、具体的にはKazuo こ読み取る力を養う。また、朗読を「
概要	か方と授業内	くことによ 品について ことを目指 全ての授業 1(2)(f)]に	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する.	ークシートを使い . 英文学作品を鑑 <視野>[JABEE基	なから物 賞するこ	語の内容 とによっ a)]およて	把握や登場人物の心理を確認し、作 て教養を高め、豊かな人間性を育む ド(C) <英語>[JABEE基準
概要 受業の進 <i>め</i> 容・方法 注意点	か方と授業内	く品こ全にい目全(の)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)<th>ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養うす. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する. 評価における各「到達 り評価する. 評価における各「到達 の評価方法がよび評価基準>中間、 評価する. ただし、試験で60点以上 要件。学業成績で60点以上を取 要件。学業成績で60点以上を取 などと、授業に関する小テスト及び さどと、授業に関する小テスト及び はは講義、及び発表形式で行う. 発</th><th>ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉 [JABEE基 の「到達目標」 目標」の重みの目 切得した場合に目標 期末の2回の試験の は深したは、 に議してない者 を再記 ること。 に現を でした課す。 に現を に関を でした場合に目標 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、</th><th>なから物で には では では では では では では でに でに でに でに でに でに でに でに でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて</th><th>語と (a)] 計画と (a)] およて (a)] およて (a)] およて (a)] およて (b) (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c</th><th>把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題 確認できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果を ともあり、再試験の成績が本試験の えるものとする.</th>	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養うす. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する. 評価における各「到達 り評価する. 評価における各「到達 の評価方法がよび評価基準>中間、 評価する. ただし、試験で60点以上 要件。学業成績で60点以上を取 要件。学業成績で60点以上を取 などと、授業に関する小テスト及び さどと、授業に関する小テスト及び はは講義、及び発表形式で行う. 発	ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉 [JABEE基 の「到達目標」 目標」の重みの目 切得した場合に目標 期末の2回の試験の は深したは、 に議してない者 を再記 ること。 に現を でした課す。 に現を に関を でした場合に目標 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	なから物で には では では では では では では でに でに でに でに でに でに でに でに でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて	語と (a)] 計画と (a)] およて (a)] およて (a)] およて (a)] およて (b) (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題 確認できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果を ともあり、再試験の成績が本試験の えるものとする.
概要 受業の進 <i>め</i> 容・方法 主意点	か方と授業内	く品こ 全(2)(f)]にい日 (2)(f)] にい日 (2)(f)] にい日 (2)(f)] にい日 (2)(f) にい日 (3)(f) にい日 (4)(f) にい日 (4)(f) にいる (ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. か評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する. 評価における各「到達 り百点法により60点以上の得点を見い が評価する. ただし、試験で60点以上の 評価する. ただし、記しを上限としてオ での点を上限としてオ を供う学業成績で60点以上を取得か の要求される基礎知識の範囲>TOEI など> 授業に関する小テスト及び課 は講義、及び発表形式で行う. 発記 、英文を読んで理解しておくこと) 英和辞典(電子辞書でも可)を用意	ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉 [JABEE基 ・ の「到達国みの目標」 ・ 同標」の場合に対象のに対象のに、 ・ は、 ・ は 、 は 、 も は 、 も は 、 も も も も	なからな 賞する (2)(1 ~ 6 の (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	語と (a)] お (a)] お (a) [(a)] お (b) (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) <英語>[JABEE基準 合いを中間試験、期末試験、小テスト 、6を20%とする. 試験問題や課題 確認できるように設定する。 ニストや課題(発表を含む)の結果を こともあり、再試験の成績が本試験の にえるものとする。 度の語彙知識 を深める。毎回の予習(分からない を
概要 受業の進 <i>め</i> 容・方法 主意点	か方と授業内	く品こ全にい目全(の)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)(で)<td>ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. か評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する. 評価における各「到達 り百点法により60点以上の得点を見い が評価する. ただし、試験で60点以上の 評価する. ただし、記しを上限としてオ での点を上限としてオ を供う学業成績で60点以上を取得か の要求される基礎知識の範囲>TOEI など> 授業に関する小テスト及び課 は講義、及び発表形式で行う. 発記 、英文を読んで理解しておくこと) 英和辞典(電子辞書でも可)を用意</td><td>ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉[JABEE基 の「到達目標」 目標」の重みの目標 期末の2回の試験の とに達してない者に 試験のの とに達してない者に に試験のに、 に試験のに、 を課す。 とて親すすること・ 過ごと、 過ごとのではいる。 しているではいる。 しているではいる。 しているではいる。 は、ことでは、ことではいる。 は、ことでは、ことではいる。 は、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことで</td><td>なから物でである。 はなからるでは、 はないでは、 ないでは、</td><td>語と (a)] (a)] (a)] (a)] (b) (b) (c) (d) (e) (e) (e) (f)</td><td>把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) <英語>[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. 度の語彙知識 を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授</td>	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. か評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する. 評価における各「到達 り百点法により60点以上の得点を見い が評価する. ただし、試験で60点以上の 評価する. ただし、記しを上限としてオ での点を上限としてオ を供う学業成績で60点以上を取得か の要求される基礎知識の範囲>TOEI など> 授業に関する小テスト及び課 は講義、及び発表形式で行う. 発記 、英文を読んで理解しておくこと) 英和辞典(電子辞書でも可)を用意	ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉[JABEE基 の「到達目標」 目標」の重みの目標 期末の2回の試験の とに達してない者に 試験のの とに達してない者に に試験のに、 に試験のに、 を課す。 とて親すすること・ 過ごと、 過ごとのではいる。 しているではいる。 しているではいる。 しているではいる。 は、ことでは、ことではいる。 は、ことでは、ことではいる。 は、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことで	なから物でである。 はなからるでは、 はないでは、 ないでは、	語と (a)] (a)] (a)] (a)] (b) (b) (c) (d) (e) (e) (e) (f)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) <英語>[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. 度の語彙知識 を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授
概要	か方と授業内	く品ことでの(f) 目標にいりくいり(で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で)	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す. 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する. か評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する. 評価における各「到達 り百点法により60点以上の得点を見い が評価する. ただし、試験で60点以上の 評価する. ただし、記しを上限としてオ での点を上限としてオ を供う学業成績で60点以上を取得っておりまされる基礎知識の範囲>TOEI など> 授業に関する小テスト及び課 は講義、及び発表形式で行う. 発 、英文を読んで理解しておくこと) 英和辞典(電子辞書でも可)を用意	ークシートを使い ・ 英文学作品を鑑 ・ 〈視野〉 [JABEE基 の「到達目標」 目標」の重連みの目標 期末の2回の試験の 上に達してない者に 試験の成績を再記 ること、点程度、CC 題を課す、に作品の およびこと。 週ご 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ 過ご 授づ のに のに のに のに のに のに のに のに のに のに	なからる に で で で で に で で に で で に で で に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	語と (a)] 得をこく。 (a)] 得をこく。 (b) では、 (b) では、 (c) では、 (d) では、 (d) では、 (e) では、 (e) では、 (e) では、 (f) では、	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) <英語>[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. 度の語彙知識 を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授
概要 授業の進 <i>め</i> 容・方法 注意点	か方と授業内	く品ことでの(f) 目標にいりくいり(で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で)	ってリスニンクカを強化し、適宜りす。 英語で論じることが出来る力を養うす。 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する。 対応する。 が評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する。評価における各「到達 り評価する。評価における各「到達 の評価方法および評価基準>中間、リ 評価する。ただし、試験で60点以上の得点を 別評価する。ただし、記験で60点以上の には、60点を上限としてす としてす業の場で60点以上を取得 としてす業の場で60点以上を取得 が要求される基礎知識の範囲>TOEI まど、接業に関する小式で行う。と 、英文を読んで理解しておくこと) 英和辞典(電子辞書でも可)を用意 方法	ークシートを使い ・ 一クシートを使い ・ 一ク・学作品を整 ・ 一ク・学作品を整 ・ 一ク・学作品を整 ・ 一ク・学作品のでは、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方	な賞 準 1 (2)(で	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) がいって (変) を (で) で) でで (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) <英語>[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テスト、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をこともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. 度の語彙知識を深める. 毎回の予習(分からない種極的に発言する姿勢が望まれる. 授
既要 受業の進 <i>は</i> 学・方法 主意点	か方と授業内 週 1週	く品ことでの(f)]にいりでは、のくのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	ってリスニンクカを強化し、適宜りす。 英語で論じることが出来る力を養うす。 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する。評価における各「到達 り評価する。評価における各「到達 り評価する。ただし、試験で60点以上の得点を、り の評価方法および評価基準>中間点以 の評価方法および評価基準>中間点以 の評価する。ただし、試験で60として 要件>学業成績で60点以上を取予との要件。学業成績で60点以上を取予とひ課 も、学業に関する小テスト及び課 は、講義、及び発表形式で行う。発 、英和辞典(電子辞書でも可)を用意 方法	ークシートを使い ・	な賞 準 1 (2)(で	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) がいって (変) を (で) で) でで (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授徳的に発言する姿勢が望まれる. 授徳のに発言するとできる. (受講者の作品ページの担当である.) テーマを理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品でありいに対きできる. 2. 作品でありにい発音できる. (受講者の作品ページの担当でありに発言するを表現を理解できる. 2. 作品であるどの表現を理解できる. 2. 作品でありにしての議論に積極的に参加し答がしての議論に積極的に参加しての議論に積極的に参加して参加と
既要 受業の進 <i>め</i> 学・方法 主意点	が 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	く品ことでの(f)] 標はにいり全(2)(f)] 理りく、の(f)] 理りでの(f)] 理りでがいるのででがいるのでではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいりではいり	ってリスニンクカを強化し、適宜り支語で論じることが出来る力を養うす。 対応する。 か評価方法と基準>下記「授業計画が対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画が対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画が対応する。 の評価方法ととがにより60点以上の得点を見いまただし、試験で60点以上の得点を見いまただし、対策を持ちらしておりません。 のでは、60点を上限と取りでは、分で表表形式で行う。発達、英文を表表で表表形式で行う。発達、英文を表表で表表ができるができまた。 「大きないで、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、10点を上である。 「大きない。」 「ない。」 「ないい。」 「ないい。」 「ないい。」 「ないい。」 「ないい。」 「ないい。」 「ないいい。」 「ないいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	ークシートでである。	な賞 準 1 (2)(で	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) がいって (変) を (で) で) でで (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で) で (で) で (で) で (で) で) で (で) で) で (で) で (把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テストの。6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授をありにで発言する姿勢が望まれる. 授をありにで発言する。 (受講者の作品ページの担当である。 2. 作品であるといて理解する。) テーマを理解できる。 2. 作品でありにしての表現を理解できる。 2. 作品でありにに対して適切な表現を理解できる。 2. 作品であるとの表現を理解できる。 2. 作品であるとの表現を理解できる。 2. 作品であるとの表現を理解できる。 2. 作品であるとのでである。 2. 作品であるとのでである。 3. できる。 (受講者の作品ページの担当である。) である。 2. 作品である。 (受講者の作品ページの担当である。) できる。 (受講者の作品ページの担当できる。) できる。 (受講者の作品ページの担当できる。) できる。 (受講者の作品ページの担当できる。) できる。 (受講者の作品ページの担当できる。) できる。 (受講者の作品できる。) できる。 (できる。) できる。
既要 受業の進 <i>め</i> 学・方法 主意点	が か 方と授業内 週 1週 2週 3週	くこにとを (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	ってリスニンクカを強化し、適宜り支語で論じることが出来る力を養うす。 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。評価における各「到達 り評価する。評価における各「列達 の評価方法とび評価基準>中間に、 の評価方法および評価基準>中間に、 の評価方法および評価基準>中間に、 の評価方法および評価基準>中間に、 の記録である。 のに、	ーク文学作品ををををしている。 - クラン学作品を使い。 - クラン学作品を関する。 - クラン学作品のでは、 - クラン学作品のでは、 - クラン学では、 - クラングでは、 - クラン	は賞 準 ~は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授徳的に発言する姿勢が望まれる. 授徳のに発言するとできる. (受講者の作品ページの担当である.) テーマを理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品でありいに対きできる. 2. 作品でありにい発音できる. (受講者の作品ページの担当でありに発言するを表現を理解できる. 2. 作品であるどの表現を理解できる. 2. 作品でありにしての議論に積極的に参加し答がしての議論に積極的に参加しての議論に積極的に参加して参加と
既要 受業・方法 主意点 受業計画	が が が が が が が が が が が が が が	 くこにとを の(f)]目 (こことを の(f)]目 (で)(f)]目 (で)(f)]目 (で)(f)]目 (で)(f)]目 (で)(f) (で	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す・ 内容は、学習・教育到達目標(A) が応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。評価における各「列達 の評価方法とがの点以上の得点を取り の評価方法とび評価基準>のには、60点以上を取りでは、10分割をは、10分割では、	- クラマ	な賞 準 1 (2)(でして) では でして (2)(でして) でして (2)(でして) でして (4) でして) でして (4)	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習 (分からない)を変めて発言する姿勢が望まれる. 授極的に発言する姿勢が望まれる. 授徳的に発言するとが出て理解できる. 2. 作品であどの表現を理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品であるどの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの問いに対きできる。
概要 受業の進め できょう法 主意点 受業計画	が が が が が が が が が が が が が が	くこにい目 全にい目 全(で)(f))目にル成 くでの(f)(f)目にル成 くでででででである。 くでででである。 くでででである。 くででである。 とした。 をできる。 ででである。 といりでである。 ででなる。 でである。 ででなる。 でである。 ででなる。 でしな。 でなる。 でしな。 ででな。 ででなる。 ででな。 でなる。 でなる。 でしな。 でしな。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 とっと、 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 とっと、 でな。 とっと、 とっと、 とっと、 とっと、 とっと、 とっと。 とっと、 とっと、	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養う す・ 内容は、学習・教育到達目標(A) が応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。評価における各「列達 の評価方法とがの点以上の得点を取り の評価方法とび評価基準>のには、60点以上を取りでは、10分割をは、10分割では、	一クシマ (は賞 準 1 (2)(でして) でして) でして) でして) でして) でして) でして) でして)	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題(発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習(分からないを極的に発言する姿勢が望まれる. 授徳的に発言する姿勢が望まれる. 授徳のに発言するとできる. (受講者の作品ページの担当である.) テーマを理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品でありいに対きできる. 2. 作品でありにい発音できる. (受講者の作品ページの担当でありに発言するを表現を理解できる. 2. 作品であるどの表現を理解できる. 2. 作品でありにしての議論に積極的に参加し答がしての議論に積極的に参加しての議論に積極的に参加して参加と
概要 受業の進め 注意点 授業計画	が が が が が が が が が が が が が が	くこにい目 全にい目 全(で)(f))目にル成 くでの(f)(f)目にル成 くでででででである。 くでででである。 くでででである。 くででである。 とした。 をできる。 ででである。 といりでである。 ででなる。 でである。 ででなる。 でである。 ででなる。 でしな。 でなる。 でしな。 ででな。 ででなる。 ででな。 でなる。 でなる。 でしな。 でしな。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 とっと、 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 とっと、 でな。 とっと、 とっと、 とっと、 とっと、 とっと、 とっと。 とっと、 とっと、	ってリスニンクカを強化し、適宜り 英語で論じることが出来る力を養うす。	一クシマ (は賞 準 (2)(の (6) に (1)	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む)の結果をともあり、再試験の成績が本試験のえるものとする. での語彙知識を深める. 毎回の予習 (分からない)を変めて発言する姿勢が望まれる. 授極的に発言する姿勢が望まれる. 授徳的に発言するとが出て理解できる. 2. 作品であどの表現を理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品であいに対して適切な表現を理解できる. 2. 作品であるどの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの表現を理解できる. 2. 作品であるとの問いに対きできる。
概要 受業の進め できょう法 主意点 受業計画	が か方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	くこことでの(f) 目標にいる 全にいり では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	ってリスニンクカを強化し、適宜りす。 英語で論じることが出来る力を養うす。 内容は、学習・教育到達目標(A) 内容は、学習・教育到達目標(A) 内容は、学習・教育到達目標(A) 内容は、学習・教育到達目標(A) の評価方法と基準>下記「授業計画」 り評価する。評価における各「到達 り評価する。ただし、試験で60点以上の得点を見い 評価する。ただし、試験で60点以上を取った場等 要件>学業成績で60点以上を取っての記 要件字される基礎知識の範囲>TOご課 は、講義、及び発表形式で行う。発 、英和辞典(電子辞書でも可)を用意 方法 の(授業の進め方および概要説明)	一ク英	は賞 準 (2)(の (6) に (1)	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む) の結果できるように設定する。 できるの語彙知識 を深める。毎回の予習 (分からない)を で発言する姿勢が望まれる。授極的に発言する姿勢が望まれる。授して選がなどの表現を理解できる。 できる。 (受講者の作品ページの担当であいに対して適切な表することが出るとの表現を理解できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
概要 受業の進め できょう法 主意点 受業計画	が か 方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	くこにとを の(f)] 標といま 全(2)(f)] 標はにいま 全(2)(f)] 課題にいまで く(力) 注題にい成くを修かーと調子では、の学やとと修うできます。 をはいが、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	ってリスニンクカを強化し、適宜り 対語で論じることが出来る力を養うす. 対応する. か評価方法と基準>下記「授業計画 が	一ク英	は賞 準 〜は できた (2 ので) これ (2 ので) これ (3 ので) これ (4 ので) これ (5 ので) です。 (5 ので) です。 (6 ので) これ (5 ので) です。 (7 ので) です。 (7 ので) です。 (8 ので) です。 (8 ので) です。 (9 ので) です。 (1	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	世歴や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育むが(C) 〈英語〉[JABEE基準
概要 受業の進め 注意点 授業計画	が か 方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	くこにとを 全にい目 全ての(f)]目に くでので学業ので学業ので学業のでは くので学業ので学業のでは くので学業のでは くので学業のでは くのでは では、ので学業のでは では、ので学業のでは では、ので学業のでは では、ので学業のでは では、ので学業のでは では、ので学業のでは では、のでは では では、 では では では では では では では では では では	ってリスニンクカを強化し、適宜り 支語で論じることが出来る力を養う す。 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。評価における各「到達 り評価する。評価における名「点を の評価方法および評価基準>中間点以 が正する。ただし、試験で60点以上を取り のでは、60点を上限として の要件。学業成績で60点以上を取り の要件。学業成績で60点以上を取り 要件。学業成績で60点以上を取り を要求される基礎知識の範囲>TOEI まま、及び発表形式で行う。発 は、講義、及び発表形式で行う。を 英和辞典(電子辞書でも可)を用意 方法 の(授業の進め方および概要説明)	一ク英	は賞 準 〜は達然的 C 要 の と の を	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	世歴や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育むが(C) 〈英語〉[JABEE基準
概要 授業の進 <i>め</i> 容・方法 注意点	が カ方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	くこことを 全にい目 全にい目 全(2)(f)]目 くでの(f)]目 くでの(f)]目 くででは、のく学業ののでは、のく学業のでは、のくず業値には、のくがでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	ってリスニンクカを強化し、適宜り 支語で論じることが出来る力を養力を養うす。 内容は、学習・教育到達目標(A) 対応する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。 の評価方法と基準>下記「授業計画 り評価する。 の評価方法とび評価基準 > 中間 における名 「到達 の の の の の の の の の	- ク	は賞 準 ~ は達然的 C E T A M M M M M M M M M M M M M M M M M M	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む) の結果できるように設定する。 できるの語彙知識 を深める。毎回の予習 (分からない)を で発言する姿勢が望まれる。授極的に発言する姿勢が望まれる。授して選がなどの表現を理解できる。 できる。 (受講者の作品ページの担当であいに対して適切な表することが出るとの表現を理解できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
概要 受業・方法 注意点 授業計画	が方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	くこにした 全にい目 全にい目 全(で)(f)]目標にした くでの(f)]目標にした くでの(f)]目標にした。 くでは、のくず業をとした。 では、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ってリスニンクカを強化し、適宜り 支語で論じることが出来る力を強化し、適宜り す・	一ク英	な賞 準 ~ (a c c c c c c c c c c c c c c c c c c	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む) の結果できるように設定する。 できるの語彙知識 を深める。毎回の予習 (分からない)を で発言する姿勢が望まれる。授極的に発言する姿勢が望まれる。授して選がなどの表現を理解できる。 できる。 (受講者の作品ページの担当であいに対して適切な表することが出るとの表現を理解できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
概要 受業・方法 注意点 授業計画	が方と授業内 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	くこことでの(f) 目標にいます (c) にいます (c	ってリスニンクカを強化し、適宜り	一ク英	は賞 準 ~は達取高は OC 更 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	語と (a) 得をごの検討 (b) 内お (国) 存表 容単す作作のに お (の8と) 小すぎ (で) で) で (で) で) でで (の表記) からで (で) で) ででで (の表記) からで (変) といって (変) を (で) で) ででで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) でで (の表記) からで (の表記) からで (で) がいます (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) で) で (の表記) からで (で) がらいて (で)	把握や登場人物の心理を確認し、作て教養を高め、豊かな人間性を育む 「(C) 〈英語〉[JABEE基準 いを中間試験、期末試験、小テス、6を20%とする. 試験問題や課題できるように設定する. テストや課題 (発表を含む) の結果できるように設定する。 できるの語彙知識 を深める。毎回の予習 (分からない)を で発言する姿勢が望まれる。授極的に発言する姿勢が望まれる。授して選がなどの表現を理解できる。 できる。 (受講者の作品ページの担当であいに対して適切な表することが出るとの表現を理解できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。

16週 学年	未試験			
評価割合				
	試験	課題等	合計	
総合評価割合	70	30	100	
配点	70	30	100	

鈴鹿	工業高等	専門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	技術者倫理	
科目基礎	情報								
科目番号		0017			科目区分		一般 必修		
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位:	2	
開設学科		総合イノベ ロジーコー	ーション工学専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		後期			週時間数		2		
教科書/教林	7	教科書:「 察 問題点 編著	技術の営みの教養と判断基準を探る	基礎 技術の知との 」公益社団法人日	倫理」比屋根 本技術士会登	. 均著(理 録技術者(!工図書) 参考 倫理研究会監修	き書:「技術者倫理 多 田岡直規・橋本	□ 日本の事例と考 議平・水野朝夫
担当教員		横山 春喜,信	尹藤 博,今津 英一郎	朗,打田 憲生,春田	要一,山口 正	隆			
到達目標	[
技術者と社	会の関係を	を理解しており	,実例をもとに事	例研究ができる専	門知識を習得	し,今後の	の科学技術の	利用,研究開発活動	かに応用できる.
ルーブリ	ック								
			理想的な到達レベ	 ジルの目安	標準的な到	<u></u> 達レベルの	D目安	未到達レベルの目]安
評価項目1			技術者に必要な倫術者の役割を果た		技術者に必		現と技術者の きる.	技術者に必要な愉役割について説明	
学科の到	達日標項	目との関係			•			•	
教育方法		<u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>	·						
概要		技術活動の 員として働 」では, 科 を習得する	社会での位置付け; くことになるので; 学技術の利用, 研:	および社会や公益 組織との関わりに 究開発活動をはじ	に対する責任 ついても正し めとする技術	を強く認 く理解し 業務を, a	識する必要がる て行動しなけれ 社会と組織の ^に	技術者においては 5る.また研究者・ 1ばならない.そこ 中で適切に行うため	技術者は組織の一 【で「技術者倫理
授業の進め 容・方法	方と授業内	・すべての ・授業は講 ・「授業計	内容は, 学習・教 義形式で行う. 講 画」における各週	育目標(A) <技術者 義中は集中して聴 の「達成目標」は	指倫理>およで 講する. この授業で習	ゾJABEE基 得する「タ	基準 1 (2)(b)に 知識・能力」(こ対応する. こ相当するものとす	「る.
注意点		おく4くく基く必のくが業が位めたると言いていません。	ートで確認する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	評価基準>中間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	明末試験結果 ハて提は、 一様では、 は、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 で	の平均値 業成績で ・社験,で 試験でした。 になる。	を60%,事例60点以上を見よび技術者倫理 出試験のためる。受講にあれなぜ技術者には	 未試験で行う. 1 へ 果す. 4についてに 別研究発表及びレオロ得すること. 里入門Ⅰ, 哲学の学習も含む)及こっては, 教科書の よ高い水準の技術者を身につけることか 	ペートの結果を ★I, IIの学習が ボレポート作成に 該当箇所,講師 新倫理が要求され
授業計画	İ								
	週	授業内容・	 方法			週ごとの			
	1週	技術士, 技		業概要,技術士と	は,技術士			者の役割を理解でる	きる.
	2週	ガイダンス	(担当 I)			1. 社会	における技術	者の役割を理解でる	きる.
	3週	技術者倫理	の目的(担当 I)			2. 技術	者倫理の要素	を理解できる.	
	4週	科学技術の	正しさとその限界			3. 技術 できる.	者倫理に対す	る素養と感受性の向	う上を図ることが
	5週	科学的知識	と技術(担当I)			上記3に	同じ.		
	6週	技術知の戦	略(担当Y)			上記3に	同じ.		
	7週	組織におけ	る技術知と情報(担当 Y)		上記3に	同じ.		
	8週	中間テスト				上記3に	同じ.		
後期	9週	技術の専門	職という立場(担当	áH)		上記3に	同じ.		
	10週	誠実な仕事 義務と同意		性の確保、安心、	 技術と法	上記3に			
	11週	(担当U)	の役割(担当H)			上記3に	-		
	13週		(チャレンジャー	事故)(担当Y)		4. 実社	 会で発生した:	技術者倫理に反する , プレゼンツールを , 結果を纏めてレ7	
	14週	事例研究_2		-プ討議)(担当Y)		上記4に			
	15週			ンポート) (担当Y)		上記4に	-		
また (正宝) へ	16週								
評価割合		-A	=m 85	+0 == /=	北広		<u> </u>	7 A M	∆ =⊥
纷△ ⋾/≖━	試		課題	相互評価	態度	発	Ž	その他	合計
総合評価割			40	0	0	0		0	100
配点	60		40	0	0	0		0	100

鈴鹿	工業高	等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	芯用情報工学	
科目基礎	情報					_				
科目番号			0018			科目区分		一般 必修		
授業形態			授業			単位の種別	と単位	数 学修単位:	2	
開設学科			総合イノベ ロジーコー	ーション工学専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期			前期			週時間数		2		
教科書/教林	オ		教科書:自術評論社)	作のテキストを用	意する. 参考書:	「かんたんフ	゚ログラ	ミング Excel 20	10 VBA 基礎編」	大村あつし(技
担当教員			浦尾 彰							
到達目標										
範囲が広い	ことを理	ヒVBA 里解て	Aの何たるか ごきる.	を理解し, それを	用いた簡単ではあ	るが実用的な	プログ	ラムを作成でき,	さらに, その技行	析的分野への利用
ルーブリ	ック			TM+045+>70+1	» o 🗆 🗖	J#3## #5 + \ 711	\±1 -"		+ 70 + 1 - 11 - 6	7.45
				理想的な到達レヘ	いんの目安	標準的な到	達レベル	レの目安	未到達レベルの	3安
評価項目2										
評価項目3										
		打百戶	 目との関係	i.						
		、火上	コージスの	X .						
<u>教育方法</u>	寸		技術用・研	 究用のデータ処理	 の道具として手軽 ⁻	 で有用なVB <i>I</i>	(Visu	al Basic for Ann	 plication) 言語の	 基本をマスターl,
概要			,情報機器	のより効果的な利	用を行えるように [・]	する.				
授業の進め 容・方法	方と授業	《内	・授業は、	質問を受け付けな	・教育到達目標の(がら, 理解の度合い の「到達目標」は	うかを確認でき	る演習	を含め、講義形式	代で進める.	
注意点			30ス単業注ピ解たあ、に修績事一や、からないのでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、	して評価する. たり再度評価する. , たり再度評価し, , 会の	していなければなりだし、中間試験の だし、中間試験の 格点の場合は先の すること. 提とした規定の単しないので、日頃で 習を行うので、 知識の範囲> 基に については、5年	得点が60点 試験の得点を 立制に基づさ 立りはユータ利 なのなコンピ	に満た 60 授業を 力に カに フーク	ない場合は,補調と見なす. 進め,課題提出をれること.プログレて無用なコンプ	構の受講やレボー () こ求める. 課題を解 ブラミングを得意 プレックスを持つ こますすることが望	、提出等の後,再 解くには特別なコ としない学生にも ととが無いよう願 ましい.
授業計画										
	週		授業内容・				週ごと	の到達目標		
	1週		VBAとマク				1. V	BAとマクロとは。	どのようなものか	を理解できる.
	2週		マクロの記録	録と利用方法			3. エ	'クロの記述方法。 ディタの使用が BAの基本文法をB	と利用方法が理解 [・] できる. 理解できる.	できる.
	3週		Visual Basi	ic Editorの使用し	たマクロの記述		上記2	~4		
	4週			構文の理解			上記2	~4		
	5週			た簡単なプログラ			上記2			
	6週			た簡単なプログラ	ムの作成 続き		上記 2			
	7週			る変数の利用			上記 2			
	8週		中間試験 VBAの制御	 構造の理解			上記2			
前期	10週			構造の理解 構造の理解 続き			5. VI 上記 2	BAの基本制御構) ~ 5	造を埋解できる	
	11週			シージャの作成			上記2	~5	ガニルの歩きがっ	+ Z
	12週			シージャの作成 :	 続き		上記 2		グラムの作成ができ	ෙ ව.
	13週		実践的プロ	グラム(成績処理)作成		8. V	単な実用的プロク BAを道具として(グラムが記述でき、 使用することで、こ ることが理解でき	コンビュータの利
	14週		成績処理プ	 ログラム作成続き			上記 2			=
	15週				の確認,授業のま	とめ	上記2			
	16週							<u>.</u>		
評価割合										
		式験		課題	相互評価	態度		発表	その他	合計
総合評価割		70		30	0	0		0	0	100
配点	[7	70		30	0	0		0	0	100

鈴鹿	工業高等専	 評学校	開講年度	平成31年度	(2019年度)		 教科名	データベー	 ス論
科目基礎				•					
科目番号	<u>-</u>	0019			科目区分		一般 必何	》	
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位	: 2	
開設学科		総合イノベーロジーコー		攻(ロボットテク	ノ 対象学年		専1		
開設期		後期			週時間数		2		
教科書/教	材	ルデータベ-	データベース - ースの実践的基础	ビッグデータ時代 楚」速水治夫著(tの基礎 – 」三祖 コロナ社), 関	5大, 吉原 係する参	簧卓哉編著(参考書等は図書	共立出版) 参え 書館・WWWに多	き書:「リレーショナ 数ある.
担当教員		田添 丈博							
到達目標									
について,	それらの基礎	リレーショ [・] 楚を理解して	ナルデータベー) いる.	スの特徴, データ 	ベース設計のだ	5法論, 9	SQLの基礎と	ヒSQLを用いた 	:問合せ, データ更新
ルーブリ	ノツク		T田も日かたしています		抽が出たたち	<u>、</u> たし	Д	士がきし がり	Д
評価項目1			理想的な到達レ	グスルの日女	標準的な到	達レベル	の日女	未到達レベル	<i>心</i> 日女
評価項目1									
評価項目3									
	,	ニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	L						
教育方法			ζ						
	∆ √	データベー	フの其礎を講義	 すろ コンピュー		:w b M	//////の善及り		バース技術の重要性
概要		は増してい	る。この講義を	する. コンヒュー 通して, 大量の情	報を扱う現代の	ションピョ	レータ・シスラ	- ムのしくみにつ	いて理解を深める.
授業の進め	か方と授業内	・すべての	内容は、学習・教	教育到達目標(B) <専門> ()	ABEE基準	≛1.2(d)(2)a))に相当する.	
容・方法		・ / 技業は講 ・ 「 授業計員	莪・輪講形式で行 画」における各i	行う. 講義中は集 週の「到達目標」	出して騦講する はこの授業で習). 得する	「知識・能力	に相当するもの	とする.
注意点		ののく平をくく科くめくというでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	評価する. 各到: すすのでは、各別: がいる。 本語のでは、 がいる。 本語のでは、 を表現では、 をまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	達目標に関する重 び評価基準 > 適宜を20%として評価 で20%として評価 試験前の成績を上で60点以上を取得 遊知韶の範囲必要で 3学習時間と	みは同じである。 求める。課題だしい あすったことを いるでは、 はいるでは、 とっと。 はいと。 はいと。 はいと。 はいと。 はいと。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 とは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	. 合計点 出をして、中間試 は60点を は本的な値 はあた。 で進あ、プ	iの60%の得っ いなければな 験の成績が60 上限として置っ もい方(Wind E期試験のため ナンラインでの	点で、目標の達成 よらない、中間、 か点に達していなき換えるものとす ows、ワープロ、 かの学習も含む) D課題提出を求め	WWWなど). 本教 及びレポート作成に たり小テストを行っ
授業計画	 Fi	1/2 / 0 / 0 / 0	<u> </u>	2 1 73 13713 CC B	- X-70 C - 1111 7 G	<u>, C C 010</u>	-/ LISCO] E	a ly a le / y e / y e	.000
以未可區	週	授業内容・	 方法			调ごとの	 D到達目標		
	1週		<u>グル</u> データベース			1. デ-	-タベースの		, 情報社会における
	2週	データベージ	スのための基礎な	理論		2. リレ	ノーショナル		らびにデータベース理 Wしている.
	3週	リレーショ	ナルデータモデル	IL		とリレ-	-ションスキ-	-マを理解してい	
	4週	リレーショ:	ナル代数			1. タプノ	レを統合する	「輪集合」,共通	/ーションに対して 値するタプルを抽出す 6」を理解している.
	5週	SQL				5. SQ	Lの基本的な化	· 使い方ができる.	
	6週	SQLによるii	高度な問合せ			6. 行の ている.		行の並べ替えの	方法について理解し
	7週	正規化				ることを	を理解してい	3.	化によって解消でき
後期	8週	中間試験				これまできる.	でに学習した「	内容を説明し, 請	皆量を求めることがで
1女州	9週	データモデリ	 リング			+	 -タモデリン⁄		 生を理解している.
	10週		ス管理システム。	と外部記憶装置		9. デ-		構築・管理・運用	するためのプログラ
	11週	トランザク	ションと同時実行	行制御		ンの概念	念を理解してい	ハる.	するトランザクショ
	12週	障害回復				障害, き	システム障害,	障害の分類として メディア障害を -スの復旧方法を	
	13週	半構造データ	タとXML			12. 当 ついて,	半構造データ。 データモデル	とリレーションと レ, 問合せの両面	この類似点と相違点に 可から理解している.
	14週	マルチメデ	ィアデータベース	ス		ベースの	の違いについて	て理解している.	?ルチメディアデータ
	15週	NOSQLデー	-タベースとビッ	グデータ			大規模データを きる原理を理解		Lータで効率的に並列
	16週								
評価割合		ı	T	1.	1	1		1	1.
	試験		課題	相互評価	態度	角	表	その他	合計

総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
配点	80	20	0	0	0	0	100

鈴盾	 電工業高等専	 評門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科名	代数学特証	 ਜ਼ੇ
科目基础		,, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1.13213 1 1.22	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		3711.	11 050 13 13 1	10
科目番号		0021			科目区分	一般 必		
授業形態		授業			単位の種別と単			
開設学科	-	1	ーション工学専攻 ス)	ズ (ロボットテクノ	対象学年	専1	-	
開設期		後期	~()		週時間数	2		
<u> 教科書/教</u>	 牧材		 レ(配布プリント				 木村宣昭著 サ	·イエンス社)
担当教員		大貫 洋介		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
到達目	 標	•						
る知識を	体系的に身につ	念をしっかり つける.	とした形で理解し	_ノ , それに基づいて	具体的な問題を解	ぱくことができ , :	大学院へ進学す	る学生が後に必要とな
ルーブリ	リック							
			理想的な到達レ		標準的な到達レ		未到達レベ	
評価項目	1		考え方を理解し	線形写像の概念と , 発展的な問題で適 することができる	考え方を理解し	線形写像の概念と , 基本的な問題で することができる	「適 考え方を理	よび線形写像の概念と 1解しておらず, 基本的な 5切に計算することがで
評価項目	2		固有値と固有べ列の対角化との 別の対角化との 的な問題で適切 ことができる.	クトルの性質・行 関連を理解し, 発展 に計算・応用する	固有値と固有べ 列の対角化との 的な問題で適切 できる.	クトルの性質・? 関連を理解し, 基 に計算することだ	団有値と固 疑し 対 が りの対角化 らず, 基礎 ることがで	有ベクトルの性質・行 との関連を理解してお 的な問題で適切に計算す きない。
学科の	到達目標項目]との関係			•			
<u>, </u>		200 ///						
数回/3/ 概要	<i>/</i> Δ 3 7	線形代数の領別を			 線形空間や線形写 いては大学院の入		 された概念を, _{識したい。}	行列を用いて表現し取
 授業の進 容・方法	め方と授業内			教育到達目標(B) <) 「到達目標」はこ				
注意点 		<あらかじ≀ .	め要求される基礎		教科は微分積分Ⅰ	•		基礎となる教科である に課題に必要な標準的 Eをする.
授業計		155414-1-55			\	~ L ~ TU.		
	週	授業内容・プ	万法			どの到達目標	甘皮 レカニ+ハ レ	ジニついて田卯していて
	1週	ガイダンス,	線形空間の例		1.	緑形空间とその	基底と次元なる	だについて理解している
	2週	線形空間と語	部分空間		上訂	21.		
	3週	基底と次元			上訂	21.		
	4週	 線形写像と	宁列					いて理解し, 具体的な例
	5週	基底の変換				<u>付して計算ができ</u> 基底の変換につ		
		1						「 <u>乗がてきる。</u> 「像における意味を説明
	6週	行列の基本3	炎形,階数			きる.	<i>y</i> + CC / 13072 3	, 19.103.17 (3.16.71, (2.16.71)
	7週	線形写像の				線形写像の核と	像について理解	ないる.
後期	8週	後期中間試験				21. ~5. 始以写像 k ≢期	に 別の日七は	田左がわしい もない
汉州	9週	行列式,固有	有値と固有ベクト	- ル		緑形与像と表現 Oいて理解し,計		固有ベクトル,対角化
	10週	行列の対角の	ኚ			26.		
	11週	行列の一般	固有空間,最小多	5 項式	7. る.	行列の固有空間	と一般固有空間	見を理解し、計算ができ
	12週	ジョルダン	票準形 I		8.	対角化できない	行列のジョルタ	ブン標準形を計算できる
	13週	ジョルダン	票準形Ⅱ		上記	28.		
	14週	二次形式				二次形式につい ことができる.	て理解し, これ 	に関する応用問題を解
	15週	二次形式Ⅱ			上訂	29.		
	16週							
評価割る	合							
		÷ ##=+	FA		185 //	固人課題	合計	
		定期試	缺	ペアワーク課	超 1	9人ဲ		Т
総合評価配点	割合	70 70	帧	ハバソーク課 15 15	1	9人 就 超 5 .5	100)

^^-		الريم الجارية المراجع	BD=# 4- 4-	元子3.4 左子 7-	010 / _ `		/h I I /h	#₽1□ 7□1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	•
		等専門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	4	数科名	数理解析学 I	•
科目基礎	逆情報				T		т.		
科目番号		0022			科目区分		一般 選択		
授業形態		授業	<u> </u>	(- 12	単位の種別と	単位数	学修単位:	2	
開設学科		ロジーコー		て(ロボットテクノ 	対象学年		専1		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教	材	教科書 : な 波書店)	し(配布プリント	、)参考書:「新応原	用数学」 高遠	を	日本図書) 	,「複素関数入F 	門」神保道夫著(岩
担当教員		桑野 一成							
到達目標 複素関数で て理解する	- を理解する	る上で必要になる	ベクトル解析およ	こびべキ級数に関する	る基本的事項を	と理解した	上で,複素	数および複素関	数の基本事項につい
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達	レベルの国	ョ安	未到達レベル	の目安
評価項目:	1		学科で学ぶ微分科に応用して,新しことができる.	債分の知識を自在 い問題に取り組む	学科で学ぶ微 できる.	分積分の知	印識を応用	学科で学ぶ微できない.	分積分の知識を応用
評価項目:	2		解している.	論的基礎をよく理	数理解析学のている.	理論的基础	楚を理解し	数理解析学の記ていない.	理論的基礎を理解し
評価項目:	3		数理解析学の知識 て,新しい問題に きる.	識を自在に応用し こ取り組むことがで	数理解析学の	知識を応用	用できる.	数理解析学の	知識を応用できない.
学科の至	到達目標	項目との関係	(
教育方法	 去等								
概要	<u>-</u>	複素関数論、まず、ベ	は数ある数学の理 クトル解析の復習	論の中でも,最も をし,続いて複素	美しい結果を傭 関数論の初歩を	記, さま	ざまな分野 のがこの授	への応用も豊富が 業のねらいである	
授業の進む	カ方と授	*rh		120/ 1/01 2130/11				214 1 10 2 1 2 2 2	<u> </u>
容・方法		マ到達目標の 達成度を評 マ学業成績		、評価基準> 中間試験)「到達目標」	よりなる問	別題を中間記	式験および定期試	『験で出題し,目標の などの評価を30%と
容・方法		マラス できます できます できます できます できます できます できます できます	の評価方法と基準 価する。 の評価方法およびる。 再試験は実施 要件 > 学業成績で 要件 > 授業中に適談 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 険, 学年末試験 ること。 科は微分積分: 群す。 として、十分(よりなる間 の2回の記 I と II , 線 ご理解して	問題を中間記 は験の平均点 形代数Iと	式験および定期記点を70%,課題な にⅢの学習が基礎 5業に隠むこと。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ
注意点		マラス できます できます できます できます できます できます できます できます	の評価方法と基準 価する。 の評価方法およびる。 再試験は実施 要件 > 学業成績で 要件 > 授業中に適談 ・問点は授業中中・	> 下記授業計画の 評価基準> 中間試 しない. 60点以上を取得す 説の範囲> 本教 句小テスト・課題を)「到達目標」 険, 学年末試験 ること。 科は微分積分: 群す。 として、十分(よりなる間 の2回の記 I と II , 線 ご理解して	問題を中間記 は験の平均点 形代数Iと	式験および定期記点を70%,課題な にⅢの学習が基礎 5業に隠むこと。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ
注意点	<u> </u>	マ列達 標語 に では 十分 に かい に か	の評価方法と基準価する. の評価方法およびる. 再試験は実施 要件 > 学業成績で 要件 > 学業成績で 要件 > 授業中に適 時間が確保でき	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなる問 の2回の記 I と II , 線 こ理解して こおいても	、 別題を中間詞 就験の平均点 形代数 I と から次の摂 多くの問題	式験および定期記点を70%,課題な にⅢの学習が基礎 5業に隠むこと。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ
注意点	国 週	マ列達 標語 では では では から できまか とり できまか できま	の評価方法と基準 何する。 の評価方法およびる。 再試験は実施 要件 > 学業成績で 要求される基礎 等> 授業中に・ 野は時間が確保でき 方法	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 険, 学年末試験 ること。 科は微分積分 : 課す・ どして, 十分に 間以外の時間に	よりなる問 の2回の記 I と II , 線 こ理解して こおいても記 画ごとの到	説題を中間記	式験および定期試 点を70%, 課題が ☑ II の学習が基礎 ②業に臨むこと。 を解くように努力	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ かすること.
主意点	週 1週	COD 技業	の評価方法と基準価する。 の評価方法およびる、再試験は実施 要件 > 学式成長で 要件 > 学れる基礎 等 > 授援業 時間が確保でき 方法 ・スカラー場	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こ理解してこおいても記 Bごとの到	説題を中間記 は験の平均点 形代数Iとから次の摂 多くの問題 達目標 場・スカラ	式験および定期記点を70%,課題な (IIの学習が基礎 (対象に臨むこと)を解くように努力 (一場について理	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する.
注意点	画 週 1週 2週	マリカ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	の評価方法と基準価する。 の評価方法およびる、再試験はは第 要件 > 学就成基礎等 > 受要で業のでは 等 > でまでまではできる。 では投業性でする。 ではおいてできる。 ではないできる。 ではないできる。 できる。	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 設して, 十分に 間以外の時間に 1	よりなるほ の2回の記 I と I , 線 こ理解してこ おいても 過ごとの到 …ベクトル 2.積分曲線	問題を中間記 に験の平均点 形代数 I と から次の持 多くの問題 達目標 場・スカラ と微分方程	式験および定期記点を70%, 課題な I の学習が基礎 実に臨むこと. を解くように努力 i 一場について理 式について理解	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点	週 1週 2週 3週	COD 技業	の評価方法と基準 の評価方法および の評価方法および る. 再試験はは 要件 > 学業成基礎 等 > 受業中中に が 会には授業年中・さ な時間が確保でき 方法 ・ スカラー場 微分方程式 の線積分1	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分: どして, 十分に 間以外の時間に 1 2	よりなるほ の2回の記 I と I , 線 こ理解してこ おいても 過ごとの到 …ベクトル 2.積分曲線	問題を中間記 に験の平均点 形代数 I と から次の持 多くの問題 達目標 場・スカラ と微分方程	式験および定期記点を70%,課題な (IIの学習が基礎 (対象に臨むこと)を解くように努力 (一場について理	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点	画 週 1週 2週	マリ技業の マ到達度を成業 に マアリン に マアリン に マアリン に マアリン に マアリン に でで マアリン に でで でで でで でで でで でで でで でで でで で	の評価方法と基準価する. の評価方法およびる. の評価方法およびる. の評価方法は実施できた。 要件、対策成績で要決定は受業中に適度は投業には受験できた。 方法 ・スカラー場 の線積分 1 の線積分 2	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こ理解しても こべクトル 2.積分由線 3.ベクトル 上記3.	問題を中間記 は験の平均点 形代数Iとから次の問題 達目標 場・スカラ程 場の線積分	式験および定期記点を70%, 課題な I の学習が基礎 実に臨むこと. を解くように努力 i 一場について理 式について理解	となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点	週 1週 2週 3週 4週	マリカス では、 マリス では、 マリス では、 マリス では、 マリス では、 マリカ では、 マリカ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の評価方法と基準価する. の評価方法およびる. の評価方法およびる. の評価方法は実施できた。 要件、対策成績で要決定は受業中に適度は投業には受験できた。 方法 ・スカラー場 の線積分 1 の線積分 2	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こ理解しても こべクトル 2.積分中ル 2.1でクトル 上記3. トグリーン	問題を中間記 にはいる。 には、 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 には、 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 には、 には、 には、	式験および定期記点を70%,課題な に取の学習が基礎 受業に臨むこと。 を解くように努力 について理 対について理解す	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点	週 1週 2週 3週 4週 5週	マリン マリン マリン マリン マリン マリン マリン できます マン できます マン できない マン できない マン できない マン できない マン できない マン できない アン でいます アン でいます アン でいます アン	の評価方法と基準価する。 の計価する。方法おは実施のである。 あいる。 あいる。 あいる。 あいる。 おいさ、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなるに の2回の記 I と II , 線 こ理解してもに がなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではない。 で	問題を中間記 にはいる。 には、 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 には、 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 には、 には、 には、	式験および定期記点を70%,課題なる。また70%,課題なる。またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	マリン マリン マリン マリン マリン マリン マリン できます マン できます マン できない マン できない マン できない マン できない マン できない マン できない アン でいます アン でいます アン でいます アン	の評価方法と基準価するには、またのでは、また	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」	よりなるに の2回の記 I と II , 線 こ理解してもに がなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではない。 で	問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと から次の問題 達目標・スカラ 場では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	式験および定期記点を70%,課題なる。また70%,課題なる。またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点 授業計画	画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	マリ達の マリ達度を成価では マリ連度を成価ではかート では、マールの では、マールの では、アートルルの グリーンの グリーンの グリーンの	の評価方法と基準 の評価方法とよびる。 の記・再大学では、 要件、対さ、 要件、対さ、 変要、対し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分: どして、十分に 間以外の時間に 1 2 3	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こおいとのした。 の2人を表 の2人を表 の2人を表 の2人を表 の2人を表 の3. に4人の に4人の に5. でクトル線 は7人の に7人の に7人の に7人の に7人の に7人の に7人の に7人の に7の に7の に7の に7の に7の に7の に7の に7	問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと から次の問題 達目標・スカラ 場では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	式験および定期記点を70%,課題な 「II の学習が基礎 受業に臨むこと。 を解くように努力 「一場について理解」 について理解する。 いて理解する。 いて理解する。 に可いて理解する。 に可いて理解する。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	C	の評価方法と基準 の評価方法とよびる。 の記・再大学では、 要件、対さ、 要件、対さ、 変要、対し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分: どして, 十分に 間以外の時間に 1 2 3 4 5	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こまいても記 B.ごとのトル 2.積クトル 上記3. L.グリーン 5.グリーン 7.複素数平	問題を中間記 にないでは、 がら次の問題 をは、からの問題 をは、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 は、からの問題 の定理での記述 のの定理を応 ののにでいていていていていていている。	式験および定期記点を70%,課題な 「II の学習が基礎 受業に臨むこと。 を解くように努力 「一場について理解」 について理解する。 いて理解する。 いて理解する。 に可いて理解する。 に可いて理解する。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	C	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価である。 の評価である。 一の記述をはないできまれるには、 一の記述をはないできます。 一の記述をはいませます。 一の記述をはいませます。 一の記述をはいませます。 一の記述をはいませます。 ではいまする。 ではなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 検, 学年末試験 ること。 科は微分積分: どして、十分に 間以外の時間に 1 2 3 4 5 6	よりなるほ の2回の記 I と II , 線 こまにしても記 I ことの トル は、では、 I ことの トル は、ことの トル は 、ことの と 、	問題を中間記 は験の平均点 形代数Iと からの問題 場では、からの問題 場では、からでは、からでは、では、からでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	は験および定期記点を70%,課題なる。 に取りで置が基礎を実に臨むこと。を解くように努力を解してででででででででででででででである。 について理解する。 について理解する。 について理解する。 について理解する。 にはついて理解する。 にはついて理解する。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	Control Co	の評価方法と基準価の方法と基準の評価の方法と基準のでは、また。 また は は は また は は また は は また は また	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな	か () 「到達目標」 () () 学年末試験 ること。 科は微分積分 () () () () () () () () () () () () () (よりなるに はの2回の記 I と II , は では では では での の の の の の の の の の の の の の	、問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと が多くの問題 達場・次の問題 を連集を場ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	式験および定期記点を70%,課題な に下でででででででででででででででででででいて理解する。 では、このででででででででででででである。 にでいて理解するができる。 にはでいて理解するができる。 にはでいて理解する。 にはでいて理解する。 にはでいて理解する。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	Control Co	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな	か () 「到達目標」 () () 学年末試験 ること。 () () () () () () () () () () () () () (よりなるに はの2回の記 I と II , は では では では での の の の の の の の の の の の の の	、問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと が多くの問題 達場・次の問題 を連集を場ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	は験および定期記点を70%,課題なる。 「エの学習が基礎と 学に臨むこと。を解くように努力 一場について理解する。 ではついて理解する。 ではついて理解する。 理解する。 に対して理解する。 に対して理解する。	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	マリン では、	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 選びして、十分に 間以外の時間に 1 2 3 4 5 6	よりなるに はの2回の記 I と II , 線 てま では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	、問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと が多くの問題 達場・次の問題 を連集を場ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	は験および定期記点を70%,課題なる。 は、また70%,課題なる。 は、またでは、またでは、またのでででででででででででででででででででである。 は、は、これでは、またのでででである。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	回 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	C	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 設して、十分に 間以外の時間に 3 4 5 6 7 8 9	よりなる。 は の 2 回 の 記	、問題を中間記 に験の平均点 形代数Iと が多くの問題 を達場・微の線 で定定理 ののののの面との公演 ででは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、	は験および定期記点を70%,課題なる。 に取りで置が基礎と、ででででででででででででででででででででででででででででででででである。 にはないでででででできるが、は、これででででででででででででででででででででででででででででででできる。 は、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授業計画	回 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	C	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 設して、十分に 間以外の時間に 3 4 5 6 7 8 9	よりなる。 は の 2 回 の 記	問題を中間記 にないない。 では、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	は験および定期記点を70%,課題なる。 に取りで置が基礎と、ででででででででででででででででででででででででででででででででである。 にはないでででででできるが、は、これででででででででででででででででででででででででででででででできる。 は、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授 業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	C	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 設して、十分に 間以外の時間に 3 4 5 6 7 8 9	よりなる。 は の 2 回 の 記	問題を中間記 にないない。 では、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	は験および定期記点を70%,課題なる。 に取りで置が基礎と、ででででででででででででででででででででででででででででででででである。 にはないでででででできるが、は、これででででででででででででででででででででででででででででででできる。 は、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 91 10週 11週 11週 113週 14週 15週 16週	C	の評価方法と基準の評価方法と基準の評価方法と基準のでは、	> 下記授業計画の 評価基準 > 中間試験 もしない。 「60点以上を取得す 知識の範囲 > 本教 ョ小テスト・課題を 受業後に質問するな)「到達目標」 後, 学年末試験 ること。 科は微分積分 設して、十分に 間以外の時間に 3 4 5 6 7 8 9	よりなる。 は の 2 回 の 記	問題を中間記 にないない。 では、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	は験および定期記点を70%,課題なる。 に取りで置が基礎と、ででででででででででででででででででででででででででででででででである。 にはないでででででできるが、は、これででででででででででででででででででででででででででででででできる。 は、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでででででででででででででででででででででででででででででででででできる。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.
注意点 授 業計画	回 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	Control	の評価方法と基準の計画のでは、	下記授業計画の)「到達目標」	よりなるには、 (の2回の記しまりなるには、 (の2回の記しません) は、 (の2回の記しません) は、 (の2回の記しません) は、 (の2回の記しません) は、 (の2の記しません) は、 (問題を中間記 にないない。 では、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	は験および定期記憶を70%,課題なる。 は、また70%,課題なる。 は、また70%,課題なる。 は、は、この学習が基礎を にいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいで理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいて理解する。 には、このいでは、このいでは、	などの評価を30%と となる教科である. 授業中の演習時間だ 力すること. 解する. する. する.

	起工業品	等專	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	数理解析学 🏻	[
科目基础	楚情報									
科目番号			0023			科目区分		一般 選択		
授業形態			授業			単位の種別と	_単位数	学修単位:	2	
開設学科			総合イノベ ロジーコー		攻(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期			後期			週時間数		2		
教科書/教	树		教科書:な 波書店)	:し(配布プリン	ト)参考書:「新応	用数学」 高速	遠他著(ナ	日本図書)、	、「複素関数入局	門」神保道夫著(岩
担当教員			桑野 一成							
到達目	摽									
くこの授 複素関数			› \て理解する) _o						
ルーブ!	リック									
				理想的な到達し	ノベルの目安	標準的な到達	差レベルの	目安	未到達レベル	の目安
評価項目	1			学科で学んだ術 在に応用できる	数分積分の知識を自 る。	学科で学んた 用できる。	ご微分積分	の知識を応	学科で学んだる 用できない。	微分積分の知識を応
評価項目	2			数理解析学の理解している。	里論的基礎をよく理	数理解析学の ている。	D理論的基	礎を理解し	数理解析学のでしていない。	理論的基礎を理解し
評価項目	3				印識を応用して、新 0組むことができる	数理解析学の	D知識を応	用できる。	数理解析学の	知識を応用できない
学科の	到達目	漂項目	目との関係	Ŕ						
教育方法	法等									
概要			く授業のね 複素関数論 。数理解析	は数ある数学の	理論の中でも、最も えて、複素関数論の		備え、さま 結果を学ぶ		への応用も豊富カ	な理論の一つである
授業の進 容・方法	め方と授	業内	く授業の内							
ロ・ハ広		.,,,,,			・教育到達目標(B)・	<基礎>及びJA			対応する.	
			この授業の <学業成績 後期中間試 <単位修得	内容は全て学習 の評価方法およ 験, 学年末試験 要件>	び評価基準> の2回の試験の平均;		ABEE基準	1 (2)(c)に		験は実施しない.
注意点			この授業の <学業成績 後期中間試 <単位修得	内容は全て学習 の評価方法およ 験、学年末試験	び評価基準> の2回の試験の平均;		ABEE基準	1 (2)(c)に		験は実施しない.
主意点			この授業の <学業成績 後期中間試 く単位修得 学業成績で	内容は全て学習 の評価方法およ 験,学年末試験 要件> 60点以上を取得	び評価基準> の2回の試験の平均;	点を70%,課是	ABEE基準 頃の評価を	1 (2)(c)に		験は実施しない.
主意点	画		この授業の <学業成績 後期中間試 <単位修得	内容は全て学習の評価方法およ験, 学年末試験要件> 60点以上を取得	び評価基準> の2回の試験の平均;	点を70%,課是	ABEE基準 題の評価を 週ごとの3	1 (2)(c)に 30%として 別達目標		験は実施しない.
主意点	画週		この授業の <学業成績 後期中間試 <単位修得 学業成績で 授業内容・ 複素関数の	内容は全て学習の評価方法およ験, 学年末試験要件> 60点以上を取得	び評価基準> の2回の試験の平均; 引すること.	点を70%,課是	ABEE基準 題の評価を 週ごとの3 1.複素関数	1 (2)(c)に 30%として 対達目標 数の微分につ	評価する.再試	
主意点	画 週 1週		この授業の <学業成績 後期中間試 <単位修得 学業成績で 授業内容・ 複素関数の	内容は全て学習の評価方法およ験,学年末試験要件>60点以上を取得方法 がある。 カラストライン カラス	び評価基準> の2回の試験の平均; 引すること.	点を70%,課是 ; ;	ABEE基準 題の評価を 週ごとの到 1.複素関数 2.コーシ-	1 (2)(c)に 30%として 関達目標 枚の微分につ -・リーマン	評価する. 再試	
主意点	画 週 1週 2週		この授業の <学業成績 後期中間試 <学業成績で 授業内容・ 複素関数の コーシー・ 複素積分の	内容は全て学習の評価方法およ験,学年末試験要件>60点以上を取得方法 がある。 カラストライン カラス	び評価基準> の2回の試験の平均; 引すること.	点を70%, 課是	ABEE基準 題の評価を 週ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素積分	1 (2)(c)に 30%として 到達目標 枚の微分につ -・リーマン うの定義につ	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい	て理解する。
主意点	画 週 1週 2週 3週		この授業の <学業成績 後期中間試 <学業成績で 授業内容・ 複素関数の コーシー・ 複素積分の	内容は全て学習の評価方法およ験,学年末試験要件>60点以上を取得方法 力法 の方法 の方法 の方法 の方法 の力 リーマンの関係 定義 積分の可換性	び評価基準> の2回の試験の平均; 引すること.	点を70%,課是	ABEE基準 連の評価を 週ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素積が 4.極限操作	1 (2)(c)に 30%として 対連目標 対の微分につ ・リーマン かの定義につ にと積分の可	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。	て理解する。
主意点	画 週 1週 2週 3週 4週		この授業の <学業成績 後期中間試 学業成績で 授業内容・ 複素関数の コーシー・ 複素積分の 極限操作と コーシーの	内容は全て学習の評価方法およ験,学年末試験要件>60点以上を取得方法 方法 微分 リーマンの関係 定義 積分の可換性	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是	過ごとの3 1.複素関数 2.コーシ- 3.複素積が 4.極限操作 5.コーシ-	1 (2)(c)に 30%として 対応機分につ ・・リーマン かの定義につ をと積分の可 ーの積分定理	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理	て理解する。
主意点	画 週 1週 2週 3週 4週 5週		この授業の <学業成績 後期中間試 学業成績で 授業内容・ 複素関数の コーシー・ 複素積分の 極限操作と コーシーの	内容は全て学習の評価方法おより 一次では一次では一次では一次では一次では一次でである。 一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	過ごとの到 1.複素関数 2.コーシー 3.複素積が 4.極限操作 5.コーシー 6.コーシー	1 (2)(c)に 30%として 対達目標 なの微分につ ・・リーマン かの定義につ にと積分の可 ーの積分定理 の積分定理	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理 について理解す	て理解する。 解する。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週		この授業の <学業成績 後期中位修得 学業成績で 授業内容・ 複素関数の コーシー・ 複素積分の 極限操作と コーシーの コーシーの	内容は全て学習の評価方法おより 一次では一次では一次では一次では一次では一次でである。 一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	過ごとの到 1.複素関数 2.コーシー 3.複素積が 4.極限操作 5.コーシー 6.コーシー	1 (2)(c)に 30%として 対達目標 なの微分につ ・・リーマン かの定義につ にと積分の可 ーの積分定理 の積分定理	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理 について理解す を応用できる。	て理解する。 解する。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週		この授業の く学業成績後期位に (学業成間を) を	内容は全て学習の評価方法おより 一次では一次では一次では一次では一次では一次でである。 一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では	び評価基準> の2回の試験の平均。 計すること.	点を70%,課是 : :	過ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素積が 4.極限操作 5.コーシー 6.コーシー 7.コーシー 中間試験	1(2)(c)に対ける。1(2)	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理 について理解す を応用できる。	て理解する。 解する。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週		この授業の <学業成績 後期中位修 学業成績 で学業成績 で変素関数の を表見数の を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表している。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	内容は全て学習の評価方法およ験、学年末試験を 60点以上を取得 方法 の分 リーマンの関係の 定義 積分の可換性 積分定理 積分定理の応用	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個でとの子 通ごとの子 1.複素関数 2.コーシー 3.複素関数 4.極限操作 5.コーシー 6.コーシー 7.コーシー 中間試験 8.コーシー	1(2)(c)に対ける。1(2)	評価する. 再試がいて理解する。の関係式についいて理解する。換性について理解する。換性について理解すを応用できる。について理解す	て理解する。 解する。 る。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週		この授業の <学業成績 後期中位修 学業成績 で学業成績 で変素関数の を表見数の を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表見がある。 を表している。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	内容は全て学習の評価方法おより 一般では多くでは、 一般では、 一を、	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%, 課是 : : :	個でとの子 過ごとの子 1.複素関数 2.コーシー 3.複素関数 4.極限操作 5.コーシー 6.コーシー 7.コー試験 8.コーシー 9.リュウト	1(2)(c)に対 (30%として (30%として (30%として (30%として (30%として (30%として (30%)として (30%)と	評価する. 再試がいて理解する。の関係式についいて理解する。換性について理解する。換性について理解すを応用できる。について理解す	て理解する。 解する。 る。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週		この授業の く学業の く学業 成間で 学業 大学	内容は全て学習の評価方法お験要件/> 60点以上を取得 60点以上を取得 7/2 2 の関係 定義 積分の可換性 積分定理 積分公式の応用 で 理と代数学 開 1	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個の評価を 週ごとの到 1.複素関数 2.コーショ 3.複素操作 5.コーショ 6.コーショ 7.コーショ 中間試験 8.コーショ 9.リュウは。 10.ローラ	1 (2)(c)に 30%として 30%として 対応は かの微分につ ・リー・ の定義の可 ・の積分定理 ・の積分公式 ごルの定理と シス展開につい	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理 について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定	て理解する。 解する。 る。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週		この授業の く学業の 後期 を は と で	内容は全て学習の評価方法お験要件/> 60点以上を取得 方法 微分 リーマンの関係 定義 積分 定理 の応用 積分 立式 の応用 で 理と代数学 開 1 開 2	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個でとの子 過ごとの子 1.複素関子 2.コーネ 3.複素関子 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試験 8.コーシー 9.リュウト 10.ローラー	1 (2)(c)に 30%として 30%として 対応は かの微分につ ・リー・ の定義の可 ・の積分定理 ・の積分公式 ごルの定理と シス展開につい	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。	て理解する。 解する。 る。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週		この授業の 会別 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	内容は全て学習の評価方法お験要件/> 60点以上を取得 方法 微分 リーマンの関係 定義 積分 定理 の応用 積分 立式 の応用 で 理と代数学 開 1 開 2	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素関数 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試験シー 9.リューウト 10.ローラ 11.ローラ 12.孤立特	1 (2)(c)に 30%として 30%として 対応では かの一でで かのででででする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。 る。
注意点 授業計画	画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週		この授業の (後年) 大学 (大学学の できません) できます (大学学の できません) できます できます できます できます できます できます できます できます	内容は全て学習の評価方法お験 一次では多様である。 一次では一次では一次では一次では一次では、 一次では一次では、 一がでは、 一がでは、	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素関数 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試験シー 9.リューウト 10.ローラ 11.ローラ 12.孤立特	1(2)(c)に 30%として 30%として 対象の微分につ ・リーマン かの定義につ可 の積分定理 の積分定理 の積分公式 ごルの定理と ン展開につい と関について 理についてほ	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。 る。
主意点 受業計[画 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 12週 13週 13週		この授業の (後) 学 (後) 学 (学) (**) 学 (**) **) (**) (内容は全て学習の評価方法お験 一次では多様である。 一次では一次では一次では一次では一次では、 一次では一次では、 一がでは、 一がでは、	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素限数 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試しシー 9.リューウト 10.ローラ 11.ローラ 12.孤数 13.留数定	1(2)(c)に 30%として 30%として 対象の微分につ ・リーマン かの定義につ可 の積分定理 の積分定理 の積分公式 ごルの定理と ン展開につい と関について 理についてほ	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。 る。
注意点 授業計 関	画 週 1週 2週 3週 4週 5週 7週 8週 9週 10週 11週 113週 113週 113週 113週 113週		この授業の (後) 学 (後) 学 (学) (**) 学	内容は全て学習の評価方法お験 一次では多様である。 一次では一次では一次では一次では一次では、 一次では一次では、 一がでは、 一がでは、	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素限数 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試しシー 9.リューウト 10.ローラ 11.ローラ 12.孤数 13.留数定	1(2)(c)に 30%として 30%として 対象の微分につ ・リーマン かの定義につ可 の積分定理 の積分定理 の積分公式 ごルの定理と ン展開につい と関について 理についてほ	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。 る。
注意点 授業計算 機期	画 週 1週 2週 3週 4週 5週 7週 8週 9週 10週 11週 113週 113週 113週 113週 113週	試験	この授業の (後) 学 (後) 学 (学) (**) 学	内容は全て学習の評価方法お験 一次では多様である。 一次では一次では一次では一次では一次では、 一次では一次では、 一がでは、 一がでは、	び評価基準> の2回の試験の平均; すること.	点を70%,課是 : :	個ごとの3 1.複素関数 2.コーシー 3.複素限数 4.極限操作 5.コーシー 7.コーシー 中間試しシー 9.リューウト 10.ローラ 11.ローラ 12.孤数 13.留数定	1 (2)(c)に 30%として 30%として 対象では かのでは かのでででする。 では かのでででする。 では では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かった では では では では では では では では では では では では では	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いて理解する。 換性について理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 いて理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。
注意点 授業計 (画 週 週 1週 2週 3週 6週 7 8週 10週 10週 13週 10週 13週 15週 16週		この授業の (後) 学 (後) 学 (学) (**) 学	内容は全て学習の原体を表現である。	び評価基準> の2回の試験の平均の3回の試験の平均の3回の試験の平均の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の3回の	点を70%,課是 : :	ABEE基準 週の評価を 週ごとの到 1.複素 シー 3.複素限を 4.極ローシー 5.コーシを 6.コーシシー 7.コーシを 8.コーシ・ 9.リュローラー 11.孤留数定 12.孤留数定 13.記1~1	1 (2)(c)に 30%として 30%として 対象では かのでは かのでででする。 では かのでででする。 では では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かのでででする。 では かった では では では では では では では では では では では では では	評価する. 再試 いて理解する。 の関係式につい いで理解する。 換性につて理解す を応用できる。 について理解す を応用できる。 代数学の基本定 いて理解する。 て理解する。 て理解する。	て理解する。 解する。 る。 理について理解する

鈴鹿-	 L業高等専	 門学校	日 日 諸 王 月	要 平成31年度(2019年度)	ž	 教科名	
科目基礎的		11111	1/13613172	2 1 13002 132 (IXII II	
科目番号	ИТС	0024			科目区分		一般 選択	
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位:	
開設学科				攻(ロボットテクノ	7 1 1 1 1 1 1 1 1		専1	-
開設期		前期			週時間数		1	
教科書/教材	<u>†</u>	教科書:実	践工業数学 第3	3版(受講者に配布)	, eラーニン	ング教材参考	: 書:特にた	:U
担当教員			柴垣 寛治,箕浦		,			
到達目標		,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	-				
	—————— 行列,微分为	5程式,確率	, 関数, 積分か	、機械工学,電気・	· 電子工学,情	報工学,通	信工学的な	観点から理解でき, それらを使うこ
ルーブリ	ック							
			理想的な到達し			達レベルの目		未到達レベルの目安
評価項目1			ロボット工学(て理解し,実置 きる.	こおける数学につい 浅的な問題に応用で		学における数 基礎的な問題		ロボット工学における数学につい て理解していない.
評価項目2			し,実践的な問	る数学について理解 問題に応用できる.	して基礎的	ける数学にてな問題を解り	ける.	気体論における数学について理解 していない.
評価項目3			いて理解し, st できる.	則における数学につ 実践的な問題に応用	三次元位置 いて理解し る.	計測における て基礎的な問	る数学につ 問題を解け	三次元位置計測における数学について理解していない.
評価項目4			応力解析におり 解し,実践的な ・	ナる数学について理 は問題に応用できる		おける数学(的な問題を)		応力解析における数学について理解していない.
学科の到	達目標項目	<u> 目との関係</u>	\					
教育方法	 等							
概要	1.5	eラーン	 グに係る遠隔教		・専門に用いら	カる数学を	 応用面から	理解しながら学ぶ.
		・すべての	内窓け 学習・	教育到達日標(R)と	は礎っく専門っ	l= 1ΔRFF‡	其淮1(2)(c)) (4)に対応する
授業の進め: 容・方法	方と授業内 	・授業はオ ・「授業計	ンラインの e ラ 画」における各	- ニング教材を用い _・ 週の「到達目標」(a	Nて各人が行う はこの授業で習	. 講義は計i 得する「知i	画的かつ集 識・能力」	ゲーンで聴講する。 に相当するものとする。 ンテンツへのアクセス状況により評価
注意点		取得した場 (80%)及び (100~80 くりなら くりなう くりなう と を り を り る り る り る り る り る り る り る り る り	合に目標を達成 の評価方法およ アクセス状況(点), く (79〜 要要は、 (79〜 要要業で根 を要業である 大容である の科目は「単位」	にたことが確認でき び評価基準>各授業 20%)を基準として, 〜65点) , 可 (64〜 で60点以上を取得す 礎知識の範囲>各学 る学習時間と, 予習	であように設定 項目についてで 学業成績を終 (60点),不可 ること 科の学科卒業 ・復習及びレン 義配信事業に	する。また。 中間及び期末 総合的に評価 「(59点以下 程度の習得。 ポート作成に 係る単位互携	アクセス状 たの課題を含 iする. 評価 :) . こ必要な標準 換協定」(こも	ジルは百点法により60点以上の得点を 況の評価は最大20%とする。 全て正しく解答した提出レポート 基準は、次のとおり、優 集的な学習時間の総計が、45時間に相 らける単位互換科目として実施する を入れること。
授業計画	1					1		
	週	授業内容・	方法			週ごとの到	達目標	
	1週	I. ロボッ 主担当:鈴, 数学部分: (1) 多関節に 作業座標 換行列によ	群馬高専 碓氷ク コボットの順運 変換と関節角度	クトルと行列 (学科) 白井達也 ス, 元鈴鹿高専 安 動学 : 座標変換, 位 空間, 水平多関節C	富真一 位置と姿勢 1ボットの変	すくまとめ 2. 疑問点 がなされて 応答ができ 3. レポー	ることがで を明確にし いる. また る.	/,レポートの中で,考察,資料調査 -,必要に応じてメール等により質疑 -,講義で紹介された内容,関連事項
	2週	`一般化逆行		逆行列),軌道計画		上記1から	3	
	3週	数 主担当:鈴 数学部分:	鹿高専(電気電 岐阜高専 岡田章	(分方程式, ベクトル (子工学科) 柴垣寛治 (ラニ, 鈴鹿高専 堀河 プラズマの応用, 核	計 [太郎	上記1から	3	
前期	4週	(2) 気体論	: 気体の電気的 持続, パッシェ	性質,気体放電とフ ンの法則	プラズマ,放	上記1から	3	
	5週	主担当:鈴 数学部分: (1) 三次元: と同時座標	元鈴鹿高専 安	;報工学科)箕浦弘人		上記1から	3	
	6週	(2)三次元位元位置計測	位置計測:三次5	元座標の算出,最小 幾何学的解釈,多祷	二乗法, 三次 見点による精	上記1から	3	
	7週	IV. 機械工 主担当: 鈴 数学部分:: (1) 有限要	学編(積分,行 鹿高専(機械工 鈴鹿高専 堀江	一 列) 学科)南部紘一郎	(三角形要素	上記1から	3	
	8週	(2)応力解析		モデル:仮想仕事の	原理,三角形	上記1から	3	

	9週							
	10週							
	11週							
	12週							
	13週							
	14週							
	15週							
	16週							
評価割合								
	1	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	<u>}</u> ()	80	0	0	0	20	100
配点)	80	0	0	0	20	100

科目基礎情報 和日番号 0025	鈴鹿 ⁻	工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)		教科名	実践工業数学 Ⅱ
関連			LI 11 1/V	Z/ - E	13×31+1文(<u> 2015—IX)</u>		371111	八成工未软)正
現在		N+UI.	0025			科日区分		一船 强扣	
開設が到	授業形態					1	 と単位数	_	
### 2	開設学科		総合イノベ・		女(ロボットテクノ	, , , _ , _ ,			-
理当時	開設期		前期			週時間数		1	
到達目標	教科書/教林	 才	実践工業数等	学 第3版		•		•	
プリック - 理想が監測は、一型の場合 - では、一型の場合 - では、	担当教員		山口 雅裕,和	四田 憲幸,兼松 秀	行				
プリック - 理想が監測は、一型の場合 - では、一型の場合 - では、	到達目標								
#理師が日間			效,統計,微	分,積分,三角區	関数が,生物工学,	物理化学, 材	料工学的な	観点から理	解でき, それらを使うことができる
#理師が日間	ルーブリ	ック							
		-		理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到	達レベルの	 目安	未到達レベルの目安
を称くことができる。	評価項目1			微分方程式,確 ,微分,積分, ,生物工学に関	率,関数,統計 三角関数を用いて する応用的な問題	微分方程式 , 微分, 積 , 生物工学	,確率,関 分,三角関 に関する基		微分方程式,確率,関数,統計 ,微分,積分,三角関数を用いて ,生物工学に関する基礎的な問題
学科の到達目標項目との関係 教育方法等 概要 実践工業数学Ⅱは、権率、統計、微分、積分の数学的知識を使い、生物工学、物理化学、科科工学の専門科目への応用を、・フーニングによる強調教育によってデが、・ すべての内容は、学等、教育別注目信(の)を基礎と、実門ンに、JABIEL展準1(2)(こ)(d)に対応する。 ・ すべての内容は、学等、教育別注目信(の)を基礎と、実門ンに、JABIEL展準1(2)(こ)(d)に対応する。 ・ 1 規模能計画 」における各週の「列達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 ・ 1 規模能力をよったの意味とが発酵を受けるより発酵を関係を受けるとの事態を対象を対象を対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	評価項目2			,微分,積分, ,物理化学に関	三角関数を用いて する応用的な問題	を解くこと	かできる.		, 物理化学に関する基礎的な問題 を解くことができない.
模要 実践工業数学Ⅱは、確率、統計、微分、積分の数学的知識を使い、生物工学、物理化学、材料工学の専門科目への応用を、e・ラーニングによる遠陽教育によって予が、 で、c・ラーニングによる遠陽教育によって予が、 で、c・ラーニングによる遠陽教育にようで多が、 で、c・ラーニングによる遠陽教育にようで入れ、内容理像を含むくべ他のレバートの提出と結果によってを確認される。 ・ 「投業」をラーニングによる遠陽教育にようで行い、内容理像を含むくべ他のレバートの提出と結果によってを確認される。 ・ 「投業」は、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる過度では、c・ラーニングによる場合のは、c・フルインのでは、c・フルインのでは、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによるして、c・フルインによって、c	評価項目3			,微分,積分, ,材料工学に関	三角関数を用いて する応用的な問題	微分方程式 , 微分, 積 , 材料工学 を解くこと	, 確率, 関 分, 三角関 に関する基 ができる.	数,統計 数を用いて 礎的な問題	, 材料工学に関する基礎的な問題
振要 実践工業数学 II は、確率、統計、微力、積分の数学的知識を使い、生物工学、物理化学、材料工学の専門科目への応用 を・ラーニングによる端隔教育によって学ぶ。	学科の到	達目標項目	目との関係	•					
接案の進め方と授業内。	教育方法	等							
を、で・フーニングによる短触分目によりてかい。	押 亜		実践工業数	学Ⅱは,確率,系	流計,微分,積分σ	数学的知識を	使い, 生物	工学,物理	化学, 材料工学の専門科目への応用
8- 方法	100.55		を, e-ラー:	ニングによる遠隔	扇教育によって学る	Ν.			
公別連目標の評価方法と基準)上記の「知識・能力」1~3の習得の度合をレポートおよびコンテンツへのアクセス状況。より評価である「知識・能力」1~3の電かは対等で、課題と開発と認めとし、レポート製造のレルは、百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。またアクセス状況の評価を最大20%とする。	授業の進め 容・方法	方と授業内	認される.						
週 授業内容・方法 週ごとの到達目標	注意点		状況の評価(6(80%)が後の計価(6(80%)が後の力位の分子と対している。) (4 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を	を最大20%とす。 力評価方法およて びの点点ではできまれば 60点点学業成績で りでできまれる基礎が 大学業で保証で保証する 大学である。 ・科目は「単位与	る。 『評価基準>各授業 20%)を基として 3点以下である。 60点以上を取得 独職の範囲>各学 拡散の知識があれば 学習時間と、予習 「換を伴う実践型講	項目についてで て、学業成績を すること。 科の学科卒業 より理解が深 ・復習及びレバ 義配信事業に信	中間および に総合的に記 程度の知識。 まる. ポート作成に 系る単位互持	期末の課題を 呼価する. な と能力を必要 こ必要な標準 数協定! にお	を全て正しく解答した提出レポート お,優が100〜80点,良が79〜65点 要とする.また,本教科は物理化学 集的な学習時間の総計が,45時間に相 おける単位互換科目として実施する
1週	授業計画						1		
検定の考え方、検定の誤りと危険率、データの対応		週					週ごとの至	達目標	
1881		1週	V 生物工 (1) 生物統 検定の考え	学編-確率・統言 計1 パラメトリ 方,検定の誤りと	† リックな検定 ヒ危険率, データの	O対応	1. 検定の 定, Welch	考え方,検定 1の検定,Zt	Eの誤りと危険率,データの対応,t検 検定を理解できる.
4週		2週	t検定,Wel	chの検定, Z検定	È				
生物学的有意性と統計学的有意性の違い		3週	Ù検定(Man	-Whitney検定),	χ2検定		2. U検定(I 統計学的有	Man-Whitn i意性の違い	ey検定), χ2検定, 生物学的有意性と n, 公式の選定を理解できる.
公式の選定			生物学的有意	意性と統計学的有	育意性の違い				
新力学第1法則、熱力学第2法則、物質の熱容量、マックスウエルの関係式		5週	公式の選定	ロムーノンハラメ 	トレソツクは快圧 		上記2		
ファトロピーの温度依存性,化学ポテンシャル,反応と平 (2) シュレーディンガー方程式とその解(並進運動(1次元 (3) カーンガー方程式,自由電子のシュレーディンガー方程式の解法,規格化に使う数学を理解できる. 3次元)	前期	6週	VI 物理化 (1) 熱力学の 熱力学第13 スウエルの	学編-微分・積分 D基礎方程式とそ 法則,熱力学第2 関係式	分,微分方程式,∃ その応用 2 法則,物質の熱容	三角関数 ទ量,マック	3. 熱力学録 クスウエル テンシャル	第1法則,素 ンの関係式, ン,反応と平	热力学第2法則,物質の熱容量,マッ エントロピーの温度依存性,化学ポ 衡常数に使う数学を理解できる.
8週		7週	エントロピ・				上記3		
9回 程式の解法と波動関数の規格化 上記4 (3) シュレーディンガー方程式とその解(調和振動, 回転運動) 上記4 10週 動) 調和振動, 2次元回転運動(古典論) 上記4		8週	「, 3次元) <u>)</u> シュレーデ	ィンガー方程式,	記式とその解(並進達 自由電子のシュレ	 重動(1次元 ノーディンガ	の中の並進	[運動,回転	運動および調和振動のシュレーディ
10週 動)		9週	程式の解法	と波動関数の規格	各化		上記4		
		10週	動)			辰動,回転運	上記4		
		11週	· · · · · · · ·	,		(量子論)	上記4		

	12週	VII 材料工 (1) フィッ・ 金属中の拡	学編 – 微分方程式と関数 クの第一法則 散現象			5. 金属中の拡散現象, に使う数学が理解でき	偏微分とフィックの第1法則の解法 る.
	13週	フックの第	1法則の解法			上記5	
	14週	(2)フィック フックの第	7の第二法則 2法則と定常状態での解法	Ž.		6. フィックの第2法則 2法則と非定常状態での解法,有限な長さを)に使う数学を理解でる	と定常状態での解法,フィックの第 の解法,拡散距離が比較的短い場合 寺つ軽についての解法(変数分離 きる.
	15週	フックの第	2法則と非定常状態での解	法,拡散距	離	上記6	
	16週						
評価割合	•						
			課題		態度		合計
総合評価割	 合		80		20		100
配点			80		20	•	100

鈴鹿.	L業高等	等専門	門学校	開講年度	平成31年度 (2	019年度)		教科名	信頼性工学	
科目基礎	情報									
科目番号		-	0026			科目区分		一般 必修		
授業形態			受業	ション工学事功	· /ロギ…トニカノ	単位の種別	と単位	数 学修単位:	2	
開設学科		π [はログランへ	ーションエ子専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		Ē	前期			週時間数		2		
教科書/教林	đ	4		入門 信頼性」田 本理工出版会)	中健次(日科技)	車出版社)参	考書	: 「情報システム	化時代の信頼性工	学テキスト」栗原
担当教員		E	民秋 実							
到達目標										
信頼性工学	に関する	基礎	理論を理解	し,種々の条件の	下で信頼性特性値	を求めること	ができ	き, 信頼性設計に	応用することがで	きる.
ルーブリ	ック									
				理想的な到達レク		標準的な到			未到達レベルの	
評価項目1				信頼性工学に関す 用することができ	する基礎理論を応 きる.	信頼性工学 解している。		る基礎理論を理	信頼性工学に関 解していない.	する基礎理論を理
評価項目2				応用的な信頼性特 とができる.	寺性値を求めるこ	基本的な信息 とができる	頼性特	性値を求めるこ	信頼性特性値を ない.	求めることができ
評価項目3				信頼性設計に応用る.	用することができ	信頼性設計	こ使う	ことができる.	信頼性設計に使 ・	うことができない
学科の到	達目標	項目	との関係							
教育方法										
概要		ſ	言頼性工学(として, 信!	は,製品の信頼性 頼性特性値の求め	を高めるための技行 方・利用方法そし	析を整理して て信頼性設計	体系化への応	だしたものである. 用について学習	この講義では, する.	信頼性工学の基礎
授業の進め 容・方法	方と授業	ן ניו=	・授業は講	義・演習形式で行	・教育到達目標(B う. 講義中は集中し の「到達目標」はる	」 て聴講する				
注意点		:	<単位修得9 <あらって、 る。自己要とは が必考>自こ <備考>自己	要件>全ての課題を か要求される基礎的 本教科は応用数学 >授業で保証する等 る.	· て授業を進め,自己	で60点以上 工学は確率記 よる教科であ 習・復習(「	を取得 命を主 り,統 中間試	すること. な道具として信頼 証計数理の基礎的! 験, 定期試験のた	別性を定量的に取り 事項について理解 とめの学習も含む)	ош - + o - + -
授業計画		•								
	週	ŧ	受業内容・プ	方法			週ごと	との到達目標		
	1週	1	言頼性工学の	の基礎(歴史, 用	語)		1. 信	言頼性工学の用語	について説明でき	る
	2週		品質保証,	製造物責任と信頼	性				責任について説明	
	3週	ſ	言頼性特性	値:(故障率,M	TTF, MTBF)			言頼性特性値の物 することができる		き, それらの値を
	4週	1	保全性: (MTTR, PM,	アベイラビリティ)		4. イ , そオ	保全に関する信頼 1らの値を計算す	性特性値の物理的 ることができる.	的意味を説明でき
	5週	Ī	. ,	長系の信頼度					信頼度について計	
	6週		一般的な系の	の信頼度					度について計算で	
	7週		フイブル分	布と統計的手法(物理的背景,理論)		とがて	できる.		生特性値を求めるこ
前期	8週		前期中間試				きる.			を求めることがで
	9週 10週			信頼性特性値(物 定方法(点推定と	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				信頼性特性値を計 区間推定を計算で	
	11週			<u> ピカム (無)産とこ</u> ポアソン分布	<u>—</u> 1₩/L//		10.	二項分布,ポアン		:頼性特性値を計算
	12週		FMEA	· ·			できる		 Nて, FMEA解析	が行える.
	13週	$\overline{}$	FTA						. て, FTA解析カ	
	14週	-		・信頼性試験・デ	ザインレビュー		13.	信頼性設計につい	て説明できる.	
	15週	Ē	前期範囲の	まとめ・解説			これ。 きる.	までに学習した内	容を説明し,諸量	を求めることがで
==:/=====	16週									
評価割合		₽ ₩		-m 85	+0 === /==	45 G		∞±	7 O /th	⊘= 1
総合評価割		<u> </u>		<u>課題</u> 0	相互評価	態度		発表 0	その他 0	合計
総合評価制 配点		.00		0	0	0		0	0	100
ᆸᄓᄴ	11	.00		l C	10	10		l C	Io	1100

科目基礎	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教	 (科名	インターンシップ I
~ 		- N. I. I.	Z/ - E 400/1	」	.015十/又)	1 37	M-1-H	
科目番号	∟111+IX	0034			科目区分].	 一般 選択	7
<u>11日田 </u>		実験・実習			単位の種別と単位			
開設学科				文(ロボットテクノ	対象学年		, <u>炒十四</u> 専1	. 2
開設期		集中	•		週時間数		2	
教科書/教材	材	教科書:特に		インターンシップ	ルー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー			
担当教員		i	, /ップ 担当教員					
	<u> </u>		7 2 3 3 3 3 3 3 3 3					
		の問題点と認	果題を体験し, 体	本験したことを日報	や報告書にまとめ	, それら	らをもとに	こ,発表資料を作成し,それを伝えら
ルーブリ	Jック							
		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目	安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1								
評価項目2	<u>.</u>							
評価項目3	3							
学科の到	達目標項目	ことの関係						
教育方法								
<u>教育力运</u> 概要	なって	は治せが夕雨	なる中数しの問	 別題点と課題を体験	オス			
授業の進め 容・方法	か方と授業内	・資料を受ける。 ・次の不作成別、 ・次の不作成別、 ・実別、 ・専門、 ・関目、 ・専門、 ・関目、 ・対の不作成別、 ・対の不行のによる。 ・対のでは、 ・対して、 ・	アーンシップでである。 アーンシップでである。 アーンシップでは、 アーンシップでは、 アーンシップでは、 アーンシックを アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシック アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーンシップで アーストリーン アーストリー アースト アーストリー アースト アースト アースト アースト アース アース アース アース アース アース アース アース アース アース	(以下, 実習機関), ヨ当可能な企業またしの就職内定者につい きる実務のうち, イジ 施した場合において でること・ 87後に、報告書をで	内容および期間 は公共団体の機関 いては、内定先企業 ンターンシップの に、実働10日以上: 作成し提出するこ	で実務上 で専攻科 美等への 目的にぶ 19日以下 と	の問題点 分科会の 実習とす さわしい	h)に対応する. (に相当するものとする. と課題を体験し,日報,報告書,発表)推薦により校長が選定して委属した る.)業務 ,,発表を行うこと.
		<子耒以傾の	評価力法のより					
注意点		< 単位修得要 < あポートは < レポートは 、 2年学生は 、 (備ること・ ・ (本のでできる)	件>総合評価で 要求される基礎 とと>日報は, 14 専攻主任に, 14 ターンシップの就 算攻科2年次の就 誘終日に受け取っ	『発表により成績を』 「可」以上を取得す 対職の範囲>心得(1 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 職内定者についてに	評価する. けること. 時間の厳守(10分前 計も作成し,実習 に提出すること: が従事できる実別 は,内定先企業17 関サ主任または1年	前集合), 旨導責任 発表会用 多のうち への実習 学生は真	挨拶, は 者の検印 月に発表 うくこう であるこ 東攻副主任	められた配点に従って、勤務状況、勤 ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と・実習機関の規則を厳守すること 丘提出すること・インターンシップ また持参すること・
^{注意点} 授業計画	1	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する. けること: けること: けること: けること: けること: けること: またが成し,実習指に提出すること: が従事できる実表は,内定先企業等/ 取主任または1年 習先から指定され	前集合), 指導責任 発表会用 務のうち 学生は専 ている物	挨拶, 都 者の検印 制に発える , であるこ 専攻副主信 , 評定書	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Fに提出すること、インターンシップ
	可	< 単位修得要 < あポートは < レポートは 、 2年学生は 、 (備ること・ ・ (本のでできる)	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する. けること: けること: けること: 時間の厳守(10分時 計作成し,実習指 に提出すること: が従事できる実務は、内定先企業等/ 算攻主任または1年 関先から指定され:	前集合), 指導責任 発表会月 祭の実習 学生は東 ている物	挨拶, は 者の検取 用に発表タ であいまで すな副主作 リ, 評定書	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・
	1	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する. ドること: ドること: 時間の厳守(10分前 計も作成し,実習指 に提出すること: が従事できる表表 が内定先企業等/ 野な主任または1年 関先から指定され 週ご	前集合), 指導責任 発表会月 祭の実習 学生は東 ている物	挨拶, は 者の検取 用に発表タ であいまで すな副主作 リ, 評定書	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Fに提出すること、インターンシップ
	週 1週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する. ドること: ドること: 時間の厳守(10分時 計を作成し,実習計 に提出すること実 が従事できる実表 大文主任またには1年 関先から指定され 週ご 1. 打る.	前集合), 指導責会 第表会 第一条の 第一条の 第一条の 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条	挨拶, お 者の発えの発力の発力の発力のである。 は、である。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・ まご提出すること・インターンシップ を持参すること・
	週 1週 2週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 ドること: ドること: 時間の厳守(10分 計も作成し,実習 に提出すること: が従事できな等が が放事できな等が が大き任または14年 関先から指定され 週ご 1. 記 3.	前集合人 計算責任 発表会与 系の与生はも物 で生はも物 でといるが との到達 がより、との到達 がより、との といるが といるが といるが といるが	挨拶、おおいます。 技どの発表が表現している。 おいますが、 でする。 はいますが、 でする。 はいますが、 はいまが、 はいまがもが、 はいまがもが、 はいまがもが、 はいまがもが、 はいまがもがもがもがもがもがもがりが、 はいまがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがもがも	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・ 上に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・
	週 1週 2週 3週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 計で成し、実習指 に提出すること。 が従事できる業科 りな主任またされ 関先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を	前集合 計算責任 発表 表の生は物 の生は物 との到 を術者が との を が を が と と の と と の と も の と も の と も の り と り の と も の り と り の と も り の と も り し も り も が し も し も が し も し も が し し も し し し と し と し と し と し と し と し と し	接拶が乗ります。 大学が乗ります。 大学の発えるこれですり、 でもい。 できり、 をもり、	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 日に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
	週 1週 2週 3週 4週 5週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受けない。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り と う に る り も り し も も し も し も し も し も し も し も し も	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。要求される基礎をある。日報は、14ターンシップの記述をは、14ターンシップの記述を対して受け取る。 というないでは、14のでは	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(1) 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真から、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 日に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 14週 3週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 日に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 10週 14週 15週 4週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・ままをあることができる。 実務上の問題点を体験することができる・生まとめることができる。 告書にまとめることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 手が従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 日に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 13週 16週 16週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 きが従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も は も し も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	< 単位 修	件>総合評価でで要求される基礎をある。 要求される基礎をある。 でシ日報に、14 ターンシップの が対2年次の就 最終日に受け取っ を記用具、メモ州	が発表により成績を言い、 「可」以上を取得で 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は真 がたら、2年学生は真	評価する。 けること。 時間の厳守(10分育 情も作成し、実習指 に提出すること。 きが従事できる業科 り、主任また亡は1年 習先から指定され 週ご 1. 打る。 2. を 3. を 4. を	前集合 計算責会 発表うち習 系の実はも物 とが者が となる を が を は を は した と な り と た の と も の と も る の と も る り の と も る り る り と も る り し る し も も し も は も し も し も し も し も し も し も し	接別を表することを 技どの発えることを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することを を表することとを を表するとを を表するとを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するととを を表するとととを を表するとととを を表するとととを を表するととととを を表するとととととととととととととととととととととととととととととととととととと	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・日に提出すること・インターンシップを持参すること・「実務上の問題点を体験することができるといできる・といできる・と言にまとめることができる・と

1	10週		
1	11週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

給鹿	江業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教	科名	インターンシップ Ⅱ
科目基礎			VI 1 1140 VI	1 1-700 - 1 120 (2	1/2/	1 37		,
<u>17口坐り</u> 科目番号	ATCII	0035			科目区分	Ţ-	一般 選択	₹
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位			
開設学科				文(ロボットテクノ	対象学年		專1	
開設期		集中			週時間数	4	4	
教科書/教	(材	教科書:特に	なし, 参考書:	インターンシップの	の手引き			
担当教員		インターンシ	/ップ 担当教員					
到達目標	票							
技術者が約 れる.	経験する実務」	の問題点と認	果題を体験し, 体	本験したことを日報 ・	や報告書にまとめ	, それら	をもとに	こ,発表資料を作成し,それを伝えら
ルーブリ	<u> </u>							1
		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目:	安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1								
評価項目2								
評価項目3								
学科の到	到達目標項目	まとの関係						
教育方法	去等							
概要		技術者が経験	食する実務上の問	問題点と課題を体験 ⁻	する			
授業の進& 容・方法	め方と授業内	資料を作成し 【実習機関】 機関. ただし 【内容】専巧 【期間】2週 【日報】毎日 【課題】イン	/ 発表を行う. 学生の指導が拒 ・ 専攻科2年次 ・ 科生が従事でき 間以上の期間ま ・ 日報を作成。 ・ クーンシック	型当可能な企業また(の就職内定者についまる実務のうち、イ) 施した場合においてすること・	は公共団体の機関 いては、内定先企賞 ンターンシップの こ、実働20日以上2	で専攻科 (等への) 目的にふ 29日以下 と.	分科会の 実習とす さわしい	iと課題を体験し,日報,報告書,発表)推薦により校長が選定して委属したる. (業務),発表を行うこと.
		光衣の項目で	「総古して評価の	する. 評価に対する	「知識・能力」の	合以口の	生のはに	りしじめる.
	E.	<務 < 務 く の く の が が が と が が が と が <td>評価方法およひ 最大学院 は、一次では は、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一</td> <td>評価基準>「イン/ 外発表により成績をす 「可」以上を取得です 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 年学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 職内定者についてに</td> <td>アーンシップの成終 評価する。 「ること・ 時間の厳守(10分育 書も作成し、実習指 に提出すること・ が従事できる実教 東次主任または1年</td> <td>大学 (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学</td> <td>集」に定 挨拶, お 者の発表 にインるこう であます であます</td> <td>められた配点に従って、勤務状況、勤 おれなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ</td>	評価方法およひ 最大学院 は、一次では は、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	評価基準>「イン/ 外発表により成績をす 「可」以上を取得です 知識の範囲>心得(日、作成し、報告書 年学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 職内定者についてに	アーンシップの成終 評価する。 「ること・ 時間の厳守(10分育 書も作成し、実習指 に提出すること・ が従事できる実教 東次主任または1年	大学 (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学	集」に定 挨拶, お 者の発表 にインるこう であます であます	められた配点に従って、勤務状況、勤 おれなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ
注意点		<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成終評価する. 「あこと. 「あこと. 時間の厳守(10分詞 また作成し、実習指 に提出すること. が従事できるまま は、内定先企業等/ 算攻主任または1年 関先から指定され。	情評価基準 前集合), 代表 等責会方。 第一条のの実はも でいる物。	集」に定 挨拶, は 者の検表が はであることである。 である主に である主に ない。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	められた配点に従って、勤務状況、勤 おれなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ
	通週	<務 < 務 く の く の が が が と が が が と が <td>評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は</td> <td>評価基準>「インタ ・</td> <td>アーンシップの成編評価する. 「である」 「ある」と. 時間の厳守(10分詞 ま作成し、実習指 に提出すること. まが従事できるまき、 大力定先企業等/ すり主任または1年 国先から指定され. 週ご</td> <td>情評価基準 前集合), 情導表合う, 情発表の実とは が学生は物 との到達</td> <td>集」に定 挨拶, は 接の検表 別にインを がいてある で がい で は で は で は で は で り で り で り で り で り で り</td> <td>められた配点に従って、勤務状況、勤 られなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 王に提出すること、インターンシップ を持参すること。</td>	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編評価する. 「である」 「ある」と. 時間の厳守(10分詞 ま作成し、実習指 に提出すること. まが従事できるまき、 大力定先企業等/ すり主任または1年 国先から指定され. 週ご	情評価基準 前集合), 情導表合う, 情発表の実とは が学生は物 との到達	集」に定 挨拶, は 接の検表 別にインを がいてある で がい で は で は で は で は で り で り で り で り で り で り	められた配点に従って、勤務状況、勤 られなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 王に提出すること、インターンシップ を持参すること。
		<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編評価する. 評価する. 「あこと. 時間の厳守(10分詞 ま作成し,実習指 に提出すること. が従事できる実表 大,内定先企業等/ 算女主任または1年 望先から指定され. 週ご	情評価基準 前集合), 情導表合う, 情発表の実とは が学生は物 との到達	集」に定 挨拶, は 接の検表 別にインを がいてある で がい で は で は で は で は で り で り で り で り で り で り	められた配点に従って、勤務状況、勤 おれなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ
	週 1週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成 評価する. 「あっと」 「あっと」 「お間の厳守(10分詞 情間の厳守(10分詞 情に提出すること。 「おば事できるまき、 「内定先には1年 関先から指定され」 し、1. 打 る.	前集合体を 前集合を 前集音表の が が が の で に を が を と の 到達 を が る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	集」に 接換 と	められた配点に従って、勤務状況、勤
	週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成 評価する. 「ること、 時間の厳守(10分育 も作成し、実習指 に提出すること。 が従事できる業等、 りな主任または1年 望先から指定され. 週ご 1. 打 る.	前集合体を表現である。 前集合成の 前集音子を表現である。 が表現である。 が表現である。 が表現である。 が表現である。 との子では、 とのるでは、	集」に 挨拶検表 間にてある ですり、 にする ですり、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	められた配点に従って、勤務状況、勤 られなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 王に提出すること、インターンシップ を持参すること。
	週 1週 2週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	情評価基準 前集合人 計算の実 計算発表の 対理は を が と が を が と が と が と が と が と が と が と が	集」 接の発システム には がり は かん と を まいま と と と と と と と と かん	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること・ 任に提出すること・インターンシップ まを持参すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	週 1週 2週 3週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	「無いない。 「無いない。 「神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・
	週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	「無いない。 「無いない。 「神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	「無いない。 「無いない。 「神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	「無いない。 「無いない。 「神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーンシップの成編 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	<	評価方法およる 現所報告書部よる 中学の表記の表記を 中学の表記の表記を 中学の主任に、14 ターンションの はアンの はアの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの はアンの は	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にいません できない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないない。 「はいないないない。 「はいないないない。 「はいないないないない。 「はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	集 接の発いる主に は野検査にです にいません できない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中のする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「無いない。 「無いない。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。	集 接の発いる主に は野検査にです にいません できない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中では、 一では、	「無いない。 「無いない。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。	集 接の発いる主に は野検査にです にいません できない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法およる 現代の 現代の 評価を には では では では では では では では では では で	評価基準>「インタ ・	アーンシップの成編 アーン・アース では、 中では、 一では、	「無いない。 「無いない。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。	集 接の発いる主に は野検査にです にいません できない はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・ 表資料にすることができる。

1	10週		
1	11週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

給鹿	江業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教	科名	インターンシップⅢ
科目基礎			<u> </u>	1 1300± FIX (2		1 37	<u> ⊢</u>	1
<u>17 口坐员</u> 科目番号	ベード・	0036			科目区分	1_		
<u>170日5</u> 授業形態		実験・実習			単位の種別と単			
開設学科				文(ロボットテクノ	対象学年		事1	
開設期		集中			週時間数	6	5	
教科書/教	材	教科書:特に	なし,参考書:	インターンシップの	の手引き			
担当教員		インターンシ	/ップ 担当教員					
到達目標	票							
技術者が終 れる.	経験する実務」	の問題点と認	果題を体験し, 存	体験したことを日報	や報告書にまとめ	, それら	をもとに	, 発表資料を作成し, それを伝えら
ルーブリ	ノック				i			
		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目を	安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1								
評価項目2								
評価項目3								
学科の到	到達目標項目	まとの関係						
教育方法	去等							
概要				問題点と課題を体験				h)に対応する. に相当するものとする.
授業の進& 容・方法	め方と授業内	資料を作成し 【実習機関】 機関. ただし 【内容】専巧 【期間】2週 【日報】毎日 【課題】イン	、発表を行う、 学生の指導が拒 東攻科2年次 収科生が従事でき 間以上の期間ま り、日報を作成す シターンシップ終	型当可能な企業また(の就職内定者についまる実務のうち、イ) 施した場合においていること・	は公共団体の機関 いては、内定先企動 ンターンシップの こ、実働30日以上 作成し提出するこ	で専攻科会 (等への) 目的にふる	分科会の ミ 習とす さわしい	と課題を体験し,日報,報告書,発表 が推薦により校長が選定して委属した る. 業務 ,,発表を行うこと.
		光衣の項目を	:総合し(評価 9	「る. 評価に対する	「到達目標」1〜5。 「知識・能力」の	各項目の	里めばに	」し じめる.
注意点	F.	<務	評価方法および	『発表により成績を』 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(! 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 職内定者についてに	「知識・能力」の ターンシップの成終 評価する. 評価する. 時間の厳守(10分 計量に提出すること. まが進事できる業等/ 東次キ仟または1年	真評価基準 前集合), 当導責任者 発表会用 めの実習で 学生は専	注」に定 挨の検えがいることである。 だないである。 とでは、おいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	められた配点に従って,勤務状況,勤 おれなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Fに提出すること、インターンシップ
注意点	1	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 データンシップの成 評価する。 すること。 時間の厳守(10分 青も作成し、実習 に提出するころま にが従事でき業等/ 算攻主任または1年 習先から指定され	青評価基準 前集合), 着導表会し、 発のう実習専 が、学生は物, でいる物,	き」に定 挨の発表がいる。 だいないでは、 だいないでは、 だいないでは、 だいないでは、 はいるのでは、 はいる。 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、 はいるでは、	められた配点に従って,勤務状況,勤 おれなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Fに提出すること・インターンシップ
	担	<務	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: ・ でること ・ でること ・ ではまでは、 ・ ではまできる ・ ではまできる ・ ではまできる ・ ではまでは、 ・ ではまでは、 ・ ではまでは、 ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできな ・ ではまできる ・ ではまできる ・ できる ・ で	東京 (本学) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の	は 関係 は は は は に が が が の で で の で の で の で の の で の の の で の の の の の の の の の の の の の	められた配点に従って、勤務状況、勤
	1	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 書も作成し,実習 に提出するころま に提出すできるま 大力定先をは1年 関先から指定され 週で 1. 打	東京 (本学) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の) (本の	は 関係 は は は は に が が が の で で の で の で の で の の で の の の で の の の の の の の の の の の の の	められた配点に従って,勤務状況,勤 おれなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Fに提出すること・インターンシップ
	週 1週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する。 時間の厳守(10分 計場では、 時間の厳守(10分 に提出すできるま に提出すできるま が、内主任または14 関先から指定され 週こ 1. 封 る。	情評価基準 前集導表の 高導表のの実習表 のの生は物, でといる到達 との を が を が を が を が を が を が を が を が を が を	集」に 挨拶検表 がの発表が でない でない にインある にインある にインある にインを にも、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること・インターンシップ を持参すること・
	週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳い守(10分詞 計を作成し、まごと、 まが、内定先をまさます。 対、内定任または1年 習先から指定され 週こ1. 技 る。 2. ¢	「算にはなった。 「事」を表示できます。 「事」を表示できます。 「事」を表示できます。 「事」を表示できます。 「事」を表示できます。 「まままます。 「まままます。 「まままます。 「まままます。 「まままます。 「まままます。 「まままます。 「ままままます。 「ままままます。 「ままままます。 「ままままます。 「まままままままます。 「ままままままままます。 「ままままままままままままます。 「ままままままままままままままままままままままままままままままままま	集」に定 挨拶検表 着に発表する でなる記述 では、 では、 では、 では、 では、 にできる。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	められた配点に従って、勤務状況、勤
	週 1週 2週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の アーンシップの成終 評価する: 時間の厳ロ・(10分詞 計画では、実と・ま に提出するきる業等、 対内定任または1年 習先から指定され 週こ 1. 技 3. を 3. を	大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、	ま」に 挨拶検養の発力の記述で でででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、 で	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Eに提出すること・インターンシップ で持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 世書にまとめることができる・
	週 1週 2週 3週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること Eに提出すること・インターンシップ を持参すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨例発ンの記述 にでする記述 にでする記述 にでする記述 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 3週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法および 最大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院	評価基準>「インタ ・	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳し, (10分 計ること、 時間の厳し, (10分 計画で成し、 に提出するころ まが、内定任または1年 翌先から指定され 週こ 1. 打 る. く 3. く 4. く	大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ま」 挨が検発ンととと 大の発ンの記記 にでする記記 にでする記記 にですることをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	められた配点に従って、勤務状況、勤 が礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 氏に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 豊富にまとめることができる。 表資料にすることができる。

1	10週		
1	11週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

科目基礎科目番号授業形態開設学科開設期教科書/教林		門学校	開講年度	平成31年度 (2	019年度)	教科名	国際インターンシップ I
科目番号 授業形態 開設学科 開設期	CH JTIA		VI 1 1140 VI	11	(/2/	1 3/11/11	
授業形態 開設学科 開設期		0037			科目区分	一般 逞	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
開設学科開設期		実験・実習			単位の種別と単位		
				文(ロボット テ クノ	対象学年	専1	
教科書/教林		集中			週時間数	2	
	 材	教科書:特に		インターンシップの	 D手引き		
担当教員			ノップ 担当教員	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
到達目標	<u> </u>	•					
国際的に活			多実務上の問題点	点と課題を体験し,1	体験したことを日	報や報告書にま	ことめ, それらをもとに, 発表資料を作
ルーブリ	リック						
		3	理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ジルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
]との関係			•		
教育方法		_ <u> </u>					
	√	 	キャス 中 30 L 4 Pl	明明上レ調節ナルドムー	 ≠ Z		
概要		<u> </u>		問題点と課題を体験で 目標(A)<視野>, (B		(C) · #==	IADEE 甘准
授業の進め 容・方法	方と授業内	資料を作成し 【実習機関】 機関あるいに 【内容】専び 【期間】1週 【日報】毎日 【課題】イン	、発表を行う 学生の指導が技 は国生高等専門党 は科生が従期間ま は別上のを作り は いついでは がある。 でき できる できる できる できる できる できる できる できる できる	当可能な企業また(学校機構の主催する) を	は公共団体の機関 毎外インターンシッド 祭インターンシッド 「、実働10日以上」 作成し提出するこ	で専攻科分科会 ップ先とする. プの目的にふさ .9日以下 と.	点と課題を体験し、日報、報告書、発表の推薦により校長が選定して委属したまわしい業務 発表資料を作成し、発表を行うこと、
注意点		< 務単の くろの くろの との との との との との との との	評価方法およひ 現 報告書およて 会 と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	『発表により成績を記 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(門 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 訓を厳守すること。	アンシップの成編 平価する. ・ること. ・時間の厳守(10分削 ・も作成し, 実習指 に提出すること. ・が従事できる実日 郭定書を最終日	「禁価基準」に が集合)、挨拶、 消導責任者の検 発表会用に発際 系のうち、国際 こ受け取ったら	に向してある。 定められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) 印を受けて、インターンシップ終了後に 長資料および発表の準備をすること。 インターンシップの目的にふさわしい業 5、2年学生は専攻主任または1年学生は 帳)、日報、実習先から指定されている物
授業計画	ī		199000.				
		授業内容・方	->+		\\	노주의부모표	
	週		5法			との到達目標	ᆂ ᅎᆉᄼᅸᆇᅪᅅᄝᄧᄼᆍᄀ ᆏ ᄝᇷᅵᄼᇛᇛᄕᅩ
	1週		ī法		1. 国	関際的に活躍で	きる技術者が経験する実務上の問題点を きる.
	1週		5法		1. 国体験	際的に活躍で することができ	きる.
	1週		5法		1. 国 体験 2. 実	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚	きる. が分かり, それらを体得できる.
	1週 2週 3週		5法		1. 国 体験 2. 身 3. 位	際的に活躍で することができ 践的国際感覚 験したことを	きる. が分かり,それらを体得できる. 日報にまとめることができる.
	1週 2週 3週 4週		5法		1. 原体験2. 身3. 位4. 位	1際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 、験したことを な験したことを	きる。 が分かり,それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 報告書にまとめることができる。
	1週 2週 3週 4週 5週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる。 が分かり,それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 報告書にまとめることができる。
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週		5法 ————————————————————————————————————		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週		5法		1. 原体験 2. 身 3. 体 4. 位 5. 体	際的に活躍ですることができ 践的国際感覚 験したことを 験したことを 験したことを	きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.

	9週				
	10週				
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				
評価割合					
			国際インターンシップ評価基準	合計	
総合評価割合			100	100	
配点			100	100	

业几亿	电工業高等専	門学校	問謙仁臣	平成31年度 (2	0010年度)	教科名	国際インターンシップ Ⅱ	
秋日甘草		力化		〒川以31 十1支(2	-017十/文)	秋竹石	四际エンターノンツノ	
科目基礎情報					科目区分 一般 選択			
74日留 <u>5</u> 授業形態				単位の種別と単位数	学修単位			
開設学科		総合え ノベーション工学車内(ロボットテク ノ		対象学年	専1			
開設期				週時間数	4			
		教科書:特に	になし、参考書:インターンシップの		の手引き	•		
担当教員			シップ 担当教員					
到達目	 標	•						
国際的に			多実務上の問題。	点と課題を体験し,	体験したことを日報や	報告書にま	とめ,それらをもとに,発表資料を作	
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1								
評価項目								
評価項目3								
学科の到達目標項目と		目との関係						
教育方法	法等							
概要		技術者が経験	する実務上の問	問題点と課題を体験	する			
授業の進め方と授業内 容・方法		1(2)(a), (d), (e), (f), (h)に対応する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. ・次のインターンシップ機関(以下,実習機関),内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し,日報,報告書,発表資料を作成し、発表を行う. 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関あるいは国立高等専門学校機構の主催する海外インターンシップ先とする. 【内容】専攻科生が従事できる実務のうち,国際インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】2週間以上の期間実施した場合において,実働20日以上29日以下 【日報】毎日,日報を作成すること. 【課題】インターンシップ終了後に,報告書を作成し提出すること. 【発表】専攻科分科会で定める時期にインターンシップ発表会を開催するので,発表資料を作成し,発表を行うこと.						
注意点		<到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」1~+6の習得具合を勤務状況,勤務態度,日報,報告書および発表の項目を総合して評価する.評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。 <学業成績の評価方法および評価基準>「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って,勤務状況,勤務態度,日報,報告書および発表により成績を評価する。 <単位修得要件>総合評価で「可」以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>心得(時間の厳守(10分前集合),挨拶,お礼など) <レボートなど>日報は,毎日,作成し,報告書も作成し,実習指導責任者の検印を受けて,インターンシップ終了後に,2年学生は専攻主任に,1年学生は専攻副主任に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。 <備考>インターンシップの内容は、専攻科学生が従事できる実務のうち、2年学生は専攻主任または1年学生は専攻副主任に提出すること。実習機関の規則を厳守すること。評定書を最終日に受け取ったら、2年学生は専攻主任または1年学生は専攻副主任に提出すること。インターンシップの手引き、筆記用具、メモ帳(手帳)、日報、実習先から指定されている物、評定書を持参すること。						
		<単位修得要 <あらかじめ <レポートな , 2年学生は <備考>イン 寄攻副主任に	競,報告書およて 件>総合評価で 要求されるよう で、日報任に、10 事ターン習機関の よりでで、10 上というでは、10 上というでは、10 といるでは、10 といさは、10 といるでは、10 といさは、10 といさは、10 といさは、10 といさ 10 といさ 10 といさ 10 といも 10 といも 10 といも 10 といも 10 といも 10 とっ 10 とっ 1	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する. けること. 時間の厳守(10分前集6 書も作成し, 実習指導費 に提出すること. 発表 い従事できる実務のご 評定書を最終日に受	合), 挨拶, 賃任者の検日 会用に発表 うち, 国際イ け取ったら,	お礼など) 『を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. 「ンターンシップの目的にふさわしい業 、2年学生は専攻主任または1年学生は	
	画	<単位修得要 <あらかじめ <レポートな , 2年学生は <備考>イン 寄攻副主任に	競,報告書およて 件>総合評価で 要求されるよう で、日報任に、10 事ターン習機関の よりでで、10 上というでは関のが というでは、10 といもでは、10 といるでは、10 といさは、10 といるでは、10 といるでは、10 といさは、10 といさは、10 といさ 10 といさ 10 といさ 10 といも 10 といも 10 といも 10 10 10 10 10 10 10 10 10	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する. けること. 時間の厳守(10分前集6 書も作成し, 実習指導費 に提出すること. 発表 い従事できる実務のご 評定書を最終日に受	合), 挨拶, 賃任者の検日 会用に発表 うち, 国際イ け取ったら,	お礼など) 『を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. 「ンターンシップの目的にふさわしい業 、2年学生は専攻主任または1年学生は	
	画 週	<単位修得要 <あらかじめ <レポートな , 2年学生は <備考>イン 寄攻副主任に	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する. けること. 時間の厳守(10分前集6 書も作成し, 実習指導費 に提出すること. 発表 い従事できる実務のご 評定書を最終日に受	合),挨拶, 賃任者の検印 会用に発表 うち,国際イ け取ったら, メモ帳(手帳	お礼など) 『を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. 「ンターンシップの目的にふさわしい業 、2年学生は専攻主任または1年学生は	
		< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 計画である。 計画のでは、 計画のでは、 計画のでは、 計画のでは、 計画のでは、 に提出すること。発表。 に提出すること。発表。 が従事できる実務のでいます。 一部では、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 の手引き、 第記用具、 過ごとの 1. 国際的	合)、挨拶、 近代者の検表 会用に発表 うち、国際ら、 は取ったら、 メモ帳(手帳 到達目標 可に活躍できる	お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 インターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は 1)、日報、実習先から指定されている物 「会技術者が経験する実務上の問題点を	
	週 1週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 計価する。 計時間の厳守(10分前集合計 を	合)、挨拶、 任者の検表 会用に発表イ うち、国際ら け取ったら、 メモ帳(手帳 到達目標 可に活ができ	お礼など) 「で受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい業・2年学生は専攻主任または1年学生は、、日報、実習先から指定されている物・ 「る技術者が経験する実務上の問題点をる。	
	週 1週 2週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 けること: 時間の厳守(10分前集急 計を作成し、実習指導 に提出すること、発表 が従事できる実務のう 評定書を最終日に受 の手引き、筆記用具、 週ごとの 1. 国際的 体験する 2. 実践的	音), 挨拶, 任者の検え 会用に発表イ うち, ったら け取ったら メモ帳(手帳 到達目標 可に活びでき にことができ 国際感覚か	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は 、日報、実習先から指定されている物 る技術者が経験する実務上の問題点を る。	
	週 1週 2週 3週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 けること。 時間の厳守(10分前集合 まも作成し、実習指導 に提出すること。発表 が従事できる実務のう 評定書を最終日に受 の手引き,筆記用具、 週ごとの 1. 国際的 体験する 2. 実践的 3. 体験し	は、 は は は は は は は は は は は は は	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は 、日報、実習先から指定されている物 る な技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。	
	週 1週 2週 3週 4週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 けること。 時間の厳守(10分前集合 書も作成し、実習指導責 に提出すること。発表 が従事できる実務のラ 評定書を最終日に受 の手引き、筆記用具、 週ごとの 体験する。 2. 実践的 3. 体験し 4. 体験し	会)、挨拶検付表で (注)、 (注)	お礼など) Dを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業2年学生は専攻主任または1年学生は、)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点をる。 T分かり、それらを体得できる。 B報にまとめることができる。	
	週 1週 2週 3週 4週 5週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 インターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は 、)、日報、実習先から指定されている物 できる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) Dを受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業2年学生は専攻主任または1年学生は、)、日報、実習先から指定されている物が、日報、実習先から指定されている物が、日報、実習先から指定されている物が、日報、実習先から指定されている物が、日報、実習先がら指定されている物ができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 インターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は 、)、日報、実習先から指定されている物 できる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
受業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
受業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
受業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている物でできる・ 「分かり、それらを体得できる・ 日報にまとめることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ 「会別にないます」 「会	
受業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合), 挨拶検表 (注), 挨拶検表 (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会)	お礼など) 1を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 (シターンシップの目的にふさわしい業 2年学生は専攻主任または1年学生は)、日報、実習先から指定されている物 まる技術者が経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 会告書にまとめることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている特別 「おおお経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 「報にまとめることができる。 「会異にまとめることができる。 「会異料にすることができる。	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 11週 11週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている物でできる・ 「分かり、それらを体得できる・ 日報にまとめることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ 「会別にないます」 「会	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 113週 114週 115週 116週 12週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている物でできる・ 「分かり、それらを体得できる・ 日報にまとめることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ 「会別にないます」 「会	
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 月11週 月12週 月13週 月13週 月13週 月13週 月13週 月13週 月13週 月13	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている特別 「おおお経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 「報にまとめることができる。 「会異にまとめることができる。 「会異料にすることができる。	
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 5週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている物でできる・ 「分かり、それらを体得できる・ 日報にまとめることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ は表資料にすることができる・ 「会別にすることができる・ 「会別にないます」 「会	
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 5週 13週 12週 13週 14週 15週 16週 2週 3週 4週 5週	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている特別 「おおお経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 「報にまとめることができる。 「会異にまとめることができる。 「会異料にすることができる。	
注意点 授	週 1週 2週 3週 4週 5週 5週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	< 単位修の	は、報告書およて 作 * 総合評価で ・ と * と で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	が表により成績を 「可」以上を取得す 約職の範囲 - 心得付 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 則を厳守すること。	評価する。 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「持ている」 「は、一般では、一般では、一般では、一般でする。 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般でする。」 「は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	合)、挨拶検表 (注)、 (注) () () () () () () () (お礼など) 「を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ インターンシップの目的にふさわしい第 ・2年学生は専攻主任または1年学生は い、日報、実習先から指定されている特別 「おおお経験する実務上の問題点を る。 「分かり、それらを体得できる。 「報にまとめることができる。 「会異にまとめることができる。 「会異料にすることができる。	

	9週				
	10週				
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				
評価割合					
			国際インターンシップ評価基準	合計	
総合評価割合			100	100	
配点			100	100	

				1			T.,		
鈴鹿工業高等専門学校			開講年度 平成31年度 (2019年		019年度)	教科名	海外語学実習Ⅲ		
科目基礎	情報								
科目番号		0039			科目区分	一般 選技	R		
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位数	ī: 3			
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ ロジーコース)		(ロボットテクノ	対象学年	専1			
開設期		集中			週時間数	3			
教科書/教林	才	教科書:特に	なし,参考書:	海外語学実習の手	ll さ				
担当教員		近藤 邦和,箕潭	甫弘人,和田憲	幸,西村 一寛,山口 🤄	惟裕				
到達目標	Ę								
現地での外 とめ, それ	、国語環境との いらをもとに,)密接な接触を 発表資料を作	通じて, 国際的 成し, それを伝	に活躍できる人とし えられる.	して必要な資質と実践	的国際感覚	を体得し,それらを日報や報告書にま		
ルーブリ	ック								
		理	関想的な到達レイ	ベルの目安(優)	標準的な到達レベル	の目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1									
評価項目2									
評価項目3									
学科の到	達目標項目	1との関係							
<u>, </u>		. =							
<u> </u>	tr/	海外において	グローバリナンナヒ	野を養い語学能力の	 D向 Fを図る				
1以女						-7 i (C) /=	英語>[JABEE基準1(2)(f) に対応する		
		・「授業計画 ・次の海外語	」における各週 学宝翌対象プロ	- ・・・ の「到達目標」はで グラム(以下 宝翌	・・・・・・ この授業で習得する「 プログラム) 内容お	知識・能力」	- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
		, 報告書,発 【実習プログ	表資料を作成し ラム】鈴鹿工業	, 発表を行う. (高等専門学校、他の	の高等専門学校、国立	高等専門学村	交機構及び営利団体又は公共団体等の		
授業の進め 容・方法	方と授業内	期间か十1年9	る夫肖ノロクフ	7ム~9る。呂利1971	4×は公共団体寺の機	メリハ十1年9~	る実習プログラムの場合は、教務委員 5,海外語学実習の目的にふさわしい		
谷・万法		内容	で待るものとり	る。【内合】等以作	4生小参加山米るノロ	クラムのうも	5、海外韶子美智の日的にからわしい		
		【期間】24日	【期間】24日以上						
		【四報】 毋口 【課題】 海外 【発表】終了	毎日, 日報を作成すること。 課題] 海外語学実習終了後に, 報告書を作成し提出すること。 表] 終了後に課外語学実習発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表準備を行うこと						
			=/=-\-\-	T=15#1T o		77/2000			
		<到達目標の語 が発表の頂目	達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」の1~6の習得具合を実習状況,実習態度,日報,報告書およ 表の項目を総合して評価する.評価に対する達成目標の各項目の重みは同じである.						
		<学業成績の	*業成績の評価方法および評価基準>「海外語学実習成績評価基準」に定められた配点に従って,実習状況,実習態度						
		,日報,報告書および発表により成績を評価する.							
注意点		<あらかじめ	立修得要件>総合評価で「可」以上を取得すること. らかじめ要求される基礎知識の範囲>心得(時間の厳守(10分前集合),挨拶,お礼など) ポートなど>日報は,毎日,作成し,報告書も作成し,実習指導責任者の検印を受けて,実習終了後に,2年学生は 主任に,1年学生は専攻副主任に提出すること.発表会用に発表資料および発表の準備をすること.						
工思黑		<レポートな。	ど>日報は,毎 1年学生は東方	日,作成し,報告書	も作成し、実習指導	責任者の検印	を受けて,実習終了後に,2年学生は 		
		<偏考>男以ホ	4字午か参加出:	米るフロクラムのう	5、海外語字実習の1	す的にふされ)しい内容であること.		
		学年末休業期	間中に海外語学	実習を開始する場合	合には、海外語学実習	の単位を含め	かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生		
		古に限るものは専攻副主任	とし、単位修信 に提出すること	3の子年はヨ該子年で 1. 筆記用具. メモ1	19る。評正青を取終 長(手帳). 日報. 実習	日に安け取っ 先から指定さ	つだり、2年子生は専攻王仕に1年子生 されている物、評定書を持参すること.		
授業計画	i	10-13-72	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		K() IX// III// XII	7070 7 June 0	THE CHAPTER CONTRACTOR		
汉未可凹	週	授業内容・方	<u>:</u>		ヨブレイ)到達目標			
	旭	技兼内合・万	压						
	1週				1. 国際に		る人として必要な負責がガがり、それ		
	2週					· 分かり, それらを体得できる.			
	3週				1	3. 体得したことを日報にまとめることができる.			
	4週						告書にまとめることができる.		
	5週						長資料にすることができる.		
	6週						表し、質疑応答することができる.		
	7週				0. PT 101	J.C.C.C.T.	TO , MANUA , OCCI (CO.		
24.0 0	8週								
前期									
削州	1012								
	9週								
	10週								
	10週								
	10週 11週 12週								
	10週 11週 12週 13週								
	10週 11週 12週 13週 14週								
	10週 11週 12週 13週 14週 15週								
	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週								
	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週								
	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週								
W BD	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週								
後期	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週								
後期	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週								
後期	10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週								

8週			
9週			
10週			
11週			
12週			
13週			
14週			
15週			
16週			
評価割合			
	海外語学実習成績評価基準		合計
総合評価割合	100		100
配点	100		100

鈴鹿	工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科名	海外語学実習 Ⅱ	
科目基礎		V. C. C. I	Z/— CI UIII		.017 <u>十</u> 汉)	1 271.1.17		
科目番号		0040			科目区分	一般 選	択	
行 <u>口留了</u> 授業形態		0010 実験・実習			単位の種別と単位			
開設学科				χ (ロボットテクノ	対象学年	専1	<u> </u>	
用設期 開設期			,		週時間数	2		
教科書/教	7 t t	<u>***・</u> 教科書:特に	なし,参考書:	海外語学実習の手	1 1	-		
担当教員			,	幸,西村 一寛,山口				
<u></u> 到達目標		2234 71 14/20/	113 347 (71114 78)	77/413 20/44	JE 1 H			
現地でのタ	外国語環境との	密接な接触を 発表資料を作	通じて,国際的 成し,それを伝	りに活躍できる人と ほえられる.	して必要な資質と	実践的国際感覚	を体得し, それらを日報や報告書にま	
ルーブリ	ノック							
		理	型想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	ベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	1							
評価項目2	2							
評価項目3	3							
学科の至	到達目標項目	との関係						
<u> </u>								
		海外に+バッテ	<i>ガ</i> ロ_ バロ+ンst		カウトを回っ			
既要				野を養い語学能力の 1557 (A) / 2558 1457 (B) / 2558 1457 (B) / 2558 1457 (B) / 2558 1457 (B) / 2558 1558 (B) / 2558 (B)		t	 英語>[JABEE基準1(2)(f) に対応する	
				. ,	. , , ,		央語>[JABEE基準1(2)(F) に対応する 」に相当するものとする.	
授業の進め方と授業内 期 容・方法		【実習プログ 期間記許 内にいい 関目では 関目では 「毎日 「記題」 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	語学実習対象プログラム(以下,実習プログラム),内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し,日 発表資料を作成し,発表を行う。 グラム】鈴鹿工業高等専門学校、他の高等専門学校、国立高等専門学校機構及び営利団体又は公共団体等でする実習プログラムとする。営利団体又は公共団体等の機関が主催する実習プログラムの場合は、教務委員認を得るものとする。【内容】専攻科生が参加出来るプログラムのうち,海外語学実習の目的にふさわして 5日以上23日以下 日,日報を作成すること。 外語学実習終了後に,報告書を作成し提出すること。					
		【充衣】於「	了後に課外語学実習発表会を開催するので,発表資料を作成し,発表準備を行うこと					
主意点		, くく く を ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	書および発表に 件>総合評価を 要求される評価を ど>日報とは明出 1年学生が海外語等 は明別語等 とし、単位修得	より成績を評価する 「可」以上を取得する 切職の範囲>心得(8 日」作成し、報告書 明主任に提出するこ で実習を開始する場合 で実習を開始する場合	る. 「ること. 特間の厳守(10分育 持も作成し, 実習指 たと. 発表会用に多 かち, 海外語学実学 合には、海外語学 とする。評定書を:	前集合), 挨拶,	1た配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 表表の準備をすること・ Dしい内容であること・ めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 定されている物、評定書を持参すること	
155.44E 1 7		•						
授業計画								
	週	授業内容・方	法			との到達目標		
	1週					国際的に活躍でき 体得できる.	きる人として必要な資質が分かり, それ	
	2週						ぶひかり フセトを仕得っまる	
	3週					2. 実践的国際感覚が分かり, それらを体得できる 3. 体得したことを日報にまとめることができる.		
	した当							
	4语				3. 亿	は得したことをE	日報にまとめることができる.	
	4週				3. ½ 4. ½	は得したことをE は得したことを幸	日報にまとめることができる. B告書にまとめることができる.	
	5週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
	5週 6週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. B告書にまとめることができる.	
- ++0	5週 6週 7週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 2週 3週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
前期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 16週 1週 2週 3週 4週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	
	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 2週 3週				3. ½ 4. ½ 5. ½	は得したことをE は得したことを幸 は得したことをダ	日報にまとめることができる. 股告書にまとめることができる. &表資料にすることができる.	

	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
評価割合			
		海外語学実習成績評価基準	合計
総合評価割	合	100	100
配点		100	100

抗屈	工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科名	₁ 海外語学実習 I	
科目基礎		11 3 12	1/10011/2	11/3/01/1/2 (2	-010 1/2)	JATTE	797111177111	
17 口	ZIDTK	0041			科目区分	一般		
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位		学修単位: 1	
開設学科	総合イル			文(ロボットテクノ	対象学年	専1		
開設期集中		集中	-		週時間数	1		
教科書/教	材	教科書:特に	なし,参考書:	海外語学実習の手	· 引き	•		
担当教員				幸,西村 一寛,山口				
到達目標	<u> </u>		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
現地でのタ	ト国語環境と <i>の</i>	D密接な接触を 発表資料を作	- 通じて, 国際的 成し, それを伝	りに活躍できる人と 云えられる.	して必要な資質と	実践的国際感	覚を体得し, それらを日報や報告書にま	
ルーブリ	ノック							
		理	型想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	バルの目安(良) 未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	L							
评価項目2	2							
平価項目3	3							
学科の到	到達目標項目	ヨとの関係						
<u>) 1100年</u> 教育方法		- C - > 100 l/h						
<u>秋月刀江</u> 既要	747	海外において	ガローバロ +ンサ	野友姜ハ語学出土	の向上を図る			
ル女				見野を養い語学能力の		±\	ノ英語>「1ADEF甘栄+/3)/の にせたナラ	
		l. '		• •	. , , , -		<英語>[JABEE基準1(2)(f) に対応する カ」に相当するものとする.	
授業の進め方と授業内 期容・方法 会内 に		【実習プログ期間が主催する 対象に対象に対象には 大容には、 「別間】8日は 【日報】毎日 【課題】海外	語学実習対象プログラム(以下,実習プログラム),内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し,日報発表資料を作成し,発表を行う。 発表資料を作成し,発表を行う。 2グラム】鈴鹿工業高等専門学校、他の高等専門学校、国立高等専門学校機構及び営利団体又は公共団体等の 達する実習プログラムとする。営利団体又は公共団体等の機関が主催する実習プログラムの場合は、教務委員 認認を得るものとする。【内容】専攻科生が参加出来るプログラムのうち,海外語学実習の目的にふさわしい 日以上15日以下 毎日,日報を作成すること。 野外語学実習終了後に,報告書を作成し提出すること。					
		【発表】終了 	了後に課外語学実習発表会を開催するので、発表資料を作成し、発表準備を行うこと					
		び発表の項目	を総合して評価	fiする. 評価に対する	る達成目標の各項目	目の重みは同	と実習状況,実習態度,日報,報告書お。 じである. られた配占に従って、実習状況、実習能度	
主意点		びく、、くく、専、学会に、政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を総合して評値 評価方法で表して評値 書件>総合れるでいる。 書件>総合れるで評価基 を>日学生が会れるは、 事ない、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項度 等学実習成績評価を る。こと、 時間の厳守(10分間 計画の厳守(10分間 では、 では、 できた、 海外海外等と できた。 できた。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。	目の重みは同準」に定めら 準」に定めら 「集合)、挨拶 導責任者の村 の習の単位を 最終日に受け	を実習状況,実習態度,日報,報告書お。 じである。 られた配点に従って,実習状況,実習態度 , お礼など) 食印を受けて,実習終了後に,2年学生は が発表の準備をすること。 らわしい内容であること。 おかること無く課程修了が認められる場 取ったら,2年学生は専攻主任に1年学生 旨定されている物,評定書を持参すること	
		びく、、くく、専、学会に、政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を総合して評値 評価方法で表して評値 書件>総合れるでいる。 書件>総合れるで評価基 を>日学生が会れるは、 事ない、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項度 等学実習成績評価を る。こと、 時間の厳守(10分間 計画の厳守(10分間 では、 では、 できた、 海外海外等と できた。 できた。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。 できたする。	目の重みは同準」に定めら 準」に定めら 「集合)、挨拶 導責任者の村 の習の単位を 最終日に受け	じである。 がれた配点に従って、実習状況、実習態度がた配点に従って、実習状況、実習態度がを受けて、実習終了後に、2年学生は が発表の準備をすること。 い内容であること。 さめること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生	
注意点		びく、、くく、専、学会に、政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を総合して評値 評価方法で表して評値 書件>総合れるでいる。 書件>総合れるで評価基 を>日学生が会れるは、 事ない、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項集 語学実習成績評価 活ること・・・ 時間の厳守(10分 計るでは、発表 では、発表語学では、発表 では、発表を語学である。 では、表表語学である。 では、表表語学である。 では、表表語学である。 では、表表語学を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表	目の重みは同 準」に定めら 「集合」、挨拶 導責任者のれ 表目的になる と習の単位を 最終日にから 実習先から	じである。 られた配点に従って、実習状況、実習態度がた配点に従って、実習終了後に、2年学生は野発表の準備をすること。 らい内容であること。 今めること無く課程修了が認められる場取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生旨定されている物、評定書を持参すること	
	回 週	びく、、くく、専、学会に、政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項度 等学異習成績評価を 活ること・・・ 時間の厳守(10分育 情にの厳守(10分育 にと・・ また、発外語が言され、 では、海外定目報、 では、手帳(手帳)、 のとする。 では、 のとする。 では、 のとする。 では、 のとする。 では、 のとする。 では、 のとする。 では、 のとする。 のには、 のに	目の重みは同 漢」に定めら 「集合)、挨拶 導責任者の本 表の目的にふる に習の単位を 最終日に受け 実習先から との到達目標	じである。 られた配点に従って,実習状況,実習態度 がれなど) に印を受けて,実習終了後に,2年学生は が発表の準備をすること。 らかること無く課程修了が認められる場 取ったら,2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物,評定書を持参すること	
		びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項集 等学実習成績 語学実習成績 活ること・・・ 時間の厳守(10分 計るでは、一、・・・ 時間の成し、一、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	目の重みは同に準」になった。 「集合」になり、 「集合」になった。 「集合」になった。 「集合」になった。 「集合」になった。 「実習の単位受けます。 との到達目標でいる。 との到達目標でいる。 「際的に活躍でいる。」	じである。 られた配点に従って、実習状況、実習態度がた配点に従って、実習終了後に、2年学生は野発表の準備をすること。 らい内容であること。 今めること無く課程修了が認められる場取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生旨定されている物、評定書を持参すること	
	週 1週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項集 等学実習成績評別の各項集 である。 いまでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	目の重みは同に準」に定めた 「集合」が接換である。 「集合」が表現である。 「集合」が表現である。 「集合」が表現である。 「実習の単位受けまである。 との到達目標できる。	じである。 られた配点に従って,実習状況,実習態度 がれなど) に印を受けて,実習終了後に,2年学生は が発表の準備をすること。 らかること無く課程修了が認められる場 取ったら,2年学生は専攻主任に1年学生 皆定されている物,評定書を持参すること。 できる人として必要な資質が分かり,それ	
	週 1週 2週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項語学実成目標の各項語学実別の各項語の表示では、10分割の成務を表示では、10分割を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	国の重みは同準」に定めた。 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「集合」に対して、 「ないで、 、 「ないで、 、 「ないで、 、 「ないで、 、 「ないで、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	じである。 おれなど) の	
	週 1週 2週 3週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を受ける。	目の重みは同り 準 「	じである。 おれなど) の	
	週 1週 2週 3週 4週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同り 準 「集合」とでは 事情では 事情では 事情でで 事情でで 事でで 事でで 事でで 事でで 事でで 事	じである。 おれなど) の おれなど) の おれなど) の おれなど) の おそ受けて、実習終了後に、2年学生は が発表の準備をすること。 会かること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること の おかかり、それらを体得できる。 の おかかり、それらを体得できる。 の おいまとめることができる。	
	週 1週 2週 3週 4週 5週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のでででである。 1年学生が海外に 1年学生で海外語学 とに提出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であることが 含めること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の おれなど) の おれなど) の おれなど) の おそ受けて、実習終了後に、2年学生は が発表の準備をすること。 会かること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること の おかかり、それらを体得できる。 の おかかり、それらを体得できる。 の おいまとめることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であることが 含めること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 こより成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 田、作成し,報告るこう を関いるの場合 では、まするこう でまと、まするこう でまと、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるの場合 では、まずるのは、まずるの場合 の学生は当該学生。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であることが 含めること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をおうかり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) がおれなど) を印を受けて、実習終了後に、2年学生は が発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 含めること無く課程修了が認められる場 取ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること が分かり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週 14週 15週 16週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1月	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1月	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) の印を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 さわしい内容であること。 さかったら、2年学生は専攻主任に1年学生 指定されている物、評定書を持参すること をあることができる。 と日報にまとめることができる。 と発表資料にすることができる。	
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週	びく、1年の場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年のの場合では、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年ののは、1年のは、1年	を総合して評化 評価方法が表に 作うなが発価を 件>総されるで評価基 学のででである。 1年学生が 1年学生が海外語学 は加まで は出すること に提出すること	面する.評価に対する 評価基準 > 「海外語 より成績を評価する に可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(間) 知識の範囲 > 心得(間) 日,作成し,報告るこう を関うなの場合 で表別の学年は当該学年。	る達成目標の各項を記述の各項を記述を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	目の重みは同の連集とのでは、 は導表のでは、 は導表のでは、 はいるでは、 は、	じである。 おれなど) がおれなど) のいた受けて、実習終了後に、2年学生が発表の準備をすること。 さわしい内容であることが さかしい内容であることができる。 できる人として必要な資質が分かり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 できる人として必要な資質ができる。 と日報にまとめることができる。 できる。	

	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
評価割合			
		海外語学実習成績評価基準	合計
総合評価割	合	100	100
配点		100	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		教科名	上級英会話		
科目基礎情報								
科目番号	0042			科目区分	一般 選	沢		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	対 学修単位	学修単位: 2		
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ ロジーコース)			専1			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	教科書:『機関銃英語が聴き取れる!: リスニングの鍵はシラブルとビート』(三修社)その他適宜プリントを配布する . 参考書: ETS公認ガイド TOEFL IBT 第 4 版 (ETS)							
担当教員 日下 隆司								

到達目標

- 1. 【英語運用能力の基礎固め:英語コミュニケーション】 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(繰り返しや相槌、ジェ スチャー、アイコンタクトなどのボディランゲージ)を適切に用いながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また、日常生活 や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができ、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりの ある文章を英語で書くことができる。
- 2. 【英語運用能力向上のための学習:英語コミュニケーション】 自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聴き取ることができる。関心のあるトピックや自分の専門分野での英語を使う場面(プレゼンテーション、ディスカッションやディベートなど)を想定して、学生自らが準備活動や情報収集を行い、母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもちながら、主体的な態度で教室内外での日常的な質問や応答など英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。また、関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。
- 3. 【グローバリゼーション・異文化多文化理解】 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価 値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。

ルーブリック

ルーノソック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	母国以外の言語や文化を理解しよっとするというでは、実体のでは、実体のでは、実体のでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	母国以外の言語やさなと、 するとないでは、 は、 のでは、	母国以外の言語やされた理解のようとはある姿勢をもち、本的返りでは、本の変勢をもち、本の返りでは、大きなには、大きなどのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は
評価項目2	自分の内容を 自分の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次の内容を 一次のので 一次ので 一次ので 一が中で 一が中で 一が中で でが 一が中で でが 一が中で でが ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	自分の大学では、 自分の大学では、 自分の大学では、 を表して、 でもなどなる毎年が関心がある毎年で関心がある毎年で関心ができた。 でものでからでできた。 でものでできたができた。 関心野でからができた。 関心野でからができた。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるできた。 でいるでは、 でいる	自分の大学では、 自分の大学では、 自分の大学では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
評価項目3	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる。	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。
当り かかまり 無頂口 よの 即々	<u></u>		

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

授業の進め方と授業内・すべての内容は、学習・教育到達目標(A)<視野>,(C)<英語>, JABEE基準1(2)(a),(f)に対応する。容・方法・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする

		- 1<子美成績の評価方法おより評価基準>求められる課題の	別 1~6を網羅した事項を定期試験及び授業中に各個人が行うスや課題等で目標の達成度を評価する。1~6の重みは概ね均等でいたである。1~6の重みは概ね均等でいたである個人の演習と課題等の評価を合わせたものを5割としなとする。 対とする。 が提出をしていなければならない。2回の定期試験の平均点を 50%とし、その合計点で評価する。ただし、再試験は行わない		
注意点		・ (単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること、	- : : : : : : : : : : : : : : : : : : :		
授業計画		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
	1週	Introduction	1. 英語で自分の意見を伝えることができる. 2. 英語で行われる議論や討論の内容をある程度理解できる. 3. 英語での問いに対して英語で答えることができる. 4. 学習した英語表現を応用し、適切に使用することができる. 5. 会話に出てくる文法事項が理解できる. 6. 日本と外国における社会的違いや文化的違いを認識することができる.		
	2週	Sppech1: Paragraph Structure	上記 1~6 7. スピーチにおけるパラグラフ構成について理解し,スピーチを作成できる.		
	3週	Speech2: Sentence Structure	上記1~6 8. センテンス構成について理解し, スピーチを作成できる.		
	4週	Speech 3: Summarizing, Paraphrasing, Quoting	上記 1 ~ 6 9. 盗用を避けながら,要約,言い換え,引用ができ,スピーチを作成できる.		
	5週	Discussion1: Differences between Discussion and Debate	上記 $1 \sim 6$ 10. ディスカッションとディベートを違いとそれぞれの定義を理解し、ディスカッションを行うことができる.		
	6週	Discussion 2: Discussion Survey	上記 1~6 11. ディスカッションのための情報の収集と整理ができ , ディスカッションを行うことができる.		
前期	7週	Discussion 3: Practice 1	上記 $1 \sim 6$ 12. テーマに沿った形でディスカッションを行うことができる.		
	8週	中間試験	これまでに学習した内容を説明し,解を求めることができる.		
	9週	Discussion 4: Practice 2	上記1~6 13. テーマに沿った形でディスカッションを行うことができる.		
	10週	Discussion 5: Practice 3	上記 $1 \sim 6$ 14. テーマに沿った形でディスカッションを行うことができる.		
	11週	Debate 1: Methodologies of Debate	上記 $1\sim6$ 15. ディベートの方法論を理解し、ディベートを行うことができる.		
	12週	Debate 2: Strategies of Debate	上記 $1 \sim 6$ 16. ディベートにおける戦略を立て, ディベートを行うことができる.		
	13週	Debate 3: Practice1	上記 $1 \sim 6$ 17. テーマに沿った形でディベートを行うことができる.		
	14週	Debate 4: Practice 2	上記1~6 18. テーマに沿った形でディベートを行うことができる.		
	15週	Debate 5: Practice 3	上記 $1 \sim 6$ 19. テーマに沿った形でディベートを行うことができる.		
	16注				

評価割合

16週

	試験	課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0
配点	50	10	3 0	1 0	0

持続可能な発展のために抱えてい	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
授業形態 授業 単位の種別と単位数 学修単位: 2 対象学年 朝1 ロジーコース) 対象学年 朝1 関盟期 後期 週時間数 2 教科書/教材 教科書: 「人類とエネルギー」山内睦文 (風媒社) 担当教員 兼松 秀行,甲斐 穂高 到達目標 大自然の中でのエネルギーの流れ,物質の流れを理解し,そのなかで水資源,鉱物資源,生物資源,再生不可能・可れの背景を理解し,これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる. ルーブリック 埋想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達 持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる. 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを出来する。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを出来する。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを記述されます。 1 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを記述されます。 1 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを記述されません。 1 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 1 世界のエネルギー 1 世界のエネルギー情勢についての 1 世界のエネルギー情勢についての 1 世界のエネルギー情勢についての 1 世界のエネルギー 1 世界のエネルエネルギー 1 世界のエネルエネルエネルエネルエネルエネルエネルー 1 世界のエネルエネルエネルエネルー 1 世界のエネルエネルエネルエネルエネルー 1 世界のエネルエネルエネルエネルー 1 世界のエネルー 1 世界のエネルー 1	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
開設学科 総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ 対象学年 専1 別期 後期 週時間数 2 教科書/教材 教科書:「人類とエネルギー」山内睦文(風媒社)担当教員 兼松 秀行,甲斐 穂高 到達目標 大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資源、生物資源、再生不可能・可れの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる。 ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
開設月 2 2 2 2 2 2 2 2 2	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
教科書 : 「人類とエネルギー」山内睦文 (風媒社) 担当教員 兼松 秀行,甲斐 穂高 到達目標 大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資源、生物資源、再生不可能・可れの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる. ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー事情が抱えています。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情報にしいての 世界のエネルギー情報にしいての 世界のエネルギー 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
担当教員 到達目標 大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資源、生物資源、再生不可能・可れの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる。 ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達 持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー事情が抱えている課題の解決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー情勢についての世界のエネルギー情勢についての世界のエネルギー情勢についての世界のエネルギー情勢についての世界のエネルギーを必要を表現しています。	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
到達目標 大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資源、生物資源、再生不可能・可れの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる。 ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達 持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー事情が抱えています。2019年の名	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資源、生物資源、再生不可能・可れの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に理解し、資源工学に関する専門知識わる事に応用できる。 ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー事情が抱えている。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギーを表現である。	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
カる事に応用できる。 ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達 持続可能な発展のために抱えてい る課題を説明でき、この課題の解 決策や対応を説明できる。 世界のエネルギー事情が抱えてい ないます。 できる。 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての 世界のエネルギー情勢についての	シングルの目安 J能な発展について説明でき			
理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 未到達 持続可能な発展のために抱えてい	T能な発展について説明でき			
評価項目1持続可能な発展のために抱えている課題を説明でき、この課題の解決策や対応を説明できる。持続可能な発展についての概要を決策や対応を説明できる。世界のエネルギー事情が抱えています。世界のエネルギー情勢についての世界のエネルギー情勢についての世界の	T能な発展について説明でき			
評価項目1				
- 一切には、				
評価項目2 る課題を説明でき、この課題の解 世界のエネルキー情勢についての 世界の 決策や対応を説明できる. 概要を説明できる.	ンエネルギー情勢について説 ない.			
	ヤマス資源の種類と活用方法 引できない.			
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
各種資源について、大自然の大きな流れの中でそれぞれの背景を理解し、その基礎に基づいる製錬・精製プロセッシングおよびそのリサイクリングについて系統的に理解し、資源工学概要 学ぶ、大自然の中でのエネルギーの流れ、物質の流れを理解し、そのなかで水資源、鉱物資・可能な資源、について、それぞれの背景を理解し、これらに関する製錬・精製プロセッシし、資源工学に関する専門知識を習得し、資源工学にかかわる事に応用できることを目指す	解し、これらに関する製錬・精製プロセッシングの実際を系統的に埋解 工学にかかわる事に応用できることを目指す			
授業の進め方と授業内 内容は, すべて, 学習・教育目標 (B) <専門> [JABEE基準1(1)(d)(2)a]] に対応す容・方法 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当する	i> [JABEE基準 1 (1) (d)(2)a]] に対応する.)授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.			
期未試験結果の平均点を50%、レポートを50%で評価する。レポート、小テストはあらた 学習により理解を進める。レボート採点基準はLMSルーブリック上にて明示する。期末試験ない。 <単位修得要件> 学業成績で60点以上を取得すること。 <備考>自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、ショートテストや課題レで、日頃の勉強に力を入れること。各種資源プロセスを大自然の物質の流れ、エネルギーのの関わり合いについても学んで産業界での実践に役立ててもらうことを期待する。	については,再試験を行わ			
授業計画				
週 授業内容・方法 週ごとの到達目標				
1週 授業の概要,序論 1. 資源を取り巻く現状と課題	·			
2週 人類とエネルギーの関わり 2. 大自然の中でのエネルギー	-の流れを理解できる.			
3週 エネルギーを理解するための必要な予備知識 上記と同じ。				
4週 再生可能エネルギー(太陽光発電) 上記と同じ。 上記と同じ。				
5週 再生可能エネルギー(風力発電) 上記と同じ。				
6週 再生可能エネルギー(地熱発電) 上記と同じ。				
7週 水力発電 上記と同じ。	<u></u>			
8週 日本の中小水力発電に対する広義の導入ポテンシャル 上記と同じ。				
9週 持続可能な発展とは? ※期 3. 持続可能な発展の概要を訪めます。				
後期 10週 世界のエネルギー情勢について 4. 世界のエネルギーの情勢や 4. 世界のエネルギーの情勢や				
11週 ポスターツアー I (1): 持続可能な発展の具体的な取り組み 5. 世界各国や日本の持続可能みを説明できる.				
12週 ポスターツアー I (2): 持続可能な発展の具体的な取り組み 6. 世界各国や日本の持続可能 みを説明できる.	6. 世界各国や日本の持続可能な反転のための政策や取組みを説明できる.			
	7. バイオマス資源の種類と活用方法を説明できる.			
14週 ポスターツアー $II(1):$ バイオマス資源の利活用の取り組み $8.$ 世界各国や日本のバイオマ取り組みや技術的な概要を説明	7ス資源の有効活用のための 引できる.			
15週 ポスターツアー I (2): バイオマス資源の利活用の取り組み 9. 世界各国や日本のバイオマ 取り組みや技術的な概要を説明	?ス資源の有効活用のための 引できる.			
16週				
評価割合				
試験 課題 相互評価 態度 発表 その他				
総合評価割合 50 50 0 0 0 0	100			
配点 50 50 0 0 0 0	100			

鈴鹿	E工業高等専	野学校 ————————————————————————————————————	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	総合イノベーション工学実験 (1年次)
科目基础	楚情報							
科目番号		0006			科目区分		専門 必何	多
授業形態		実験・実習			単位の種別と単	巨位数	学修単位	I: 2
開設学科		総合イノベーロジーコース		ス(□ボットテクノ	対象学年		専1	
開設期		通年			週時間数		1	
教科書/教	 女材	教科書:実験	テーマ毎にテキ	スト (実験手引き	書)等を配布する	3.		
担当教員		近藤 邦和,下雪	野 晃,和田 憲幸	,山口 雅裕,箕浦 弘	人,西村 一寛			
到達目	=	,	,	,	,			
実験にお できると えて継続	いて用いられた ともに, 専門を	子習し,習得し	び代表的な実験の実践的技術の た知識をもとに	検手法を理解し,デ ○体験を通して必要 □創造性を発揮し,	ータ整理と結果 な基礎的知識を 限られた時間内	こ対する 身に付け で仕事を	3適切な考察 けた上で, を計画的にな	察を論理的にまとめて報告することが 習得した知識・能力を超える問題に備 進め,成果・問題点等を論理的に記述
ルーブリ	リック							
		理	理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達し	ノベルの	目安	未到達レベルの目安
評価項目	1	\(\frac{1}{2}\)	して他分野の実際	夫駅に取り組み、他 駅に取り組め、他分野の夫駅にフ きず、他分野の実験 ついて的確な図や文 いて図や文章を用いて報告できる きず、他分野の実験)「他が野の夫厥に取り祖むことがて
学科の	到達目標項目	ヨとの関係			•			
, 								
概要		は化学に関すの発見とそのように取りにはなった。 はれる はいしょう はいしょう はいい はい	る基礎的実験を解決法のデザイみ、その実現の み、その実現の モチベーション 力、創造力、継 後期第1週から	(行う、また, 中学) (ンを体験する、後) (ために解決すべき) ((意欲, 情熱, チー ! !続的・自律的に学)	生向けの理科教 期は機械設計と対 課題の発見とその ヤレンジ精神ない 習できる能力、ご でものづくりに	オの開発 加工解決 かいが がいが がいだ がいだ がい がい で で で で で で で で で で で で で で で で で	をに取り組んでは、 では関連している。 でででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	内実験技術を体験し身に付ける前期 み、その実現のために解決すべき課題 て、緩やかな制約条件の下でのものづ ンを体験するこの過程を通して,技 れまで学んできた学問・技術の応用能 ン能力を育成する.なお,前期第10週 り技術講師が、ものづくり(理科教材・
授業の進 容・方法	め方と授業内	・授業計画に	記載のテーマに	標(B)<専門><展 ついて,個人あるい の「達成目標」は	ハは,数名で構成	衣したサン	tに分かれて	n)に対応する. て実験や製作を行う. に相当するものとする.
注意点		実験を70%, 品(20%)によ 成したごとが <学業成績の 70%, 理科教 50%, 作得要 <単位を修要 <備者>実験の	④理科教材の係り評価する。介評価する。確認できるよう評価方法およびがの開発においる20%として10件>与えき流に	開発を30%とする。 終表や報告書に求め に設定する。 評価基準>前期は、 ける発表と作品を30 0点満点で成績を評 実験テーマの報告書 実けたっては、必ず特	後期は、達成目 るレベルは、10 実験テーマにま 9%として成績を 他でする、提出出 領導教員に報告し	標9~10点に の点法 では では では では でする。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です	4の達成度 より60点 自に課せら る.後期は を平均して 績導に従う	より評価する.評価の重みは①~③のを発表(30%),報告書(50%)および作以上の得点を取得した場合に目標を達れた実験操作・作業およびレポートを、、発表の内容を30%、報告書を学業成績を評価する。 と上を取得すること・ こと、器具・装置の使用に当たっては、深く関係する教科である。
授業計	画							
	週	授業内容・方	法		週	ごとのヨ	到達目標	
	1週	実験について	の諸注意と安全	講習	り 2 で	身に付い . 他分野 きる.	ナることが 野の実験技 3. 行っ	分野の基礎的知識を自主的な学習によできる. がを体験し,その技術や考え方を理解た基本的な実験等について,目的・結レポートにすることができる.
	2週	①ガラス細工	, 白熱電球等 <i>の</i>	作製	<u>2</u>	きる.	野の実験技術 3. 行っ!	術を体験し,その技術や考え方を理解 た基本的な実験等について,目的・結 レポートにすることができる.
	3週	①ガラス細工	, 白熱電球等の	作成	上	記、1、	2、3	
	4週	①ガラス細工	, 白熱電球等の)作成	上	記、1、	2、3	
	5週	②水の分析	きき水とEDTA	標準溶液の調製	上	記、1、	2、3	
	6週	②水の分析	滴定によるミネ	ミラルウォーターの	便度測定 上	記、1、	2、3	
	7週	③ゾル-ゲル法	まによるシリカク	ゲルの合成	上	記、1、	2、3	
前期	8週	③シリカゲル	の水分吸着量測	定	上	記、1、	2、3	
•	9週	実験器具と実	験室の整理					
	10週	④理科教材の	開発 課題設定	き, アイディアの討	, 材 に 6 め 7	継続的に の開発を 向けて目 ・理科教	こ学習する を進める上 自律的に学 数材の開発ができる 数材の開発	を進める上で準備すべき事柄を認識しことができる. 5.理科教で解決すべき課題を把握し,その解決習することができる.のゴールを意識し,計画的に開発を進を進める過程で自ら創意・工夫するこ
	11週	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	開発 製作			記4、5.		
	12週	④理科教材の				<u>記4、5、</u> 記4、5、		
	13週	4 理科教材の				<u>配4、5、</u> 記4、5、		
	14週	④理科教材の			8	. 理科教	数材の開発	の発表において,理解しやすく工夫し でき,的確な討論をすることができる
		1			1 -			

	15週	④理科教材の関	開発 発表			上記、8				
	16週									
	1週	工作機械の取り)扱いの講習			9. テーマを進めに学習することが	る上で準備すべ できる.	き事柄を認識し, 継続的		
	2週	工作機械の取り)扱いの講習			上記、9				
	3週	3 次元CADソ	フトの取り扱いの講習			上記、9				
	4週	アイディアの記	寸論			10. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し,その解決に向けて自律的に学習することができる. 11. テーマのゴールを意識し,計画的に仕事を進めることができる. 12. テーマを進める過程で自ら創意・工夫することができる.				
	5週	製作物のスケッ	yチの作成等			上記、10、11、1	2			
	6週	CADソフトを見	用いた設計および製作			上記、10、11、1	2			
後期	7週	CADソフトを見	用いた設計および製作			上記、10、11、1	2			
	8週 製作					上記、10、11、1	2			
	9週	製作				上記、10、11、1	2			
	10週	製作				上記、10、11、12				
	11週	製作				上記、10、11、12				
	12週	製作				上記、10、11、1	2			
	13週	製作				上記、10、11、1	2			
	14週	発表会				13. 発表会にお ことができ, 的確	いて, 理解しや な討論をするこ	っすく工夫した発表をする ことができる.		
	15週	報告書の作成				14. 報告書を論	理的に記述する	ことができる.		
	16週									
評価割合										
		前期レポート	前期教材開発・発 表・作品	後期発表	í		作品	合計		
総合評価割	<u></u> 合	35	15	15	2	25	10	100		
配点		35	15	15	2	25	10	100		

	工业宣标主	588 24 4 2	明寺左帝	亚出24年度 /2	1010年度)	カルエ リ <i>と</i> フ	#+ DU7T1747 T
<u></u>	工業高等専	子仪	開誦年度	平成31年度 (2	(019年度)	教科名	特別研究 I
科目番号	ビI 自和	0007			科目区分	専門必	修
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位数		
開設学科		総合イノベーロジーコース		文(ロボットテクノ	対象学年	専1	
開設期		通年			週時間数	2.5	
教科書/教	材	教科書:各指	貨教員に委ねる	3. 参考書:各指導	教員に委ねる.		
担当教員		特別研究 []	指導教員				
到達目標	票						
特別研究〕 力,問題点 いる.	I のテーマに関 点を明確化しる	関する基本的事 それを解決する	§項を理解し,碌 る能力,創造性を	研究のプロセスを通 発揮し計画的に仕	して高度な専門知識 事ができる能力, 論	と実験技術な理的に意思伝	らびに継続的・自律的に学習できる能 達・討論・記述する能力を身に付けて
ルーブリ	<u> </u>	T ₃	田相的+>到達1	ベルの日本	押進的+>囚(幸) _ ベリ		土利達1.ベルの日空
評価項目1	 I]	理想的な到達レ	/ いの日女	標準的な到達レベル	かり日女	未到達レベルの目安
評価項目2							
評価項目3							
		ヨレの関区			1		
		コロジガボ					
教育方法	ム寺	田空へ送信ナ	シスト ナー・	一学 重与電フナツ		田小学 生物	丁学が社物工学に関する専品が深た中
概要		研究の逐行を 験技術を総合 ,創造力,フ て創造性を発	「理して,機械」 合的に応用する能 プレゼンテーショ 各揮し,解決法を	_子, 電気電子工子, ど力, 研究を進める ョン能力, 論理的なご ごデザインできる技行	- 電子情報上字,心 上での具体的な課題 文章表現力,コミュ が者を養成する.	用化学、生物。 を設定する能。 ニケーション	工学や材料工学に関する専門知識と実力,継続的・自律的に学習する能力 能力を育成し,解決すべき課題に対し
授業の進 容・方法 注意点 授業計画	め方と授業内	スチ4	W工工 (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	スプーク , 通	上学、通知、 無機プロリックを 無機プロリックを は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、これでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	」に相当するものとする.野は次の通りである.デ、計算力学、有限要素法、計算機援用液体の微粒化、機械力学、精密工学が分解析等が放射が、大工学、固定、生体工学、制御工学、電子線機器学、制御工学、高周波回路、生体工学、制御シ門、大工知能、大工知能、大工知能、大工知能、大工知能、大工知能、大工知能、大工知能
	週	授業内容・方	法		週ごと	の到達目標	
	1週						で解決すべき具体的な課題を設定し,課 的に学習することができる.
	2週					完上の問題点を	を把握し, その解決の方策を考えること
	3週						意識し, 計画的に研究を進めることがで
	4週					究の過程で自	らの創意・工夫を発揮することができる
	5週						, 理解しやすく工夫した発表をすること をすることができる.
前期		+			1/2 CC	, ->+E.O-□1 mm	, _ ,
前期	6调				6 報	ち書を論理的/	
前期	6週 7週				6. 報	告書を論理的(に記述することができる.
前期	7週				6. 報	吉書を論理的(
前期	7週 8週				6. 報	吉書を論理的(
前期	7週 8週 9週				6. 報行	吉書を論理的(
前期	7週 8週				6. 報行	吉書を論理的(

	13週			
	14週			
	15週			
	16週			
	1週			
	2週			
	3週			
	4週			
	5週			
	6週			
	7週			
後期	8週			
15円	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			
評価割合		 		
		報告書	発表	合計
総合評価割	合	20	80	100
配点		20	 80	 100

鈴鹿.	工業高	等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	019年度)		教科名	有機化学特	論	
科目基礎	情報										
科目番号			8000			科目区分		専門 選択	心修		
授業形態			授業			単位の種別	と単位数	学修単位	: 2		
開設学科			総合イノベ ロジーコー		【(ロボットテクノ	対象学年		専1			
開設期			前期	<i></i>		週時間数		2			
教科書/教材			教科書:構	造有機化学 齊藤	勝裕著(三共出	出版),参考	書:軌	 道対称性の保存	 マーウット゛ワート゛・ホフマ	〉則 伊藤・遠藤著	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	<u>N</u>		(廣川書店	;)		-					
担当教員			長原 滋								
到達目標		lm.h4L or	>BB/57 ±> ►2 ×	» / 166 / 12 224 F		41-01.7	ハマ±	> × =∆45±> <i>E</i> B F±	. > T⊞471 → =		
		刎性(関係およい	有機化子及心にむ	ける反応性や選択	生について,	分于虮	追論的な観点 な	いり埋解している	5.	
ルーブリ	ック			田相的大河下去上。	×1.000	おおおおお	۱۴۱ ۱۳۱	L A D T	十万小寺」。		
				理想的な到達レイ	ソルの日女	標準的な到			未到達レベル	Dの自安 講造と物性(発色性 -	
評価項目1				有機分子の分子軸 基づき,物性(発 , 伝導性,磁性)	軌道論的な考察に 発色性,発光性 が予測できる.	1. 発光性.	伝導性.	云導性,磁性)の関係 , 発		☆導性, 磁性) の関係 論的な観点から理解し	
評価項目2				有機分子の分子軸合成計画の立案に	加道論的な考察を こ適用できる.	有機化学反応における基礎事項 (芳香族性,結合異性,閉環・環 状付加反応および選択性)を分子 軌道論的な観点から説明できる. 精道論的な観点から理解					
学科の到	達目標	項目	との関係								
教育方法											
概要			おける反応	性や選択性を分子	・軌道論的な観点から	5学ぶ.				および有機化学反応に	
授業の進め 容・方法	方と授業	業内	・すべての・授業は講・「授業計	ぐての内容は,学習・教育到達目標(B)<専門>およびJABEE基準1.2(d)(2)a)に対応する. 美は講義形式で行う.講義中は集中して聴講する. 受業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.							
注意点	Ī		<あらかじる る必要があ <自己学習: 作成に必要	め要求される基礎 る. > 授業で保証する な標準的な学習時	る学習時間と,予習 間の総計が,90時	*化学や分子! 引・復習(中! 間に相当する	間試験, 5学習内	定期試験のた 容である.	めの学習も含む	学の基礎を理解してい) および課題レポート で, 自己学習に励むこ	
	週		授業内容・	方法			週ごと	の到達目標			
	1週			構造と結合(構造	論)		有機	の事項につい 化合物や中間(本の構造		
	2週		有機分子の	構造と結合(分子	軌道論)		1. 以T 有機化	の事項につい 合物などのヒ <u>:</u>	て説明できる. ュッケル分子軌道	道法による取扱い	
	3週		-	構造と結合(スペ	(クトル)		吸収	の事項についスペクトルと記	電子遷移		
	4週			物性(発色性)					ムについて説明		
	5週			物性(発光性)					光について説明		
	6週 7週		芳香族性 結合異性						道論的な観点か 道論的な観点か		
	8週		中間試験				 		<u> 連冊的は観点が</u> 内容について説明		
前期	9週			性(有機伝導体)				と		子軌道論的な観点から	
	10週		超分子的物	性(有機磁性体)			7. 有機	機磁性体の磁性	を分子軌道論的	な観点から説明できる	
	11週		熱化学反応	と光化学反応			択性に9.環状	ついて分子軌道 は付加反応(熱	道論的な観点から 反応と光反応)	び閉環反応における選ら説明できる. および環状付加反応に および環状付加反応に は観点から説明できる	
	12週		分子内反応	(閉環反応) と分	子軌道-1		上記8.				
	13週		分子内反応	(閉環反応) と分	·子軌道-2		上記8.		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	14週			(環状付加反応)			上記9.				
	15週		分子間反応 軌道	の立体選択性,配	的選択性,周辺選 <u>持</u>	尺性と分子	上記9.				
	16週										
評価割合				I	T :	Luci	1			Land	
40 A == :		試験_		課題レポート	相互評価	態度		発表	その他	合計	
総合評価割		80		20	0	0)	0	100	

T7 L			l =	l =	l	L =	1400
1 #1 2 2 2 2	180	1.)()	171	171	171	171	l100 l
能从							

鈴居	第工業高等	專門学校	開講年度	要 平成31年度 (2	2019年度))	教科名	分子生命科:		
科目基础	礎情報									
科目番号		0009			科目区分		専門 コ-	 -ス選択		
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位			
開設学科				攻(ロボットテクノ	対象学年		専1	-		
開設期		前期	- 17		週時間数		2			
教科書/教			代生命科学(東	京大学生命科学教科		 ≥)				
担当教員		山口雅裕		(30() <u>Thirl</u>) <u>13(r)</u>	日帰木女共立	<u> </u>				
<u>/</u>		тын жи								
		よびタンパク質	5,核酸,糖質等	その代謝と機能,遺伝	情報の流れと	とその発現	に関する専門	門知識を修得し,	生命科学を理解して	
ルーブ	リック									
			理想的な到達し	ノベルの目安	標準的な到	達レベルの	の目安	未到達レベル	/の目安	
評価項目	1		遺伝子の構造 みについて理解 ついて説明でき	・機能や発生の仕組解し、工学的応用にきる.	遺伝子の構みについて		や発生の仕組 いる.		き・機能や発生の仕組 関解していない.	
評価項目	12			報伝達の概要を理解 ヤネルやイオンポン 明できる.	神経による している.	神経による情報伝達の概要を理解している.			情報伝達の概要を理解	
評価項目	13		遺伝情報と生物 解し、進化によ が生じることを	物多様性について理 よって遺伝的多様性 を説明できる.	遺伝情報と生物多様性について理 解している. 遺伝情報と生物多様性につい 解していない.					
学科の	到達月標」	頁目との関係				-		·		
		<u>XII C O NII N</u>	1							
教育方法	<u> </u>			- / - / - >	<u> </u>	400	ハ フ ル	¥4.₩77.4.7 —	- 11 D. L. A. T.	
既要		究所で医薬	品の研究や動物	発生の研究に携わっ	ていた教員カ	で生命の分	子的基盤にて	ついて講義形式で	(の科目は, 企業・研 で行うものである.	
授業の進 容・方法	め方と授業	′′ 授業は講義	・聴講形式で行	「目標(B)<専門>ス「 「う. 』の「到達目標」は、		. , , ,	. , . ,		とする	
注意点		合は先の記 <単位取得 <あらかじ なる教科で <備考>自	験の得点を60点 要件>学業成績 め要求される基 ある.	ると見なす。 で60点以上を習得する 礎知識の範囲>生物等 した規定の単位制に基	ること. 学, 化学の知	識.本教科	料は生物学,	生物化学や分子:	試験を行い、合格の場 生物学の学習が基礎と . すべての生物化学教	
授業計	画									
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	 週	授業内容・	方法			调ごとの				
	1週		<u>/7/公</u> 的な仕組み					を理解している		
	2週	細胞と遺伝					1430 - 131-		 関係を理解している	
		ゲノムと遺								
	3週							ンム全体の構造	で注解している	
	4週	発生					の概要を理解		1 4m47/mn5/ 1	
	5週	脳の構造と	機能			5. 仲経約 構成され	#旭の興奮メ .る脳の概要	カニスムを埋解 を理解している	し, 神経細胞によって	
	6週	がん						を理解している		
	7週	栄養と代謝	<u> </u>					を理解している		
	8週	中間試験	•					容について説明	 できる	
前期	9週	免疫				1		性免疫の概要を		
	10週					上記9	ェノレノ文, 神川だ	ルエルタッル女で	上は している	
			=			 	ト語符で配っ	りりを1甲477! て・	\ Z	
	11週	生命と環境					(、	りりを理解してい	ୀର	
	4010	生命と環境				上記10	1= = -	~		
	12週	4 4 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	柳			+		ジーの概要を理解 する社会的事象を	n, , -	
	13週	生命科学技							¥している ≧例示でき, それにつ	
	13週	生命倫理	1			いて考え	ることがで	きる	2例示でき,それにつ	
	13週 14週 15週		2			いて考え	ることがで		2例示でき,それにつ	
2.75 / TT + + + + + + + + + + + + + + + + +	13週14週15週16週	生命倫理	2			いて考え	ることがで	きる	2例示でき,それにつ	
評価割	13週 14週 15週 16週	生命倫理生命の理解			I.u.	いて考え 13. 科学	ることがで 的な生命に	対する理解力を身	を例示でき, それにつ	
	13週 14週 15週 16週 合	生命倫理 生命の理解 験	課題	相互評価	態度	いて考え 13. 科学 発	ることがで 的な生命に	さる 対する理解力を見	を例示でき, それにつ 外につけている 合計	
評価割物 総合評価配点	13週 14週 15週 16週 合	生命倫理 生命の理解 験		相互評価 0 0	態度 0 0	いて考え 13. 科学	ることがで 的な生命に	対する理解力を身	を例示でき, それにつ	

鈴鹿	 L業高等専	 『門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		 教科名	化学情報工学
科目基礎				1				,
科目番号		0010			科目区分		専門 選抜	R
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位	
開設学科		総合イノベーロジーコープ		文(ロボットテクノ	対象学年		専1	
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教材	ł	い方とデータ	5プリント,参考 タベース利用」笠 廣田 穣著(裳	至本光雄著(地人書)	千原秀昭・時 館), 「オン	実象一著(ライン・デ	東京化学院	同人),「ケミカルアブストラクトの使 ス」杉山勝行著(アスキー出版),「
担当教員		長原 滋						
到達目標								
		材料の開発・発 等)が検索で		設計の有用な手段と	なることを体	得し, イン	クーネッ	ト等を利用して必要とする化学情報
ルーブリ	ック				_			
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到	達レベルの	目安	未到達レベルの目安
評価項目1			性(紫外可視吸りよび反応性(芳	軌道計算による物 収スペクトル)お 香族求電子置換反 の安定性)が予測 応の開発・解析 用できる.	性(紫外可よび反応性	有機分子の分子軌道計算による物性(紫外可視吸収スペクトル)お性(紫外可視吸収スペクトル)および反応性(芳香族求電子置換反応,反応中間体の安定性)が予測できる.		
評価項目2			(文献情報,特)	に必要な化学情報 許情報)等がイン 利用して検索でき 情報が活用できる	専攻科特別研究に必要な化学情報			専攻科特別研究に必要な化学情報 (文献情報,特許情報)等がイン ターネット等を利用して検索できない.
学科の到	達目標項目	目との関係						
教育方法								
概要	()							ぶ. 分子軌道計算では分子軌道計算プット等を利用した情報検索を行う.
授業の進める	方と授業内	・すべてのF ・授業は講		女育到達目標 (B) ロータを用いた演習	<u></u> <専門>およ 形式で行う.	びJABEE基	[準1.2(d)(
注意点		マ学業成績の よどでは と は い は い は い い い が が が が が ら の で り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	D評価方法および 服検索結果の発表 提供 学業る基 が会し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がまし、 がいれいで、 がいないで、 はいないで、 はいないないで、 はいないないで、 はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな		P間および前打計50点)の行うでは、 計50点)の行うること。 シピュータ検持 学および分子 における学習 ・復習(中間 計が、90時間	明末の2回の合計で評価で 索において 軌道法の基 が基礎とな 間試験,定 別に相当する	する. 再試 はコンピュ !礎を理解し !る. 期試験のた !男習内容!	ータやソフトウェアの基本操作ができ している必要がある. 情報検索では多 めの学習も含む) および課題レポート
授業計画								
及未可固	週	授業内容・2				调ごとの至	11達日煙	
	1週	分子軌道法。	- '一 と分子軌道計算フ	プログラム 公合物の最安定構造	と物理量	1. 有機分 , 分子軌道	子の分子軌 首計算が材料	道計算を行うことにより物性を予測し 料の開発・解析および分子設計の有用 説明できる.
	2週	分子軌道計算	章演習2:芳香族	置換反応の主生成物	勿の予測	し、分子軸	九道計算が	道計算を行うことにより反応性を予測 豆応の開発・解析および分子設計の有 を説明できる.
	3週			置換反応の主生成物		上記2.		
	4週			視吸収スペクトルの		上記1.		
	5週			視吸収スペクトルの		上記1.		
	6週	の安定性		キシン類似物の酸化		上記2.		
前期	7週	の安定性	章演習4:ダイオ 	キシン類似物の酸(L分解中間体 	上記2.		
נוע∕ינים	8週	中間試験						内容について説明できる.
	9週	化学情報とけ 献情報とファ	青報検索:一次情アクト情報,特許	情報,二次情報,三 F情報	次情報,文	できる:- クト情報,	-次情報, 特許情報	報検索に関する次の事項が簡潔に説明 二次情報, 三次情報, 文献情報とファ
	10週	ータ情報検索	索, オンライン情 	食索,現状追従調査 情報検索,ISSN,C	AS登録番号	できる:シ	班及検索, :	報検索に関する次の事項が簡潔に説明 現状追従調査,コンピュータ情報検索 索,ISSN,CAS登録番号
	11週	1 : 化学分野 ラクツ(冊-	の代表的な二次 子体)を用いて, 事項および化学物	日子体)による文献 情報源であるケミオ 「特別研究 I 」の 7質名から文献情報	コルアブスト 研究内容に	ーネット⅌	ffを利用し [™]	報(文献情報,特許情報等)がインタ て検索でき,検索結果をプレゼンテー アを用いて発表できる.
	12週	ケミカルア	ブストラクツ(冊	男子体)による文献	検索演習2	上記4.		
	13週	ケンカルマー	ブストラクツ! (田	B子体) による文献	公売油羽っ	上記4.		

	14週		オンライン ビス(CAS) (JDream I	情報検索演習:),科学技術文献 [®] II),特許情報	ケミカルアブスト う 情報データベース	ラクツサー	上記4	1.		
	15週		情報検索結	果の発表			上記4	1.		
	16週									
評価割合										
	Ē	試験		課題レポート	相互評価	態度		発表	その他	合計
総合評価割	合 5	50		25	0	0	•	25	0	100
配点	5	50		25	0	0		25	0	100

	L業高等専 情報	『門学校 開講年度 平成31年度 (2	<u> ∠UIJ+/支)</u>		科名	エネルギー移送論
<u>科目基礎</u> ^{科目番号}	I月¥IX	0011	科目区分	T	専門コー	フ・湿 セ
村日留亏 授業形態		10011 授業	単位の種別と		<u>専口 コー</u> 学修単位:	
^{又耒ル忠} 開設学科		12末 総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ			子似单位. 専1	2
		ロジーコース)	+			
開設期		後期 教科書・「図解・エクルギニエ学」収四折主・	週時間数 四中試,能野	第分,初四营	2 (杰北	――――――――――――――――――――――――――――――――――――
教科書/教材	₫ 	教科書:「図解 エネルギー工学」平田哲夫・ 関する参考書は国内,国外を問わず,数多く出	田中誠・照到り 版され,図書館	見と・初田書 館にも数多く	、配備され	山脈)、参名音:エイルキーエ子に ている。
坦当教員		藤松 孝裕				
到達目標						
システムの	設計に応用で	こ必要な基礎理論,各種エネルギー利用に関する ごきる.	専門知識など(のエネルギ-	-工学全般	を学ぶことにより, エネルギー移送
レーブリ	ック		1557 AD 11757 AT 1757	±1 .%11 .		+ 70 + 1 - 20 + 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達			未到達レベルの目安
平価項目1		熱力学の第一法則,第二法則を理解し,それらに関する応用的な問題を解くことができる.	熱力学の第一 解し, それら 題を解くこと	- 法則,弗 - らに関する基 とができる.	本的な問	熱力学の第一法則,第二法則を理解できない.
评価項目2		内燃・外燃機関,ガスタービン ,蒸気タービンにおける各種サイ クルや熱効率の応用的な問題を解 くことができる.	内燃・外燃機 , 蒸気ターと クルや熱効率 くことができ	ごンにおける 室の基本的な	各種サイ	内燃・外燃機関、ガスタービン 、蒸気タービンにおける各種サークルや熱効率の基本的な問題を くことができない.
平価項目3		流体力学の各種理論を理解し、それらに関する応用的な問題を解く ことができる.	流体力学の名 れらに関する ことができる	5種理論を理 3基本的な問	解し, そ 題を解く	流体力学の各種理論を理解できない。
評価項目4		熱・風力・水力・光・化学エネルギーから電気エネルギーへの変換技術を理解し、それらに関する応用的な問題を解くことができる.	熱・風力・ガギーから電気 技術を理解し 本的な問題を	K力・光・化 気エネルギー ノ、それらに	.関する基	熱・風力・水力・光・化学エネルギーから電気エネルギーへの変態 技術を理解できない.
学科の到	達目標項目		, , , , , , ,	: _:		•
教育方法						
既要		エネルギー問題は今や世界の最大の関心事であ ルギーの安定確保は地球の環境保全対策と相ま 形態を解明・検討し,新しいエネルギー形態, する.	り,エネルギ- って,極めて重 エネルギー形態	- 資源に乏し 重要な課題で 態間の変換原	い我が国 である. 長! 原理および	にとっては,将来にわたってのエネ 期的展望に立ち,種々のエネルギー それらの応用を総括的に把握・理解
受業の進める	方と授業内	・第1週の授業内容は(A)<視野> [JABEE基準降の授業内容はすべて, (B)<専門> [JABEE基・授業は講義形式で行う. ・「授業計画」における各週の「到達目標」は	基準 1 (2)(d)(2	!)a] に相当	iする.	
注意点		<到達目標の評価方法と基準> エネルギー移送に関する「到達目標」1~8のである。各試験に関いて、合計点の60%の得点 〈学業成績の評価方法および評価基準> 前期中間および前期末試験の平均点を評価とす 〈単位修得要件〉学業成績の評価方法によって、60点以上の評価〈単位修得要件〉学業成績の必要求される基礎知識の範囲〉学へららかじのである。 「会らかじのである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでである」 「会社のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	で、目標の達る。前期中間である。前期中間である。前期中間である。 「一下でではることである。」では、 「一下ででは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	成を確認できる。 および前期オー・ 本工学などの こ必要な標準 トナース・ ・ 大力でいれば、	きるレベル 民試験におり の科目修得 生的な学習に は工学などに の出身以外	の試験を課す. いて、再試験は行わない. が望ましい. 時間の総計が、90時間に相当する等で扱われた事項と関連させながら 学専攻においては、機械、電気、電の分野にまたがるエネルギー形態の
受業計画	\	155.114.1.cm	T.	\B →\\ ···	+	
	週	授業内容・方法	1	週ごとの到過 エネルギー/		
	1週	エネルギーの種類とその変換				の変換について理解している. , 第二法則を理解し, それらに関す
	2週	熱力学の理論(第1法則および理想気体の状態3	\$16)	る計算ができ		,
	3週	熱力学の理論(第2法則およびエントロピー) 		上記 1	7 W# 44K PP ~	タチャノカルナエ四級リーマット・ロー
	4週	内燃機関(各種サイクルと熱効率)		する計算がて	できる.	各種サイクルを理解し、それらに関
	5週	ガスタービン(各種サイクルと熱効率)		る計算ができ	きる	種サイクルを理解し、それらに関す
	6週	蒸気タービン(蒸気の状態変化、各種サイクル		4. 蒸気お。 関する計算が		の各種サイクルを理解し、それらに
	7週	外燃機関(スターリングエンジン)		上記 2		
	8週	後期中間試験		上記1~4		
	9週	 火力発電および原子力発電 		5. 熱エネルギーから電気エネルギーへの変換(火: 子力, 地熱, 海洋温度差, 熱電発電)技術を理解し らに関する計算ができる.		差,熱電発電)技術を理解し,それ
	10週	 地熱発電および海洋温度差発電		<u> </u>	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	-
					サ カ 1手 T田	シカ田柳! フックに関すて計算

11週

流体力学の理論

6. 流体力学の各種理論を理解し, それらに関する計算が できる.

	12週	風力発電(理論,種類,変換	効率)		7. 原 (風 計算	虱力・水力エネル= カ, 水力, 波力発質 ができる.	ギーから電気エネ 電)技術を理解し	ルギーへの変換 , それらに関する
	13週	水力発電(理論,種類,変換類	効率)		上記:	7		
	14週	その他電気, 熱電発電	エネルギーへの変)	換(太陽光発電,,	然料電池	8. 分陽光系 ができ	発電,燃料電池)技	-から電気エネル 技術を理解し, そ	ギーへの変換(太 れらに関する計算
	15週	前期範囲の	まとめ・解説			上記!	5~8		
	16週								
評価割合									
	試懸	È	課題	相互評価	態度		発表	その他	合計
総合評価割	合 100)	0	0	0		0	0	100
配点	100)	0	0	0		0	0	100

鈴鹿	工業高等専	 [門学校	開講年度	平成31年度 (2	(019年度)	1	2000年	マイクロプロセ	 ⁷ スT学
科目基礎		11111	7 1 1 1 1 1 1 1 1	11/2/01/12 (2	.010 1/2)		XIII]	(/ / / / / / /	-> (
科目番号	CIDTA	0012			科目区分		専門コー	 ス選択	
授業形態		授業			単位の種別。	- 単位数	学修単位:		
開設学科			ーション工学専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教	· 材	ノート講義.	. 教科書は使用し	ない					
担当教員		柴垣 寛治							
到達目標	三								
微細なプロ 用いた応月	- コセス技術が原 用技術について	い分野で応 説明ができ	用されている技術 る.	うであることを認識	し,各要素技	術の特徴を	理解した上	で,デバイスの製造	皆およびそれらを
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レク	ベルの目安	標準的な到過	達レベルの!	目安	未到達レベルの目	安
評価項目1	L		半導体製造プロヤ 要素技術を理解し を詳細に説明でき	セスにおける各種 し,それらの概要 きる	半導体製造 要素技術を構 概要を説明で	既ね理解し		半導体製造プロセ 要素技術を理解で 概要を説明できた	ごきず. それらの
評価項目2	2		プロセスにおい ⁻ を用いた技術を記	て重要なプラズマ 詳細に説明できる	プロセスに を用いた技術	らいて重要を	ンプラズマ きる	プロセスにおいて を用いた技術を訪	重要なプラズマ
評価項目3	3		プロセスの現状。 切に把握して, 発的に調査できる	と今後の課題を適 関係する資料を自 る	プロセスの ⁵ ね把握して, できる	見状と今後(関係する)	の課題を概 資料を調査	プロセスの現状と 握できず,関係す きない	ご今後の課題を把 する資料を調査で
学科の到	列達目標項目	目との関係							
教育方法	 去等								
概要		でいくマイーは、現在用	クロプロセス・ナ	バイスの高性能化(-ノプロセス技術の原 ロセス技術を紹介して 講義する.	開発が基礎と	してあり、	今後もさら	なる発展が見込まれ	1る. この授業で
授業の進め 容・方法	め方と授業内	・授業は講	義形式で行う.	「到達目標(B)<専門 「到達目標」はで					⁻ る.
注意点		い者には再 試験の成績 く単位修得 くあらかじ。 関する基礎	試験を課し,再試 で置き換えること 要件> 学業成績で め要求される基礎 知識があれば望ま	評価基準>中間, 験の成績が中間試験 がある. で60点以上を取得 知識の範囲>これ。 にしいが,必須ではが 基づき,自己学習	験の成績を上 すること. までの数学, ! ない.	回った場合 物理の授業	には, 60; で学んだ知!	点を上限として中間	試験の成績を再
授業計画	<u> </u>								
	週	授業内容・	方法			週ごとの到	達目標		
	1週	マイクロプロ	ロセス・ナノプロ]セスについて		1. プロセ	ス技術の重	要性を説明できる	
	2週	半導体デバー	イスの製造工程			2. 半導体	デバイスの	製造工程を説明でる	_
	3週	結晶成長技術	術・平坦化技術			3. プロセ	スに必要な	要素技術について試	きる
	4週	成膜技術				3. プロセ		再ませばについてき	_
	5週	リソグラフ・	イ技術				人に必要な	安系技術に ノいて記	_
	6週	微細加工の	ための新技術					要素技術に づいて記 要素技術について記	 説明できる 説明できる
			/こびノレノ木/ 1又小り			3. プロセ	スに必要な		説明できる 説明できる 説明できる
	7週	真空技術	/こなり0ノ新月2×11月			3. プロセ 3. プロセ	スに必要な スに必要な	要素技術について記	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる
	7週	真空技術 中間試験	, CoJo J¥J IJ KINIJ			3. プロセ 3. プロセ 3. プロセ	スに必要な スに必要な スに必要な	要素技術について記 要素技術について記	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる
前期		7 (3. プロセ 3. プロセ 3. プロセ これまでに きる 4. プラズ , 説明でき	スに必要な スに必要な スに必要な 学習した内 マを用いた る	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して, 問題 ドライプロセスの記	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し
前期	8週 9週 10週	中間試験 プラズマの プラズマの	定義生成と制御	El Vali		3. プロセ 3. プロセ 3. プロセ これまで きる 4. 説明で 4. 説明で 4. 説明で 5. こさ 4. 説明で 5. こさ	スに必要な スに必要な スに必要な 学習した内 マを用いた る マを用いた る	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して, 問題 ドライプロセスの記 ドライプロセスの記	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し
前期	8週 9週 10週 11週	中間試験 プラズマの: プラズマの: プラズマの:	定義 生成と制御 診断技術(1)分光			3. プロセ 3. プロセ 3. プロセ これまる 4. 説 ブラスき 4. 説 プ明 フま 5. プロセ	スに必要な スに必要な スに必要な 学習した内 マを用いた る マを用いた る スを診断す	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して, 問是 ドライプロセスの記 ドライプロセスの記 る技術について説明	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 見できる
前期	8週 9週 10週 11週 12週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの	定義 生成と制御 診断技術(1)分光 診断技術(2)質量			3. プロセ 3. プロセ 3. プロセ これまでに きる 4. 説 プラスき 4. 説 プリで 5. プロセ 5. プロセ	スに必要な スに必要な スに必要な 学習した内 マを用いたる マを用いたる スを診断す スを診断す	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して, 問是 ドライプロセスの記 ドライプロセスの記 る技術について説明 る技術について説明	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 関を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 用できる 月できる
前期	8週 9週 10週 11週 12週 13週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導	定義 生成と制御 診断技術(1)分光 診断技術(2)質量 入			3. プロセ 3. プロセ 7 プロセ 7 プま プリ プリ 4. 説 プリ プリ デラ 5. と デ 6. と デ 6. と デ 6. 6. 6.	スに必要な スに必要な スに必要な 学習したの でる マる マる スを診断す スを診断す にの望高性能い スのにの 裏の スのにの でも スのに でも スをいます スをいます スをいます スをいます スをいます スをいます スをいます スをいます。 スをいます。 スをいました。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スと。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをい。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをいる。 スをい。 スをい。 スをいる。 スをい。 スをい。 スをいる。 スをい。 スをい。 スをい。 スをい。 スをい。 スをい。 スをい。 スをい	要素技術について記要素技術について記要素技術について記容を理解して,問題ドライプロセスの記がライプロセスの記技術について説明る技術について説明できる.化に向けた課題を記てに向けた課題を記	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 月できる 月できる 別できる
前期	8週 9週 10週 11週 12週 13週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導 プロセス技	定義 生成と制御 診断技術(1)分光記診断技術(2)質量が 入 術の展開			3. プロセセンファイン コロセロン コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカ	スに必要な スに必要な スに必要な マを用いた マを用いた る スを診断す スを診断す スを診断す に間にに にい のに な ス展望に にしい と ス	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して,問題 ドライプロセスの記 ドライプロセスの記 る技術について説明 る技術について説明 化に向けた課題を記 て説明できる.	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 目できる 月できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる
前期	8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導	定義 生成と制御 診断技術(1)分光記診断技術(2)質量が 入 術の展開			3. プロセ 3. プロセに 3. プロセに 4. 説 プリテンス 4. 説 プリ プリア 5. プラフラン 5. プラフラン 5. アクラン 6. との 7. アクラン 6. との 7. アクラン 7. アクラン 7. アクラン 8. アクラン 8. アクラン 8. アクラン 8. アクラン 9. アクシン 9. アクシ 9. アクシ 9. アク 9.	スに必要な スに必要な スに必要な マを用いた マを用いた る スを診断す スを診断す スを診断す に間にに にい のに な ス展望に にしい と ス	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して,問 ドライプロセスの記 ドライプロセスの る技術について説明 る技術について説明 化に向けた課題を記 て説明できる.	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 目できる 月できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる
	8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導 プロセス技	定義 生成と制御 診断技術(1)分光記診断技術(2)質量が 入 術の展開			3. プロセセンファイン コロセロン コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカ	スに必要な スに必要な スに必要な マを用いた マを用いた る スを診断す スを診断す スを診断す に間にに にい のに な ス展望に にしい と ス	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して,問 ドライプロセスの記 ドライプロセスの る技術について説明 る技術について説明 化に向けた課題を記 て説明できる.	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 月できる 月できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる
	8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導 プロセス技	定義 生成と制御 診断技術(1)分光記診断技術(2)質量が 入 術の展開 習	分析		3. プロセセン 3. プロロセン 3. プロロでに フラマ・ファーロロン 4. 説・説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	スに必要な スに必要な スに必要な マを用いた マを用いた る スを診断す スを診断す スを診断す に間にに にい のに な ス展望に にしい と ス	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して, 問題 ドライプロセスの記 がある技術について説明 る技術について説明 る技術について説明 を記 化に説明できま記 化に説明できまる。 でを理解して, 問題 でを理解して, 問題	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 夏を解くことがで 重要性を理解し 更要性を理解し 月できる 月できる 別識し, 必要な技 認識し, 必要な技 認識し, とがで
前期	8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	中間試験 プラズマの プラズマの プロセスの プロセスの 新材料の導 プロセス技	定義 生成と制御 診断技術(1)分光記診断技術(2)質量が 入 術の展開			3. プロセセンファイン コロセロン コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカー コーカ	スに必要な スに必要な スに必要な マを用いた マを用いた る スを診断す スを診断す スを診断す に間にに にい のに な ス展望に にしい と ス	要素技術について記 要素技術について記 要素技術について記 容を理解して,問 ドライプロセスの記 ドライプロセスの る技術について説明 る技術について説明 化に向けた課題を記 て説明できる.	説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 説明できる 見を解くことがで 重要性を理解し 重要性を理解し 目できる 月できる 別できる 別できる 別できる 別できる 別できる

利日甘草	6工来101寸寸	門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)		教科名	応用電子回路論
17口至1	楚情報							
科目番号		0013	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		科目区分		専門 選択	
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位	: 2
開設学科		総合イノベ- ロジーコープ		攻(ロボットテクノ	対象学年		専1	
開設期		後期			週時間数		2	
教科書/教	材		用電子回路論 著(John Wiley 8		書:Principles	of Active	Network S	Synthesis and Design, Gobind
旦当教員		近藤 一之						
到達目標	票							
の設計に追	適用できる.	必要な基礎的	事項を理解し,	オペアンプを用いて	回路を設計す	るために	必要な専門知	D識を理解し,オペアンプの応用回路
レーブリ	ノツク	理想的な到達レベルの目安			標準的な到	幸し ベリカ	7日卒	
				<u> </u>	電子回路を			
评価項目1	1		的事項を理解し ことができる.	, 応用問題を解く	的事項を理解	解し, 基本 できる.	的な問題を	が事項を理解し、基本的な問題を 解くことができない。
評価項目2	2		るために必要な	いて回路を設計す 専門知識を理解し)応用回路の設計に	オペアンプ [*] るために必 っオペアン 適用できる	要な専門を プの基本回	1識を理解し	るために必要な専門知識を理解し
学科の至	到達目標項目	目との関係	•					
教育方法	去等	T						
概要		学科の「電子学習した. で のオペアンフ する.	子回路」の授業 この応用電子回記 プ応用回路,特(では,トランジスタ 路論では,まず基本 に,能動フィルタの	の動作やその 事項の復習を 特性について	等価回路を行う、続い 理解を深め	を用いて増幅 ハてオペアン める. また,	回路の動作を解析することを中心に プの基本動作を理解し、さらに各種 回路網の解析と合成についても学習
受業の進 <i>&</i> 容・方法	め方と授業内	・授業は講真	義形式で行う	教育到達目標(B)< 講義中は集中して聴 週の「到達目標」に	:講する.)a)に対応する. に相当するものとする.
注意点		ていない者(〈単位修得 〈あらかじる 〈レポート 〈備考〉授 間の総計が	には再試験を実 要件〉学業成 要件 学業で 学され を深 学 で 時間 に 明 間 す の に は り に に い き に り に り で り り り り り り り り り り り り り り り	施する. で60点以上を取得 礎知識の範囲〉本教 るため,必要に応じ 習時間と,予習・復 する学習内容である	すること 対対は学科で履いて演習課題等 で演習は明試験 で関いて関試験	修した電子 を与える. , 定期試験 前提とした	子回路の学習	中間試験については、60点に達し 引が基礎となる教科である。 学習も含む)に必要な標準的な学習時 対制に基づき授業を進める、自己学習
		一派になる教	性である	- 1 Jen e 300 a	5. 日頃から自	己学習に励	訪むこと. オ	を教科は後に学習するセンサエ学の基本を表現しています。
	画		性である.	т Т <u>ж</u> ш слоу с	5. 日頃から自	己学習に加	动むこと. オ	表教科は後に学習するセンサエ学の基
受業計画	週週	授業内容・		T JACK CONTRACTOR	5. 日頃から目	己学習(こ) 週ごとの	动むこと. 4	教科は後に学習するセンサエ学の基
受業計画		授業内容・プ	方法	フの法則(理論と演	. 日頃から目	出字習(こ)週ごとの1. オー	励むこと、4 到達目標	
受業計画	週	授業内容・オームの法則	方法則,キルヒホッ)		3. 日頃から目	過ごとの 1. オー を求める 2. テブ	動むこと、オ 到達目標 ムの法則、= ことができる ナンの定理。	
受業計區	1週	授業内容・プオームの法則	方法則,キルヒホッ)	フの法則(理論と演	3. 日頃から目	過ごとの 1.求めランス 2.めで 3.定電 3.	動むこと、オ 到達目標 ムの法則, = ことができる ナンの定理の とができる.	
授業計画	週 1週 2週	授業内容・プ オームの法則 デブナンの? 定電圧源と?	方法 則, キルヒホッ 定理と重ね合わ	フの法則(理論と演 せの理(理論と演習 と演習)	3. 日頃から目	過ごとの 1.求テるで 2.めテるで 3.き 2.の 3.き 4.	がむこと. オ 到達目標 ムの法則, ことがで定理。 ナンのできる. 圧源と定電?	教科は後に学習するセンサエ学の基キルヒホッフの法則を説明でき、諸量と重ね合わせの理を説明でき、諸量を
受業計画	週 1週 2週 3週	授業内容・プ オームの法則 テブナンのプ 定電圧源とプ 交流回路の基	方法 則, キルヒホッ 定理と重ね合わっ 定電流源(理論 基礎(理論と演	フの法則(理論と演 せの理(理論と演習 と演習) 習) ペアンプ, 反転増幅	5. 日頃から目 (2) (2) (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	J フ フ フ フ フ ス カ の フ こ ス カ の こ で こ の こ で る で こ の こ で こ で る で こ で る で こ で る で る で る で る で る で る で る で る で る で る で る で る で る で る の で る で る の で る の で る の で る の で る の で る の の で る の の の の の の の の の の の の の	がむこと. オ 到達目標 ムの法則, :- ことがで定理る. とができる. 圧源と定電で 回路の基礎を	本教科は後に学習するセンサエ学の基本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を でき、諸量を求めることが
授業計画	週 1週 2週 3週 4週	授業内容・プ オームの法則 テブナンのプ 定電圧源とプ 交流回路の オペアンプの 転増幅回路, オペアンプの	方法 則、キルヒホッ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論と演 の基礎(理想オ ・ボルテージフ の基礎 続き (バ	フの法則(理論と演 せの理(理論と演習 と演習) 習) ペアンプ, 反転増幅	32 日頃から目 (22 日頃から目 (23 日頃から日 (23 日頃 (23	過ぎに 週ご オめ テる 定る 交 1.求 テる 定る 交 4.る. 5.	がむこと. オ 到達目標 ムの法則, ことがで定せ、 ナンのできる. 圧源と 基礎 アンプの基礎	本教科は後に学習するセンサエ学の基 キルヒホッフの法則を説明でき、諸語 る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を 症源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週	授業内容・プ オームの法則 テブナンのプ 定電圧源とプ 交流回路の型 オペアンプの オペアンプの オペアンプの オペアンプの オペアンプの	方法 則、キルヒホッ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論と演 の基礎(理想オ がボルテージフ の基礎 続き(バ 分回路)	フの法則(理論と演習 せの理(理論と演習) 習) ペアンプ,反転増幅 オロワ) 、ッファ,加算回路, 応用(RCローパス:	る. 日頃から目 習) 記回路, 非反 減算回路, 積	プラック では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	がむこと. オ 到達目標 ムの法がで定きる. ナとがで定きる. 上とが。と 上とが。と と 上とができる。 で た かのき 定 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	株が料は後に学習するセンサエ学の基本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を でででででき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ をについて説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容・プ オームの法則 テブナンのプ 定電圧源とプ 交流回路の型 オペアンプの オペアンプの オペアンプの オペアンプの オペアンプの	方法 則、キルヒホッ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論と演 の基礎(理想オ 、ボルテージフ の基礎 続き(バ 分回路)	フの法則(理論と演習 せの理(理論と演習) 習) ペアンプ,反転増幅 オロワ) 、ッファ,加算回路, 応用(RCローパス:	る. 日頃から目 習) 記回路, 非反 減算回路, 積	プログライン はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	がむこと. オ 到達目標 ムことがで定理。 とかで定きでで と上がでと定 原路の基礎で アンプの基のアンプの基のアンプのを アンプのを表して、アンプのファンプのファンプのファンプのファンプのファンプのファンプのファンプのファ	本がは後に学習するセンサエ学の基準ルビホッフの法則を説明でき、諸語る. と重ね合わせの理を説明でき、諸量を流源を説明でき、諸量を求めることができ、諸量を求めることができ。 を説明でき、諸量を求めることができを を説明でき、諸量を求めることができる。 世について説明できる。 世について説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容・プ オームの法則 デブナンのの 定電圧源との 交流 ペ増にアンロンの オペアンロンの オペアンプを サー間試験 オペアンプを サートリングを サートリンが サートリンが サート サート サート サート サート サート サート サート サート サート	方法 割, キルヒホッ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論と演 の 基礎(理想オー の 大ボルテージ の フィルタへの) 用いた1次ロー/	フの法則(理論と演習 と演習) 習) ペアンプ, 反転増幅 オロワ) 、ツファ,加算回路, 応用 (RCローパス: (スフィルタ)	西 日頃から目 習) 回路, 非反 減算回路, 積 フィルタ, オ	過ります。 週 1 を 2 求 3 で 4 る 5	がむこと. オ 到達目標 ムことがで定きで 上とがで定する. 大とが変きを 上とがでかった。 上とがでかででででででででででででででででででででででででででででででででです。 アンプラックでは、 アンプラッとは、 アンプラックでは、 アンプラックでは、 アンプラックでは、 アンプラックでは、 アンプラックでは、 アン	本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を 流源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ をごいて説明できる。 をこついて説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 タを説明し、諸量を求めることができ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容・プオームの法則 テブナンの 定電圧 源と で	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論と演 の、ボルテージー のカフィルタへの カフィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの フィルタへの	フの法則(理論と演習と演習) ペアンプ, 反転増幅 オロワ), 反転増幅 オロワンア,加算回路, 応用(RCローパス: (スフィルタ) 応用続き(1次ハイ (ey回路)) 応用続き(双2次位	5. 日頃から目 図図) II回路, 非反 減算回路, 積 フィルタ, オ	過 1 を 2 求 3 で 4 る 5	がむこと. オ 到達目標 ムことがのできまいで定さる電源のででででででできます。 アンプののをできませずでである。 アンプののをできませずでである。 アンプののをできませばない。 アンプロののでは、アンプロのでは、アンプログロックである。 アンプログロックである。	本がは後に学習するセンサエ学の基本がは後に学習するセンサエ学の基本がとまた。 を重ね合わせの理を説明でき、諸量を では、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容・カームの法則 オームの法則 テブナンの 定電圧源と 交流 アニア ア で で で で で で で で で で で で で で で で で	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わったコークフィルタへの のフィルタへの	フの法則(理論と演習と演習) と演習) ペアンプ, 反転増幅 オロワア,加算回路, 応用(RCローパス でスフィルタ) 応用 続き(1次ハイ (ey回路)) 応用 続き(双2次位 成法) 応用 続き(Sallen-	西 日頃から目 (国際) (国際) (国際) (国際) (国際) (国際) (国際) (国際)	過 1 を 2 求 3 で 4 る 5	がむこと. オ 到達目標 ムこナンがで定きで定している。 「はいっとがのできます。」 「ないっとででででです。 「ないっとででです。 「ないっとではない。 「ないっとではない。」 「ないっとではない。 「ないっとではない。」 「ないっとではない。 「ないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないっとではないいっとではない。」 「ないっとではないっとではないいっとではないではない。 「ないっとではないっとではない。」 「ないっとではないいっとではないいっとではないいっとではないいっとではないいっとではないいっとではないいっとではないい。 「ないっとではないいっとではないい。」 「ないっとではないいっとではないいっとではない。 「ないっとではないいっとではないいっとではないいっとではないいい。 「ないっとではないいっとではないいっとではないい。 「ないっとではないいっとではないいい。 「ないっとではないいっとではないいっとではないい。 「ないっとではないいっとではないいではないいい。 「ないいっとではないいっとではないいいいいい。 「ないっとではないいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を 施源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明できる。 をについて説明できる。 をについて説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 タを説明し、諸量を求めることができ
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容・プ オームの法則 テブナンのの 定電 圧 回 ア マ マ マ で で で で で で で で で で で で で で で で	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わ 定理と重ね合わ 定電流源(理論 基礎(理論 スポルテージー のフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィルタへの カフィールター のフィールター のフィー のフィールター のフィー のフィー のフィールター のフィー のフィー のフィー のフィー のフィー のフィー のフィー のフィ	フの法則(理論と演習 せの理(理論と演習) 習) ペアンプ, 反転増幅 オロワ) ボッファ,加算回路, 応用(RCローパス: (スフィルタ) 応用(続き (1次ハイ Key回路)) 応用続き (双2次伝 成法) 応用続き (Sallen- ったパイカッド構成	b. 日頃から目 習) 副回路, 非反 減算回路, 積 フィルタ, オ プスフィル 達関数, 正 Key回路の解 法)	世界である。 週 1を 2 求 3 で 4 る 5 . オ オ ま オ オ オ ま オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ	がひこと. オ 到立ことと. オ 到立ことと 国	株 教科は後に学習するセンサエ学の表 キルヒホッフの法則を説明でき、諸語 3. と重ね合わせの理を説明でき、諸量を 流源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明できる。 世について説明できる。 そについて説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容・プライン では、	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わった。 定理と重ね合わった。 定理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	フの法則(理論と演習と演習) 図) ペアンプ,反転増幅 オロワ) 、「反転増幅 ステンプ,反転増幅 ステンプ,反転増幅 ステンプ, なアンプ, な用(RCローパス: (スフィルタ) 応用(RCローパス: (スフィルタ) 応用(表き (双2次伝 成法) 応用続き (Sallen- のにようで、 の回路の節点方程式	記日頃から目 習) 記画路、非反 減算回路、積 フィルタ、オ がスフィル 達関数、正 Key回路の解 法と rcuits)	週 1 を 2 求 3 で 4 る 5	がい 対 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る。 と重ね合わせの理を説明でき、諸量を 施源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明できる。 をについて説明できる。 でしいて説明できる。 では、からないではいて説明できる。 では、ないではいて説明できる。 では、ないではいて説明できる。 では、ないではいて説明できる。 では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容・プラインのでは、アースのでは、アースのでは、アースのでは、アースでは、アーないは、アースでは、アースでは、アースでは、アーないは、アースでは、アースでは、アースでは、アースでは、アースでは、アースでは、	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わった。 定理とでは、理論には、理論には、理論には、理論には、理論には、理想では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	フの法則(理論と演習と演習) 図) ペアンプ, 反転増幅 オロワ) 、「大田ででは、アンプ、「大京を増幅 オロワ) 、「スフィルタ) 応用(RCローパス: (RZフィルタ) 応用続き(1次ハイ (RY回路)) 応用続き(Sallen- で成法) での回路の方程式 でに、アローのでは、方程式 でに、アローのでは、方程式 でに、アローのでは、方程式 では、アローのでは、	記日頃から目 習) 記画路、非反 減算回路、積 フィルタ、オ がスフィル 達関数、正 Key回路の解 法と rcuits)	過 1を 2求 3で 4る 5 5 6 こる 6 6 7 8た で パ ペ ペ 点 ラを の 一る ブこ電・流 ペ ペ で ペ ペ 点 ラを の 一る ブこ電・流 ペ ペ で ペ ペ 点 ラを で パ ペ ペ 点 ラを かんしょう かんしゅう しゅう かんしゅう かんしゅう しゅう かんしゅう はんしゅう しゅう かんしゅう しゅう かんしゅう しゅう しゅう かんしゅう しゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	がいています。 オーター アーア 学 アーア カン明でこと・オーター アーア 学 アーア カン では、までででは、 ののののでは、 からないでは、 ののののでは、 からないでは、 からないではいいでは、 からないでは、 からないでは、 からないでは	本ルとホッフの法則を説明でき、諸語の と重ね合わせの理を説明でき、諸量が に源を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明でき、諸量を求めることができ を説明できる。 をについて説明できる。 ができないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは明できる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできる。 では、からないでは、からないできないできる。 では、からないでは、からないできない。 では、からないでは、からないできないできない。 では、からないできないできない。 では、からないできないできないできないできない。 では、からないできないできない。 では、からないできないできないできない。 では、からないできないできないできないできない。 では、からないできないできないできないできない。 では、からないできないできないできないできないできない。 では、からないでは、からないできないできないできないできないできない。 では、からないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	授業内容・カームの法則を対している。 ででは、アームの法則を対している。 ででは、アームのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースので	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わった。 定理とでは、理論では、理論では、理論では、理論では、理想では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	フの法則(理論と演習と演習) ペアンプ, 反転増幅 オロワ) ベアンプ, 反転増幅 オロワ) ベアンプ, 反転増幅 オロワ) 応用(RCローパス: (スフィルタ) 応用(表さ(双2次位 成法) 応用続き(Sallen- のによりでは、 での回路の節点方程式 を Elements) た解析(Simplified Amplifier Circuits)	記日頃から目 習) 記画路、非反 減算回路、積 フィルタ、オ がスフィル 達関数、正 Key回路の解 法) rcuits)	過 1 を 2 求 3 で 4 る 5 5 6 こる 6 6 7 8 た 9 1を 7 次 2 で ペ ペ ペ で ペ ペ ペ 点 うを ペ の 一る ブン電・流 ペ ペ で ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ の で ペ ペ かん	がい 対	本ルヒホッフの法則を説明でき、諸語る. と重ね合わせの理を説明でき、諸語を説明でき、諸量を求めることができ、諸量を求めることができまいて説明できる. 世について説明できる. ないタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルタへの応用について説明できる. イルターの応用について説明できる. イルターの応用について説明できる. イルターの応用について説明できる. イルターの応用について説明できる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容・カームの法則を対している。 ででは、アームの法則を対している。 ででは、アームのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースのができます。 ででは、アースので	方法 割、キルヒホッ 定理と重ね合わった。 定理とでは、理論には、理論には、理論には、理論には、理論には、理想では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	フの法則(理論と演習と演習) ペアンプ, 反転増幅 オロワ) ベアンプ, 反転増幅 オロワ) ベアンプ, 反転増幅 オロワ) 応用(RCローパス: (スフィルタ) 応用(表さ(双2次位 成法) 応用続き(Sallen- のによりに対して、 のになるでは、 になるでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 ただんでは、 たがればればればればればればればればればればればればればればればればればればれば	記日頃から目 習) 記画路、非反 減算回路、積 フィルタ、オ がスフィル 達関数、正 Key回路の解 法) rcuits)	過 1 を 2 求 3 で 4 る 5 5 6 こる 6 6 7 8 た 9 1を 7 次 2 で ペ ペ ペ で ペ ペ ペ 点 うを ペ の 一る ブン電・流 ペ ペ で ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ ペ で ペ ペ 点 うを ペ の で ペ ペ かん	がい 対	本ルとホッフの法則を説明でき、諸 と重ね合わせの理を説明でき、諸量 た源を説明でき、諸量を求めることができ、諸量を求めることができ、諸量を求めることができ、諸量を求めることができについて説明できる。 を説明できる。 を説明できる。 をについて説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。 イルタへの応用について説明できる。

	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	0	100

鈴鹿									
科目基础	逆情報	l			Taylor A		T 	N33 IP N. 16	
科目番号		0014			科目区分	1 224 /4-344	専門コース		
授業形態		授業	> _ > 工尚市	Th / [] # _ h	単位の種別	と単位数	学修単位: 2	<u>'</u>	
開設学科		総合イノヘー ロジーコー <i> </i>		攻(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教	材	教科書: ノー	- ト講義、配布 - ^ ス 制 御 技 術 J	プリントを使用	送書:「シー 産業図書)	ケンス制御	のしくみ 上	:、下」 青木	正夫著(技術評論社
担当教員		横山 春喜			生未凶目/				
到達目標	 票								
		長置の概要を排	 巴握しており,	その基礎となる論理	 里代数を理解し	 ,, シーケン		<u></u> 書きができる	<u> </u>
ルーブリ	リック								
		:	理想的な到達し	ノベルの目安	標準的な到	達レベルの]安	未到達レベル	レの目安
評価項目1			シーケンス制御 を説明でき、そ る.	即と制御装置の概要 その知識を応用でき	シーケンス を説明でき	制御と制御る.	長置の概要	シーケンス を説明できた	削御と制御装置の概要 い.
評価項目2	2		論理代数の応用 できる.	問題を解くことが	論理代数の できる.	基本問題を	解くことが	できない.	基本問題を解くことが
評価項目3			シーケンス回路 できる.	各を設計することが	シーケンス る.	回路の読み	書きができ	シーケンス回 ない.	回路の読み書きができ
	到達目標項目	目との関係							
教育方法	去等	l							
概要				について実際の回路					Š.
授業の進む 容・方法	め方と授業内	・すべてのP ・授業は講 <mark>算</mark> ・「授業計画	7谷は,字智・ 遠形式で行う. 画」における各	教育目標(B)<専門 講義中は集中して駆 週の「達成目標」に	I>およひJABI 講する. にこの授業で習	EE基準 1 (1 得する「知)(d)(2)a. 識・能力」に	に対心する. :相当するもの)とする.
注意点		く学業成績の合は、学業が再試験を課し 清で置き換え	找績の15%を √, 再試験の成 ₹るものとする	び評価基準>中間, 上限として評価に組 績が中間試験の成績	期末の2回の]み入れること jを上回った場	がある. た 合には, 6	だし,中間試 0 点を上限と	験で60点に :して中間試験	達していない者には の成績を再試験の成
	.	く合再績 くくく必く おいま がいま くく は 試で 単あ 自要 を からこな 考と がった からこな 考と がった からこな きん からこな きん からに からに からに からに からに かった からに かった かった かった かった かった かんし かんしゅう かんり かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんり かんしゅう かんり かんり かんしゅう かんり かんしゅう かんり	D評価方法を成る が表す。 が表す。 が表す。 が表する。 がまない ではない	び評価基準>中間, 上限として評価に約 績が中間試験の成約 で60点以上を取得 一般知識の範囲>自 る学習時間と、予習	期末の2回の 引み入れること を上回った場 すること. 計御、電気・聞 は、復習(中間	がある. た 合には, 6 電子回路及 I試験. 定期	だし, 中間記 0 点を上限と びデジタル回 試験のための	験で60点に して中間試験 ひるを ひま砂知識 ひまでである。	達していない者には の成績を再試験の成
		く合再績くくく必く求 学は試で単あ自要備め 業,験置位ら己な考る のでであるのでである。 がでいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	D評価方 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	び上線を が上線で でも でも のので のので のので のので のので のので	期末の2回の 引み入れること を上回った場 すること. 計御、電気・聞 は、復習(中間	がある. た 6 電子回路 D D D D D D D D D D D D D D D D D D D	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための	験で60点に して中間試験 ひるを ひま砂知識 ひまでである。	「達していない者には 食の成績を再試験の成 状が必要である. 及びレポート作成に
	週	く合再績 くくく必く おいま がいま くく は 試で 単あ 自要 を からこな 考と がった からこな 考と がった からこな きん からこな きん からに からに からに からに からに かった からに かった かった かった かった かった かんし かんしゅう かんり かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんり かんしゅう かんり かんり かんしゅう かんり かんしゅう かんり	D評価方 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	び上線を が上線で でも でも のので のので のので のので のので のので	期末の2回の 引み入れること を上回った場 すること. 計御、電気・聞 は、復習(中間	がある., た 6 電子験では である。 電子験であり である。 である自 である自 である自	だし、中間記の点を上限とびデジタル回試験のための、こ学習の成果	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む)	「達していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を
		く合再績では、 学は試で単あ自要備め 大学をき修か学標との 内容・ 大学をである。 大学をである。 大学をできる。 大学では、 、 大学では、 、 大学で は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	D評価方法%のでは、 の	び上線を が上線で でも でも のので のので のので のので のので のので	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が 高は 三子験容 であり、 でめり、 でめり、 のの のの のの のの のの のの のの のの のの の	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための 二学習の成果 達目標 概念をつかる	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む) を評価するた	注していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法
	週	く合再績で単あ自要備め、	D評価の1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	び評価基準>中間, 上ででは 上ででは に に に に に に に に に に に に に に に に に に	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が 高は 三子験容 であり、 でめり、 でめり、 のの のの のの のの のの のの のの のの のの の	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための 二学習の成果 達目標 概念をつかる	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む) を評価するた	「達していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を
	週 1週	く合再績くくく必く求 授 シーケケ ケ ケ ケ ケ カ ス ま ま から	D評価の1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	び上級 本語 を	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が合 電試内を	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための 二学習の成果 達目標 概念をつかる	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む) を評価するた	注していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法
	週 1週 2週	く合再績くくく必く求 授 シーケ ケ 点線業課換得・2000 会 ス フ リーク	D評価の1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	び上線 中価に 編集 と 中価に 編集 と 下側 に 編集 と 下側 に 報 を 下側 に 報 を 下側 に 報 を 下側 と の の の で 6 の 点 の 範 で 6 の 点 の 範 で 6 の 点 の 範 で 6 の 点 の 範 で 6 の 点 の で 6 の 点 の で 6 の 点 の で 6 の 点 の で 6 の 点 の で 6 の 点 の で 6 の に か で 7 の で	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が合 電試内を	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための 二学習の成果 達目標 概念をつかる	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む) を評価するた	注していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法
	週 1週 2週 3週 4週 5週	く合再績(<)(<)学は試で単あ自要備め(<)	D評価の1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	び 共	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が合 電試内を 電試内を 選 一 でめ でめ でめ でめ でめ で り で り で り で り で り で り	だし、中間記 0点を上限と びデジタル回 試験のための 二学習の成果 達目標 概念をつかる	験で60点に して中間試験 別路の基礎知識 学習も含む) を評価するた	注していない者には の成績を再試験の成 はが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	く合再績(<)(<)学は試で単あ自要備め(<)	D評価の1 対域の1 対域の1 対域の1 対域の1 対域の1 対域の1 対域の1 対域の2 対域の2 対域の2 対域の3 が3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 が3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 が3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 が3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 が が 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3 対域の3	び上線では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が合 電試内を 選試内を 選ご、 選定あ、 と、 制るは 回、でめ と、 制を 2、い記 2、い記 2、い記 2、い記 2、こい記 2、上記 2 上記 2 上記 2	だし、中間に 0 点を上限と びデジタルロ 試験のための こ学習の成果 達目標 概している 置の種類を分	験で60点に して中間試験 の基礎知識 学習も含む) を評価するた か、その目的、	達していない者には の成績を再試験の成 はが必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	く合再績(<)(<)学は試で単あ自要備め(<)	D評価の1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	び上線では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	期末の2回のと場合を表現します。 また このでとまれる こと では できまれる こと では できまれる こと できまれる できまれる こと できます いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	が合 電試内を	だし、中間を 0 がデジタルロ びボデジタルロの 試験のための は学習の成果 達目標 でいる 置の種類を分 機器の種類を分	験で60点に して中間試験 はかいまではいました。 はないではないでは、 とないでは、 はないでは、 はないでは、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とないでも、 とない。 とないでも、 とをも、 とないでも、 とをも、 とをも、 とをも、 とをも、 とをも、 とをも、 とをも、 とを	達していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	く合再績くく必く求授シ寿 毎接日プシー業,験置位ら己な考る内ケケ左点にグケ大ま,験置位ら己な考る内ケケケ点点にグケ大まよししし <td< td=""><td>D 評価</td><td>び上線では、 でも、 でも、 のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で</td><td>期末の2回のと場 東京れ回 こので 東京れ回 こので 東京れ回 こので 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は</td><td>が合 電試内を 電試内を 選 1.ど 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と</td><td>だし、たいでは、大きなのでは、では、たいでは、からないでは、では、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いい</td><td>験で60点に にして中間試験 はの基礎知識 学習も含む) を評価するたった。 か、その目的、 か、の目の、 か、大力でき原理、 できいます。 できるできる。</td><td>注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.</td></td<>	D 評価	び上線では、 でも、 でも、 のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	期末の2回のと場 東京れ回 こので 東京れ回 こので 東京れ回 こので 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は 東京は	が合 電試内を 電試内を 選 1.ど 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と 1.と	だし、たいでは、大きなのでは、では、たいでは、からないでは、では、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いい	験で60点に にして中間試験 はの基礎知識 学習も含む) を評価するたった。 か、その目的、 か、の目の、 か、大力でき原理、 できいます。 できるできる。	注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	く合再績くく必く求授シ有無日プシ中論定学は試で単あ自要備め業ーー一接接Cロ一間理展表大大大上上 <t< td=""><td>D</td><td>び上線では、</td><td>期末の2回のと場合を持ちます。 1 日本 1 日</td><td>が合 電試内を 選 (1) と (1) と (2) に (3) に (4) で (4) で (5) で (6) で</td><td>だし、たまでは、大きなのでは、では、たっとのでは、できないでは、では、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、でき</td><td>験で60点に 脱して中間試験 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまで</td><td>注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.</td></t<>	D	び上線では、	期末の2回のと場合を持ちます。 1 日本 1 日	が合 電試内を 選 (1) と (1) と (2) に (3) に (4) で (4) で (5) で (6) で	だし、たまでは、大きなのでは、では、たっとのでは、できないでは、では、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、でき	験で60点に 脱して中間試験 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまで	注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	く合再績くく必く求授シ寿 無田エプシ中論定 シ番学は試で単あ自要備め業ー一一接接 C ロー間 理理 ー号業乗上上<	D N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	び上橋が中 6 0 点の時間 7 回標 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1	期末入2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	が合 電試内を 週 1な 1な 1な 2 1な 1な 2 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な 1な	だし、たまでは、大きなのでは、では、たっとのでは、できないでは、では、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、でき	験で60点に にして中間試験 はの基礎知識 学習も含む) を評価するたった。 か、その目的、 か、の目の、 か、大力でき原理、 できいます。 できるできる。	注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.
注意点 授 業 計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	く合再績(<) くく必く求授シ寿 無 Eプ シ 中 論定 シ番 シーク は 接 C ロ ー 間 理理 ー号 ーサ は 接 C ロ ー 間 理理 ー号 ーサ は 点 に グ ケ 試 代 ケ 、ケ カ 点 点 に グ ケ 試 代 ケ 、ケ カ 点 点 に グ ケ 試 代 ケ 、ケ ス ス シ リ リ よ ラ ン 験 数 ン端 ン ス タ ス と る マ ス と な と な な と な と な と る マ ス と な と な と な と な と な と な と な と な と な と	D 計	び上橋が の () () () () () () () () () (期みた す	が合 電試内を 週 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な	だし、たまでは、大きなのでは、では、たっとのでは、できないでは、では、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、でき	験で60点に 脱して中間試験 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまでは、 はないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまで	注していない者には の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート作成に かにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している 3.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	く合再績(<) くく必く求授シカ有無エプシー 神論定会路学は試で単あ自要備め業ー一接度日日<	D 対	び上橋が中 6 0 点の時間 7 回標 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1	期みた す	が合 電試内を 週 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1を 1 2 1 2 1 2 1 2 2 1 2 3 2 3 2 3 3 3 3 3	だしたが、大きないでは、大きないでは、からないでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	験で60点に 上で中間は 上を評価するたった。 一、その目的、 一、その目的、 一、でき原理、 一、「ないできない。」 一、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、」。 「ないでは、これでは、」。 「ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	接していない者には (の成績を再試験の成 とが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している る。 理解している。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	く合再績くく必く求授シ寿有無田プシ中論定シ番シ格学は試で単あ自要備め業ー一接接C口一間理理一一一を当上ま上ま上ま上ま上ま上ま上ま上ま上まま上まま <td>D P D D D D D D D D D D D D D</td> <td>び上続い (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)</td> <td>期みた す</td> <td>が合 電試内を 週 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1 2 1 2 1</td> <td>だしたが、では、おりますが、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは</td> <td>験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びませんである。 一をできないできる。 一をできるできる。 一をできるできる。 できないできないできる。 できないできないできる。 できないできないできないできる。 できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない</td> <td>達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.</td>	D P D D D D D D D D D D D D D	び上続い (本)	期みた す	が合 電試内を 週 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1 2 1 2 1	だしたが、では、おりますが、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは	験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びませんである。 一をできないできる。 一をできるできる。 一をできるできる。 できないできないできる。 できないできないできる。 できないできないできないできる。 できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	く合再績くく必く求授シ夕有無日プシーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	D 対	び上橋が の () () () () () () () () () (期みた す	が合 電試内を 週 1な 2て上上 1 3 3 5 6 7 6 7 7 7 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7	だしたが、では、おりますが、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは	験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びませんである。 一をできないできる。 一をできるできる。 一をできるできる。 できないできないできる。 できないできないできる。 できないできないできないできる。 できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	接していない者には (の成績を再試験の成 とが必要である。 及びレポート作成に とめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している る。 理解している。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	く合再績くく必く求授シ寿有無田プシ中論定シ番シ格学は試で単あ自要備め業ー一接接C口一間理理一一一を当上ま上ま上ま上ま上ま上ま上ま上ま上ままよよよ <td>D 対</td> <td>び上続い (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)</td> <td>期みた す</td> <td>が合 電試内を 週 1な2・い記2 1を制る2 2 1を制る2 2 1を制る2 2 1と記2 1 2 1 2 1 3 3 4 5 6 7 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8</td> <td>だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは</td> <td>験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びていました。 一を呼びています。 一を呼びまするためできる。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 できないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな</td> <td>達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.</td>	D 対	び上続い (本)	期みた す	が合 電試内を 週 1な2・い記2 1を制る2 2 1を制る2 2 1を制る2 2 1と記2 1 2 1 2 1 3 3 4 5 6 7 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8	だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びていました。 一を呼びています。 一を呼びまするためできる。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 できないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	く合再績くく必く求授シ夕有無日プシーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	D 対	び上続い (本)	期みた す	が合 電試内を 週 1な 2て上上 1 3 3 5 6 7 6 7 7 7 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7	だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びていました。 一を呼びています。 一を呼びまするためできる。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 できないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	く合再績くく必く求授シ夕有無 I プシ中論定シ番シ 各路 シ モ イ学は試で単あ自要備め 業 ー 一 接接 C ロー間 理理 ー号 ー 種 ー ー ン 成学をき修か学標/の 容 ン ン リリよ ラン験 数 ン端ン 路 ン の ロッ績業課換得で選準規で、 ・ ス レーるマス と ス子ス の ス 制 ツ の ロック の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	Display of the Disp	び上績・で礎知されている。 とは、	期みた ? す制・相提 . ク	が合 電試内を 週 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1な 2 1 2 1 2 1	だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	験しての点に動でて中間に対しての事態にあるためででです。 (1) (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で
授業計画	週	く合再績くく必く求授シシ有無エブシ中論定シ番シ各路シモイ学は試で単あ自要備め業ー一接接Cロ一間理理一号一種ーーー <t< td=""><td>D 対</td><td>び上続い (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)</td><td>期みた す</td><td>が合 電試内を 週 1な 2て上上 1 3 3 5 6 7 6 7 7 7 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7</td><td>だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは</td><td>験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びていました。 一を呼びています。 一を呼びまするためできる。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 できないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな</td><td>達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.</td></t<>	D 対	び上続い (本)	期みた す	が合 電試内を 週 1な 2て上上 1 3 3 5 6 7 6 7 7 7 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7	だしたが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	験で60点に 上を平価するためででもできる。 一を呼びていました。 一を呼びています。 一を呼びまするためできる。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 一を呼びまする。 できないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	達していない者には (の成績を再試験の成 が必要である. 及びレポート提出を 一をめにレポート提出を 制御内容,制御方法 構造,種類を理解し している。 3. 理解している. 遅んしている.

	工業高等專	門学校	開講年度	平成31年度(2	2019年度)	教科名	情報通信工	学特論
科目基礎	計報							
科目番号		0020	-	-	科目区分	専門 コ-	-ス選択必修	
授業形態		授業	-	-	単位の種別と単			
開設学科		1		女(ロボットテクノ		専1	· =	
 開設期		ロンーコ <i>ーン</i> 前期	<u>~)</u>			2		
教科書/教林	材	教科書: 工学シリース Compatibili Compatibili	ity", 2nd ed., C	[学](電気・電子 学]安達,佐藤(森 hristos Christopo layton R. Paul (W	エ学ライブラリ) 北出版) ulos(CRC Press)		理工学社)参表 Techniques of tion to Electro	6書:「基礎電気電子 Electromagnetic magnetic
担当教員		森 育子						
到達目標								
伝送線路に	こ関する基礎的	り事項を理解し	 して伝送路の回路	と計算を行うことが	 「できる.			
ルーブリ	ー 」いク							
// / /			理想的な到達レ	 ベルの日安	標準的な到達レ	ベルの日安	未到達レベノ	 Lの日安
===/=======				<u>, 、,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>		る基本問題を解く		<u>100日 </u>
評価項目1	•		ことができる.	۲۱۱۰ کیرندازا انسان	ことができる.		ことができた	
評価項目2								
評価項目3	3							
学科の到	達目標項	目との関係	<u>: </u>					
教育方法	 5等							
概要		現代の情報がなく分布定数解するととも英文資料を関	通信技術を理解す 数として扱う必要 もに,無線通信に 取り入れて講義す	「るためには高周波 更がある.この授業 こ不可欠であるアン することにより,厄	伝送路の理解がイ では,分布定数線 テナの基本を理解 分野の英語文献を	可欠である. 高原 路の基本を学習し なすることを目的と 読み, 書き, 理解]波においては, ,て伝送路に沿っ する. また, 情 なする能力を養っ	回路は集中定数では 5波動伝搬の特性を理 5報通信工学に関する 5.
授業の進め容・方法	か方と授業内	すべての内容	容は、学習・教育	育到達目標(B) < D「到達目標」は,	専門>、および」	ABEE基準1(2)(d)	(2)a)に対応する	3
注意点		く規でく本数く 的く (規でく本数く 的く) がい学で習成 , がい学で習成 , がい学で習成 ,	制に基づきでは、 は自己を が自己では、 が要では、 のでは、 をできるでは、 をできるできるできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	A論と電気磁気学(D基礎的な解析法は	授業を進め,自己献を用いる. 共に電気電子工学 既知として扱う. 間試験,定期試験 内容である.	学科,電子情報工学 そのための学習も言	『枓)などの教材	ポート提出を求めるの 料が基礎となる。複素 - ト作成に必要な標準
		<単位修得要 学業成績で	で60点以上を取	対得すること.		// & V 1.		
			で60点以上を取	灯得すること.		// & V 1.		
授業計画		学業成績で		収得すること.	2= -			
授業計画	週	学業成績で 授業内容・7	方法	奴得すること. 		ごとの到達目標	· F T T T T T T T T T T T T T	R向けンドニついて知って
授業計画		学業成績で	方法	奴得すること.		ごとの到達目標 情報通信工学の発	展の歴史や応用	1例などについて知って
授業計画	週	学業成績で 授業内容・2 情報通信工芸	方法 学序説	収得することダンス整合回路	1. UN	ごとの到達目標 情報通信工学の発 5.		B例などについて知って 対法を理解している.
授業計画 ———	週 1週	学業成績 授業内容・7 情報通信工等 集中定数回	方法 学序説		1. () \(\frac{1}{2} \) 3.	ごとの到達目標 情報通信工学の発 3. 集中定数回路によ	る整合回路の影	
授業計画	週 1週 2週 3週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工等 集中定数回距 分布定数線距	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式	-ダンス整合回路	1. 1. 2. 3. 3.	ごとの到達目標 情報通信工学の発 る. 集中定数回路によ 分布定数回路の特	る整合回路の記 性インピーダン	計法を理解している. シスについて理解してい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工等 集中定数回路 分布定数線路 分布定数線路	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式	-ダンス整合回路 (つづき)	1. U.3 2. 3. S.	ごとの到達目標 情報通信工学の発 5. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回	る整合回路の記 性インピーダン	計法を理解している. シスについて理解してい
授業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線路 分布定数線路 無損失線路	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式 ひ基礎方程式と名	-ダンス整合回路 (つづき)	1. UNS	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ	る整合回路の記 性インピーダン	計法を理解している. シスについて理解してい
授業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工学 集中定数回趾 分布定数線趾 分布定数線趾 無損失線路6 反射係数と2	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式 の基礎方程式と名 定在波比	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数	1. いる 2. 3. る. 4. 第4	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる	計法を理解している. シスについて理解してい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工業 集中定数回趾 分布定数線趾 分布定数線趾 無損失線路& 反射係数と2 第6週までの	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式 ひ基礎方程式と名	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数	1. いる 2. 3. る. 4. 第4 第4	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 週と同じ 週と同じ 週までの内容を理	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる	計法を理解している. シスについて理解してい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	学業成績で 授業内容・2 情報通信工学 集中定数回記 分布定数線記 分布定数線記 無損失線路の 反射係数とな 第6週までの 中間試験	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式 の基礎方程式と各 定在波比 D内容に関する問	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習	1. いる 2. 3. る. 4. 第4 第4	ごとの到達目標 情報通信工学の勇 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 週と同じ 週と同じ 週と同じ 週までの内容を理 週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる	計法を理解している. シスについて理解してい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線路 分布定数線路 無損失線路の 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解記	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 立基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習	1. いる 2. 3. る. 4. 第4 第4 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の第3. 集中定数回路によ分布定数回路の特分布定数線路の回過と同じ 過と同じ 過までの内容を理過と同じ 過と同じ 3週と同じ 3週と同じ 3週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 路計算ができる 解している.	計法を理解している. シスについて理解してい
	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線器 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解記 分布定数回路	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習	1. いる 2. 3. 3. 4. 第2 第2 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 週と同じ 週と同じ 週と同じ 個と同じ 個と同じ 個と同じ 別までの内容を理 過と同じ の力容を理 の力容を理 の力容を理	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している.	受計法を理解している.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	学業成績で 授業内容・2 情報通信工学 集中定数回路 分布定数線路 分布定数線路 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解 分布定数回路 スミスチャー	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している.	計法を理解している. ・スについて理解してい
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	学業成績で 授業内容・7 情報通信工等 集中定数回路 分布定数線器の 反射係数とで 第6週までの 中間試験解語 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第2 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の分 3. 集中定数回路によ分布定数回路の特分布定数線路の回過と同じ 1週までの内容を理び過と同じ 2週よで同じ 2週と同じ 3週と同じ 4元 東京 2000 大不定数回路によ スミスチャートの 8計算や整合回路によ1週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 路計算ができる 解している. るインピーダン 原理を理解して D設計を行うこと	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工等 集中定数回路 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と5 第6週までの 中間試験解語 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー 基礎電磁方利	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と各 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ スミスや整合回路によ スミスや整合回路によ スミブを整合回路によ 1週と同じ マクスウェルの記	る整合回路の設性インピーダン 路計算ができる 解している. るインピーダン 原理を理解して D設計を行うこと	受計法を理解している.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工等 集中定数回路 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と5 第6週までの 中間試験解語 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー 基礎電磁方利	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の分 3. 集中定数回路によ分布定数回路の特分布定数線路の回過と同じ 1週までの内容を理び過と同じ 2週よで同じ 2週と同じ 3週と同じ 4元 東京 2000 大不定数回路によ スミスチャートの 8計算や整合回路によ1週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 路計算ができる 解している. るインピーダン 原理を理解して D設計を行うこと	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解記 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー 基礎電磁方利 基礎電磁方利	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と各 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理	-ダンス整合回路 (つづき) B定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第5 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ スミスや整合回路によ スミスや整合回路によ スミブを整合回路によ 1週と同じ マクスウェルの記	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している. のおしている. の設計を行うこの 認磁方程式につい	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解記 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー 基礎電磁方利 基礎電磁方利	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理 ートの原理(つつ 程式 につづき)	-ダンス整合回路 (つづき) B定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第5 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ スミスヤ整一回路によ スミスや整一回路によ スミスや整一回路によ スミカでを可じ での内容を理 は過と同じ フクスウェルの記 4週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している. のおしている. の設計を行うこの 認磁方程式につい	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	学業成績。 授業内容・2 情報通信工 集中定数回路 分布定数線器 無損失線路の 反射係数と2 第6週までの 中間試験 中間試験解記 分布定数回路 スミスチャー スミスチャー 基礎電磁方利 基礎電磁方利	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理 ートの原理(つつ 程式 につづき)	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路 でき) でき)	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第5 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ スミスヤ整一回路によ スミスや整一回路によ スミスや整一回路によ スミカでを可じ での内容を理 は過と同じ フクスウェルの記 4週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している. のおしている. の設計を行うこの 認磁方程式につい	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	学業成績で 学業成績で	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理 ートの原理(つつ 程式 につづき)	-ダンス整合回路 (つづき) B定数 題演習 -ダンス整合回路	1. いる 2. 3. 3. 3. 4. 第4 第4 第5 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過と同じ 過と同じ 分布定数回路によ スミスヤ整一回路によ スミスや整一回路によ スミスや整一回路によ スミカでを可じ での内容を理 は過と同じ フクスウェルの記 4週と同じ	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している. のおしている. の設計を行うこの 認磁方程式につい	は計法を理解している. ・スについて理解している. ・ス整合を理解している におり、これを利用して とができる.
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	学業成績で	方法 学序説 路によるインピー 路の基礎方程式 路の基礎方程式と名 定在波比 D内容に関する問 説および復習演習 路によるインピー トの原理 ートの原理(つつ程式 程式(つづき) の内容に関する問	-ダンス整合回路 (つづき) 3定数 題演習 -ダンス整合回路 でき) でき)	1. いる 2. 3. 3. 4. 第4 第2 第2 第5 第7 第7 第7 第7 第7 第7 第7 第7 第7	ごとの到達目標 情報通信工学の系 3. 集中定数回路によ 分布定数回路の特 分布定数線路の回 過と同じ 過までの内容を理 過と同じ 分布定数線路の回 過までの内容を理 過と同じ 分布に関と同じ 分布に対し回じ インスチャーの路の 1週と同じ マクスラールの記 4週までの内容を 4週までの内容を	る整合回路の設性インピーダン 性インピーダン 路計算ができる 解している. るインピーダン 原理を理解して の設計を行うこと 電磁方程式について 理解している.	は計法を理解している. シスについて理解している. シス整合を理解している におり、これを利用して とができる.

	<u></u>	アイス 開講	年度 平成31年度 (2	2019年度)	孝		非破壊検査工学	
科目基础		T		Ta		I		
科目番号		0027		科目区分		専門 選択が		
授業形態		授業		単位の種別と単位	立数	学修単位:	2	
開設学科		総合イノベーション上 ロジーコース)	学専攻(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		前期		週時間数		2		
教科書/教	 女材	参考書:「非破壊評価		壊検査協会編(日	本非破坏	喪検査協会)	,「非破壊検査工学」 石井勇丑	
		郎著(産報出版) 他 未次 正寛	<u> </u>					
^{担ヨ教員} 到達目		木从 正見						
			 が安全上われわれに与え	 る影響を理解し、		去の原理や		
いての知	識を得ている.							
ルーブ!	リック							
			別達レベルの目安	標準的な到達レイ	ベルのE	接	未到達レベルの目安	
評価項目1		いて理解で	料強度へ及ぼす影響につでき,破壊力学的考察が でき,破壊力学的考察が 更に,複雑な問題へ応用	欠陥が材料強度/いて理解でき, できる.			欠陥が材料強度へ及ぼす影響にていて理解でき、破壊力学的考察ができない.	
評価項目	2		こ対する非破壊検査手法 理解し, より複雑な問題 きる.	内部欠陥に対する について理解して	る非破場 ている.	接検査手法	内部欠陥に対する非破壊検査手流について理解していない.	
評価項目	3	表面欠陥に について理 へ応用でき	こ対する非破壊検査手法 理解し, より複雑な問題 きる.	表面欠陥に対するについて理解して	る非破場 ている.	養検査手法	表面欠陥に対する非破壊検査手続について理解していない.	
学科の	到達目標項目	目との関係						
教育方法	法等							
概要		行うものである。実際 響を理解するとともに	破壊検査を担当していた の生産現場において問題 ,材料あるいは機械構造 欠陥に対する強度評価法	となる材料欠陥に 物中に存在する種。	ついてi 々の欠i	忍識し,それ なを非破壊的	の活用法も含めて講義形式の授業を れらが構造物の破壊強度へ及ぼす影 的に検出する評価手法について学ぶ	
授業の進 容・方法	め方と授業内	・すべての内容は、学	内容は, 学習・教育到達目標(B) <専門>および JABEE基準基準 1.2(d)(2)a)に対応する. 画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点		<あらかじめ要求されの要求されの要求されの要別数と初等関数の学習が基礎で自己学習と対策で保証の総計が、 (有者) を	業成績で60点以上を取得すること. ちらかじめ要求される基礎知識の範囲> 角関数と初等関数の微分積分,ならびに材料力学の基礎等.理解に必要なことがらは適宜補足する.本教科は 弾性学の学習が基礎となる教科である. 自己学習> 業で保証する学習時間と,予習・復習(中間試験,定期試験のための学習も含む)及びレポート作成に必要な 学習時間の総計が,90時間に相当する学習内容である.					
		の工業現場で使用され と良い.本教科は後に	.Cいる手法を中心に紹介 学習する物性工学の基礎	する. 各目興味を となる教科である。	侍つ (♬ ,	主美 新聞寺 (で情報を集めたり資格制度を調べる	
授業計画	画							
	週	授業内容・方法		週ご	週ごとの到達目標			
	1週	非破壊検査・非破壊評	価の概略	1. 非	破壊核	査・非破壊	評価の概略を把握できる.	
	2週	材料・構造物中に存在	する欠陥について				存在する欠陥について理解できる.	
	3週	欠陥が材料強度へ及ぼ					及ぼす影響について理解できる.	
	4週	き裂材に関する破壊力	字的考察			に関する破り	懐力学的考察ができる.	
	5週	き裂材の余寿命評価		-	4	AZ \		
	6週	放射線透過試験の概要				透過試験に	ついて理解できる。	
	7週	放射線透過試験の実際		上記				
前期	8週	中間試験			1~5		OLV 7.194777 + 7	
	9週	超音波探傷試験の概要				保陽試験に かんしん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	ついて理解できる。	
	10週	超音波探傷試験の実際		上記 (数) 上記				
	11週		(可視化手法の理論と実			信託 軽さ ニー		
	12週	表面探傷試験法の概要 表面探傷試験法の実際			<u>表面採</u> 7	房武) 沢 大	ついて理解できる.	
	13週		- 傷試験・磁粉探傷試験)		/			
	15週	中間試験以降の範囲の			<u>/</u> 6∼7			
	16週		<u>みに切り 併託</u>	<u> </u>	<u>∪ · ~ /</u>			
評価割る		I						
コールロック	<u> </u>		計略			合計		
総合評価	 割合		100			<u> </u>		
配点	H1H		100		100			
40/パン			1+00	100				

鈴鹿工業 科目基礎情報 科目番号 授業形態 開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標	00 授 総)28	100000	平成31年度 (2	科目区分	l		流体力学特論 	
科目番号 授業形態 開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員	00 授 総 口	業			初日反公		±-nn		
授業形態 開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員	授 総 口	業				分專門		専門 コース選択必修	
開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員	総口	-			単位の種別	と単位数			
教科書/教材 担当教員		ジーコー	 ーション工学専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年	C+12x	専1		
教科書/教材 担当教員	ניכון				週時間数		2		
担当教員			ノート講義 参考	± · "FI INDΔMENI	1	IID MEC		ıce R. Munson et.	ΔΙ (WILEY)
		藤邦和	ノー「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	E . I UNDAMEN	IALS OF TE	JID MEC	CHANICS, DIC	ice K. Mulison et.	AI., (VVILLI)
411至口/年	儿	かく ナレイロ							
	 参考にして	学習し, 青	静水力学,連続の	式,ベルヌーイの	方程式,運動	量の法則	lおよび" Contr	ol Volume "の概	念を理解でき,問
ルーブリック									
,, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			理想的な到達レベ	 いい月安	標準的な到	幸レベル	 の目安	未到達レベルの目	
			-1/8/27-0/23/20	<u> </u>	N-17023	<u>.,, ,,,</u>	<u> </u>	7(1),(1)	
<u>評価項目:</u> 評価項目2									
<u>計価項目2</u> 評価項目3									
	描话口(レの即反	•						
学科の到達目	保以日で	_ い川 判1 糸	1						
教育方法等									
概要		門用語の第	<u> 知識も身につける.</u>	•				ことを主とする学問 上流体」, 「連続の」 」を身につける. さ	である. 式」, 「ベルヌ らに, 英語での
授業の進め方と持容・方法	1X*1,1 •	授業は輪詰	講形式で行い演習:	到達目標(B)<専門 を課す. の「到達目標」はる				する. ニ相当するものとす	·a.
注意点	中に験くくく習く習	間議験となる。 はは、 はは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ない者には冉試験 再試験の成績で全置 要件>課題を全を登 ッ投業すで保証する根 計が、190時間る。 計式の背景にある相 、こと・また単位制	試験の平均点を80 を課しる場合では を課しる場合では を課しる場合では とはの範囲で は は は いるでで は は いるでで は は は い で は い で い で い で い で い さ る は さ る 、 さ は さ る 、 さ は 、 さ の が は る は さ る は 、 さ は さ の さ の さ の さ り で り で り で り で り で り で り で り で り で り	成績か中間試 る. で60点以上 対は水力学や 検を含む)と ある. することが重	験の成績 を取体子 流、予である。 である。	を上回った場合 ること. の学習が基礎と 復習および演習 . 授業は輪講別	面する. ただし, 中合には, 60点を上になる教科である. ピレポート作成に必 が式で行うので, 各間題を課題とする	要な標準的な学自担当箇所を予
	+四	**************************************				油ブレク	マングラ は 日本		
週	按	業内容・フ	力法				到達目標	+ 7 世王 6 吉明 田三	5 ± ° T = 477 - 77 - 77
1週		essure at				2. 静才	く力学についてヨ	する英語の専門用語 里解し, 問題に応用	か埋解できる。 できる
2週			tion for Pressure			上記1,2			
3週			ariation in a Flui	u at Kest		上記1, 2			
4週		anometry				上記1,			
<u>5週</u> 6週			c Force on a Plar Second Law	ne Surface		上記1, 3.連続		-イの方程式を理解	ぽし,問題に応用
						できる.			
7週			ng a Streamline			上記3			
前期 8週		期中間試		₩\/ = 22		上記1~			
9週			解答と試験範囲の紹 on of Mass—The	総復習 Continuity Equa	tion(1)	上記1~ 上記1. きる. 5 "Cc	および4. 運	動量の法則を理解し の概念を理解でき	, 問題に応用で ろ
11退	<u> </u>	ncon ati	on of Macs. The	Continuity Equa	tion(2)	上記1,		くろうない。日本出来ては、	۵.
12退									
				mentum Equatio		上記1,			
13退				omentum Equation		上記1,			
14退				omentum Equation	on(2)	上記1,			
15退		文での演習	省 問題			上記1,	4, 5		
16退	<u></u>								
評価割合									
	試験		課題	相互評価	態度	発	表	その他	合計
総合評価割合 80			20	0	0	0		0	100
配点 80			20	0	0	0		0	100

11年	犯工業高等	等專門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	孝		複合材料工学	
科目基础	礎情報								
科目番号		0029			科目区分		専門 コー	ス選択必修	
授業形態		授業			単位の種別と	単位数	学修単位:	2	
開設学科		総合イノベロジーコー		【(ロボットテクノ	対象学年		専1		
開設期		後期			週時間数		2		
教科書/教	数材	教科書:「院)	「入門複合材料の力	学」 末益 博志	(培風館)参考	書:「複	合材料の力	学序説」 福田博	尊,邉吾一(古今書
担当教員		民秋 実							
到達目 複合材料 る.		る基礎理論を理	里解し,種々の条件	-の下で複合材料の	材料特性値を求	めること	ができ,複む	合材料の設計に応	用することができ
ルーブリ	リック		_					_	
			理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達し	ノベルのE	安	未到達レベルの)目安
平価項目1			複合材料工学に関 応用することがで	関する基礎理論を できる.	複合材料工学(理解している.		基礎理論を	複合材料工学に 理解していない	関する基礎理論を N.
証価項目 2			応用的な複合材料 求めることができ	料の材料特性値を きる.	基本的な複合 求めることが ⁻		特性値を	複合材料の材料とができない.	特性値を求めるこ
評価項目	3		複合材料の設計(できる.	こ応用することが	複合材料の設置る.	汁に使うる	とができ	複合材料の設計 ない.	に使うことができ
学科の	到達目標	項目との関係	系						
教育方法	<u></u> 法等	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
奶里		複合材料はプラスチッ	は様々な分野で使用 クについて, その	されている先端材 カ学的特性,強度	料である. 複合 計算, 使用方法	材料工学 ⁻ について [:]	では,代表的 学習する.	内な複合材料であ	るガラス繊維強化
 授業の進 容・方法	 め方と授業 -	′プ ・授業は讃)授業内容は, 学習 議・演習形式で行 画」における各週	う、講義中は集中	して聴講する。				
注意点		達していな 60点を 60点を 4 60点を 7 6 7 7 8 8 8 9 8 9 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8	の評価方法および い学生については 上限として中間試験 要件>全ての課題 め要求される基礎 かに理解している必 >授業で保証する。 る。 教科は後に学習す ために課題提出を	、それを補うための 後の成績を再試験の を提出し、学業成 知識の範囲>本教利 要がある。 学習時間のほか、こ る物性工学と強く「	の補講に参加し 成績で置き換え 責で60点以上を 対は材料力学や 予習・復習(中間 関連する教科でも	, 再試験(て評価す 取得するで 材料学, 弾 引試験, 定 ある. 自己	こより中間記る、期末試 こと、 例性学の学習 が期試験のた 学習を前提	武験の成績を上回 験については再記 が基礎となる教 めの学習も含む) ととして授業を進	った場合には は験を行わない. 料であり,特に材料 に要する学習時間
授業計记	画								
	週	授業内容・	方法		遁	ごとの到	 達目標		
	1週	複合材料の						説明できる.	
	2週	棒の引張り)(応力とひずみ・	フックの法則)	2	. 応力と	ひずみにつ	いて説明、計算が	
	3週	複合材料棒	のヤング率		1		の法則につ	いて説明ができ	
	1 .		複合材料棒のヤング率 強さの複合則						る
4週 強さの複合			削					いて説明ができる	る
	5週		計則 J断力と曲げモーメ	ント	<u>上</u> 5	. 複合标 記 4	料棒のヤン	いて説明ができるグタング率を計算する。	る
	5週 6週		断力と曲げモーメ	ント	上 5 8	. 複合材 記 4 . せん断 る. . 複合材	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛	いて説明ができる グ率を計算する。 ニーメントについ !性を求めること!	る. ことができる. て,説明,計算がて
公共 中	5週 6週 7週	はりのせん 複合材料の はりのたれ	,断力と曲げモーメ)曲げ剛性)み	シト	上 5 き 6 7	. 複合材 記 4 . せん ^圏 る. . 複合材	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを討	いて説明ができる グ率を計算する。 ーメントについ 性を求めることが 算できる。	る. <u>ことができる.</u> て,説明,計算がて ができる.
後期	5週 6週 7週 8週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記	.断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ ば験	シト	上 5 6 7 <i>2</i> 3	. 複合材 記4 . せん ^圏 る. 複合材 . はりの れまでに る.	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを討 学習した内	いて説明ができる。 グ率を計算する。 ーメントについ 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量	る. ことができる. て,説明,計算がで
後期	5週 6週 7週 8週 9週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用	.断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ 【験 Bする応力	シト	上 5 6 7 2 き	. 複合材 記4 . せん ^断 る. 複合材 . はりの れまでに る. 応力の	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを討	いて説明ができる。 グ率を計算する。 ーメントについ 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量	る. <u>ことができる.</u> て,説明,計算がで ができる.
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標	.断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ 試験 引する応力 雲変換	ント	上 5 6 7 こ き 8	. 複合材 記4 . せん脚 る. 複合材 . はりの れまでに . 応力の 記8	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを計 学習した内 座標変換が	いて説明ができる。 グ率を計算する。 ーメントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. ieを求めることがで
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性	、断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ 試験 引する応力 雲変換 E板		上 5 6 7 2 3 8 8 上	. 複合材 記4 . せん脚 . 複合材 . はりの れま. に力の 記8 . 直交異	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを討 学習した内 座標変換が 方性板の材	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. 遣を求めることがで
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による	、断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ は験 Bする応力 悪変換 E板 S弾性定数の求め方		上 5 6 7 2 3 8 8 上 9	. 複合材 記4 . せん断 る 複合材 . はりの れまでに る. 応力の 記8 . 直交異 (). 実験に	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを計 学習した内 座標変換が 方性板の材 より弾性定	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについ 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。 料特性を計算できる。 数を求めることが	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. 嘘を求めることがで きる. ができる.
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面	ル断力と曲げモーメ の曲げ剛性 のみ は験 引する応力 悪変換 E板 5弾性定数の求め方 可内剛性		上 5 6 7 7 2 5 8 8 L 9 10	. 複合材 . 記 4 . せん樹 . 複合材 . はりの れる. 応力の 記 8 . 直交異 . 実験に L. 積層板	料棒のヤン 力と曲げモ 料の曲げ剛 たわみを計 学習した内 座標変換が 方性板の材 より弾性定 の面内応力	いて説明ができる。 グ率を計算する。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。 料特性を計算できる 数を求めることが 問題を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算ができる. ができる. を求めることができる. できる. ができる.
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面 積層板の応	ル断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ は験 引する応力 変換 E板 S弾性定数の求め方 可内剛性 エカーひずみ関係		上 5 6 7 2 章 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . せん樹 . 複合材 . はりの れる. 応力の . 応 1 . 記 直 実験に し. 積層板 2. 積層板	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量できる。 料特性を計算できる。 数を求めることが 問題を計算できる。 ずみ関係を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算ができる. ができる. ことができる. ができる. できる.
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面	ル断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ は験 引する応力 変換 E板 S弾性定数の求め方 可内剛性 エカーひずみ関係		上 5 6 7 2 章 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . せん樹 . 複合材 . はりの れる. 応力の . 応 1 . 記 直 実験に し. 積層板 2. 積層板	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。 料特性を計算できる 数を求めることが 問題を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算がができる. ができる. できる. ができる. できる.
	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面 積層板の応	ル断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ は験 引する応力 変換 E板 S弾性定数の求め方 可内剛性 エカーひずみ関係		上 5 6 7 2 章 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . せん樹 . 複合材 . はりの れる. 応力の . 応 1 . 記 直 実験に し. 積層板 2. 積層板	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量できる。 料特性を計算できる。 数を求めることが 問題を計算できる。 ずみ関係を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算ができる. ができる. ことができる. ができる. できる.
後期	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面積層板の応	が が が が が が が が が が が が が が		上 5 6 7 7 2 5 8 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . る 複合材 . はでに . たる. 応 8 . 直 実験に L. 積層板 2. 複合材 2. 複合材	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量できる。 料特性を計算できる。 数を求めることが 問題を計算できる。 ずみ関係を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. 』を求めることができる. ができる. る. できる.
	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面 積層板の応	ル断力と曲げモーメ D曲げ剛性 Dみ は験 引する応力 変換 E板 S弾性定数の求め方 可内剛性 エカーひずみ関係		上 5 6 7 2 章 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . さん . 複ら材 . はでに . たる . 応 8 . 直 実験に L. 積層析 2. 複合材 . 養表	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量できる。 料特性を計算できる。 数を求めることが 問題を計算できる。 ずみ関係を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. 量を求めることがで きる. ができる. る. できる.
	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	はりのせん 複合材料の はりのたれ 後期中間記 薄板に作用 応力の座標 直交異方性 実験による 積層板の面積層板の応	が が が が が が が が が が が が が が		上 5 6 7 7 2 5 8 8 8 上 9 10	. 複合材 . 記 4 . る 複合材 . はでに . たる. 応 8 . 直 実験に L. 積層板 2. 複合材 2. 複合材	料棒のヤンカと曲げモ料の曲げ剛たわみを計学習した内室標変換が 方性板の材より弾性定の面内応力の応力・ひ	いて説明ができる。 グ率を計算する。 グ率を計算する。 一メントについて 性を求めることが 算できる。 容を説明し、諸量 行える。 料特性を計算できる。 数を求めることが 問題を計算できる。 ずみ関係を計算できる。	る. ことができる. て,説明,計算がで ができる. 』を求めることができる. ができる. る. できる.

鈴鹿	工業高等専	門学校	開講年度 平成31年度 (2	2019年度)	考	数科名	材料物理学
科目基礎	世情報 						
科目番号		0030		科目区分		専門 選択	心修
授業形態		授業		単位の種別	と単位数	学修単位	: 2
開設学科		総合イノベロジーコー	ーション工学専攻(ロボットテクノ フ)	対象学年		専1	
開設期		後期	~)	週時間数		2	
教科書/教	材	教科書:「 組織学」須		ナ社) 参考書 属組織学序論	: 「基礎金」	 禹材料」渡 著(コロナ	邊,斎藤共著(共立出版),「金属 社)
担当教員		江﨑 尚和					
到達目標							
実在の結晶 取扱いを原 る.	晶材料に含まれ 原子レベルで乗	1る格子欠陥 里解し見積も	の種類や,それら欠陥が形成される れるほか,結晶の電気的性質や変形	際のエネルギ などを含めた	ー, または 機械的性質	使用環境でにおよぼす	決まる欠陥の平衡濃度などの理論的 影響に結び付けて考えることができ
ルーブリ	リック			T.—			T
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到過	達レベルの目	1安	未到達レベルの目安
評価項目1			結晶における格子定数,格子面間隔,空隙,密度などの関連を理解してそれらを計算で求めることができる	結晶におけ ^え 隔,空隙, している	る格子定数, 密度などの	格子面間 関連を理解	結晶における格子定数,格子面間隔,空隙,密度などの関連を理解 していない
評価項目2	!		空孔の形成エネルギーおよび形成 エントロピーや空孔濃度,その時間変化などを求める方法を理解し、計算できる。	空孔の形成 エントロピー 間変化など ている	-や空孔濃原	ま、その時	空孔の形成エネルギーおよび形成 エントロピーや空孔濃度,その時間変化などを求める方法を理解し ていない
評価項目3	3		拡散におけるフィックの法則を理解し、それを応用して拡散に関する計算ができる.	拡散におけ ^え 解し, 基礎に ができる.	るフィックC りな拡散に関	D法則を理 関する計算	拡散におけるフィックの法則を理解し、基礎的な拡散に関する計算ができない
評価項目4	ļ		結晶の理論強度が計算でき、実在 結晶における転位の役割からその 差を説明できる	結晶の理論の の差を転位の	強度と実在終 の役割から記	詰晶の強度 説明できる	結晶の理論強度と実在結晶の強度 の差を転位の役割から説明できな い
学科の到	達目標項]との関係					- •
	 5等						
既要		金属材料に 口的物理現 とする.	見られる電気的性質,熱的性質など 象について,その構成要素である原	の物理的性質 子や電子の挙	から塑性変動を通して	形や強度に ミクロな視	関する機械的性質など,様々なマク 点からの理解を深めることをねらい
受業の進め 容・方法	か方と授業内	学習・教育	到達目標(B)<専門>JABEE基準1(2	2)(d)(2)a)に	対応		
注意点		重しく己く)るく求評とく重しく己く)るく求評とり重しくごと等のがであれる再修りが頂時じ的 積た . 試得	である. 試験問題とレボート課題の確認できるように設定する. > 授業の進行に応じて,個人ある間を十分確保し,教科書の予習・核め要求される基礎知識の範囲> 材な力学の知識は復習しておくこと. の評価方法および評価基準> すべてのレポートの提出をしていなかただし,中間試験で60点に達しなか験の成績で置き換えるものとする.	レベルは,10 いはグループ 習をしっかり 料の結晶構造 本教科は,応 ければならな	10点法により ディスカッ: 行い, 日頃 に関する基! 用物理Ⅱお い. 学業成:	060点以上 ションを必 の勉強に力 楚知識, 数 よび材料表 请の評価は	
		于耒ル限し	00点以上で収得すること。				
	週	授業内容・					
					调ごとの到		
	1週 授業の概要,基礎的な結晶学の復習				週ごとの到 1 結晶の面		関係について理解している
	2週				1. 結晶の面 2. 金属結晶	i・方位のI における ⁱ	関係について理解している. 各子定数, 格子面間隔, 空隙, 密度な いる。
		結晶学・金	,基礎的な結晶学の復習		1. 結晶の面 2. 金属結晶 どの関連を	i・方位の における 理解してに	各子定数,格子面間隔,空隙,密度な Nる。
	2週	結晶学・金	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習		1. 結晶の面 2. 金属結晶 どの関連を 2. 金属結晶 どの関連を	・方位の における。 理解してい における。 理解してい	各子定数,格子面間隔,空隙,密度な
	2週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習	熱平衡濃度	 結晶の面 金属結晶 どの関連を 金属結晶 との関連を また結晶 	・方位の における。 理解してい における。 理解してい	各子定数,格子面間隔,空隙,密度な \る。 各子定数,格子面間隔,空隙,密度な \る。
	2週 3週 4週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造, 構造不完全性について		 結晶の面 金属結晶 どの関連を 金属結晶 どの関連を 実在結晶 実在結晶 空孔の所 	・方位の はにおける。 理解してい における。 理解してい はに含まれ はに含まれ	各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 る次陥について理解している. る欠陥について理解している. ま大陥について理解している. ボーおよび形成エントロピーや空孔濃
(r tig	2週 3週 4週 5週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造,構造不完全性について 類:原子空孔,不純物原子,空孔の		1. 結晶の値 2. 金属結晶を どの関連を 2. 金の関連を 3. 実在結晶 3. 実在結晶 4. 空孔の時 度, その時	i・方位の における。 理解してい における。 理解してい に含まれ に含まれ が、エネル 間変化など	各子定数,格子面間隔,空隙,密度な いる。 各子定数,格子面間隔,空隙,密度な いる。 る欠陥について理解している。 る欠陥について理解している。
乡期	2週 3週 4週 5週 6週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造, 構造不完全性について 類:原子空孔, 不純物原子, 空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ		1. 結晶の値 2. 金属結晶を どの関連を 2. 金の関連を 3. 実在結晶 3. 実在結晶 4. 空孔の時 度, その時	i・方位の における。 理解してい における。 理解してい に含まれ に含まれ が、エネル 間変化など	各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 る久陥について理解している。 る欠陥について理解している。 ぎたなび形成エントロピーや空孔濃さを求める方法を理解している。
後期	2週 3週 4週 5週 6週 7週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成 空孔の形成 中間試験	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造, 構造不完全性について 類:原子空孔, 不純物原子, 空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ		1. 結晶の値 2. どの関属連を記るの関属連を記るの関連を記るの関連を記るの関連を記る。実在在記の時では、数字である。 本の時では、数字では、数字では、数字では、数字では、数字では、数字では、数字では、数字	・方位の はにおけるい 理解してい 理解してい は理解してい はに含まれ はに含まれ が、 で れが物性 に いる で いってい が に が で いってい が に が いってい は に が いってい は に の に の に の に の に の に り る に り る に り る に り る に り に の に り に の に の に の に の に の に れ い に の に の に れ い る に れ い る に の に の に の に の に の と の に の と の と の に の と の と	各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 るケ陥について理解している。 るケ陥について理解している。 ボーおよび形成エントロピーや空孔濃でを求める方法を理解している。 こおよぼす影響を理解している。
乡期	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成 空孔の形成 中間試験 拡散現象:	,基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造,構造不完全性について 類:原子空孔,不純物原子,空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ に関する課題演習	ぼす影響	1. 結晶の値 2. ど 金属語を 2. ど 金属連を 3. 実在 在 3. 実 2. で 3. 実 2. で 4. 皮 . 本 で 5. 熱 で は が は か は が は が は が な が は が な が は が な が は が な が は が な が は が な が は が な が な	・方位の はにおけている。 はに解している。 はに解している。 はに解しまれた。 はに含まれた。 が、物性 に対し、ない。 が、物性 によった。 はいる関する。	格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 るケ陥について理解している。 るケ陥について理解している。 まな形成エントロピーや空孔濃 でを求める方法を理解している。 こおよぼす影響を理解している。 シクの法則を理解し、それを応用して も計算ができる。
後期	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成 空間試験 拡散現象: 拡散係数の 拡散機構と	,基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造,構造不完全性について 類:原子空孔,不純物原子,空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ に関する課題演習	ぼす影響	1. 結晶の値 2. どの関係 2. の関係 3. 実在 3. 実在 4. 度, 熱 4. 度, 熱 5. 拡散な 6. 基礎 7. 拡係 8. といる 8. といる 9. はいる 9. はい 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はい 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はいる 9. はい 9. は 9. は 9. は 9. は 9. は 9. は 9. は 9. は	i・方位の におけている は理解している は正解しまれた。 はに含まれた。 はに含まれた。 はな工化など はない物性 いける関すする。 はいる関すする。 はいる関すの。 はいるである。 はいるでものである。 はいるでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもので	各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 各子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 るケ陥について理解している。 るケ陥について理解している。 ボーおよび形成エントロピーや空孔濃でを求める方法を理解している。 こおよぼす影響を理解している。
後期	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成 空孔の形成 中間試験 拡散現象: 拡散係数の 拡散機構と 題演習	,基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造,構造不完全性について 類:原子空孔,不純物原子,空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ に関する課題演習 拡散についてのフィックの法則 物理的意味と拡散の活性化エネルギ	ぼす影響 ー に関する課	 結晶の値 金属 に を で を で を で を で を で を で を で を で を で を	 ・方位の はいまけている 理解している 理解している はに含まれる はなど ない物性 ない物理的 なの物理的 ない物理的 	格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 る子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 る欠陥について理解している。 る欠陥について理解している。 ギーおよび形成エントロピーや空孔濃 ざを求める方法を理解している。 こおよぼす影響を理解している。 シクの法則を理解し,それを応用して の計算ができる。 意味を理解している。
後期	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	結晶学・金 結晶学・金 実在の金属 点欠陥の種 空孔の形成 空間試験 拡散現象: 拡散機構と 題演習 単結晶の塑	, 基礎的な結晶学の復習 属の結晶構造の演習 属の結晶構造の演習 の構造,構造不完全性について 類:原子空孔,不純物原子,空孔の エントロピーと熱空孔の物性におよ に関する課題演習 拡散についてのフィックの法則 物理的意味と拡散の活性化エネルギ カーケンドール効果および拡散現象	ぼす影響 ー に関する課	 結晶の値 2どの金関属連結晶 2との関属連結晶 3、実在右の時 4.皮, 熱 散になば 5. 熱 では拡散に 7. 拡散係 7. 拡散係 8. 結晶の理 	i・方位の lack 理解けてい accept accept acce	格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 格子定数,格子面間隔,空隙,密度ないる。 る欠陥について理解している。 る欠陥について理解している。 る欠陥について理解している。 ができるが形成エントロピーや空孔濃さを求める方法を理解している。 こおよぼす影響を理解している。 シクの法則を理解し、それを応用している計算ができる。 意味を理解している。

	15週	;	結晶の塑性変形に関する課題演習					10. 結晶の変形における転位の役割やそのメカニズムを理解している.			
	16週										
評価割合											
	Ī	試験		課題	相互評価	態度		発表	その他	合計	
総合評価割	合 1	100		0	0	0		0	0	100	
配点	1	100 0 0				0		0	0	100	

総目報号 0031		 『門学校	開講年度	 平成31年度 (2	2019年度)	 教科名	組織制御学
韓国語名	科目基礎情報						
####################################	科目番号	0031			科目区分	専門 コー	- -ス選択
おきコース 1985年 1	授業形態						
開設	開設学科	総合イノベー		(ロボットテクノ			. -
製造機力が対している。	開設期		. ()			2	
理想			入門・金属材料の	 組織と性質 I 日オ	1		
到達自標 金融材料の物性を支配する特品組織の制御に関する学術組織を理解し、実用材料で実際に行われている組織制御法について理論的に説明することである。 ループリック 理感の経過機能からいに体態図を発現して、外側が対したいの目文を全域の大変が構造していて関連的で、影響がある。 対性の月日		i	ノ(1) 並(周(カ)パイロン	心感色比莫。日本	「無決と生」文 同 励 五 (ノく)	эш/іх/	
②使用の関係を支配する結晶回播の制御に関する字術知識を理解し、実用材料で実際に行われている組織制御法について理論的に説明することできる ループリック 理能的な関連レベルの目立 無限ならびに大幅調整 理解し、実料材の組織制 が表現して、鉄料材の組織制 が表現して、大線料材の組織 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、大線料材の組織制 が表現して、おりに関係を関係して、大線料材の相談 を変別できる。 対域のがありな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがな機体的性質と、結婚組 特別のがなな機能がは、性質が高し、 有効なは機能制能したがして、 方がは、対域のかながな機能がは、性質が高し、 有効なは機能制能したがして、 大線のでは、大線が利 は他のがなどの関係を理解し、が対して、 方域のが表現場を理解し、が対して、 方域のが表現場を理解し、が対して、 が対して、表別が表現場が関係と変別できる。 対域の変別現象を理解し、が対して、 が対して、表別が対し、対域の変別現象を理解し、分がない。 対域の変別現象を理解し、が対して、 が対し、のでき、表別が対し、 対域の変別現象を理解し、が対して、 が対し、のでき、表別が対し、 対域の変別などのは、検験が にのにて、表別が対し、 対域の変別などのは、 が対し、のでき、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、表別が対し、 対域では、 に、 が域では、 に、 が域では、 に、 が域では、 に、 が域では、 のがは、 が域では、 のがは、 が域では、 のがは、		田田田志					
理想的な影響というに対して		する結晶組織	の制御に関する学行	析知識を理解し,	実用材料で実際に行わ	れている組織	機制御法について理論的に説明するこ
理想的な影響というに対して	ルーブリック						
中国項目1			理想的な到達レベ	ルの目安	標準的な到達レベルの	 の目安	未到達レベルの目安
探慮項目2 「大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価項目1		金属の結晶構造な 理解し、実用材料	らびに状態図を	金属の結晶構造ならる	びに状態図を	金属の結晶構造ならびに状態図を
深価項目3	評価項目2		状態図に基いて, 態を説明でき,実	鉄鋼材料の相変 用材料の組織制	状態図に基いて,鉄 態を説明できる.	鋼材料の相変	
(報告の関係を理解し、性質改善に 有效が組織制御の力法を認明でき 。	評価項目3		を説明でき,実用		熱処理による結晶組織 を説明できる.	織の制御方法	熱処理による結晶組織の制御方法 を説明できない.
理解し、別性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。	評価項目4		織との関係を理解	!し,性質改善に	織との関係を理解し 有効な組織制御の方流	、性質改善に	織との関係を理解し,性質改善に 有効な組織制御の方法を説明でき
原位書に有効な組織制御の方法を設明できる。	評価項目5		材料の靭性と結晶 理解し, 靭性改善 御の方法を説明で	組織との関係をに有効な組織制き、実用材料の	材料の靭性と結晶組織 理解し、靭性改善に 御の方法を説明でき	織との関係を 有効な組織制 る.	材料の靭性と結晶組織との関係を 理解し、靭性改善に有効な組織制 御の方法を説明できない.
評価項目7 性改善に有効な組織制御の方法を 説明できる。 高温環境下での結晶組織の変化を 理解し、耐料料性改善に有効な組 繊制の方法を説明できる。 結晶視の方法を説明できる。 が料の原質現象を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の原質現象を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の原質現象を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の原質現象を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料のに一方を必要を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料のに一方を必要を理解し、耐食性 改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料のヒートチックおよび溶損現 象を理解し、改善するための組織 繊制御に応用できる。 加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できない。 が料のヒートチックおよび溶損現 素を理解し、改善するための組織 熱側に原用できる。 加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 できる。 加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御の方法 を説明できる。 を説明できる。 全臓可でき、実用材料の組織制御 変を理解し、改善するための組織 素を理解し、改善するための組織 素を理解し、改善するための組織 素を理解し、改善するための組織 素を理解し、改善するための組織 素を理解し、改善するための組織 素を理解し、立善するための組織 対理をと、実用材料の組織制御の方法 を説明できる。 全臓可でき、実用材料の組織制御の方法 を説明できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓可できる。 全臓のが性を得ることができる。 全臓のできない であるともに、組織制御に関 できない であるともに、組織制御に関 を説明できない が関係を理解するとともに、 もの内容は、 できない ・すべての内容は、学習、教育目標(B) く専門とに、またJABEE 基準1(2)の(付)(1)に対応する。 ・対理を評価する。 と関連構の評価方法と基準・下記授業計画の「到達目標」を網羅した関を申して対象に関係を理解するととる。 ・「理解し、がなと関係を理解するとともに、 ・すべての内容は、学習、教育目標(B) く専門とに、またJABEE 基準1(2)の(付)(1)に対応する。 ・対理を評価する。 ・すべての内容は、方を記述の評価を表する。 ・可能を説がののが、は、他の一に組織および卵末は験での値の、は を上回った場合には、60点を上限として中間試験・のの機等を選入、同社線の脱析が再点ののののいよと様のにしてる。 ・学 成成の評価方法と基とび呼ば、まは験ののに対いましましましましましましましましましましましましましましましましましましまし	評価項目6		度改善に有効な組 説明でき、実用材	織制御の方法を	度改善に有効な組織	解し,疲労強 制御の方法を	
評価項目8 理解し、耐熱特性改善に有効な組織制御の方法を説明でき、実用材料の組織制御に応用できる。 材料の腐食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できま、対料の腐食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の腐食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できま。 材料の腐食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の腐食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料の房食現象を理解し、耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 材料のヒートチックおよび溶損現象を理解し、改善するための組織制御法を説明できま、実用材料の組織制御法を説明できま、実用材料の組織制御法を説明できまための組織制御法を説明できまための組織制御法を説明できまたりの組織制御法を説明できまたりでは、実際に、改善するための組織制御法を説明できない、加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御方法を説明できない、加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できない、加工による組織変化を理解し、加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できる。 金属材料の結晶組織は物性に大きな影響を及ぼすことから、熱処理や加工によって結晶組織の状態を制御することによって、自助とする物性を得ることができる。 金属材料の物性値と結晶組織との関係を理解するとともに、組織制御に関する学術知識を修得する。 ・ すべての内容は、学習・教育目標(B) く専門〉に、またJABEE 基準1(2)の(d)(1)に対応する。 ・ 分解の評価方法が最近の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 と別達目標の評価方法と基準下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験などの対策を出題し、目標の達成とする。 各項目の重かは概な均等とする。中間試験、期末試験の60%以上を得点した場合に自動である。 と同意を持つない、単規解析である。 と可能解析である。 と同意を指し流のを開まれていまい者(無断欠席者は除く)には1回の再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回うに満していない者(無断欠席者は除く)には1回の自動を表現して明古、のにと関係ができる。 とも心を要求するとと、これを観しいない者(無断欠席者は除く)には1回の再試験を課し、の用語を対すること、これを指摘に関する基礎知識の範囲と鉄御材料、非鉄金属材料、材料組織学、状態図、結晶網施に関する基礎知識の範囲と鉄御材料、非鉄金属材料、材料組織学、状態図、結晶網施に対するよのに関する基礎知識のの協議を認用すること、これを開始の協計が45時間の協計が45時間の協計が45時間に相当する学習内容である。 く同き、物性工学の基礎となる教科である。 く同き、物性工学の基礎となる教科である。 く同音を対すなど、は同意を認用を表現しまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれてい	評価項目7		性改善に有効な組 説明でき、実用材	織制御の方法を	性改善に有効な組織	解し,対摩耗 制御の方法を	性改善に有効な組織制御の方法を
図書に有効な組織制御の方法を説明でき、異用材料の組織制御の方法を説明でき、実用材料の組織制御の方法を説明でき、実用材料の組織制御の方法を説明できる。	評価項目8		理解し,耐熱特性 織制御の方法を説	改善に有効な組 明でき 実用材	理解し,耐熱特性改調	善に有効な組	理解し,耐熱特性改善に有効な組
「京都の連加	評価項目9		改善に有効な組織 明でき,実用材料	制御の方法を説	改善に有効な組織制	解し,耐食性 御の方法を説	, 改善に有効な組織制御の方法を説
評価項目11	評価項目10		象を理解し,改善 制御法を説明でき	するための組織,実用材料の組	材料のヒートチック。 象を理解し、改善す 制御法を説明できる。	ーー および溶損現 るための組織	材料のヒートチックおよび溶損現象を理解し、改善するための組織制御法を説明できない.
学科の到達目標項目との関係 教育方法等 金属材料の結晶組織は物性に大きな影響を及ぼすことから、熱処理や加工によって結晶組織の状態を制御することによって、目的とする物性を得ることができる。金属材料の物性値と結晶組織との関係を理解するとともに、組織制御に関する学術知識を修得する。 授業の進め方と授業内容・方法 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 〈到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験および期末試験で出題し、目標の達成度を評価する。各項目の重みは概ね均等とする。中間試験、期末試験の合計点が満点の60%以上を得点した場合に目標の達成とする。 〈学業成績の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験および期末試験で出題し、目標の達成度を評価する。各項目の重みは概ね均等とする。中間試験、期末試験の合計点が満点の60%以上を得点した場合に目標の達成とする。 〈学業成績の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験の成績の60%以上を得点した場合には、同様のを評価方法と基準>中間試験・期末試験の2回の試験(100点満点)の平均点を最終評価点とする。たけ、中間試験が60点に達していない者(無断欠席者は除く)には1回の再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。期末試験のいの積を担づいては再試験を行わない。 〈単位修得要件〉学業成績で60点以上を取得すること。〈あらかじめ要求される基礎知識の範囲と鉄鋼材料、非鉄金属材料、材料組織学、状態図、結晶解析学等、金属材料の編組織に関する基礎知識が必要である。 〈あらかじめ要求される基礎知識が必要である。〈信者>物性工学の基礎となる教科である。〈備者>物性工学の基礎となる教科である。〈備者>物性工学の基礎となる教科である。〈備者>物性工学の基礎となる教科である。〈備者>物性工学の基礎となる教科である。	評価項目11		工性改善に有効な を説明でき,実用	:組織制御の方法	工性改善に有効な組織		工性改善に有効な組織制御の方法
金属材料の結晶組織は物性に大きな影響を及ぼすことから、熱処理や加工によって結晶組織の状態を制御することによって、目的とする物性を得ることができる。金属材料の物性値と結晶組織との関係を理解するとともに、組織制御に関する学術知識を修得する。 「要業の進め方と授業内容・方法 で	学科の到達目標項目 教育方法等	目との関係	:				
・すべての内容は、学習・教育目標(B) <専門>に、またJABEE 基準1(2)の(d)(1)に対応する。 ・授業はスライドを用いて講義形式で行う。 ・授業はスライドを用いて講義形式で行う。 ・授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 <到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験および期末試験で出題し、目標の達成度を評価する。各項目の重みは概ね均等とする。中間試験、期末試験の合計点が満点の60%以上を得点した場合に目標の達成とする。 〈学業成績の評価方法および評価基準>中間試験・期末試験の2回の試験(100点満点)の平均点を最終評価点とする。たけし、中間試験が60点に達していない者(無断欠席者は除く)には1回の再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。期末試験については再試験を行わない。 〈単位修得要件〉学業成績で60点以上を取得すること。〈あらかじめ要求される基礎知識が必要である。 〈自己学習〉授業で保証する学習時間と、予習・復習(中間試験、期末試験のための学習も含む)に必要な標準的な学習時間の総計が45時間に相当する学習内容である。 〈備考>物性工学の基礎となる教科である。	概要	金属材料の約 って,目的の する学術知	結晶組織は物性にた とする物性を得るこ 識を修得する.	大きな影響を及ぼ ことができる. 金	すことから,熱処理や 属材料の物性値と結晶 	加工によって組織との関係	結晶組織の状態を制御することによるを理解するとともに,組織制御に関
達成度を評価する。各項目の重みは概ね均等とする。中間試験、期末試験の合計点が満点の60%以上を得点した場合に目標の達成とする。 <学業成績の評価方法および評価基準>中間試験・期末試験の2回の試験(100点満点)の平均点を最終評価点とする。たけし、中間試験が60点に達していない者(無断欠席者は除く)には1回の再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。期末試験については再試験を行わない。 <単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。 〈あらかじめ要求される基礎知識の範囲>鉄鋼材料、非鉄金属材料、材料組織学、状態図、結晶解析学等、金属材料の網晶組織に関する基礎知識が必要である。 〈自己学習>授業で保証する学習時間と、予習・復習(中間試験、期末試験のための学習も含む)に必要な標準的な学習時間の総計が45時間に相当する学習内容である。 〈備考>物性工学の基礎となる教科である。	授業の進め方と授業内 容・方法	・すべてのI ・授業はス	内容は,学習・教育 ライドを用いて講	育目標(B)<専門 義形式で行う.	>に,またJABEE 基準	1(2)の(d)(1	_)に対応する.
授業計画	注意点	達目とした再くく品く時間を連続では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	画する. 各項目の動とする. 各項目の動とする. 入事価を まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	重みは概ね均等と 呼価基準 > 中間試調 いない者(無断欠 上限として中間記 0点以上を取得す 回識の範囲 > 鉄鋼相 要である。 予習時間と、予習 する学習内容であ	する. 中間試験, 期末 食・期末試験の2回の記 原者は除く) には1回 験の成績を再試験の成 ること. 材料, 非鉄金属材料, 村 ・復習(中間試験, 期詞	試験の合計点 は験(100点満 1の再試験を記 え続で置き換え オ料組織学,	が満点の60%以上を得点した場合に 点)の平均点を最終評価点とする。ただ 果し,再試験の成績が中間試験の成績 えるものとする.期末試験については 状態図,結晶解析学等,金属材料の結
	短菜計型	〜浦ち2物性	L上ナツ至灰こはる	パスパイ しめる.			
		1-m: :			ļ. "		

	1週		状態図と結	晶組織			1. 金	属の結晶構造ならる	びに状態図を理解し	ン, 説明できる.	
	2週		鉄鋼材料の	相変態			2. 状	態図に基いて,鉄	鋼材料の相変態を割	説明できる.	
	3週		熱処理によ	る結晶組織の変化	1(焼きなまし, タ	焼きならし	3. 熱	処理による結晶組織	織の制御方法を説明	明できる.	
	4週		熱処理によ	る結晶組織の変化	2(焼入れ, 焼戻	し)	上記:	3			
	5週		静的強度を	改善するための組織	織制御		4. 材料の静的な機械的性質と結晶組織との関係を理解し , 性質改善に有効な組織制御の方法を説明できる.				
	6週		靭性を改善 果)	するための組織制	御1(熱処理,化:	学成分の効	5. 材 効な	料の靭性と結晶組織 組織制御の方法を認	織との関係を理解! 説明できる.	ン, 靭性改善に有	
	7週		靭性を改善するための組織制御2(加工,表面処理の効果)					5			
	8週		中間試験								
前期	9週		中間試験の解説および復習					1∼5			
	10週		疲労強度を改善するための組織制御					6.材料の疲労現象を理解し,疲労強度改善に有効な組織制御の方法を説明できる.			
	11週		耐摩耗性を	改善するための組織	織制御		7. 材料の摩耗現象を理解し,対摩耗性改善に有効な組織制御の方法を説明できる.				
	12週		耐熱特性を	改善するための組織	織制御		8. 高温環境下での結晶組織の変化を理解し, 耐熱特性改善 に有効な組織制御の方法を説明できる.				
	13週		耐食性を改	善するための組織	制御		9. 材料の腐食現象を理解し,耐食性改善に有効な組織制御の方法を説明できる.			に有効な組織制御	
	14週		ヒートチッ	クおよび溶損を改	善するための組織	制御	10. 材料のヒートチックおよび溶損現象を理解し, 改善するための組織制御法を説明できる.			理解し,改善す	
	15週		加工性を改	善するための組織	制御		11. 加工による組織変化を理解し,加工性改善に有効な組織制御の方法を説明できる.			改善に有効な組	
	16週										
評価割合	·	1									
		試験課題		課題	相互評価	態度		発表	その他	合計	
総合評価割				0	0	0		0	0	100	
配点		100		0	0	0		0	0	100	

鈴鹿工業高等専門学校		 評門学校	開講年度	平成31年度(教科名	相変態工学	
—————— 科目基礎			,	,	~)	<u> </u>			
<u>17 山 坐 啖</u> 科目番号	ИНТИ	0032			科目区分		専門 選択		
行 <u>日田与</u> 授業形態		授業			単位の種別	レ出合物	学修単位		
放来形态		総合イノベー		女(ロボットテクノ		<u>C 早 似 </u>	専1	.i Z	
開設期		ロジーコース 後期	.)		週時間数		2		
用取期 教科書/教材	,		海庁 咨判を配	 仕する	迴时间数				
敦档音/敦档 担当教員	1	リステト 小林 達正	適宜,資料を配付	13 9 a.					
		小林 连止							
到達目標		u -t -z 40/m/t	1/fn1±/ \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			ch (1144)	N = 000000		
する		-ルする組織制	御技術に不可ク	マな相 変態の基本的]概念を把握し	, 美用材料 —————	斗の問題解》	央に適用できる応用力の修得を目標と 	
ルーブリ	ック								
			里想的な到達レ		標準的な到	達レベルの)目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		\\ \(\)	平衡状態図の基礎 」,各種状態図を こ応用できる.	礎についての理解 :様々な現象の理解	平衡状態図ている.	の基礎につ	いて理解し	平衡状態図の基礎を理解していない.	
評価項目2		(対質核生成,不可能を表現である。 では、このでは、このでは、このでのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	均質核生成モデル し,それをもとにい 料の凝固現象につ ・	均質核生成について理	, 不均質核 解している	を生成モデル	り質核生成,不均質核生成モデル について理解していない.	
評価項目3		I ₹	里解し、それをも	造と理論について らとにいくつかの物 ついて考察できる	固・液界面 について理	の構造と理 解している	聖論との関係 5.	は、 固・液界面の構造と理論との関係について理解していない.	
評価項目4		- - - -	─方向凝固におり ついての理論を 用できる.	ける溶質の分布に 理解し, それを応	一方向凝固ついての理		落質の分布に ,ている.	一方向凝固における溶質の分布に ついての理論を理解していない.	
評価項目5		R		晶製造法について	融液からの 理解してい		法について	融液からの単結晶製造法を理解していない.	
評価項目6		\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	並相界面の構造 法について理解 デル的材料につけ 計算できる.	とエネルギの計算 し, いくつかのモ いてエネルギーを	位相界面の算法につい	構造とエネ て理解して	バルギーの計 「いる.	・ 位相界面の構造とエネルギーについて理解していない.	
評価項目7		-	マルテンサイト イト変態につい む用できる.	変態およびベイナ て理解し, それを	マルテンサ イト変態に	イト変態ま ついて理解)よびベイナ 背している.	- マルテンサイト変態およびベイナ イト変態について理解していない ・	
学科の到	達目標項目	ヨとの関係			•			•	
概要	()	産業社会のイルする組織制する.	ンフラとして, 御技術に不可欠	また,新技術の開 でな相変態の基本的	発に対して, 概念を把握し	材料の果た , 実用材料	こす役割は重料の問題解決	重要である.材料の性質をコントロー 中に適用できる応用力の修得を目標と	
授業の進め 容・方法	方と授業内	1・授業は、管	・・ ・すべての内容は, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉およびJABEE基準1(2)(d)(2)(a)に対応する. ・授業は, 質問を受け付けながら, 理解の度合いを確認できる演習を含め, 講義形式で進める. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.						
注意点		達成度を評価 85%,小テ こともある。 (単位修得を (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	する. 授業計画 ストを15%と その場合, 再試調 るものとする. 件>学業成績で 要求される基礎 (科である. 〈値	画の「到達目標」に として評価する。た 験の成績が該当する 60点以上を取得 知識の範囲>本教	:関する重みは :だし, 中間試 3試験の成績を すること: 科の学習には、 た関連科目の	概ね均等を 験が60点 上回った 基礎材料 復習をして	とし, 中間・ 気に達してい 場合には, 学、材料組	試験および定期試験で出題し,目標の期末の2回の試験の平均点を 別ないものには再試験を1回のみ課す60点を上限として成績を再試験の成 総学、結晶解析学、鉄鋼材料の学習が 日頃の勉強に力を入れること.本教	
授業計画		I				I ::			
	週 1週			対系状態図の基礎	事項につ	週ごとの 1 平衡			
	2週			対系状態図の基礎	事項につ	上記1	バぶらり 夕至1	たに ンv・C的U93 CC公。	
		いての復習	マルニフι						
	3週	状態図に関すり	る小テスト よび不均質核生	・ 成について		上記 1 2. 均質	族生成,不 ^比	 匀質核生成モデルについて説明できる	
	. –				ガカサナ	o == `	た田子へ出)	生について説印でキマ	
	5週			結晶成長速度,欠	(哨の生成)			造について説明できる.	
後期	6週		― 凝固モデリ				対疑固におけ	る溶質の分布について説明できる.	
	7週		— 組成的過冷	おおと凝固組織		上記4			
	8週	中間試験							
	9週	融液からの単	結晶製造法			5. 融液	からの単結	晶製造法について説明できる.	
	10週	位相界面の構	造とエネルギー	_		6. 位相	界面の構造の		
	11週		造とエネルギー			上記6			
	12週		<u>たとエイル・</u> 造とエネルギー			上記6			
						上記6 7. マルテンサイト変態およびベイナイト変態についての			
		マルテンサイ	/ト変態および^	N1 ナ1 ト发態 		理解			

			マルテンサ	イト変態およびべ	イナイト変態		7. マルテンサイト変態およびベイナイト変態についての 理解				
			金属材料破損事故原因の金属学的究明に関する演習問題					上記1~7			
評価割合											
		試験		課題	相互評価	態度		発表	その他	合計	
総合評価割合		100	•	0	0	0	•	0	0	100	
配点		100		0	0	0		0	0	100	

			問護年度	 平成31年度 (2	 010年度\		 教科名	基礎電子化学
		-1]士仪		十川、フェナトラ(2	UI7+/支 <i>)</i>	1 =	秋竹白	
	月牧	0022			₩DVA		車間 '22+ 1	1
斗目番号 受業形態		0033 授業			料目区分単位の種別と	₩ <i>!</i> ÷*h	専門選択	
4-1			、コン、丁学市内	(ロボットニクノ	単位の種別と			
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ ロジーコース)			対象学年			
開設期		前期			週時間数		2	
教科書/教材	•	ノート講義						
旦当教員		和田 憲幸						
到達目標								
2. 電子状態 3. 結晶場理	から電子が 論に基づき8	態が理解でき 関与する機能 B面体結晶場の	材料(磁性,発光,	. 吸収, レーザー)。 ドー状態が理解でき	の発現が理解で ○ る.	ごきる.		
レーブリッ	ック				1			
			理想的な到達レヘ	ジルの目安	標準的な到達	レベルの	目安	未到達レベルの目安
平価項目1			多電子原子の電子 用的な問題を解く	*状態に関する応 (ことができる.		子原子の電子状態に関する基 は問題を解くことができる.		多電子原子の電子状態に関する基礎的な問題を解くことができない。
評価項目2			電子状態から電子 材料(磁性,発光,)の発現に関するが くことができる.		材料(磁性、発光、吸収、レーザー		マ, レーザ-	- 材料(磁性, 発光, 吸収, レーザー
評価項目3				がき8面体結晶場の ー状態を数式を誘 引することができ	d電子のエネルギー状態を数式を用		を数式を	用 のd電子のエネルギー状態を数式を
学科の到達	主目標項目	目との関係						
教育方法等	等							
基礎電子化 概要 d電子の電子 体配位した		学は,光および磁性に関与する多電子原子の電子状態(エネルギーおよびスピン),特に多面体配位したときの子状態を理解するために,多電子の量子数,結晶場理論,摂動法を用いてシュレーディンガー方程式から8面:1つのd電子をもつ金属イオンのエネルギー状態を求め,それらの知識を深める.						
・すべ		・すべての[・授業は,] ・「授業計[ての内容は,学習・教育到達目標(B)<専門>に,JABEE基準1(2)(d)に対応する. は,質問を受け付けながら,理解の度合いを確認できる演習を含め,講義形式で進める. 業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.					
CE CE CE CE CE CE CE CE		< 到達度標の 到達度を列うで 会別で 会別で 会別で 会別で 会別で 会別で 会別で 会別で 会別で 会別	達度を評価する. 授業計画の「到達目標」に関す 目標の到達を確認する. 学業成績の評価方法および評価基準>後期中間, おれない. 単位修得条件>学業成績で60点以上を取得するこあらかじめ要求される基礎知識の範囲>本教科は おる必要であり, 無機化学や量子化学の知識があれる必要であり, 無機化学や量子化学の知識があれると習き習きである。 日己学習>授業で保証する学習時間と、予習・復 タンボート作成に必要な標準的な学習時間の総計像をである。			「到達目標」を網羅した問題を中間試験および定期試験で出題し,目標の関する重みは概ねほぼ均等とし,試験は100点法により60点以上の得点別,学年末の2回の試験の平均点で評価する.なお,各試験とも再試験はること。 料は、数学の微分・積分(重積分を含む)三角関数,指数関数を理解してあればより理解が深まる。 ・復習(中間試験,定期試験のための学習も含む)及び適時与える演習的総計が,45時間に相当する学習内容である。 5ことが重要である.また,本教科は,機能物質を研究するための基礎と		
授業計画								
	週	授業内容・	方法		退	ごとの到	達目標	
	1週	多電子原子。	と量子数		1	. 多電子原	京子の量子	数が分かる.
	2週	多電子原子。	と量子数		1	:記1		
	3週	電子スピン	と磁気特性		2	. 磁気特性	生の発現原	因を理解できる.
4週		多面体配位	位した遷移金属イオンのd電子のエネル		/ギー状態 3	3. d電子のエネルギーを理解できる.		
						4 結島場理論から8面体配位したd電子のポテンジ		

授業計画	<u> </u>						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
	1週	多電子原子と量子数	1. 多電子原子の量子数が分かる.				
	2週	多電子原子と量子数	上記1				
	3週	電子スピンと磁気特性	2. 磁気特性の発現原因を理解できる.				
	4週	多面体配位した遷移金属イオンのd電子のエネルギー状態	3. d電子のエネルギーを理解できる.				
	5週	結晶場理論と8面体配位のポテンシャル	4. 結晶場理論から8面体配位したd電子のポテンシャルが分かる.				
	6週	結晶場理論と8面体配位のポテンシャル	上記4				
	7週	摂動法	5. 結晶場理論から8面体配位のd電子のエネルギーが求められる.				
前期	8週	中間試験	上記1, 2, 3, 4				
	9週	摂動法	上記5				
	10週	結晶場理論と8面体配位のd電子のエネルギー	上記5				
	11週	結晶場理論と8面体配位のd電子のエネルギー	上記5				
	12週	結晶場理論と8面体配位のd電子のエネルギー	上記5				
	13週	結晶場理論と8面体配位のd電子のエネルギー	上記5				
	14週	電子遷移と光特性	6. 光特性の発現原因を理解できる.				
	15週	レーザー発振	7. レーザー発振が理解できる.				
	16週						
評価割合	<u> </u>						
	1		I I I a				

態度

発表

その他

合計

試験

総合評価割合

配点

課題

相互評価

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		教科	4名	英語総合Ⅱ	
科目基礎情報								
科目番号	0044			科目区分	_	一般 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 学	学修単位: 1		
開設学科	総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノロジーコース)			対象学年	専	専2		
開設期	前期			週時間数	1			
教科書/教材 教科書: Hamlet (Cambridge School Shakespeare) (英語) ペーパーバック Richard Andrews (編集), Rex Gibson (編集), その他								
担当教員 松尾 江津子								
到连日堙								

到達日標

1. 【英語運用能力の基礎固め:英語コミュニケーション】

母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(繰り返しや相槌、ジェスチャー、アイコンタクトなどのボディランゲージ)を適切に用いながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また、日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができ、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりである文章を英語で書くことができる。
2. 【英語運用能力向上のための学習:英語コミュニケーション】

2. 【央語連用能力向上のための学習:英語コミュニケーション】 自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聴き取ることができる。関心のあるトピックや自分の専門分野での英語を使う場面(プレゼンテーション、ディスカッションやディベートなど)を想定して、学生自らが準備活動や情報収集を行い、母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもちながら、主体的な態度で教室内外での日常的な質問や応答など英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。また、関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。 3. 【グローバリゼーション・異文化多文化理解】 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と思連付けて説明に、解釈できる。

それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容の把握を他に適用することができる。	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握することができる。	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、その内容を把握することができない。				
評価項目 2	関心のあるトピックや自分の専門 分野に関する論文やマニュアルな どの概要を把握し、必要な情報を 読み取り、その内容の把握を他に 適用することができる。	関心のあるトピックや自分の専門 分野に関する論文やマニュアルな どの概要を把握し、必要な情報を 読み取り、その内容を把握するこ とができる。	関心のあるトピックや自分の専門 分野に関する論文やマニュアルな どの概要を把握し、必要な情報を 読み取り、その内容を把握するこ とができない。				
評価項目 3	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる。	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。				

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要

英語 I ~ V で学習した英語力を活用し、より高度な英語のリーディング力を養うことを目指す。具体的には、William Shakespeare のHamlet を精読することで、読解力の向上、文法事項・語彙・慣用表現などの知識の強化をねらいとする。また、英文を理解し内容を楽しむと同時に、その文章を生み出した歴史や文化、社会について学び、教養を身に付けることを目的とする。テキストは、Cambridge School Shakespeare という学生向けのテキストを使用する。シェイクスピアの原文はそのまま書き換えなしのノーカットで右ページに、左ページには語の簡単な注釈や、劇のテーマ、作品理解へのヒントとなる解説などが英語で書かれている。科学・技術を研究する本校の学生にも、イギリスの歴史や文化、レトリックを学び、かつ今や全世界で各地の歴史風土と結びつき、"グローカル"な変化を遂げているシェイクスピア劇の教養を身に付け、世界に羽ばたいてほしい。

授業の進め方と授業内 容・方法

・すべての内容は, 学習・教育目標(A) <視野> [JABEE基準1(2)(a)] 及び(C) <英語> [JABEE基準1(2)(f)] に

「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.

・<到達目標の評価方法と基準>「授業計画」の「到達目標」 $1\sim6$ の習得の度合いを中間試験、定期試験、 ・ (学業成績の評価方法と基準) 「対議: 10 「到達日標」「100日時の度日では中間記録、た知記録、 77人下、 課題により評価する、評価における「知識・能力」の重みの目安は1~5を90%, 6を10%とする、試験問題や課題の レベルは、百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。 ・ <学業成績の評価方法および評価基準>中間、期末の2回の試験の平均点を70%とし、小テスト及びその他課題(発表を含む)等の評価を30%とし、その合計点で評価する、ただし、各定期試験で60点に達していない者には再試験を課す こともあり、再試験の成績が本試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置 き換えるものとする。

注意点

き換えるものとする。
・<単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。
・<単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。
・<あらかじめ要求される基礎知識の範囲>TOEIC 400点程度、COCET2600終了程度の語彙知識。
・<レポート等>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。
・<備考>授業は輪読、及び発表形式で行い、ブレイリーディングを行うことも検討する。毎回の予賞
文を辞書を引いて読んでくること。授業には必ずテキストと英和辞典(電子辞書可)を用意すること _毎回の予習は、テキストの英

授業計画

<u> </u>								
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標					
前期	1週	序論(授業の進め方、勉強の仕方、評価方法)	授業の進め方を理解できる.					

	2週	Hamlet Act	t 1			用表現が理解できる. 3.作品および解説の内切な表現で答えることだ4.作品の一部を正しい5.作品および解説に含を応用して適切な英語。6.作品および解説に含	テーマを理解できる. 使われる単語・熟語の意味および慣 内容に関する英語の問いに対して,適 ができる. ・発音で音読することができる. 含まれる語法,英語表現のいくつか 長現ができる. にける議論を自分の問題としてとらえ 長明することができる.
	3週	Hamlet Act	t 1			上記1~6	
	4週	Hamlet Act	t 1			上記1~6	
	5週	Hamlet Act	t 2			上記1~6	
	6週	Hamlet Act	t 2			上記1~6	
	7週	Hamlet Act	t 3			上記1~6	
	8週	中間試験				上記1~6	
	9週	中間試験の	解答解説			上記1~6	
	10週	Hamlet Act	t 3			上記1~6	
	11週	Hamlet Act	t 3			上記1~6	
	12週	Hamlet Act	t 4			上記1~6	
	13週	Hamlet Act	t 4			上記1~7 既習の文型・文法を使っ とらえることができる.	った文章を読みこなし、その内容を
	14週	Hamlet Act	t 5			上記1~6	
	15週	Hamlet Act	t 5			上記1~6	
	16週						
評価割合				·	·		
			定期試験		小テスト・	 課題	合計
松仝証価割る	Δ		70		0		70

	定期試験	小テスト・課題	合計
総合評価割合	70	0	70
配点	70	3 0	70

鈴鹿工業高等	専門学校	開講年度 平成31年度 (2	2019年度)	教科名	技術英語 Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 必	
受業形態	授業		単位の種別と単位	数学修単位	立: 1
開設学科	総合イノベ ロジーコー	ーション工学専攻(ロボットテクノ ス)	対象学年	専2	
引設期	後期		週時間数	1	
数科書/教材	1. Docume	ents downloaded from Internet fil	e storage. 2. Mate	erial as distrib	outed in class.
3当教員 	Lawson Mi	chael			
到達目標					
•	course is to	increase the students' ability to g	give an advanced-	level oral pre	sentation in English.
レーブリック		I TO A COLOR OF THE ACCOUNT OF THE A	1 =24.45 1.5 7 11. + 1		
		理想的な到達レベルの目安 母国以外の言語や文化を理解しよ	標準的な到達レベ	ルの目安	未到達レベルの目安 よ 母国以外の言語や文化を理解しよ
平価項目1		うとするを勢をもち、実際のコーヤラでは、本的にコーヤタを主ない。 大きなにいる はいい から はい から で はい から	うや二槌ト切二・関的がし文 をにかったで表きいので、章 をにシェのいシ、、現りので、章 をにシェのいシ、、現りを自語語で、では、 で、では、 で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、	基本的ない。 基本的ないで、 をできません。 をできません。 は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	ユーや目的に応じて、基本的なコンウェーターでは、水では、水でのなって、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、水で、
平価項目2		自分の 自分の 自分の 自分の 有が である 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次	自ある度 , . 門ゼン、を理ら日滑とピ章論こりの内告速報心野テデ生いし主的コでクパ的がの内告速報心野テデ生いし主的コでクパ的が専容や度をのでーィ自 , よ体なミきにラ文で再ない取ト語のシベら母う的質ュるつグ章きのどったのである英ヨーが国とな問 ニ・いラのる野心ない取りにないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	ある年 ある年 概と から で で に い で に い で に の で に い で に の で に の に い で り に の り に の り に の り に の り に の り に の に で に の に の に の に の に で に の に の に の に の に に で に で に で に で に に で で に で で で で で で で で で で で で で	する内容や関心になった。 ある報告を持ち、このでは、 を関語を表する。 を関語を表する。 を関語を表する。 をでは、このでは、 をでいるで、 をでは、 をでは、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 をでいるで、 といば、 をでいるで、 といじ、 をでいるで、 といじ、 をでいるので、 といじ、 をでいるので、 といじ、 をでいるので、 といじ、 をでいるので、 といじ、 をでいるので、 といでので、 といて、
平価項目3		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる.	それぞれの国の文 を払い、その違い 容さが必要である がら、、価値観の生 信条、一個でもの文化 明し、解釈できる	を受け入れる ことを認識した 活習慣や宗教的 の基本的な事態 と関連付けて記	寛 を払い,その違いを受け入れる寛は 容さが必要であることを認識した 的 がら,その国の生活習慣や宗教的 家 信条,価値観などの基本的な事象
学科の到達目標項	目との関係				
教育方法等					
既要	English-lar PowerPoin	tive of this class is to build on the nguage presentation skill by focus t slide transition, the use of elect nguage presentation techniques,	sing on group coop ronic mail as a too	peration, scrip ol for revision	pt/PowerPoint file coordination, and development, and advanced
受業の進め方と授業内	,				<english> (JABEE Standard 1(1)</english>

<到達目標の評価方法と基準>
Students' English oral presentation ability will be evaluated through one "Main" English oral presentation to be given on the 15th week of class. Students will have attained the goal of this course provided that they have earned 60% of the total points possible which includes the 1 "Main" presentation.
<学業成績の評価方法および評価基準>
Students are required to give 1 "Main Presentation". The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study/presentation time outside of the classroom. Failure to meet the deadlines for these assignments will result in a 10% reduction of the final grade—for each infraction. grade—for each infraction. <単位修得要件>

注意点

Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.
<あらかじめ要求される基礎知識の範囲>
A good command of basic English syntax; a practical level of reading and listening comprehension, and some ability to converse in English as achieved through their first five years at Suzuka Kosen.
<レボートなど> Students will be given weekly assignments, such as, topic selection, weekly outline and PowerPoint updates. Students are required to obtain an email account which can send and receive Word and

PowerPoint documents.

You may contact me at: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp.

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
	1週	Assign students to small groups. Introduce course/Assign Main Presentation topic selection. Discuss the theoretical and practical use of email exchange as a tool for revision and development.	Students will learn about Main Presentation topic selection. Discuss the theoretical and practical use of email exchange as a tool for revision and development.
	2週	Discuss group cooperation techniques for outline creation. Assign Outline draft 1. Groups submit 1st draft outlines to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	 To learn group cooperation through an analysis of group selection techniques and an in-class lecture regarding the importance of teamwork. To acquire script/PowerPoint file coordination and PowerPoint slide transition skill through lectures and practical application as they create effective presentations. To learn advanced script and PowerPoint revision techniques through lectures and electronic mail exchange with the teacher. To develop advanced practical presentation techniques by being required to memorize scripts and by focusing on physical aesthetics, such as smooth speaker transition. To further improve their ability to give an effective English-language oral presentation with the use of PowerPoints.
	3週	Discuss how 1st draft outlines can be improved. Groups submit 2nd draft outlines to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	1∼5 listed above.
	4週	Class time is spent discussing how the 2nd draft outlines can be improved. Groups submit 3rd draft outlines to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	$1{\sim}5$ listed above.
	5週	Class time is spent discussing how the 3rd draft outlines can be improved. Groups submit 4th draft outlines to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	$1{\sim}5$ listed above.
	6週	Class time is spent discussing how the 4th draft outlines can be improved. Groups submit final draft outlines to the teacher via email attachment. Teacher makes final improvements on the outlines.	1∼5 listed above.
後期	7週	Discuss group cooperation techniques for PowerPoint creation, script/PowerPoint file coordination, and slide transition. Groups submit 1st draft PowerPoints to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	1∼5 listed above.
[[77]	8週	Class time is spent discussing how the 1st draft PowerPoints can be improved. Groups submit 2nd draft PowerPoints to the teacher via email attachment. Teacher areas for improvement.	1~5 listed above.
	9週	Class time is spent discussing how the 2nd draft PowerPoints can be improved. Wednesday: Groups submit 3rd draft PowerPoints to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	1~5 listed above.
	10週	Class time is spent discussing how the 3rd draft PowerPoints can be improved. Wednesday: Groups submit fourth draft PowerPoints to the teacher via email attachment. Teacher notes areas for improvement.	1∼5 listed above.
	11週	Class time is spent discussing how the 4th draft PowerPoints can be improved. Wednesday: Groups submit final draft PowerPoints to the teacher via email attachment. Teacher makes final improvements on the PowerPoints.	1∼5 listed above.
	12週	Discuss advanced presentation techniques such as complete script memorization and speaker transition. Groups practice their presentations using a computer and projector in the classroom while the teacher teaches presentation skills based on weaknesses observed during these practice sessions.	1∼5 listed above.
	13週	Discuss advanced presentation techniques such as complete script memorization and speaker transition. Groups practice their presentations using a computer and projector in the classroom while the teacher teaches presentation skills based on weaknesses observed during these practice sessions.	1∼5 listed above.
	14週	Discuss advanced presentation techniques such as complete script memorization and speaker transition. Groups practice their presentations using a computer and projector in the classroom while the teacher teaches presentation skills based on weaknesses observed during these practice sessions.	1~5 listed above.
	15週	Students make their presentations in the audio/visual room and are judged by native-English speakers, guest judges, and select members of the English department.	$1{\sim}5$ listed above.
=示/示·=··· ^	16週		
評価割合		=.bgA	T _A -1
		試験課題	合計

総合評価割合	90	10	100
配点	90	10	100

 鈴鹿	工業高	 等専門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	国際関係論	
科目基礎		., ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1,13213 1,12	1 1 1 1 1 1 1 1		l .			
科目番号		0046			科目区分		一般 必修		
<u></u>		授業			単位の種別	 と単位数	学修単位:		
開設学科		総合イノへロジーコー	ベーション工学専攻 -ス)	ズ(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		後期			週時間数		2		
教科書/教	材	坂井昭夫	『国際政治経済学と	(は何か』青木書店	1998年(購	入は義務付	けない)		
担当教員		三瀬 貴弘,	藤野 月子						
到達目標	票								
①「国際II , 暗黙に前 ②「国際社	放治経済等 前提とする 社会でまる	学(Internation る思考,現実の利 さに今,何が問題	al Political Econo 失序形成,現在のE 重になっているか」	my;IPE)」につい 3米関係に対して与 について,その背	て, (1)国際 えている影響 景も含めて,	政治経済学(を理解する 広くかつ深	の出自, なり こと. い視点から	らびに, (2)国際 理解すること.	政治経済学の特徴
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到	達レベルの	目安	未到達レベル	の目安
評価項目1	L		国際社会の成立の 、平和の意義に 察出来る.	と発展を理解し ついて応用的に考	国際社会の, 平和の意	成立と発展 義について:	を理解し 考察出来る		立と発展を理解し について考察出来な
評価項目2	2		国際的な政治・総	経済の仕組み, 国 の現状と背景を応 る.	国際的な政 家間の結び 解出来る.	治・経済のつきの現状	仕組み, 国 と背景を理	国際的な政治	・経済の仕組み, 国 きの現状と背景を理
評価項目3	3		課題を発見・理解	が直面している諸 解し,解決に向け いて主体的に考え	現在の国際 課題を発見 た取り組み 出来る.	理解し、	解決に向け	課題を発見・	会が直面している諸 理解し,解決に向け ついて考えることが
学科の至	引達目標	項目との関係						-	
<u>」 </u>		· // C - // //	••						
概要	747	国際社会に	こおいてまさに今, と, より良く理解す	生じている様々な「るために必要とな」。 「国際公共財」	問題についてる、国際関係	, 政治的, 論の基礎的	経済的,文 な理論,考	化的,歴史的背 え方を習得する	景を含めて理解する。さらに、理論と現る
 授業の進ぬ 容・方法	か方と授業	*-		5, 「国際公共財」 15目標(A) <視野> a				のの日本関係に	力いて与宗する。
注意点		期待する. ①10分間 ②55分間 ③20分間 ④5分間「	「頭の体操」・・・・ 「理論講義」・・・・ 「映像資料」・・・・ 感想記入」・・・・講	国際関係論に関する 受業計画に沿い,穴 国際社会で現在起こ 義に対する感想。	、「面白さ」 埋め形式のし っている問題 要望や質問な	を重視した シジュメを酢 種を, 映像賞 どを記入し [*]	:クイズをす !布, それに !料を用いて C提出する.	る. 沿い講義する. 講義する. (達	学習することを強く (達成目標①) 成目標②) して復習すること.
授業計画	<u> </u>					,			
	週	授業内容・	方法			週ごとの至	」達目標		
	1週	オリエンテ	テーション			1. 国際関	係論のイメ	ージを掴む.	
	2週	国際関係論	〜 と国際政治経済学	<u> </u>		解する.			議, 両者の関係を理
	3週	国際関係諸	命の誕生①			リア条約の)意義)		する(ウェストファ
	4週	国際関係論	命の誕生②			4. 国際際 意義).	川が冊ル誕生	した飛行を理解	なずる (第一次大戦の
	5週	リアリズム	」とリベラリズム①)		5. リアレ	ズムの考え	方を理解する.	
	6週	リアリズム	」とリベラリズム②)		6. リベラ	リズムの考	え方を理解する).
	7週	リアリズム	ムの隆盛と行き詰ま	<u> </u>				た現実的背景を	
	8週	リアリズム	ムの隆盛と行き詰ま	50②		8. リアリ	ズムが衰退	した現実的背景	を理解する.
後期	9週	学術的政経	 E架橋①			9. 自由主	義経済学の	全体像とゲーム	論の意義を理解する
						10 公士	お押令を押		
	10週 11週	学術的政経 覇権安定論					財概念を理	<u> </u>	・田紹さる
									(理胜する) なアンフトパワー
	12週	覇権安定論	a 2				女正論に対力の概念を		
	13週	相互依存論	1					本的な考え方を	理解する.
	14週	相互依存論						する批判を理解	
	15週			 、ト冷戦秩序の構築			ト冷戦にお	互依存論の関係 ける米国の世界	を埋解する. 関戦略と国際政治経済
	16週					ナシノメガかる	- 生性りる.		
= 17/無字□/2						I			
評価割合		- 4 F-◇	=m 85	+0-==-/	松炭			1 -10 1	Δ=1
₩ △ =###		式験	課題	相互評価	態度	発表		レポート	合計
総合評価書			0	0	0	0		100	100
配点	[0	0	0	0	0		100	100

鈴鹿工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	孝)科名	経営学
科目基礎情報							
科目番号	0047			科目区分		一般 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位	数	学修単位:	2
開設学科	総合イノベー ロジーコース		(ロボットテクノ	対象学年		専2	
開設期	前期			週時間数		2	
教科書/教材	参考書: 植村 通しておくこ	 対修一『リスク⊪ と.	寺代の経営学』(平	凡社). その他は講	義の	とき指示す	る. 日本経済新聞はできる限り目を
担当教員	渡邉 潤爾,春日	田 要一,松下 晶					
到達日煙							

- 1. 自己が主体的に参画していく社会について、経営学の理論的枠組みを理解し、説明できる。
 2. 企業の組織形態や生産・マーケティング戦略、財務、技術開発などを経営学の視点から理解できる。
 3. 多国籍企業や国際経営、技術と企業との関係など、現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍、インターネット等により適切に収集し、その成果を論述できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自己が主体的に参画していく社会 について,経営学の理論的枠組みを 理解し,応用的に説明できる.	自己が主体的に参画していく社会 について,経営学の理論的枠組みを 理解し,基本的に説明できる.	自己が主体的に参画していく社会 について,経営学の理論的枠組みを 理解し,説明できない.
評価項目2	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略,財務,技術開発などを経営学の視点から応用的に理解できる	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略、財務,技術開発などを経営学の視点から基本的に理解できる	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略,財務,技術開発などを経営学の視点から理解できない.
評価項目3	多国籍企業や国際経営,技術と企業との関係など,現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍,インターネット等により適切に収集し,その成果を応用的に論述できる.	多国籍企業や国際経営,技術と企業との関係など,現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍,インターネット等により適切に収集し,その成果を基本的に論述できる.	多国籍企業や国際経営,技術と企業 との関係など,現代社会における企 業の特質や課題に関する資料を書 籍,インターネット等により適切に 収集し,その成果を論述できない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技術とそれを支える科学,技術に対する社会のニーズ,技術を活かす人材育成を中心的な要素として採り上げ,それらの関わり,変化への対応について論じ,社会・基礎科学・応用技術・コミュニケーション・信頼感などの要素から経営学 を理解できるようにすること,および実践的な知識として企業経営の知識を習得することを本講義の目的としている.
授業の進め方と授業内容・方法	・すべての内容は学習・教育目標(B) <専門> とJABEE基準1(1)(d)(2)a)に対応する. ・全ての授業は講義形式で行う. 授業中は集中して講義に耳を傾けること. 教員からの質問に答えられるように準備すること. ・授業計画における各週の「到達目標」は,この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.
注意点	〈到達目標の評価方法と基準〉 上記の「知識・能力」の習得の度合を定期試験、レポートにより評価する.評価における「知識・能力」の重みの目安はおおむね均等とする. 試験問題とレポート課題のレベルは、百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する. 〈学業成績の評価方法および評価基準〉 試験での評価を50%、レポートの評価を50%として評価する. ただし、試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が試験の成績を上回った場合には、60点を上限として試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする. 〈単位修得要件〉 学業成績で60点以上を取得すること. 〈あらかじめ要求される基礎知識の範囲〉 第4学年の「技術経営Ⅰ」「技術経営Ⅱ」を履修していることが望ましい. 〈自己学習〉or〈レボート等〉 授業で保証する学習時間と、予習・復習(試験のための学習も含む)及びレボート作成に必要な標準的な学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である. 〈備考〉経営学は、適信手段、グローバリ化の進展と共に急速に変化している. 講義は、適宜最近の話題についての資料を印刷し配布する. 現在どんな問題点があり今後どのような方向に社会・技術が進むかを読む力を是非養ってほしい. 授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める. 授業中、参考書を紹介するので、その都度目を通してから授業を受けるのが望ましい.

拉茶計型

授業計画]		
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
	1週	ガイダンス, グローバル化と国際経済の理解	1. 経営学の全般的な概略, グローバル化に対応が迫られている中で, 経営学の必要とされる知識を習得する.
	2週	産業の特性と企業経営	2. 産業の特性をどのように企業経営の中に活かすか,経営組織について理解する.
	3週	グローバル化の中の企業論	3. グローバル化の中で生き残るために必要とされる経営 戦略の条件を理解する.
	4週	コーポレート・ストラテジー	4.経営資源,SWOT分析の知識を踏まえ,企業の成長戦略・競争戦略を理解する.
	5週	マーケティング・リサーチ	5. マーケティングマネジメントの手知識を踏まえ, 顧客 志向に基づくマーケティング戦略を理解する.
前期	6週	財務諸表と企業経営	6. 製造原価の構造と価格の設定法を踏まえ,製造原価報 告書と損益計算書の基本を理解する.
	7週	コミュニティ経済と企業のあり方	7. 企業の社会的責任,産業クラスター等の知識を踏まえ , 地域における企業のあり方を理解する.
	8週	中間試験	目標1~7の内容を説明できる.
	9週	基礎科学と応用科学との関わり	8. 基礎科学と応用科学の違いと重要性, 及び社会との関わりについて理解する.
	10週	科学的品質管理	9. 統計的品質管理, TQC, TQM, QC7つ道具, 6σ等の 品質管理手法の概要を理解する.
	11週	信頼性の科学	10. 信頼性工学の基礎的知識を理解する.
	12週	安全管理・危険予知・5 S	11. 安全管理の基本的考え方,予防管理としての KYT, 55の必要性を理解する.

						_			
	13週	技術の世代	 交代			1 2 . 互換	幾つかの技術分里 生の重要性を理解す	 予における世代交代 する.	式を知り,標準と
	14週	知的財産権				13. ,国	特許法,実用新絮 祭条約等の概要を理	受法, 意匠法, 商標 理解する.	慧、著作権法
	15週	企業文化・	企業倫理・内部統領	制		14. こと(企業には文化や風 は何かを理解する.	🗓土があり, 企業組	1織として必要な
	16週								
評価割合									
	試	験	課題	相互評価	態度		発表	その他	合計
総合評価割	合 50)	50	0	0		0	0	100
配点	50)	50	0	0		0	0	100

#1	ボル主 キロ	<u> </u>	開講年度 平成31年度 (2	-U1 <i>J</i> +/又 <i>]</i>	教科名	言語表現学特論
科目基礎	E'l育教	laa : -		Taller o	45 1	
科目番号		0048		科目区分	一般 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位:	2
開設学科		総合イノベ ロジーコー	ーション工学専攻(ロボットテクノ ス)	対象学年	専2	
開設期		後期		週時間数	2	
<u> 教科書/教</u>	 オオ		日本近代文学選 増補版 (アイブ	<u> </u>	1=	
<u> </u>	-143	石谷 春樹			11 1 1	
<u>- 3 </u>						
		+#+>/ - =		C+3-1-442*/FD/-	N3 11 22 4 5 4 7	
日本近代》 ,日本近代:	く子の中 ど,代 文学に関する	表的な作象の 理解と認識を	D作品を中心に取り上げて,作品を分れ を深めることを目標とする.	丌りることを字ひ,作品に	込めりれだれ	作者の心情を読み味わつことにより
ルーブリ	Jック					
·			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの]安	未到達レベルの目安
			日本近代文学を代表する作品の中	日本近代文学を代表す		日本近代文学を代表する作品の中
評価項目1			で、応用的な作品の分析ができる	で、基本的な作品の分	折ができる	で、基本的な作品の分析ができな
					- > 1=+ , =-+	い.
評価項目2	2		応用的に作品中の作者の心情を読み味わうことができる.	基本的に作品中の作者はみ味わうことができる。	ひ心情を読	基本的に作品中の作者の心情を読 み味わうことができない。
						基本的に日本近代文学に関する理
評価項目3	}		応用的に日本近代文学に関する理解と認識を深めることができる.	基本的に日本近代文学(解と認識を深めること)	こ関する理	
				rf Ci心誠で沫めること	n. (GØ'	1.
学科の至	達目標項	ヨとの関係	<u> </u>			
教育方法	 法等					
		これまで学	んできた国語の学習を基礎として,さ	らに,日本近代文学におり	 ナる代表的な	作品の理解を深める.具体的には
概要		講義によっ	って作品を丁寧に読み分析する方法を	身につけ、研究発表によっ	って問題解決	能力の養成と表現力の向上を目指す
			で、現代における文学の意義と言語表			
授業の進み	か方と授業内	・すべての 発表〉に対	内容は学習・教育到達目標JABEE基 応する	準1(2)の(a)およひ(f),字	習・教育到達	達目標(A)の〈視野〉およひ(C)の〈
容・方法		・全ての授	業は講義・演習形式で行う. 授業中	は集中して講義に耳を傾	けること.	
			における各週の「到達目標」は, こ			
		〈到達目標	の評価方法と基準〉下記授業計画の 悪の達成度を評価する.達成度評価に	「到達目標」1~6を網額	した問題を,	定期試験と研究発表・レポート等で
		山越し,日信	の達成度を評価する、達成度評価に 認できるレベルの試験を課す。	ありる合到達日信の里の	は成ね均等	と 9 る。 合計点の60%の待点で,日4
		〈学業成績	の評価方法および評価基準〉定期試	験の結果を60%,研究発え	。 の結果を20)%,レポート等の結果を20%として
		1.全体の平均	3値を最終評価とする、ただし,再試験	剣を行わない.		
注		1 / 24 / 34 / 45 / 45 / 45 / 45 / 45 / 45 / 4	亜州 ヒミンタも調覧しず しぬた			
注意点		とという	安什)子んりれに誄越レハート寺で は西北されて甘琳加強の祭用)に少	すべて提出し,字業成績で	60点以上を	取得すること.
		1〈白己学習	要件)与えられた課題レポート等を め要求される基礎知識の範囲)近代 ・レポートなど)授業における学習	時間と試験勉強を含めた	予習及び復習	3. そして課題レポート準備に必要
		1〈白己学習	・レポートなど)授業における学習	時間と試験勉強を含めた	予習及び復習	3. そして課題レボート準備に必要
		〈自己学習 な標準的学 〈備考〉授	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し、内容に対して積	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極的に取り組むこと、出	予習及び復習	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
		〈自己学習 な標準的学 〈備考〉授 こと.文学	・レポートなど)授業における学習	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極的に取り組むこと. 出 気持ちを考えることであ	予習及び復習	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
		〈自己学習 な標準的学 〈備考〉授 こと.文学	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極的に取り組むこと. 出 気持ちを考えることであ	予習及び復習	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた学習内容である. 「極的に取り組むこと. 出気持ちを考えることである行動を心がけること.	予習及び復習 された課題(うる、そこで)	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
授業計画	週週	〈自己学習 な標準的学 〈備考〉授 こと.文学	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極的に取り組むこと. 出 気持ちを考えることであ	予習及び復習 された課題(うる、そこで)	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極的に取り組むこと. 出 気持ちを考えることであ る行動を心がけること. 週ごとの到 1. 作品を	予習及び復習 された課題 うる. そこで 達目標	3, そして課題レボート準備に必要 は.期日を守って必ず提出・実施す?
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容である。 極的に取り組むこと、出 気持ちを考えることである。 る行動を心がけること。 週ごとの到 1. 作品を る。	予習及び復習された課題にある。そこでは 「達目標 「字一句丁寧	留, そして課題レポート準備に必要は,期日を守って必ず提出・実施する 受業を通して,人の気持ちを考えるこ で業を通して,人の気持ちを考えるこ
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容である。 「極的に取り組むこと・出 気持ちを考えることであ いる行動を心がけること・ 週ごとの到 1. 作品を る。 2. さまざら を探し、その	予習及び復習はこれた課題にある。そこでは 達目標 一字一句丁等には点からの問題点につ	は、、そして課題レボート準備に必要は、期日を守って必ず提出・実施するで業を通して、人の気持ちを考えるでででいる。 でででいる。 でに読み、作品を読解することができる。 の、作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 極初に取り組むこと. 出 気持ちを考えることである る行動を心がけること. 週ごとの到 1. 作品を る. 2. さまざる を探し,その 3. 自らの	予習及び復習された課題(はある、そこで)は関点にのいる。 とこで は 関点に の は 関点に の は 関点に の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	3, そして課題レボート準備に必要は、期日を守って必ず提出・実施する受業を通して、人の気持ちを考える。 で業を通して、人の気持ちを考える。 でに読み、作品を読解することができ が作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 は論を導く中で、これまでの研究史を
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容のではいます。 「極的に取り組むこと、出 気持ちを考えることである。 「気持ちを考えることである」 「通ごとの到 1. 作品を 「る」さまで、 を探し、の引 把握したの別	予習及び復習された課題はある。 は	3, そして課題レボート準備に必要は、期日を守って必ず提出・実施する受業を通して、人の気持ちを考える。 で業を通して、人の気持ちを考える。 でに読み、作品を読解することができ が作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 は論を導く中で、これまでの研究史を
授業計画		(目己学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習学習	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容で知むこと、出 気持ちを考えることとである。 る行動を心がけることとである行動を心がけることとである。 週ごとの至 1. 作品を る。 さまその 3. 自らの 把握したう	予習及び課題に されたそこでは 三世一字は題点にから できれている。 できれて、 できれて、 できれて、 できれている。 できれている。 できれている。 できれている。 できれている。 でもれている。 でもれて	は、用日を守って必ず提出・実施するで業を通して、人の気持ちを考えるでででいる。 で業を通して、人の気持ちを考えるでできる。 では、からいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に記るの研究中をはいて考察することができる。 に記を導く中で、これまでの研究中をはいておいてきる。 に記明方法によって自分の意見を述
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど〉授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めた 学習内容である. 域例に取り組むこと. 出表 を必がられることできた。 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	予習及び課題に 達一字では題点が理した。 一字では題点がでいる。 では題点がでいる。 ではのではいかではでいる。 ではのではいる。 ではのではいる。 ではのではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	は、用日を守って必ず提出・実施する は、期日を守って必ず提出・実施する 授業を通して、人の気持ちを考える。 でに読み、作品を読解することができ が作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 は論を導く中で、これまでの研究史を な証明方法によって自分の意見を返 を記した研究成果を、発表すること た問題解決能力を各自の専攻する。
授業計画		(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して積 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのあ	時間と試験勉強を含めた 学習内容のと、と、で、 「極的に取りに取りますがはる。こと、でも、であれる。ことでと、でき、でも、でき、では、できないでは、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でいる。このでは、ないでき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でき、でいっている。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことがいる。ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、ことは、	予習とは一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と一方と<td>は、用日を守って必ず提出・実施するで、 は、期日を守って必ず提出・実施するで、 で業を通して、人の気持ちを考えるでで、 でに読み、作品を読解することができる。 が作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 いて考察することができる。 な証明方法によって自分の意見を必な証明方法によって自分の意見を必 な記明方法によって自分の意見を必 な記明方法によって自分の意見を必 な記明ができる。</td>	は、用日を守って必ず提出・実施するで、 は、期日を守って必ず提出・実施するで、 で業を通して、人の気持ちを考えるでで、 でに読み、作品を読解することができる。 が作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 いて考察することができる。 な証明方法によって自分の意見を必な証明方法によって自分の意見を必 な記明方法によって自分の意見を必 な記明方法によって自分の意見を必 な記明ができる。
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど〉授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めています。 を含める。ことでは、 学習内容取り考えがは、 気持動を心がは、 でも組むここる。 でも組むここととと、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは	予 はる「達 ー まり問えが作長法にで は	習, そして課題レボート準備に必要は,期日を守って必ず提出・実施する受業を通して,人の気持ちを考える。 で業を通して,人の気持ちを考える。 でに読み,作品を読解することができる。 がに表察することができる。 に記を導く中で,これまでの研究史をな証明方法によって自分の意見を設 をにした研究成果を,発表することだ問題解決能力を各自の専攻する言ることができる。 ることができる。
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど〉授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めている。 学習内容であれることでという。 「はいっては、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、できがいる。 「はいっとが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	予 はる達一字ま 問題で に ま い に ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま ま い に ま ま ま ま	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かれて表際することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記を導く中で、これまでの研究史をな証明方法によって自分の意見を な証明方法によって自分の意見を なにした研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 をにした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど〉授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めている。 学習内容であれることでという。 「はいっては、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、できがいる。 「はいっとが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	予 はる達一字ま 問題で に ま い に ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま ま い に ま ま ま ま	は、用日を守って必ず提出・実施すい。 は、期日を守って必ず提出・実施すい。 受業を通して、人の気持ちを考える。 では、から、作品を読解することができる。 は、おいて、といできる。 は、おいて、これまでの研究史を は、正といて、これまでの研究史を は、これで、一般では、一般である。 は、これで、一般では、一般である。 は、これで、一般で、一般である。 は、これで、一般で、一般で、一般である。 は、これで、一般で、一般で、一般である。 は、これで、一般で、一般で、一般で、一般で、一般で、一般で、一般で、一般で、一般で、一般
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めている。 学習内容であれることでという。 「はいっては、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、できがいる。 「はいっとが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	予 はる達一字ま 問題で に ま い に ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま ま い に ま ま ま ま	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かれて表際することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記を導く中で、これまでの研究史をな証明方法によって自分の意見を な証明方法によって自分の意見を なにした研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 をにした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
授業計画	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めている。 学習内容であれることでという。 「はいっては、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、できがいる。 「はいっとが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	予 はる達一字ま 問題で に ま い に ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま ま い に ま ま ま ま	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かけいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	週	(目己学的学校) (ことを大切に) 授業内容・	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が、90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含めている。 学習内容であれることでという。 「はいっては、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできずいでは、できがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとできがいる。 「はいっとでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、できがいる。 「はいっとが、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは	予 はる達一字ま 問題で に ま い に ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま い に ま ま ま い に ま ま ま ま	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かけいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	1週	(はなべて)と 授業 本授業の概	・レボートなど)授業における学習 習時間の総計が,90時間に相当する 業中は講義に集中し,内容に対して程 は作者の表現した作品を読み,作者の するため,他人に対する思いやりのを 方法	時間と試験勉強を含め、	予 はる 達 一 まり問えが作長を法とい学表 で は	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、から、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。また、討 えにこいて考えることができる。
	1週	(はない) は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する学習学問の総計が、90時間に相当する業中は構義に集中し、内容に対して積は作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 要および学習内容の説明 具体例	時間と試験勉強を記しています。 を含いないでは、できないできないでは、できないできないできないできないでは、できないではないではないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、	予 さる達 一 まり問えが作長法表し学表20 たそ目 一 視題点で音解している。15 本問題でき解している。では、かっている。15 本問題ででは、では、16 本のに、かに、17 本のに、かに、18 本のに、かに、19 本のに、かに、10 また。では、10 また。では、11 また。では、12 ま	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、から、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。また、討 えにこいて考えることができる。
	通 1週 2週 3週	(なは) は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して積は作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 要および学習内容の説明 異体例 (新美南吉)	時間と試験勉強を記しています。	 予 はる 達	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、から、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。また、討 えにこいて考えることができる。
	通 1通 2週 3週 4週	(なに) は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して程は作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 要および学習内容の説明 異体例 (新美南吉) 宮沢賢治)	時間と試験勉強る.ここを 強る.ここととととととととととととととととととととととととととととととととととと	 予はる 達一まり問題でき解している。 でも、 は、 /li>	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、から、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。また、討 えにこいて考えることができる。
	通 1.週 2週 3週 4週 5週	(なに) という は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は清義に集中し、内容に対して積は作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 要および学習内容の説明 要および学習内容の説明 具体例 (新美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介)	時間と試験勉強る.ことととととととととととととととととととととととととととととととととととと	 予はる 達一まの問題できる 一まの問題できる 一まの問題できる 一方のでは、 一方のでは、<	は、用日を守って必ず提出・実施するは、期日を守って必ず提出・実施するで業を通して、人の気持ちを考えるので、人の気持ちを考えるのでは、作品の細部を分析し、自らが問題点いて考察することができる。 にはした研究成果を、発表することができる。 にした研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻するできる。 に問題解決能力を各自の専攻するできる。 にはたびできる。 にはたびできる。 には、おいて考えることができる。 には、おいて考えることができる。
	2週 3週 4週 5週 6週	(なくこと 授業 本授業の でいます) では、 では、大 大 内 容 でいままで でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない でいます でいます でいます でいます でいます でいます でいます でいま	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は清義に集中し、内容に対して積は作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法	時間と試験勉ある.ことととととととととととととととととととととととととととととととととととと	 予はる 達一まの問題できた。 でたるには、 はる はる はる はまっている。 はいっている。 はいっといる。 はいるのではいる。 はいるのではいるのではいるではいる。 はいるのではいるのではいるではいるのではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいる	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かけいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	2週 3週 4週 5週 6週 7週	(なくこと) 授 本授 学の、文切 容・	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して程能作者の表現した作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 要および学習内容の説明 要および学習内容の説明 具体例 (新美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介) 之介) 端康成)	時間と試験勉強を記しています。	予 さる達 一 まり問えが作表法表し学表に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、からないできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記るでは、かできる。 にはした研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	2週 3週 4週 5週 6週	(なくこと) 授目標備とを 選挙的)文切 容 本授 発 発 で	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して積に相当まるました作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 まおよび学習内容の説明 は解美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介) 之介) 端康成) 子(川端康成) 子(川端康成) でにおける学習といるでは、100円のでは、100	時間と試験勉ある.ことととととととととととととととととととととととととととととととととととと	予 さる達 一 まり問えが作表法表し学表に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、からないできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記るでは、かできる。 にはした研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	2週 3週 4週 5週 6週 7週	(なくこと) 授 本授 学の、文切 容・	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して積に相当まるました作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 まおよび学習内容の説明 は解美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介) 之介) 端康成) 子(川端康成) 子(川端康成) でにおける学習といるでは、100円のでは、100	時間と試験勉強を記しています。	 予はる 達一まの問題でき転送表し、学表 一度に同じじじいます。 一方にある。 一方にある。 一方にある。 一方にある。 一方にある。 一方には、 <l< td=""><td>は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かけいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。</td></l<>	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、かけいできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記した研究成果を、発表することができる。 に問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	(なくこと) 国には、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して積に相当まるました作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 まおよび学習内容の説明 まおよび学習内容の説明 は新美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介) 之介) 端康成) 子(川端康成) 潤一郎) れまいることにおける学習といる。 は作者の意味における学習といる。 は作者のに対する思いやりのを表します。 は作者の説明 はいまする。 はいまする。 はいまするといる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするといる。 はいまする。 はいま	時間と試験勉強を記して発生をしています。	 予 さる 「達 ー まり問えが作長法表し学表 一 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	は、用日を守って必ず提出・実施する。 は、期日を守って必ず提出・実施する。 授業を通して、人の気持ちを考える。 では、からないできる。 に読み、作品を読解することができる。 に読み、作品を読解することができる。 に記るでは、かできる。 にはした研究成果を、発表することができる。 た問題解決能力を各自の専攻する。 た問題解決能力を各自の専攻する。 ににした研究成果を、発表することができる。 ににしたができる。 見を伝えることができる。 最について考えることができる。
授業計画	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	(なくこと) 授本 本 研えいます では、 一次では、	・レボートなど)授業における学習習時間の総計が、90時間に相当する業中は講義に集中し、内容に対して積に相当まるました作品を読み、作者のするため、他人に対する思いやりのを方法 まおよび学習内容の説明 まおよび学習内容の説明 は新美南吉) 宮沢賢治) 川龍之介) 之介) 端康成) 子(川端康成) 潤一郎) れまいることにおける学習といる。 は作者の意味における学習といる。 は作者のに対する思いやりのを表します。 は作者の説明 はいまする。 はいまする。 はいまするといる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするといる。 はいまする。 はいま	時間と試験勉強る.ここを 強なる.ここととととととととととととととととととととととととととととととととととと	予 さる達 一 まの問えが作長法表し学表同 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	は、用日を守って必ず提出・実施すると、期日を守って必ず提出・実施すると、関業を通して、人の気持ちを考えると、できる。に読み、作品を読解することができる。にいて考察することができる。にした研究成果を、発表することができる。ことができる。また、問題解決能力を各自の専攻する等をにしたができる。また、問題解決能力を各自の専攻する。ことができる。また、討議を高くして、相手の見を伝えることができる。また、討議について考えることができる。

上記1~6と同じ.

12週

セメント樽の中の手紙(葉山重樹)

	13週	落下傘(金子光晴)		上記1~6と同じ.	上記1~6と同じ.			
	14週	注文の多い料理店(宮沢	賢治)	上記1~6と同じ.				
	15週 まとめ			これまで学んだこ。 方法を自分の専門が	これまで学んだことを復習して,文学を学ぶ意義及び研究方法を自分の専門分野に生かすことができる.			
	16週							
評価割合								
		試験	課題	発表	合計			
総合評価割	合評価割合 60 20		20	100				
配点		60	20	20	100			

	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科	名 淮	再外語学実習 I	
科目基礎		31 3 3 12	1/10011/2	11/3/01/1/2 (2	1017 12)	1 3/11	<u> </u>	7/100 3 // 00 2	
17 口 <u>坐 吸</u> 科目番号	ATCII.	0049			科目区分	— #Z	選択		
190番5 授業形態		実験・実習			単位の種別と単位		単位: 1		
開設学科				女(ロボットテクノ	対象学年	専2	·+ · · ·	•	
開設期		集中	•		週時間数	1			
教科書/教	 材	教科書:特に	なし,参考書:	海外語学実習の手	1				
担当教員		全学科 全教員			51.0				
	<u> </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1							
現地での外		の密接な接触を		ーーーー りに活躍できる人と	して必要な資質と	実践的国際原	感覚を体	得し, それらを日報や報告書	書にま
<u>にめ, こ1</u> ルーブリ		光衣貝件でIF	10x O, C1121	47.5113.					
<u>v-</u> 2 · 2	<u> </u>	II	ᄑᄺᄭᅪᄭ	ベル の口穴(原)	振送的+>四下	**! か ロウ/!	= \	士列法レベルの日立(不可)	
亚/亚古口 1			建忠的は到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	()が()日女()	로)	未到達レベルの目安(不可)	
平価項目1					+				
平価項目2									
平価項目3		71.5827							
		目との関係							
效育方法	法等 _								
既要		海外において	グローバルな神	見野を養い語学能力の	の向上を図る.				
		・内容は, 学	習・教育到達目	 目標(A) <視野>[JA	 BEE基準1(2)(a)]	<u> </u>	く英語	>[JABEE基準1(2)(f) に対原	さする
		 ・「授業計画	における各週	・・・ 周の「到達目標」は		る「知識・肖	もカー に	相当するものとする.	
		・火の海外語 報告書 発	子美省对家ブロ 表資料を作成Ⅰ	Jソフム(以下, 実省 , 発表を行う	iノロクフム), 内容	さいよい期間	〕じ芙務	上の問題点と課題を体験し,	出報
<u>ш</u> ли – …	, <u>-1-</u> , 1 -2 -200 1	【実習プログ	ラム】鈴鹿工業	美高等専門学校、他(の高等専門学校、[国立高等専門	引学校機	構及ひ営利団体又は公共団体	*等の
受業の進め 冬・方法	か方と授業内	期間か干催す	る実習フロクラ	7ムとする。宮利団(本乂は公共団体等の	り機関か主催	₮する実	習プログラムの場合は、教務 海外語学実習の目的にふされ	茶安員
コンル広		内容			コエル 参加山木る。	, ロノ <i>J</i> Д	,,,,	/サ/T四丁大日ツロPNCから4.	١٥٥١
		【期間】8日上	以上15日以下	tスプレ					
		【課題】海外	毎日, 日報を作成すること. 海外語学実習終了後に, 報告書を作成し提出すること.						
		【発表】終了	後に課外語学実	■ 習発表会を開催する	るので,発表資料	を作成し,乳	Ě表準備	を行うこと	
		かまり無る	マケナナ レギギ						
		1く到達日標の				C # 33/8 B /	+ ± 99	小江 中2786 CH 44	
		び発表の項目	テベラム 乙基学 を総合して 評価	シ下記授業計画の 所する、評価に対する	「到達目標」の1〜 る達成目標の各項[5の習得具合 3の重みは同	を実習	状況, 実習態度, 日報, 報告	書おる
		び発表の項目 <学業成績の	を総合して評価 評価方法および	5する. 評価に対する 『評価基準>「海外語	る達成目標の各項E 学実習成績評価基	目の重みは同	引じであ	状況,実習態度,日報,報告 る. 配点に従って,実習状況,実	
		び発表の項目 <学業成績の ,日報,報告	を総合して評価 評価方法および 書および発表に	面する. 評価に対す。 『評価基準>「海外語 こより成績を評価す。	る達成目標の各項[哲学実習成績評価基 る.	目の重みは同	引じであ	る.	
		び発表の項目 <学業成績の 、日報、報告 <単位修得要	を総合して評価 評価方法および 書および発表に 件>総合評価で	町する. 評価に対する 『評価基準>「海外語 こより成績を評価する 「可」以 トを取得す	る達成目標の各項[語学実習成績評価基 る. 「ス <i>こと</i>	目の重みは同 準」に定め	引じであ られた[る. 配点に従って, 実習状況, 実	習態度
注意点		び発表の項目 <学業成績の 、日報、報告 <単位修得要	を総合して評価 評価方法および 書および発表に 件>総合評価で	町する. 評価に対する 『評価基準>「海外語 こより成績を評価する 「可」以 トを取得す	る達成目標の各項[語学実習成績評価基 る. 「ス <i>こと</i>	目の重みは同 準」に定め	引じであ られた[る. 配点に従って, 実習状況, 実	習態度
注意点		び発表の項目 く学報の領域を 、単位のは、 、単位のからない 、中では、 、本のでは、 、まのでは、 とのでも。 とのでも。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	を総合して評価 評価方法お表に 書および発表に 件>求される。 要ど>日集はも 1年学生が参加出 4学生が参加出	両する・評価に対す; 評価基準> 「海外語 より成績を評価す; 「可」以上を取得す。 知識の範囲>心得(日,作成し, 報告書 東るプログラムのき	る達成目標の各項(京学実習成績評価基 う。 う。 時間の厳守(10分育 計作成し、実習指 こと、発表会用に発 うち、海外語学実習	目の重みは同準」に定め 対集合), 挨対 対集合), 挨対 が表資料およ で目的にふ	同じであ られた。 が が 発 が 発 ひ さわしい	る. 記点に従って,実習状況,実 ,など) 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること. い内容であること.	習態度 学生は
注意点		び発表の頂目 く学業の項 、半年の 、半年の 、半年の 、半年の 、半年の 、半年の 、半年の 、半年の	を総合して評値 評価方法お表に 性>総および評価を 性>終されるでいる と と と と と と と と と と と と と と と は り に は り に り に り に の に の に の に の に の に の に の に	両する.評価に対す。 評価基準> 「海外語 こより成績を評価得す に可」の単囲>心得(知識の範囲) 小報告 知ませには いまするの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	る達成目標の各項 語学実習成績評価 あること・・・ 時間の厳守(10分 計画の厳し、実習 を表表語できたり、 一、海外語学語学 会には、海外語学語学	目の重みは同準」に定め 丁集合), 挨打 「集合), 挨打 「導責任者のよう。 「関係を表している。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「はないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。」 「ないる。 「な、 「ないる。 「な、 「ないる。 「ないる。 「ないる。 「ないる。 「な。 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、	同じであ られた! ジ, 印を! 検びさわめる! ご含める	る. 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年 の準備をすること. ,内容であること. こと無く課程修了が認められ	習態度 学生は 1る場
注意点		び発表の頂目が、くく、、くく、、くく、、くく、、、くく、の頂目が、原報・のでは、いり、では、いい、のでは、のでは、いい、のでは、いい、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	を総合して評値 評価方法でである。 評価およるでは、 というでは、 をいるででである。 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるで、 でいるでも、 でいるでも、 でいるでも、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でしる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでと。 でいるでは、 でし。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でして。 でして。 でいる。 でいる。 でして。 でして。 でいる でして。 でして。 でし。 でして。 でし。 でして。 でして と。 でして。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項[語学実習成績評価を こことででは、 いまできでは、 いまできでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 にまでは、 いまでは、 とまでも、 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	目の重みは同準」に定め 対集合), 接別 消導責任者のよう にといる。 は消滅を に関め に関め にといる。 にと、 にといる。 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、	同じれ ジャ かいましい がい がい おをう がい おをう おをう おとう おとう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこ	る。 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ ら,2年学生は専攻主任に14	習態度 学生は 1る場 手学生
		び発表の頂目が、くく、、くく、、くく、、くく、、、くく、の頂目が、原報・のでは、いり、では、いい、のでは、のでは、いい、のでは、いい、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	を総合して評値 評価方法でである。 評価およるでは、 というでは、 をいるででである。 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 をいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるで、 でいるでも、 でいるでも、 でいるでも、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でしる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでと。 でいるでは、 でし。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でして。 でして。 でいる。 でいる。 でして。 でして。 でいる でして。 でして。 でし。 でして。 でし。 でして。 でして と。 でして。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項[語学実習成績評価を こことででは、 いまできでは、 いまできでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 いまでは、 にまでは、 いまでは、 とまでも、 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	目の重みは同準」に定め 対集合), 接別 消導責任者のよう にといる。 は消滅を に関め に関め にといる。 にと、 にといる。 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、 にと、	同じれ ジャ かいましい がい がい おをう がい おをう おをう おとう おとう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこ	る. 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年 の準備をすること. ,内容であること. こと無く課程修了が認められ	習態度 学生は 1る場 手学生
		び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項集 語学実習成績評価 「ること・ 時間の厳守(10分割 までは、発表のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	目の重みは同様の重みは同様の重要を表す。 「集合」、接続できる。 「集合」、接続できる。 「集合」、接続できる。 「集合」、接続できる。 「集合」、接続できる。 「集合」、というできる。 「集合」、というできる。 「集合」、というできる。 「集合」、というできる。 「集合」、はいうできる。 「集合」、はいうできる。 「集合」、はいうできる。 「集合」、はいうできる。 「集合」、はいうできる。 「集合」、はいうできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりからいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。」というできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらいうできる。 「またりがらったりがらいうできる。 「またりがらいる。 「またりがらいる。 「またりがらいる。 「またりがらいる。 「またりがらいる。 「またりがらいる。 「またりがらな。	同じておいます。 別られた。 が検びさうのでは、 が発わるたき。 が指してきましてきますがおった。	る。 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ ら,2年学生は専攻主任に14	習態度 学生は 1る場 手学生
	週週	び発表の頂目が、くく、、くく、、くく、、くく、、、くく、の頂目が、原報・のでは、いり、では、いい、のでは、のでは、いい、のでは、いい、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項 語学実習成績評価 記。 記。 一名こと: 時間の厳守(10分育 計も作成し,会開に実 である。 である。 である。 では、海外語書を とする。 とする。 とする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	目の重みは同様では、 算事では、 算事でである。 はは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	引じれ が が が が が が が が が が が が が が	る。 記点に従って,実習状況,実 がとり 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ ら,2年学生は専攻主任に14 れている物,評定書を持参す	習態度学生は1る場下学生であること
		び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項集 語学実習成績評価を 「ること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	目の重みは同様の重みは同様の重ない。 対象 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	引じれ が が が が が が が が が が が が が が	る。 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ ら,2年学生は専攻主任に14	習態度学生は1る場下であること
	週 1週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項集 語学実習成績 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記	目の重みは同様の重みは同様の重ない。 「集合」に変わる。 「集合」に対している。 「集合」に対している。 「集書できる。 との到達目をできる。 との到達になる。 とののできる。 とののできる。 とののできる。	同じれ が検びさきない であた おを表しるたさ また おをましるたさ こうしょ さんしょう かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ	る。 記点に従って,実習状況,実 記点に従って,実習終了後に,2年等 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ ら,2年学生は専攻主任に14 れている物,評定書を持参す	習態度学生は1る場下であること
	週 1週 2週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実習成績に 高いる。こと、 時間の成成表別の 時間の成成表別の には、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	目の重かはは が集合には が集高では が集高では は は は は は は は は は は は は は	同じれ が検びさきない 票 で 覚があた。 おを表いるたさ こうがかがったが がった かがか かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん	る。 記点に従って,実習状況,実 など) 受けて,実習終了後に,2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ らり、生学生は専攻主任に14 れている物,評定書を持参す	習態度学生は1る場下学生であること
	週 1週 2週 3週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語の各項語学実際では、10分割のでは、10分割の成長のでは、10分割の成長のでは、10分割の成長のでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割ののでは、10分割のでは、1	目の重なはは、	同じれ おを表しるたさ 票 で 覚を	る。 記点に従って、実習状況、実 など) 受けて、実習終了後に、2年等 の準備をすること。 い内容であること。 こと無く課程修了が認められ らら、2年学生は専攻主任に14 れている物、評定書を持参す 人として必要な資質が分かり かり、それらを体得できる。 こまとめることができる。	習態度学生は 1る場 学生で
	週 1週 2週 3週 4週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項権 記学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	目の重にはは、	同じの ジ検びさき が日報 で が日報 で が日報 に を を を を を を を を を を を を を	る. など) では、実習状況、実別など) では、実習終了後に、2年年の準備をすること、こと無く課程修了が認められた。2年学生は専攻主任に14れている物、評定書を持参す ないり、それらを体得できる. こまとめることができる. まにまとめることができる.	習態度学生は1る場下であること
	週 1週 2週 3週 4週 5週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は場合である。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) では、実習状況、実別など) では、実習終了後に、2年年の準備をすること、こと無く課程修了が認められた。2年学生は専攻主任に14れている物、評定書を持参す ないり、それらを体得できる. こまとめることができる. まにまとめることができる.	習態度学生ははまずる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	通 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生は1る場上であることであることであることであることであることである。それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、それでは、
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態態
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生ははまずる。
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週 14週 15週 16週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生ははまずる。
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1月	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生ははまずる。
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生ははまずる。
主意点 受業計 期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1月	び発達表の項目の く学日単位られて ・マールー ・マー ・マールー ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マール ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー ・マー	を総合して評化 評価方法で表して評化 特 > は	画する.評価に対す。 評価基準 > 「海外語 より成績を評価す。 「可」以上を取得す。 知識の範囲 > 心得(日、作成し,報告るこう 対は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	る達成目標の各項語 語学実 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	国の重には が重点では はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは はいでは にいった はいでは にいった にい	同じら 学検びさき まま で 覚 を を を を を を が 日 報 音 表 の 分 報 信 表 で ままま か まままま か まままま か まままま か ままままま か まままま か まままま か まままま か ままままま	る. など) できる. 実習状況, 実別など) 受けて, 実習終了後に, 2年間の準備をすること. の準備をすること. こと無く課程修了が認められら, 2年学生は専攻主任に14れている物, 評定書を持参す	習態度学生ははまずる。

	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
評価割合			
		海外語学実習成績評価基準	合計
総合評価割	合	100	100
配点		100	100

並つだち	工业古 华 =	明学坎	四華左帝	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	010年度\	数 むな	海 州 医学宝羽 T			
科目基礎	記工業高等専 禁虐起	扩子仪	囲神牛皮	平成31年度 (2	.019平皮)	教科名	海外語学実習 Ⅱ			
<u> </u>	烂]月 牧	0050			科目区分	一般 選技	E			
付日留亏 授業形態		実験・実習			単位の種別と単位数					
開設学科				女(ロボットテクノ	対象学年	専2	2			
 開設期		集中	•		週時間数	2				
教科書/教	 汉材	教科書:特に	なし,参考書:	海外語学実習の手	1 1 2. 1					
担当教員		全学科 全教員								
到達目標	 票	•								
現地でのタ	外国語環境との	D密接な接触を 発表資料を作	と通じて,国際的 F成し,それを使	りに活躍できる人と 云えられる.	して必要な資質と実置	態的国際感覚	を体得し, それらを日報や報告書にま			
ルーブリ	<u> </u>				1					
		理想的な到達レベルの目安(優) 標準的な到達			標準的な到達レベル	の目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1										
評価項目2										
評価項目3										
学科の至	到達目標項目	目との関係								
教育方法	去等									
概要		海外において	グローバルな初	見野を養い語学能力の	の向上を図る.					
		・内容は, 学	習・教育到達目	目標(A) <視野>[JA	BEE基準1(2)(a)]お	よび (C) <	英語>[JABEE基準1(2)(f) に対応する			
授業の進め容・方法	め方と授業内	, 戦告 実 制 ま 習 が 主 が い で の 関 り の 関 り り に の 期 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	表資料を作成し デラム】鈴鹿工等 こる実習プログラ 記を得るものとす 日以上23日以下 日、日報を作成す い話学実習終了後	ノ, 発表を行う、 (高等専門学校、他の うムとする。営利団(する。【内容】専攻す すること・ 食に、報告書を作成)	の高等専門学校、国立 本又は公共団体等の材 科生が参加出来るプロ	『習得する「知識・能力」に相当するものとする. ム), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報 門学校、国立高等専門学校機構及び営利団体又は公共団体等の 性団体等の機関が主催する実習プログラムの場合は、教務委員 出出来るプログラムのうち, 海外語学実習の目的にふさわしい ること、 養表資料を作成し, 発表準備を行うこと				
, 日報, 報 く単位修得 くあらかし 注意点 ・レボー任に ・マー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			評価方法および 書および発表に 佐、総会評価で	『評価基準>「海外語 こより成績を評価する 「可しい Eを取得す	学実習成績評価基準 る. -ススト	」に定められ	た配点に従って,実習状況,実習態度 お礼など) を受けて,実習終了後に,2年学生は 表の連帯ですること。			
		<偏号>等以 学年末休業期 合に限るもの	科子生が参加五 間中に海外語学 Oとし、単位修復	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	うち、海外語子美音の 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終	日的にかられる 別の単位を含む そ日に受け取っ	表の準備をすること。 しい内容であること。 しい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 されている物、評定書を持参すること			
授業計画		<偏号>等以 学年末休業期 合に限るもの	科子生が参加五 間中に海外語学 Oとし、単位修復	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	うち、海外語子美音の 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終	日的にかられる 別の単位を含む そ日に受け取っ	のい内谷であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生			
授業計画	週	<偏号>等以 学年末休業期 合に限るもの	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	から、海外語学美音の 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身	日的にかられる 別の単位を含む そ日に受け取っ	のい内谷であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生			
授業計画		マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	から、海外語学美音() 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと() 1. 国際	日的にかられる。 部の単位を含め 経日に受け取っ 器者先から指定 の到達目標 的に活躍でき	のい内谷であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生			
授業計画	週 1週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	から、海外語子美音() 合には、海外語学実置とする。第字定書を最終とする。第字定書を最終と とする。第字に書いて、 とする。第二章を表 とは、海外語学表 とする。第二章を表 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	日的にかられる 経日に受け取っ 経日に受け取っ 習先から指定 の到達目標 的に活躍できる。	のい内谷であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 されている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ			
授業計画 ———	週 1週 2週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	(アウ、海外語子美音)(アウ、海外語子美音)(アウ、海外語子美音)(アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・アウン・	日的にかられる 第の単位を合き 第日に受け取っ 習先から指定 の到達目標 的に活躍できる。 的国際感覚が	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 されている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ で分かり、それらを体得できる。			
	週 1週 2週 3週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳),日報, 週ごと(1.国際 らを体す 2.実践 3.体得	田町にかられる 第の単位を含ま 第日に受け取っ 第習先から指定 の到達目標 的に活躍でき 身できる。 的国際感覚が したことを日	かのこと無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参することをされている物、評定書を持参することをある人として必要な資質が分かり、それがかり、それらを体得できる。報にまとめることができる。			
授業計画	週 1週 2週 3週 4週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	75, 海外語子美音(2) 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体 2. 実践 3. 体得	日的にからる。 第の単位を含め 第日に受け取っ 第四に所属できます。 かに活躍できまできる。 の国際感覚が したことを報	かのこと無く課程を持ずが認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参することである人として必要な資質が分かり、それがり、それらを体得できる。報にまとめることができる。			
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ る分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	かのこと無く課程修了が認められる場合によります。 かること無く課程修了が認められる場合たら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ がかり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 告書にまとめることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ る分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 別とし、単位修復 に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ る分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	マ伽考を等攻・ 学年末休業期 合に限るものは専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	マイラ 学 以 学年末休業期 合に限るもの は専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程停了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週	マイラ 学 以 学年末休業期 合に限るもの は専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程停了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 20 3週	マイラ 学 以 学年末休業期 合に限るもの は専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程停了が認められる場 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 きされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週	マイラ 学 以 学年末休業期 合に限るもの は専攻副主任	科学生が多加品 10とし、単位修復 5に提出すること	来るノロクラムのう 学実習を開始する場合 引の学年は当該学年の	プラ、海外語子美音() 会には、海外語学実習 とする。評定書を最終 E帳(手帳), 日報, 身 週ごと(1. 国際 らを体) 2. 実践 3. 体得 4. 体得	日的にから含え の単位を含ま を受けている。 を受けている。 の単位を含ま の可達目標 のに活躍できる。 の国際感覚が したことを報 したことを報	のい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場 かたら、2年学生は専攻主任に1年学生 とされている物、評定書を持参すること る人として必要な資質が分かり、それ を分かり、それらを体得できる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。			

	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
評価割合			
		海外語学実習成績評価基準	合計
総合評価割	合	100	100
配点		100	100

45年	— w —		pp=##) O 1 O 5 - C \	サルナリ ケ	V= 51 == 24 ct 77
	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科名	海外語学実習Ⅲ
科目基礎	門育報	10054			TUREA	An. 122	10
科目番号 授業形態		9051			料目区分単位の種別と単位数	一般 選	
		実験・実習総合イノベー	-ション丁学亩で	 女(ロボットテクノ		, , , , , ,	<u>u</u> . 3
開設学科		心シーコース		X (山水ダドナラフ	対象学年	専2	
開設期		集中			週時間数	3	
教科書/教林	材			: 海外語学実習の手	引き		
担当教員		全学科 全教員					
到達目標		~ 	- \\ - \ = \ \ = \ \ = \ \	51-X133	V 1 /2 FE - D.	***	* #/P.
			ヹ゙゙゙゙゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙゚゚゚ヹ゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゚゙゙ヹ゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙		して必要な貧質と美調	达 的国際感見	を体得し、それらを日報や報告書にま
ルーブリ			,				
		3	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベル	の目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到]達目標項目	目との関係					
教育方法	等						
概要				見野を養い語学能力			
		・内容は, 学 	学習・教育到達目	目標(A) <視野>[JÆ	ABEE基準1(2)(a)]お	よび (C) <	英語>[JABEE基準1(2)(f) に対応する
		・「授業計画	1」における各週	園の「到達目標」は	この授業で習得する	「知識・能力」	」に相当するものとする。
		・次の海外語 ,報告書,発	号子美省対象ノL E表資料を作成し	Jクフム(以下, 美省 J, 発表を行う.	3ノロクラム), 内容3	ぶんり期間でき	実務上の問題点と課題を体験し,日報
授業の進み	方と授業内	【実習プロク	ブラム】鈴鹿工業 Fス宝翌プログ=	美高等専門学校、他 ラムとする、党利団	の高等専門学校、国団	Z高等専門学/ 経関が主催す	校機構及び営利団体又は公共団体等のる実習プログラムの場合は、教務委員
容・方法		会に諮り承認	思を得るものとす	する。【内容】専攻	科生が参加出来るプロ	ブラムのう	る 大海外語学実習の目的にふさわしい
		内容 【期間】24日	3以上				
		【日報】毎日	1,日報を作成す	すること. 後に <u>、</u> 報告書を作成	1.担出オスフレ		
		【発表】終了	では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	と	のだのすること. るので,発表資料を作	F成し,発表	準備を行うこと
		るいきロ挿の	ママン マングラン マングラン マングラ マングラ マング マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マ	・ てい 控挙 計画の		羽伯日本たち	中羽此门 中羽能床 口却 却先妻长上
		び発表の項目	目を総合して評価	5する.評価に対す	る達成目標の各項目の)首侍呉ってき)重みは同じ	実習状況,実習態度,日報,報告書およ である.
		1/学業成績の	ミボ/エナンナナン トクリ				
					5学実習成績評価基準	」に定められ	1た配点に従って, 実習状況, 実習態度
		, 日報, 報告	書および発表に	こより成績を評価す	哲学実習成績評価基準 る. tススト	」に定められ	1た配点に従って,実習状況,実習態度
注意点		, 日報, 報告	書および発表に	こより成績を評価す	哲学実習成績評価基準 る. tススト	」に定められ	1た配点に従って,実習状況,実習態度
注意点		, 日報, 報告 <単位修得要 <あらかじめ <レポートな 専攻主任に,	語書および発表に 件>総合評価で 要求される基礎 どと>日報は,毎 1年学生は専攻	こより成績を評価す 「可」以上を取得る 楚知識の範囲>心得(日,作成し,報告記 副主任に提出するこ	写学実習成績評価基準 る。 けること。 時間の厳守(10分前集 書も作成し,実習指導 こと、発表会用に発表	」に定められ 合), 挨拶, 責任者の検り 資料およびず	1た配点に従って,実習状況,実習態度 お礼など) 『を受けて,実習終了後に,2年学生は 発表の準備をすること.
注意点		, 日報, 報告 <単位修得要 <あらかじめ <レポートな 専攻主任に,	書および発表に 件>総合評価で 要求される基礎 ど>日報は,毎 1年学生は専攻 科学生が参加出	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 短知識の範囲>心得(日,作成し,報告書 副主任に提出する。 来るプログラムの	哲学実習成績評価基準 る。 けること。 時間の厳守(10分前集 こと、発表会用に発表 5ち、海外語学宝習の	」に定められ 合), 挨拶, 責任者の検印 資料およびチョ	1た配点に従って,実習状況,実習態度 お礼など) 「アを受けて,実習終了後に,2年学生は 発表の準備をすること。 フレル内容であること
注意点		日報に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語および発表に 件>総合評価で 要求される基礎 ど>日報は専出 1年学生が参加語学 利学生に海外語学 ひとし、単位修得	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	写学実習成績評価基準 る。こと: 時間の厳守(10分前集 書も作成し, 実習指導 とと・発表会用に発表 うち、海外語学実習実習 とする。評定書を最終	」に定められ 合), 挨拶, 責任者の検好 員的にふされ 間の単位を含る 8日に受け取	1た配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 表の準備をすること。 DUN内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生
	ī	日報に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語および発表に 件>総合評価で 要求される基礎 ど>日報は専出 1年学生が参加語学 利学生に海外語学 ひとし、単位修得	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	写学実習成績評価基準 る。こと: 時間の厳守(10分前集 書も作成し, 実習指導 とと・発表会用に発表 うち、海外語学実習実習 とする。評定書を最終	」に定められ 合), 挨拶, 責任者の検好 員的にふされ 間の単位を含る 8日に受け取	1た配点に従って,実習状況,実習態度 お礼など) 「アを受けて,実習終了後に,2年学生は 発表の準備をすること。 フレル内容であること
		, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。こと: 時間の厳守(10分前集 書も作成し,実習指導 こと:発表会用に発表 うち,海外語学実習の 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終 帳(手帳),日報,実習	」(に定められ 合),挨拶, 責任者の検兵 資料およびを 目的にふされ 間の単位を含る 日に受け取っ 発力においる指定で	1た配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 表の準備をすること。 DUい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生
	週	日報に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	語学実習成績評価基準 る。 たること: 時間の厳守(10分前集 音も作成し,実習指導 こと:発表会用に発表 うち,海外語学実習の 合には、海外語学実習 とする。評定書を最終 帳(手帳),日報,実習 週ごとの 1.国際	」に定められる。 合)、挨拶が保持 責件者のでする。 資料およびされる。 は日にできない。 は日にできない。 の到達目標のに活躍できる。 の可述をはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはない。 のでがはないない。 のでがないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	1た配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 表の準備をすること。 DUい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生
	週 1週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	語学実習成績評価基準 る。こと: 時間の厳守(10分前集 音も作成し,実習指導 こと:発表会用に発表 うち,海外語学実習の 合には、海外語学書を最 をする。評定書を最終 帳(手帳),日報,実習 りを体	」に定められる。 合)、挨拶、保持 責件者のび移 目的にふされる。 部の単位を対している。 はたから指定。 の到達目標 的に活躍できる。	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 Dしい内容であること。 かること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生 されている物、評定書を持参すること。
	週 1週 2週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	語学実習成績評価基準 る。こと、 時間の厳守(10分前集 書も作成し,実習指表 と、発表会用に発表会用に発表 うちには、海外語学実習実 とする。評に報, とす帳(手帳), 日報, 夏ご 国際 は、を と、実践	」に定められる。 会)、挨拶、付 責任者の検付 資料およびを 自的に立つできた。 の単位でけない。 はたから指定できる。 の到達目標できる。 の国際感覚から国際感覚から。	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 表の準備をすること。 Dしい内容であること。 つしい内容であること。 つこと無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。
	週 1週 2週 3週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	語学実習成績評価基準 5. こと: 時間の厳守(10分前集 書も作成し、実習指導 とと,海外語学実営実 ら合には、海外語書を とする。評定報、 題ごと 題ごと 1. 国際 らを体 2. 実践 3. 体得	」(に定められた。 会)、挨拶、 責任者の検付 資料になる含さ。 を日にできない。 はたから指定できる。 の到達目標できる。 の国際感覚力したことを目	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) 「を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 うしい内容であること。 うしい内容であること。 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 を含人として必要な資質が分かり、それ が分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。
注意点	週 1週 2週 3週 4週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。こと、 時間の厳守(10分前集 音も作成し、実開に習経表 である。 一次では、海外語学等 である。 一次では、海外語書を をする。 一次では、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) 「を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 うしい内容であること。 うしい内容であること。 うしい内容であること。 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それ が分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 か合には、海外部書を実 を合には、海外部書を表 は、海外のでは、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 か合には、海外部書を実 を合には、海外部書を表 は、海外のでは、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) 「を受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 うしい内容であること。 うしい内容であること。 うしい内容であること。 ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それ が分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 か合には、海外部書を実 を合には、海外部書を表 は、海外のでは、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	, 日報・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 か合には、海外部書を実 を合には、海外部書を表 は、海外のでは、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、海外のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 Oしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週 3週	, 日報会 , 日報位 , 日報位 , 日報位 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日報行 , 日本 ,	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 16週 2週 3週	, 日報・ ・日報位の ・日報位の ・日報位の ・日報での ・日本での	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 る。 にること、 時間の厳守(10分前集 まも作成し、実習に発表 まと、発発語学語発表 からち、海外語学裏学裏 会には、海外部書を実 とする。評定報、 週、三と、 1. を 2. 実践 4. 体得 5. 体得	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週 3週	, 日報・ ・日報位の ・日報位の ・日報位の ・日報での ・日本での	語書および発表に 件 > 総合評価で 要求される。 要求される。 要求される。 1年学生は専攻 科学生が参加出 間間中に海外語等 ひとし、単位修得 ほに提出すること	こより成績を評価す 「可」以上を取得す 疑知識の範囲>心持す に日,作成し,報告言 副主任に提出するこ 学実習を開始する場 学実習を開始する場 員の学年は当該学年	学実習成績評価基準 5. 「ること・ 時間の厳守(10分前集 書も作成し、実習に発表 である。 である。 では、海外語学言を表 会には、海外部書を表 を合には、海外のでする。 の合には、海外のでする。 の合には、海外のでする。 の合とする。 ののでです。 ののででする。 ののでで。 ののでする。 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、	」に定められた。 一点に定められた。 一点に変した。 一点に変した。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 一点にできる。 したことを執 したことを発	れた配点に従って、実習状況、実習態度 お礼など) Pを受けて、実習終了後に、2年学生は 発表の準備をすること。 ひしい内容であること。 めること無く課程修了が認められる場ったら、2年学生は専攻主任に1年学生されている物、評定書を持参すること。 きる人として必要な資質が分かり、それが分かり、それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 設告書にまとめることができる。 日報にまとめることができる。

8週		
9週		
10週		
11週		
12週		
13週		
14週		
15週		
16週		
評価割合		
	海外語学実習成績評価基準	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

	 电工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	.019年度)	教科	名 国際インターンシップ I
科日基础	心工术的专门 礎情報		VI 1 1140141	11.500 1 1.50 (2	(/2/	1 3/11/	
<u>17 山金)</u> 科目番号		0066			科目区分	—船	:選択
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位	-	単位: 2
開設学科	ł			女(ロボットテクノ	対象学年	専2	
開設期		集中			週時間数	2	
教科書/教	 教材	教科書:特に		インターンシップの	 D手引き		
担当教員			レップ 担当教員				
到達目	· 樗						
国際的に			る実務上の問題。	点と課題を体験し,1	体験したことを日	報や報告書は	こまとめ、それらをもとに、発表資料を作
ルーブ	リック						
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	ベルの目安(月	良) 未到達レベルの目安(不可)
評価項目	1						
評価項目							
評価項目							
	. <u></u> 到達目標項E	ヨとの関係			1		1
		コージが示					
<u>教育方</u>	<u> </u>	1475-47.57-	^ 	nor L	<u> </u>		
概要		 		問題点と課題を体験で 目標(A)<視野>, (B		/e>	
1(2)(a), (d), (e), (f), (h)に対応する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものと				題点と課題を体験し,日報,報告書,発表 			
勝態度, E マ単位修作 マあらかし マレポート ・ 2年学生 マ備考るる			評価方法および。 課価方法および。 課報告書および。 要求される基礎。 で、日報任に、15 中ターンシッとで、15 大学ので、15	評価基準>「インタ 外発表により成績を言 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(間 日,作成し,報告書 年学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 別則を厳守すること	アンシップの成編 平価する. ・ること. ・時間の厳守(10分削 ・も作成し, 実習指 に提出すること. ・が従事できる実日 郭定書を最終日	諫師価基準」 前集合), 挨払 導責任者の 発表会用に 務のうち, 国 こ受け取った	に定められた配点に従って、勤務状況、勤
					- 3 3. 4 , 1 20/13.	() = 12(
	画						
授業計		授業内容・方					=
授業計	画 週 1週	授業内容・方	5法		週ご 1. 国	との到達目	できる技術者が経験する実務上の問題点を
授業計	週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 体験	との到達目相 際的に活躍 することが	できる技術者が経験する実務上の問題点を
授業計	週	授業内容・方	5法		週ご 1. ほ 体験 2. ま	との到達目相 際的に活躍 することが 践的国際感	できる技術者が経験する実務上の問題点を できる.
授業計	週 1週 2週	授業内容・方	5法		週ご 1. ほ 体験 2. 身 3. 似	との到達目相 1際的に活躍 することが 3践的国際感 5験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点を できる。 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる.
授業計	週 1週 2週 3週 4週	授業内容・方	5法		週ご 1. ほ 体験 2. 身 3. 位 4. 位	との到達目相 間際的に活躍 することが 践的国際感 験したこと 験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点を できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
授業計	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点を できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容・方	7法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる. 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる. を報告書にまとめることができる. を発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる. 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる. を報告書にまとめることができる. を発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・方	ī法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる. 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる. を報告書にまとめることができる. を発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 1月週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる. 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる. を報告書にまとめることができる. を発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 13週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週 3週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる. 覚が分かり,それらを体得できる. を日報にまとめることができる. を報告書にまとめることができる. を発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 90 10週 11週 113週 14週 15週 16週 16週 2週 3週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 7週 8週 9週 10週 113週 14週 15週 16週 16週 3週 4週 5週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
授業計1	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 90 10週 11週 113週 114週 15週 16週 16週 2週 3週 4週 5週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 7週 8週 9週 10週 113週 14週 15週 16週 16週 3週 4週 5週	授業内容・方	5法		週ご 1. 頃 休験 2. ま 3. 依 4. 位 5. 依	との到達目相 1際的に活躍 することが 選践的国際感 寒験したこと な験したこと	できる技術者が経験する実務上の問題点をできる。 できる。 覚が分かり,それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。

	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			
評価割合				
		国際インターンシップ評価基準	合計	
総合評価割	<u></u> 合	100	100	
配点		100	100	

科目基礎科目番号授業形態開設学科開設期		門学校	開講年度	平成31年度 (2	.019年度)	教科名	国際インターンシップ Ⅱ
科目番号 授業形態 開設学科			,		1 <i>\infty</i>	, <u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>	
授業形態 開設学科	LIDTK	0067			科目区分	一般 逞	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
開設学科		実験・実習			単位の種別と単位		
₽目≒ル廿日				女(ロボットテクノ	対象学年	専2	1
用取别		集中			週時間数	4	
教科書/教材	 材	教科書:特に		インターンシップの	 D手引き	•	
担当教員		1	ノップ 担当教員				
到達目標	<u> </u>						
国際的に活			る実務上の問題点	点と課題を体験し,1	体験したことを日	報や報告書にま	ことめ, それらをもとに, 発表資料を作
ルーブリ	Jック						
,,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	ジルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1			•			,	
評価項目2							
<u>評価項目3</u>							
]との関係			1		1
		コージステ					
教育方法	5	14415-441. "-	\·	nor L	<u> </u>		
概要				問題点と課題を体験で 目標(A)<視野>, (B		/a\ ±±	
授業の進め 容・方法	【内容】専攻科生が従事できる実務のうち、国際インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】2週間以上の期間実施した場合において、実働20日以上29日以下 【日報】毎日、日報を作成すること。 【課題】インターンシップ終了後に、報告書を作成し提出すること。				点と課題を体験し,日報,報告書,発表 の推薦により校長が選定して委属した		
務態度, E <単位修復 < あらかじ < レポート , 2年学生 < 備考>イ			弱, 報告書およて ・ 報告書およて ・ と は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	が発表により成績を調 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(明 日,作成し,報告書 日学生は専攻副主任	平価する. ⁻ること. 時間の厳守(10分前 持も作成し,実習指 に提出すること	前集合), 挨拶, 消責任者の検 発表会用に発え	定められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) 印を受けて、インターンシップ終了後に 長資料および発表の準備をすること、 インターンシップの目的にふさわしい業 、2年学生は専攻主任または1年学生は
		,評定書を持	持参すること.	インターンシップの	の手引き,筆記用	さんりょうにられる。メリスを表しています。 メモ帳(手帳	長), 日報, 実習先から指定されている物
授業計画		, 評定書を持	参すること.	インターンシップ	新足音で取称しり の手引き, 筆記用! 	こ文が取りたら 具, メモ帳(手値 	長), 日報, 実習先から指定されている物
授業計画		, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	の手引き, 筆記用! 	ᆗ, メモ帳(手□	長), 日報, 実習先から指定されている物
授業計画	週 1週	授業内容・方	一番すること.	インターンシップの	の手引き, 筆記用! 週ご 1. 国	₹, メモ帳(手) との到達目標	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を
授業計画	週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D手引き, 筆記用 週ご 1. 国 体験	く、メモ帳(手)との到達目標「際的に活躍ですることができます。	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を
授業計画	週 1週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D手引き,筆記用 週ご 1. ほ 体験 2. 実	マ、メモ帳(手) との到達目標 際的に活躍ですることができ 践的国際感覚	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる.
授業計画	週 1週 2週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D字引き, 筆記用 週ご 1. 国 体験 2. ま 3. 体	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ践的国際感覚験したことを	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる.
授業計画	週 1週 2週 3週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 頃 体験 2. 実 3. 依 4. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ践的国際感覚験したことを験したことを	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	張), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる。 が分かり, それらを体得できる。 日報にまとめることができる。 報告書にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週	, 評定書を持	一番すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週 14週 15週 16週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 2週 3週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
授業計画前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 4週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 4週	, 評定書を持	参すること.	インターンシップの	D字引き,筆記用 週ご 1. 国 体験 2. 実 3. 体 4. 依 5. 依	く、メモ帳(手)との到達目標際的に活躍ですることができ 践的国際感覚験したことを験したことを験したことを	表), 日報, 実習先から指定されている物 きる技術者が経験する実務上の問題点を きる. が分かり, それらを体得できる. 日報にまとめることができる. 報告書にまとめることができる. 発表資料にすることができる.

	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			
評価割合				
		国際インターンシップ評価基準	合計	
総合評価割	<u></u> 合	100	100	
配点		100	100	

鈴居	記工業高等	専門学校	開講年度	平成31年度 (2	019年度)		教科名	センサ工学	
科目基础	礎情報								
科目番号	•	0043			科目区分		専門 必修	:	
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位	学修単位: 2	
開設学科		総合イノベー ロジーコーフ		女(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		後期			週時間数	2			
教科書/教	数材	「電子計測と	_制御」 田所	嘉昭 著(森北出版	反) 参考書	: 「センサ	りのしくみ」	谷腰 欣司 著(電波新聞社)	
旦当教員		西村 一寛,横	山 春喜						
到達目を 人間と ための回 ルーブ	ロボットの対 路技術を修得	応からセンサの することから,	D位置づけを理角 センサの応用技	解し, センサの定義, 支術を理解できる.	種類,基本	、構成 , 動作	F原理を学ぶ	、 とともに,センサを有効に活用する	
				ベルの目安	標準的な到	達しべルの	 日安	未到達レベルの目安	
		-		<u> </u>	センサに関				
平価項目	1		ける.	10/10/10/10/10/10/10/10/10/10/10/10/10/1	ける.	7 0 22/101	,0101VZV1 U+	センサに関する問題が解けない.	
学科の	到達目標項	目との関係							
教育方									
既要		産業界にお 関連技術を知 学ぶとともに	らける生産現場に ロっておくことに こ, センサを有効	はもとより,大学等のは重要である. このである. このである. こので	の研究機関に 斗目では, セ 回路技術, セ	おいて物理 ンサの歴史 ンシング応	関情報の検出 と役割, セ は用技術を学	, 測定, 解析を行う場合も, センサンサの種類, 基本構成, 動作原理を ぶ.	
受業の進 客・方法	め方と授業内 :	教育目標 (B ・授業は講義	り <専門>およ 意形式で行う。	:びJABEE基準1(1)	(d)(2)a)に相	当する.		当し, 第2週〜第16週の内容は学習・ に相当するものとする.	
注意 点		マ、1 くくあく必に マ、1 くくあく必に で帰じか習準の で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 で解した。 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、	导要件>学業成績で60点以上を取得すること. ∑め要求される基礎知識の範囲>電気電子材料, 半減			合には, 討 導体デバイ. 試験. 定期	、職の結果を ス、電子回い 試験のための	85%,課題レボート結果を 格および信号処理に関する基礎知識が の学習も含む)およびレポート作成(
受業計	画								
	週	授業内容・方	法			週ごとの至	列達目標		
	1週	人間からロオ	ボットへ, センち	けの定義		+	ヒロボットの)対応, センサの定義を説明できる.	
	2週	1	類,ホトダイ z	オード		"			
	3週		ジスタ, CCD			"			
	4週		光電管, 焦電形			"			
	5週	電磁誘導, t	2ンサと指示計器	器の違い, 磁電効果,	ホールセ	3. 磁気t	センサについ	ヽて説明できる.	
	6週		■ , 磁気インピ−			"			
	7週	磁気センサの	•			11			
	8週	後期中間試験							
始期	9週	120 73 1 12322 0.3	<u>^</u> 検確認,圧力セン			4. 圧力センサ, 温度センサについて説明できる.			
	10週	測温抵抗体,	•	·		"	<i> </i>		
	11週					"			
	12週	熱電対,位置	•			11			
	13週		<u>- こっっ</u>)つづき, 超音波			5. 位置+		 「波センサについて説明できる.	
	14週	振動センサ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	~				を を を を と と と と と と と と と と と り に り に り に り に り	
	15週	 湿度センサ,	ガスセンサ			" G⊘.			
	16週		カスピンジ			 			
亚/無宝山	<u> </u>	1				I			
平価割1		1.	≡±#£¢		■■■			∆≘∔	
% △ = π / π	:pl 🛆	1	試験		課題			合計	
総合評価			85		15			100	

配点

¢∆ ric -		在中田子:	六 ====	左府 亚出31左座	/2010年底\		教科名	雨之井炒叶	:= <u>A</u>
		等専門学	父 用神	年度 平成31年度	(2019年段)		教科 名	電子材料特	這冊
科目基礎	的有数	0053			到日辰八		市明 /23+口	N 145	
科目番号 授業形態		0052 授業			科目区分 単位の種別	ト出合物	専門 選択 学修単位:		
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		,	<u>C 毕 世 致</u>			
開設学科			·コース)	- 子母次(ロホクトテラ)	対象学年		専2		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教林	<u>オ</u>	i		子材料」,中澤達夫 他	著(コロナ社)				
担当教員	-	伊藤 明	月,西村 一寛						
到達目標		Luki +nasis	51.1.101 VV X VL	.v. ===================================		-=		L-S LLEDIAN	
磁性材料, ている. ルーブリ		朴,超電導	·····································	光・電子材料の基礎知	識を埋解し,制	茶材とし	、C、それらの 	センサ用材料	としての特性を埋解し
ルーノリ	ック		I田村167.+22	 到達レベルの目安	標準的な到	金し.ベル		未到達レベ	
				に関する応用的な問題が に関する応用的な問題が			<u>の日女</u> 本的な問題が		関する問題が解けない
評価項目1			解ける.		解ける.	ステン 全	740 JOHNES/J	·	X 9 20 0 100 100 100 100 100 100 100 100 10
学科の到	達目標	項目との	関係						
教育方法	. 等								
概要		認知さび素材	れるようになっ	を見張るものがあり, た、科学技術のあらゆっての認識を深めること。	る分野での基盤	をなすも	のとしての材	料を新しい観り	点で見直し、材料およ
授業の進め 容・方法	方と授業	キ゚゚゚│・授業	は講義形式で行	望・教育到達目標(B)・ うう。 ける各週の「到達目標」(()()()		のとする
注意点		は10%位ら己た学計考(40%位の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の	0 点を上限とし 課題(レル、学 修ので を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	および評価基準>中間記 て評価する・小テスト)を20%で評価する・ 成績で60点以上を取得 る基礎知識の範囲>物理 取り上げることができた はめたり小テストを行うさ は智(中間試験,定り ・相当する学習内容であ に基づき、自己学習を 自己学習に励むこと・	やレボートを実	施した場一般的なな材等につい 習の成果 学習も含	会には, 試験 基礎知識. いては各自参考 に対する評価 む) 及びレポ	の結果を70% 等文献などによ を実施するこ。 ート作成に必	, 小テストの結果を にり学習してもらいたい とちある、授業で保証
授業計画	Ī								
	週	授業内	容・方法			週ごとの)到達目標		
	1週	磁性体	の種類, 磁気も	ーメント		1. 磁気	試材料に関する	基礎的事項を	理解している.
	2週		線と磁化過程,						理解している.
	3週			なと反磁界, 磁気異方性		1. 磁気		基礎的事項を	理解している
	4週	磁化の 材料,	温度変化,硬質 その他の磁性材	ā磁性材料,軟質磁性材料 材料	4,羊健筫磁性	2. 各種	重磁性材料の特	徴などについ	て理解している.
	5週	誘電体	,誘電現象,複	夏素誘電率と誘電率の周辺	皮数特性	3. 誘電	記材料に関する	基礎的事項を	理解している
	6週	圧電体	, 焦電体, 圧電 の新しい応用属	望体・焦電体の応用例, 4	滋性材料・誘	 4.各種	重誘電材料の特	徴などについ	て理解している.
	7週	超電導		7.1/11		5 紹介	三三はおおいます はっこう はっこう はっこう はっこう かんしょう はいしょう はい はい はい はい はいしょう はい		 を理解している.
	8週	中間試				J. 224	347/11/11/01/01/7	0至此17千次	<u></u>
前期	9週		•	リコンの結晶成長		6. シリ	リコン, 化合物	半導体の基礎	的事項を理解している
	10週	化合物	半導体の結晶成	 泛長		6. シリ	 リコン, 化合物	半導体の基礎	的事項を理解している
	11週	半導体	発光素子 I			7. 光ス	ファイバーに関	する基礎的事	項を理解している.
	12週	半導体	発光素子Ⅱ			· · · · · ·			項を理解している.
	13週	受光素	子						的事項を理解している
	14週	発光素	子			8.発光 .	ť素子の原理に	.関しての基礎	的事項を理解している
	15週 機能性炭素材料				10. 機能性炭素材料の基礎的事項を理解している.				
評価割合	16週					<u> </u>			
		北験	課題	相互評価	態度	<i>₹</i> ×	 法	その他	合計
総合評価割			30		0	0	111	0	100
配点	7		30	0	0	0		0	100
			1	1-					

鈴鹿	工業高等	 専門学校	開講年度	平成31年度 (2	.019年度)		教科名	データ処理シブ	 ステム	
科目基礎					-,	•	'			
科目番号	-11712	0053			科目区分		専門 選択。	 込修		
授業形態		授業			単位の種別。	と単位数	学修単位:			
開設学科		総合イノベロジーコー	ーション工学専攻 ス)	(口ボットテクノ	対象学年		専2			
開設期		後期			週時間数		2	2		
教科書/教	材									
担当教員		青山 俊弘								
到達目標	Ę									
ルーブリ	リック									
· · · · · · · ·			理想的な到達レイ	ベルの目安(優)	標準的な到達	産レベルの)目安(良)	未到達レベルの	目安(不可)	
評価項目1							,			
評価項目2										
評価項目3										
		目との関係								
<u> </u>										
概要	4 \J									
	方と授業内									
<u> </u>										
授業計画	ī									
	週	授業内容・				週ごとの	到達日煙			
	1週		7372			2000				
	2週									
	3週									
	4週									
	5週									
	6週									
	7週									
公公甘日	8週									
後期	9週									
	10週									
	11週									
	12週	1								
	13週									
	14週									
ı	15週									
	16週									
評価割合			1	T					T	
	試験	<u> </u>	発表	相互評価	態度	ポー	-トフォリオ	その他	合計	
総合評価割			0	0	0	0		0	0	
基礎的能力			0	0	0	0		0	0	
専門的能力			0	0	0	0		0	0	
分野横断的	能力 0		0	0	0	0		0	0	

	工業高	等馬	門学校	開講年度	平成31年度(2	2019年度)		教科名 し	ニューマンイ	′ンターフェース
科目基礎					,		'			
科目番号			0054			科目区分		専門 コース	(選択必修	
授業形態			授業			単位の種別	と単位数	学修単位: 2	2	
開設学科			総合イノベロジーコー			対象学年		専2		
開設期			前期			週時間数		2		
教科書/教	材		教科書: フェース」	「ヒューマンコン 加藤隆 (オー	・ピュータインター ・ム社)	ラクション」	ョン」 岡田謙一 他 (オーム社) 参考書:「認知・			
担当教員			箕浦 弘人							
原理を説明	躰的・生 月でき,			を基礎として, 種について理解して		ンターフェー	スを評価す	ることができ	き,現在用いられ	れている機器の基本
ルーブリ	リツク			TIM+0+5+> 7(1)+1		1#1/# 45 ± \ 7/1	+1 -311 6			• C +
				理想的な到達レイ		標準的な到	達レベルの	目安	未到達レベルの	の目安
評価項目1	項目 (理解し、心用することができる) て			人間の生理な て説明でき		特性につい	人間の生理特別 て説明できない	生・認知特性につい ハ.		
評価項目2	!			解し,実践できる		インターフ: 明できる.			明できない.	- スの評価方法を説
評価項目3	1			入出力機器の基準 先端技術について 等を論ずることが	本原理や関連する て理解し, 問題点 ができる.	身の回りのする先端技術				器の基本原理や関連 について説明できな
学科の到	<u> 達目</u>	票項目	目との関係	{						
教育方法	 :等									
概要			「ものの使 学ぶ.	いやすさ」を意識	した人間と機器と	のインターフ	エースの設	計の指針を,	身近なものや名	先端技術を例に挙げ
授業の進め 容・方法	か方と授	業内	全ての週の講義形式で	内容は, 学習・教 授業を行う.	で育到達目標(B) <専]門>, JABE	E基準1(2)	(d)(2)a)に対	応する.	
注意点			<単位修得	チルト学業式建立し	%で評価する. 再				80%, 課題(
			<あらかじる しに受講で <注意事項: 講義でその 持って聞い	め要求される基礎 きる. >高機能な機器を! ような問題の解決 てほしい.	開発する上で, いた のためのいくつか	「ること. 基礎があれば 、 いに利用し易く の手法を学ん	├分である。 くそれを作 でほしい.	るかというこ 具体的な例を	であり, 特に要 とは非常に重要 多く挙げて説明	求される基礎知識な な問題となる.この 明するので,興味を
塔娄 計庙	11		<あらかじる しに受講で <注意事項: 講義でその 持って聞い	め要求される基礎 きる. >高機能な機器を! ような問題の解決 てほしい.	知識の範囲>情報基	「ること. 基礎があれば 、 いに利用し易く の手法を学ん	├分である。 くそれを作 でほしい.	るかというこ 具体的な例を	であり, 特に要 とは非常に重要 多く挙げて説明	求される基礎知識な
授業計画			<あらかじる しにでは したでは にままででは、 はなお、単位は はなお、	め要求される基礎 きる. >高機能な機器を! ような問題の解決 てほしい. 制を前提としてレ	知識の範囲>情報基開発する上で,いたこのためのいくつから	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	├分である。 くそれを作 でほしい。 うので,E	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力	であり, 特に要 とは非常に重要 多く挙げて説明	求される基礎知識な
授業計画	週 週 1週		<あらかじる しに受講で <注意事項: 講義でその 持って聞い	め要求される基礎 きる。 人 まうな問題の解決 てほしい. 制を前提としてレ 方法	知識の範囲>情報基開発する上で,いたこのためのいくつから	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作っ でほしい。 うので、E 週ごとの至 1. 人間の	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと.	求される基礎知識な
授業計画	週 1週		くあらかじる しに意事では 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	め要求される基礎 きる. >高機能な機器を! ような問題の解決 てほしい. 制を前提としてレ 方法	知識の範囲>情報基開発する上で, いたるのためのいくつからが、ポート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作っ でほしい。 うので, E 週ごとの至 1. 人間の 明できる.	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと.	求される基礎知識な な問題となる.この 別するので,興味を
授業計画	週 1週 2週		くあらかじる しに言いる に言いる に言いる に言いる に言いる に言いる に対して に対して に対して に対して に対して に対して に対して に対して	め要求される基礎 きる。 人 まうな問題の解決 てほしい. 制を前提としてレ 方法	知識の範囲>情報基開発する上で, いたるのためのいくつからが、ポート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作 でほしい。 うので, E 週ごとの至 1. 人間の 明できる。 上記1	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 リ達目標)知覚と感覚,	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと.生理特性,認	歌される基礎知識ない問題となる。この 明するので、興味を 知と理解について説
授業計画	週 1週		くあらかじる しに言いる に言いる に言いる に言いる に言いる に言いる に対して に対して に対して に対して に対して に対して に対して に対して	か要求される基礎 きる。 とうな問題の解決 てほしい。 制を前提としてレ 方法 と知覚 特性・認知と理解 標とユーザ特性	知識の範囲>情報基開発する上で, いたるのためのいくつからが、ポート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作 でほしい。 うので, E 週ごとの至 1. 人間の 明できる。 上記1	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 リ達目標)知覚と感覚,	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと.生理特性,認	求される基礎知識な な問題となる.この 別するので,興味を
授業計画	週 1週 2週 3週 4週		くあらりでは、 して注意では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	か要求される基礎 きる。 とうな問題の解決 てほしい。 制を前提としてレ 方法 と知覚 特性・認知と理解 標とユーザ特性	知識の範囲>情報基開発する上で, いたるのためのいくつからが、ポート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である くそれを作 でほしい. うので, E 週ごとの到 1. できる. 上記1 2. デザ 上記2	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 D知覚と感覚,	であり,特に要とは非常に重要を多く挙げて説明 を注ぐこと. 生理特性,認知	歌される基礎知識ないは問題となる。この明するので、興味を知まるので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。
授業計画	週 1週 2週 3週		マあらりである。 して注意で間がです。 大きのではでする。 大きのではでする。 大きのではできます。 大きのではできます。 大きのでは、またができまができます。 大きのでは、またができまができまができまができまができまができまができまができまができまができま	か要求される基礎 きる。 とうな問題の解決 てほしい。 制を前提としてレ 方法 と知覚 特性・認知と理解 標とユーザ特性 テムの設計	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつからのためのいくつからが、ポート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作 でほしい。 うので、E 週ごとの至 1. 人間の 明できる。 上記1 2. デザー 上記2 3. イング	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 D知覚と感覚, (ンの目標とこ 7-フェースの 大間の意思	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知 ユーザ特性につい D設計と評価に	歌される基礎知識ない問題となる。この 明するので、興味を 知と理解について説
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週		くしく あい の で 大 で 大 で 大 <b< td=""><td>め要求される基礎 きる. (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)</td><td>知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す</td><td>「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行</td><td>十分である くそれを作 でほしい. うので, E 週ごとの到 1.できる. 上記1 2.デザー 上記2 3.イング 4.人間</td><td>るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 D知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思函</td><td>であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知 ユーザ特性につい D設計と評価に</td><td>歌される基礎知識ないは問題となる。この明するので、興味を知と理解について説 知と理解について説いて説明できる。</td></b<>	め要求される基礎 きる. (株)	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である くそれを作 でほしい. うので, E 週ごとの到 1.できる. 上記1 2.デザー 上記2 3.イング 4.人間	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 D知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思函	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知 ユーザ特性につい D設計と評価に	歌される基礎知識ないは問題となる。この明するので、興味を知と理解について説 知と理解について説いて説明できる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週		くしく あい (として) (本) 	か要求される基礎きる。機能な機器を1とうないい。 制を前提としてレカー 大法 と知覚 特性・認知と理解標とユーザ特性 テムの設計 エースの評価 のインターフェー	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である くそれを作 でほしい. うので, E 週ご 人間の 明できる. 上記1 2. デザー 上記2 3. イング 4. 人間いる	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 D知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思函	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知 ユーザ特性につい D設計と評価に	歌される基礎知識ない問題となる。この明するので、興味を知と理解について説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週		くして が講事な が講事な が講事な が が が が が が が が が が が 	か要求される基礎きる。機能な機器を1とうないい。 制を前提としてレカー 大法 と知覚 特性・認知と理解標とユーザ特性 テムの設計 エースの評価 のインターフェー	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつからのためのいくつからが、パート提出を課す	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作 ではしい。 うので、E 週ご人きる。 上記1 2.デザー 上記2 3.イといる 4.しこ1~4	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思 る。	であり,特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知 ユーザ特性につい D設計と評価に	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週		くしく講持な授人デがあに注義する業間間がまののイ型タとタ試ボーしとタはが講事で間単容感生シしとりよしよよよ <t< td=""><td>め要される基礎きる。 きる。 は問題の解決 制を前提としてレ 方法 と知覚 特性・認知と理解 標とユーザ特性 テムの設計 エースの評価 のインターフェー エースの評価の実</td><td>知識の範囲>情報基 開発する上で, いた のためのいくつかい ポート提出を課す。 ・ ・ ス : : : : : : : : : : : : :</td><td>「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行</td><td>十分である。 くそれを作 ではしい。 うので、E 週ご人きる。 上記1 2.デザー 上記2 3.イといる 4.しこ1~4</td><td>るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思 る。</td><td>であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を理解性についた。</td><td>まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。</td></t<>	め要される基礎きる。 きる。 は問題の解決 制を前提としてレ 方法 と知覚 特性・認知と理解 標とユーザ特性 テムの設計 エースの評価 のインターフェー エースの評価の実	知識の範囲>情報基 開発する上で, いた のためのいくつかい ポート提出を課す。 ・ ・ ス : : : : : : : : : : : : :	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作 ではしい。 うので、E 週ご人きる。 上記1 2.デザー 上記2 3.イといる 4.しこ1~4	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思 る。	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を理解性についた。	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週		くしく講義つお授人が講事を聞いたあに注義ので、 ののでは、 ののがは、 では、 <td>か要される基礎される基礎さる。 きる。機能な機器を うまではいい。 かまではいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいい。 大ではいいいいいい。 大ではいいいい。 大ではいいいいいいいいいい。 大ではいいいいいいいいいいいい。 大ではいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい</br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></br></td> <td>知識の範囲>情報基 開発する上で, いた のためのいくつかい ポート提出を課す。 ・ ・ ス : : : : : : : : : : : : :</td> <td>「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行</td> <td>十分である。 くそれを作ではしい。 うので、巨 週ごとの配 1.できる。 上記1 2.デザー 上記2 3.人しい。 4.している 上記1~4</td> <td>るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思 る。</td> <td>であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を理解性についた。</td> <td>歌される基礎知識ない問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。</td>	か要される基礎される基礎さる。 きる。機能な機器を うまではいい。 かまではいい。 大ではいい。 	知識の範囲>情報基 開発する上で, いた のためのいくつかい ポート提出を課す。 ・ ・ ス : : : : : : : : : : : : :	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。 くそれを作ではしい。 うので、巨 週ごとの配 1.できる。 上記1 2.デザー 上記2 3.人しい。 4.している 上記1~4	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚, インの目標とこ マーフェースの こ人間の意思 る。	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を理解性についた。	歌される基礎知識ない問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知と理解について説いて説明できる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週		くしく講義でて、 内ののイ型ター人 一中十一・プリのでは、	か要される基礎 きる。機能には機器を1、3 ラのはいい。 という はいい として した	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である作い。 マースではいった。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要と多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このので、現味を知と理解について説いて説明できる。このは、このではいます。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週		くしく講持な 授 人 デ対イ 人 イ中キデプ ビあに注義つお 業 間 間 ザ話ン 間 ン間ーイリ ジら受意でて, 内 の のイ型タと 夕試 ボスン ュアは ア の 感 生ンシー 人 一験ープタ アル ア の ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	か要される基礎 きる機能は機器を l	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。作い、 E 週 1 ・ で で っ の で と 人き 1 ・ で ・ と 上 記 2 ・ 上 記 5 ・ 記 5 ・ に た の で と 上 上 上 ら 、 上 記 6 、 上 記 6 、 上 記 6 ・ に に の と に で ・ に に に に に に に に に に に に に に に に に	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このので、現味を知と理解について説いて説明できる。このは、このではいます。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週		くしく講持な授人人デ対イ人 イ中キデッが講事を聞単容感生ンシー人 一段 アルラッが講事を引りでて、内ののイ型タと タ試ボスン ュチッは、アクア ユーター スクア ユーター スクター スクター スクター スクター スクター スクター スクール・プラット・プラット・プラット・プラット・プラット・プラット・プラット・プラット	か要される基礎 を	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である作い。 マースではいった。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 ではい。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このに説明できる。このに説明できる。このに必要な点を理が説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで記述している。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週		CO Co Co Co Co Co Co Co	か要される基礎 を 大	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。作い、 E 週 1 ・ で で っ の で と 人き 1 ・ で ・ と 上 記 2 ・ 上 記 5 ・ 記 5 ・ に た の で と 上 上 上 ら 、 上 記 6 、 上 記 6 、 上 記 6 ・ に に の と に で ・ に に に に に に に に に に に に に に に に に	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このに説明できる。このに説明できる。このにで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで記明できる。これで記明できる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これでは、これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでき
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週		CO Co Co Co Co Co Co Co	か要される基礎を含まれて制をできる。機能的題のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。作い、 F で う 週 1 明 上 2 ・ 記 1 で と 人き 1 で 2 ・ 記記 1 で 2 ・ 記記 5 ・ 記記 5 ・ 先の 1 ・ で と 上 上 6 ・ 上 上 6 ・ 上 記 6 ・ ー 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このに説明できる。このに説明できる。このにで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで記明できる。これで記明できる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これでは、これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでき
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週		CO Co Co Co Co Co Co Co	か要される基礎を含まれて制をできる。機能的題のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。作い、 F で う 週 1 明 上 2 ・ 記 1 で と 人き 1 で 2 ・ 記記 1 で 2 ・ 記記 5 ・ 記記 5 ・ 先の 1 ・ で と 上 上 6 ・ 上 上 6 ・ 上 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 川達目標 つ知覚と感覚, インの目標とニ マーフェースの イ人間の意思 る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このに説明できる。このに説明できる。このに必要な点を理が説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで説明できる。これで記述している。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。これできる。これでは、これできる。。
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週	試験	CO Co Co Co Co Co Co Co	か要される基礎を含まれて制をできる。機能的題のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいパート提出を課す。	「ること. 基礎があれば- Nに利用し易・ の手法を学ん 授業進行を行	十分である。作い、 F で う 週 1 明 上 2 ・ 記 1 で と 人き 1 で 2 ・ 記記 1 で 2 ・ 記記 5 ・ 記記 5 ・ 先の 1 ・ で と 上 上 6 ・ 上 上 6 ・ 上 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L 記 6 ・ L	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚、 インの目標とこ アーフェースの 人間の意思な シュータの入と な術を用いたっ 類点を検討する	であり、特に要とは非常に重要を多く挙げて説明を注ぐこと・ 生理特性、認知を対象を良好に行いた。 出力機器の原理が	まずされる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。このので、現味を知と理解について説いて説明できる。このは、このではいます。
前期	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週		CO Co Co Co Co Co Co Co	かきさん は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	知識の範囲>情報基開発する上で、いたのためのいくつかいポート提出を課す。	「ること、 は礎があれば- いに利用し易。 の手法を学ん 授業進行を行	十 くで う 週 1 明上 2 ・	るかというこ 具体的な例を 頃の勉強に力 別達目標 の知覚と感覚、 インの目標とこ アーフェースの 人間の意思な シュータの入と な術を用いたっ 類点を検討する	であり,特に要とは非常に重要:多く挙げて説明を注ぐこと. 生理特性,認知	まなれる基礎知識ないは問題となる。この別するので、興味を知と理解について説知できる。 ついて説明できる。 ついて説明できる。 う為に必要な点を理が説明できる。 スの概要を理解し

鈴鹿	 工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度	(2019年度)		 教科名	
科目基礎			1 1.13613 1 1.50	1	<u>,</u>	1		
科目番号	Хтсп	0055			원모교사		古田 18340	
					科目区分	1 11//11/19	専門 選択	
授業形態 開設学科		授業 総合イノベ・	 ーション工学専	 攻(ロボットテク	単位の種別ノ対象学年	と単位数	学修単位: 専2	1
		ロジーコー	ス)				1	
開設期	1	前期	3b — 346 % A/F 0	NE /55=# +> /= 57	週時間数	₩+L114> +	1	\
教科書/教材	<u> </u>	i e		3版(受講者に配布	i), e フーニン	ノグ教材を	言: 特にる	(U
担当教員		白井 達也,男	k垣 寬治,箕浦 引	弘人				
到達目標								
ベクトル, とができる	行列,微分为	5程式,確率	, 関数, 積分が	,機械工学,電気 ————————————————————————————————————	・電子工学,情	報工学,通	信工学的な	観点から理解でき,それらを使うこ
ルーブリ	ック							
			理想的な到達し	標準的な到	達レベルの	目安	未到達レベルの目安	
評価項目1			ロボット工学に て理解し,実践 きる.	こおける数学につい 浅的な問題に応用で	1 ロボットエ で て理解して	学における基礎的な問	数学につい 題を解ける	ロボット工学における数学につい て理解していない.
評価項目2			気体論における し,実践的な問	る数学について理角 問題に応用できる.	ע 気体論にお して基礎的			気体論における数学について理解 していない.
評価項目3			いて理解し, ま できる.	側における数学にで 長践的な問題に応用	fl いて理解しる.	計測におけ て基礎的な	る数学につ 問題を解け	三次元位置計測における数学について理解していない.
評価項目4			応力解析におけ 解し,実践的な	ける数学について理 は問題に応用できる	型 応力解析に 解して基礎			応力解析における数学について理解していない.
学科の到	達目標項目]との関係						
教育方法		. = - 2977						
	र्ज	_ = ->	ガルダッキョニャ	タニトロ て当る	夕亩明に口いた	カマ粉学ナ	- 大田売から	I田俊江 ナンがた 学 デ
概要								理解しながら学ぶ.
授業の進め 容・方法	受業の進め方と授業内・すべての内容は、学習・教育到達目標(B)<基礎><専門>に、JABEE基準1(2)(c ・授業はオンラインの e ラーニング教材を用いて各人が行う. 講義は計画的かつ集 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」), (d)に対応する. 中して聴講する. に相当するものとする.	
注意点		取得した場 (80%)及び (100~80 ×単からごると と は は い で い さ り さ り さ り さ り さ り さ り さ り さ り さ り さ	合に目標を達成 D評価方法およで アクセス状況(2 点) , (79〜 要件、学業成績で か要業で保る基準 ・授業である。 り容である。)科目は「単位5	したことが確認で び評価基準>各授第 20%)を基準として (-65点) - 可 (64 で60点以上を取得 礎知識の範囲>各 る学習時間と、予覧	きるように設定 業項目について呼 、学業の績を終 〜60点),不可 すること。 学科の学科卒業科 当・復習及びレク 講義配信事業に信	する. また 中間及び期減合的に評価 (59点以下 程度の習得. ポート作成に 系る単位互!	:アクセス状 末の課題を含 い:) . こ必要な標準	以しは百点法により60点以上の得点を 況の評価は最大20%とする。 全て正しく解答した提出レポート 基準は、次のとおり. 優 はかな学習時間の総計が、45時間に相 合ける単位互換科目として実施する を入れること.
授業計画	1	125344-1-22				\B=\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	U+	
	週	授業内容・	方法			週ごとの至		
	1週	主担当:鈴 数学部分: (1) 多関節[群馬高専 碓氷久 コボットの順運	トルと行列 学科)白井達也 、元鈴鹿高専 安 動学 :座標変換, 空間,水平多関節	7富真一 位置と姿勢 ロボットの変	1. 講義のポイントを理解し、レポートに要点がわかりすくまとめることができる。 2. 疑問点を明確にし、レポートの中で、考察、資料調がなされている。また、必要に応じてメール等により質に応答ができる。 3. レポートにおいて、講義で紹介された内容、関連事業、応用について、理解している。		
	2週	(2)多関節口 一般化逆行]ボットの逆運動 5列(疑似変換)	协学 逆行列),軌道計ī	画	上記1から	5 3	
	3週	数 主担当:鈴 数学部分:	鹿高専(電気電 岐阜高専 岡田章	分方程式, ベクト 子工学科) 柴垣寛 5三, 鈴鹿高専 堀 プラズマの応用,	治 江太郎	上記1から	53	
前期	4週	(2) 気体論 電の開始と	: 気体の電気的 持続, パッシェ	性質, 気体放電と ンの法則	プラズマ,放	上記1から	5 3	
	Ⅲ. 情報工学主担当:鈴鹿 数学部分:河(1)三次元分と同時座標系		学編(ベクトル 鹿高車(電子情			上記1から	53	
	(2)三次元位置計測:三次元座標の算出,最小二乗法,三次		上記1から	53				
	7週	IV. 機械工: 主担当: 鈴/ 数学部分: (1) 有限要	学編(積分,行 毘高専(機械工 鈴鹿高専 堀江			上記1から	53	
				 Eデル:仮想仕事の	D 直班 一	デ 上記1から3		

	9週							
	10週							
	11週							
	12週							
	13週							
	14週							
	15週							
	16週							
評価割合								
	1	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	<u>}</u> ()	80	0	0	0	20	100
配点)	80	0	0	0	20	100

科目基礎		[門学校 開講年度 平成	31年度 (2019年度)	教科名	実践工業数学Ⅱ	
	情報		<u>, </u>			
科目番号		0056	科目区分	専門 選択		
授業形態		授業	単位の種別と単	位数 学修単位	: 1	
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロホ ロジーコース)	刈黍子年	専2		
開設期		前期	週時間数	1		
教科書/教材	<u> </u>	実践工業数学 第3版				
担当教員		山口 雅裕,和田 憲幸,兼松 秀行				
到達目標						
微分方程式 	,確率,関数	牧,統計,微分,積分,三角関数が, 	生物工学,物理化学,材料工	学的な観点から理	Ľ解でき,それらを使うことができる	
ルーブリ	ック					
		理想的な到達レベルの			未到達レベルの目安	
評価項目1		微分方程式,確率,関 ,微分,積分,三角関 ,生物工学に関する応 を解くことができる.	用的な問題 / 生物工学に関 を解くことがで		, 生物工学に関する基礎的な問題 を解くことができない.	
評価項目2		微分方程式,確率,関 ,微分,積分,三角関 ,物理化学に関する応 を解くことができる.	用的な問題 / 物埋化学に関 を解くことがで		, 物理化学に関する基礎的な問題 を解くことができない.	
評価項目3		微分方程式,確率,関 ,微分,積分,三角関 ,材料工学に関する応 を解くことができる.	数,統計 微分方程式,確 数を用いて , 微分,積分, 用的な問題 , 材料工学に関 を解くことがで	率,関数,統計 三角関数を用いて する基礎的な問題 きる.	微分方程式,確率,関数,統計 ,微分,積分,三角関数を用いて ,材料工学に関する基礎的な問題 を解くことができない.	
学科の到	達目標項目	目との関係				
教育方法	等					
 概要		実践工業数学Ⅱは,確率,統計,微	数分,積分の数学的知識を使い	、生物工学,物理	化学, 材料工学の専門科目への応用	
授業の進め 容・方法	方と授業内	を, e-ラーニングによる遠隔教育に ・すべての内容は, 学習・教育到道 ・授業は, e-ラーニングによる遠隔 認される. ・「授業計画」における各週の「至	達目標(B)<基礎><専門>に, 扇教育によって行われ,内容理	imを各草Ⅴ~Ⅷの	ンボートの提出と結果によってを確	
注意点		ルは、百点法により60点以上の得け状況の評価を最大20%とする。 <学業成績の評価方法および評価基 (80%)およびアクセス状況(20%) 、可が64~60点、不可が59点以下 <単位修得要件>学業成績で60点 くあらかじめ要求される基礎知識の 、量子力習、金属工学等の拡散の疾 く自己学習>授業で保証する学習時 当する学習内容である。	点を取得した場合に目標を達成 基準>各授業項目について中間。 を基準として、学業成績を総合である。 以上を取得すること。 が囲>各学科の学科卒業程度の 印識があればより理解が深まる。 間と、予習・復習及びレポー ・ラ実践型講義配信事業に係る	成したことが確認でおよび期末の課題合的に評価する。かの知識と能力を必ら、 かの知識と能力を必ら、 と作成に必要な標 単位互換協定」に	果題を80%とし、レポート課題のレベア きるように設定する。またアクセスを全て正しく解答した提出レポート なお、優が100~80点、良が79~65分要とする。また、本教科は物理化学 準的な学習時間の総計が、45時間における単位互換科目として実施する かを入れること。	
授業計画	週	授業内容・方法	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	 ごとの到達目標		
	1週	V 生物工学編 - 確率・統計 (1)生物統計 1 パラメトリックな 検定の考え方,検定の誤りと危険等		 検定の考え方, 検	走の誤りと危険率,データの対応,t/ 検定を理解できる.	
	2週	(1) 生物統計 1 パラメトリックな t検定, Welchの検定, Z検定		21		
	3週	(2) 生物統計 2 ノンパラメトリッ U検定(Man-Whitney検定),χ2検ΰ	定 統計	 J検定(Man-Whiti †学的有意性の違い	ney検定), x2検定, 生物学的有意性と い, 公式の選定を理解できる.	
	4週	(2) 生物統計 2 ノンパラメトリッ 生物学的有意性と統計学的有意性と		₹2		
	5週	(2) 生物統計 2 ノンパラメトリッ 公式の選定	\			
VI 物理化学編 – 微分・積分, 微分方程式, 三角関数 (1) 熱力学の基礎方程式とその応用 前期 動力学第1法則, 熱力学第2法則, 物質の熱容量, マックスウエルの関係式, エントロピーのスウエルの関係式, エントロピーのスウエルの関係式				熱力学第1法則, くウエルの関係式, ッシャル, 反応と ⁵	熱力学第2法則,物質の熱容量,マッ エントロピーの温度依存性,化学ポ 平衡常数に使う数学を理解できる.	
前期	7週 エントロピーの温度依存性,化学ポテンシャル,反応と平 衡常数			上記3		
前期	7週	衡常数	パテンシャル, 反応と平 上記	23 		
前期	7週	エントロピーの温度依存性, 化学が 衡常数 (2) シュレーディンガー方程式とそ, 3次元)) シュレーディンガー方程式, 自由電 ー方程式の解法	ポテンシャル, 反応と平 上記 (1次元 4. の (1 できる) 1 で (2 できる) 1 で	自由電子および井 Pの並進運動, 回転	戸型ポテンシャル内,有限平面内,箱 試運動および調和振動のシュレーディ 規格化に使う数学を理解できる.	
前期		衡常数 (2) シュレーディンガー方程式とそ, 3次元)) シュレーディンガー方程式, 自由電	ポテンシャル, 反応と平 上記 たの解(並進運動(1次元 電子のシュレーディンガ のウンナ	自由電子および井 Pの並進運動, 回車 ゴー方程式の解法,	戸型ポテンシャル内,有限平面内,箱 証重動および調和振動のシュレーディ 規格化に使う数学を理解できる.	
前期	8週	衡常数(2) シュレーディンガー方程式とそ、3次元))シュレーディンガー方程式,自由電ー方程式の解法井戸型ポテンシャル内の並進運動の	ポテンシャル, 反応と平 上記 この解(並進運動(1次元 電子のシュレーディンガ のロンカ フシュレーディンガー方 上記	自由電子および井 Pの並進運動,回車 ガー方程式の解法, ご	云連動および調和振動のシュレーディ	

	12週	VII 材料工 (1) フィッ・ 金属中の拡	学編 – 微分方程式と関数 クの第一法則 散現象	D第一法則 現象			偏微分とフィックの第1法則の解法 る.
	13週	フックの第	1法則の解法			上記5	
	14週	(2)フィック フックの第	7の第二法則 2法則と定常状態での解法	Ž.		6. フィックの第2法則 2法則と非定常状態での解法,有限な長さを)に使う数学を理解でる	と定常状態での解法,フィックの第 の解法,拡散距離が比較的短い場合 寺つ軽についての解法(変数分離 きる.
	15週	フックの第	2法則と非定常状態での解	法,拡散距	離	上記6	
	16週						
評価割合	•						
			課題		態度		合計
総合評価割	·合評価割合 80 20		20		100		
配点	80 20		20	100			

鈴鹿	工業高等	等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)		教科名	生命工学		
科目基础										
科目番号		0058			科目区分		専門 選択	5		
授業形態		授業			単位の種別	と単位数				
開設学科		総合イノベロジーコー		女(ロボットテクノ	対象学年		専2			
開設期		後期			週時間数		2			
教科書/教	材	プリントを Cell 」R.P	配布する. 参考i hillips et.al., (Ga	書:「生命と物質-: arland Science)	生物物理学入門	汉門」永山,(東京大学出版会),「 Physical Biology				
担当教員		丹波 之宏								
到達目標	票									
分子生物等	学の用語に	慣れると共に,	生体分子やその質	集合体の特性を物理	型的,定量的に	理解して	ている.			
ルーブ!	ノック									
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到	達レベル	 の目安	未到達レベ	ルの目安	
	1 ; 生体分 定量的に理	子やその集合体 !解している.		集合体の特性を定	生体分子や量的に理解		合体の特性を定	生体分子や量的に理解		
評価項目2 の特性を特別	2 ; 生体分 物理的に理	 子やその集合体 !解している.	生体分子やその 理的に理解し記	集合体の特性を物 述できる.	生体分子や理的に理解		・ ・ ・ ・ ・	生体分子や 理的に理解	 その集合体の特性を物 していない.	
学科の発	到達目標	項目との関係	—— <u>———</u> 系		<u> </u>					
教育方法										
概要		生物学からある. 講義の機能発現	得られた知見をこれの場では分子生物学の場である脂質脈	□学的・医学的に応 D用語に慣れるとも 莫, ひいては細胞の	明するには、 に, 生体分子)構造や機能に	その諸班 やその集 ついて物	見象を物理的な 長合体, すなれ 物理的, 定量的	は側面から理解して つち分子機械でる 可な理解を深める	しておくことが重要で あるタンパク質や, そ る.	
授業の進る 容・方法	め方と授業	(1) この 規定の単位	授業は学習,教育	目標(B) <基礎> を進め,課題提出を	および,JABE	基準1(1)の(c)に対	応する。(2)	自己学習を前提とした 動生理学のテキストを	
注意点	ф і	保証する字 が, 90時 . (6)学	『習時間と,予習 『間に相当する学習 年末(定期試験)	• 復名(定期試験())ための字習も) 自己学習を 5 0 %として	含む)が 前提とし 平価し、	とひレホートイ て適宜求める 60%以上の	E成に必要な程》	・能力」の重みの目3 あること、 (4) 授業 集的な学習時間の総計 、ていなければならない かを合格とする。 再試験	
	週週	授業内容・				调ごとの	 の到達目標			
	1週		<u> </u>	侖(1)		1. 分子 細胞、生	子生物学で使わ		¥している. 2. 生命、 と機能, それらの概要	
	2週	生命工学、	生物物理学の序記	侖 (2)		上記1,				
	3週		みる大きさや数、				2, 3. 生体分	子とその集合	体の特性を定量的に理	
	4週	生命現象に	みる大きさや数、	力、時間(2)		上記1,				
	5週		みる大きさや数、			上記1,				
	6週	水溶液中の	が拡散(1) が拡散(1)			上記3, ている.		とその集合体の	特性を物理的に理解し	
後期	7週	水溶液中の	拡散(2)			上記3,	4			
	8週	エネルギー	-と分布(1)			上記4				
	9週	エネルギー	-と分布(2)			上記4				
	10週	エネルギー	-と分布(3)			上記4				
	11週	水溶液中の	静電相互作用(:	1)		上記2,				
	12週		静電相互作用(2	-		上記2,	3, 4			
	13週		静電相互作用(3	3)		上記2,	3, 4			
	14週		ンパク質(1)			上記1,	2, 3, 4			
	15週 生体膜とタンパク質(2)					上記1,	2, 3, 4			
	13/5	1								
	16週									
評価割る	16週		_							
評価割る	16週	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	課題	相互評価	態度	3	養	その他	合計	
評価割合総合評価額	16週		課題 20	相互評価	態度	多 0		その他 0	合計 100	

鈴鹿	工業高等	厚門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	書	教科名	有機材料工学	
科目基礎	世情報		•		•		•		
科目番号		0060			科目区分		専門コース	ス選択必修	
授業形態		授業			単位の種別と単	位数	学修単位:	2	
開設学科		総合イノベ- ロジーコープ		ス(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		後期			週時間数 2				
教科書/教	材	教科書:工学	学のための高分子 会編 共立出版)	² 材料化学(川上浩) ,高分子材料概論	曳著, サイエンス (鴫川四末 五十	社)及	び配布プリン 薬	ント,参考書:入門高分子材料設計	
 旦当教員		下古谷 博司		, ופטען דיינין ני כלנפו	(Ing/TIPEI/C, ALT) ()	ы, жашыл	IX)	
到達目標									
L.高分子(1 2.分離・分 3.繊維強(1	と合物の種類 子認識材料 とプラスチッ	, 構造, 性質, や環境浄化材料 クの種類, 構	, 合成法等を理角 料など各種高分子 造, 性質, 成形法	遅し,各種高分子化 P材料の構造や性質 法等を理解し,プラ	合物について説明 を理解し,その機 スチック基複合材	できる 能につ 料につ	いて説明でる いて説明でる	きる. きる.	
ルーブリ	リック								
			理想的な到達レ		標準的な到達レ			未到達レベルの目安	
平価項目1	の設計に応用できる。 各種高分子材料の構造及び性質等			各種高分子化合物 きる.	高分子化合物の 法等を理解し, について説明で	各種高力	物性,合成 分子化合物 —————	高分子化合物の種別や物性,合成 法等を理解できず,各種高分子化 合物について説明できない.	
平価項目2	!		各種高分子材料。 とその機能との 能性高分子材料。 る.	の構造及び性質等 関係を理解し,機 の設計に応用でき	各種高分子材料 解し, その機能 る.	の構造な	や性質を理 て説明でき	各種高分子材料の構造や性質を理解できず、その機能について説明できない.	
评価項目3	}		繊維強化プラス 質を理解し,プ 材料の設計に応	チックの種類や性 ラスチック基複合 用できる.	頭や性 繊維強化プラスチックの種類や性 繊維強化プラスチック 基複合 質を理解し、ブラスチック基複合 質を理解できず、ブ 材料について説明できる. 複合材料について説				
学科の至	引達目標項	目との関係							
教育方法	 法等								
既要		化合物の設調	計法や分離・認調	合成系まで幅広く存 財材料, バイオマテ Sまで幅広く学ぶ.	在する. 授業では リアル, 環境保全	:, それ 材料な	らの構造とり どの機能的物	生質など基本的な事項から,高分子 特性を理解し,さらにはプラスチッ	
受業の進& 容・方法	受業の進め方と授業内 ・すべての内容は学習・教育到達目標(B) <専門> , JABEE基準1(2)(d)(2)a)に対応する. ・授業は講義形式で行う. 講義中は集中して聴講する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.							対応する. こ相当するものとする.	
注意点		いくめくの者合くくと.習準績試別の名言の者合くくと.習準績が別り、100円の者の方の者の方の者の方の者の方の者の方の者の方の者の方の者の方の者の方の者の	また。 本教科は ト大学で保証する ト大学で とで を で で で で の で で で が に で が に で に に に に に に に に に に に に に	3分子化学, 有機材 5学習時間と 有 予習 5計が 9 0 時間に 5計が基準 > 適宜 6、課題像を課すここでは 6、は再試験を課すここでは 5 6 0 点に以上を取得に 5 6 0 点にの単位制に	科,有機機能材料 ・復習(中間試験 相当するポーテーの提 りのとして、そので ともあり、 ともあり、 き も いるとして、そので は いるとして、 で で は いるとして、 で は い で ま が ま が ま が ま が ま る り る り で に で に で に で に で に で に で に で に で に で	の、で出る合換、課別のでは、これのでは、これのでは、 であるした 再る いまれる いまれる いまれる いまれる いまれる いまれる いまれる いまれ	か基礎となる 試験のためで ここいなけれに ごし、後期付 にごし、後期付 ものとする 提出をもとと	こ関する基礎をしっかりと理解してる教科である。 の学習も含む)及びレポート作成に ばならない。後期中間、学年末試験 間試験について60点に達していない が該当する試験の成績を上回った場 ・ かるので日頃の勉強に力を入れるこ る専門基礎事項を必要に応じて確認	
\		一・復習する。	こと.						
受業計画	1				\m_=	* L (7.71)			
	週	授業内容・プ				ご と の 到 高 分子		 特徴についてその概要を説明できる	
	1週	有機材料工	_				C12073 3 - 2		
	2週	合成高分子の			上記		小劫 4455	やも労の性所について説明できる	
	3週	合成高分子の						や力学的性質について説明できる. 業的に使われている天然高分子につ	
	4週	天然高分子の	火悟 垣		いて	その概	要を説明で	් වේ.	
	5週	天然高分子の	の性質		4. る酢	ハイオ 揉素など	リアクター 生体高分子	およびバイオリアクターに応用され の概要について説明できる.	
	6週	高分子材料の	の設計:連鎖重合					するための基礎となる各種重合法(
	7週	高分子材料の		<u> </u>	上記		(CQ)		
 後期	8週	中間試験			これ	までに	学習した内	容を説明し,諸量を求めることがて	
×77/J		1	++#N		きる 6.		 能材料や分=		
	9週	分離・認識	-		でき	₹る			
	10週	バイオマテ!						D構造と機能について説明できる.	
	11週	環境問題と						<u>いてその概要を説明できる.</u> 構造と機能について理解し,高分子	
	12週	生分解性高级			リナ	ナイクル	について説		
	13週	高分子のリ			上訂		all サニフィ	ニックの種類や様件学を理解し、 代理	
	14週	1プラスチッ/	ク基複合材料	110.	10. 繊維強化プラスチックの種類や構造等を理解し,成型法についても簡単に説明できる.				
	15调))/()) .				こついて 110	も簡単に説	明できる.	

上記10

15週

16週

プラスチック基複合材料の成型法

評価割合										
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計			
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100			
配点	80	20	0	0	0	0	100			

鈴鹿	 工業高等専]門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名		
科目基礎	計報			•	,	•			
科目番号		0061			科目区分		専門 コース		
授業形態		授業			単位の種別	と単位数			
開設学科		1		(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教	材	(共立出版) 熱処理技術	が考書:「材料 ㈱), 「鉄鋼・高 協会 編著(大河出	強靭学」小林俊郎 強度化に挑む」内I 出版)など	著(アグネガ 山 郁著(#	技術センター), 「ホルンボーゲン 材料」小林俊郎他 (㈱工業調査会), 「入門・金属材料の組織と性質」(そ			
担当教員		黒田 大介							
到達目標	Ē								
得し,高強	態度・高靭性を	よび破壊力学 を有する金属	に関する基礎理論 材料の設計・開発	を理解し, ミクロ に応用できる.	組織制御に必	要な専門	門知識および破場	懐靭性の評価に必要	な専門知識を習
ルーブリ	<u> </u>				T			1	
			理想的な到達レク	ベルの目安	標準的な到	達レベル	レの目安	未到達レベルの目	安
評価項目1					子構造, 結合様 系を説明できる	代表的な材料の原式と高強度化の関い.			
評価項目2			材料力学や破壊力の評価法と概念, を説明でき, それ 材料の高強度化に	種々の破壊形態 1らの知識を構造		破壊形態	さに関する概念 まとその原因を	材料力学や破壊力 や代表的な破壊刑 説明できない.	
評価項目3			代表的な構造用材 説明でき, それら 料の高強度化に応	5の知識を構造材	代表的な構. 説明できる		4の強化機構を	代表的な構造用な 説明できない.	掛の強化機構を
学科の到	達目標項	<u> </u>							
教育方法	 等								
概要		講義を行い	あらゆる金属材料	うミクロな視点とは得しておくべき主味の強靭化を自力で	行えるように	_するの	が目的である		
授業の進め容・方法	方と授業内	. ・授業は講	義形式で行う. 講	・教育到達目標(B 義中は集中して聴 の「到達目標」は	講する.				
注意点		の到達度を記録を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を	評価する. 各到達す. (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	>下記授業計画の 目標に関する重み(評価基準) 中間 い場合(無断欠席 の試験の得点を60 60点以上を取得す 知識の範囲) 「鉄 ため、必要に応じ にプリントを配布	は同じである 試験, 期末試りの者を除く) 点と見なす. ること. 岡材料」, 「	. 合計点 険の2回は,補 期末試 軽金属林	点の60%の得点で の試験の平均点で 講の受講やレポー 験の再テストは行 材料」, 「材料登	で,目標の達成を砂 を100%として評値 - ト提出等の後,同 テなわない. 触度学」の基礎事項	軽認できるレベル 面する. ただし,中 事テストにより再
授業計画									
	週	授業内容・	方法				の到達目標		
	1週	構造材料の	発展と特徴			代表的	な材料の原子構造	造と特徴を説明でき	きる.
	2週			強さ, 靱性とは何た		5		ドやき裂進展の要因	
	3週	強さと靱性	の基礎 – その2 – st	金属を強くする方法	<u> </u>	金属材料	料の代表的な強化	上機構を説明できる	5.
	4週	鉄鋼材料の	強化と靭化-その	1-組織の調整法		元素添えきる.	加や熱処理による	る鉄鋼材料の組織の)調整法を説明で
	5週	鉄鋼材料の	強化と靭化-その	2-実用鋼の強靭化	ر	鉄鋼材	料の組織と強靭イ	Lの関係を説明でa	きる.
	6週	材料力学と	破壊力学			材料力:	学的手法と破壊な	り学的手法の違いを	ヹ説明できる.
	7週	弾性破壊力:	学と弾塑性破壊力	学		基本的	な破壊力学パラン	メータを説明できる	5.
前期	8週	中間試験							
	9週	鉄鋼材料の	破壊とその評価法	- その1 - 延性破場	と脆性破壊	延性破	壊と脆性破壊の特	寺徴とその評価法を	ご説明できる.
	10週	鉄鋼材料の	破壊とその評価法	- その1 - 靱性と病	罗劳破壊	疲労破	壊とその評価法を	を説明できる.	
	11週	鋳鉄の強化				鋳鉄の	種類とその強化法	法を説明できる.	
	12週	アルミニウ	ム合金の強度			アルミ	ニウム合金の種類	質とその強化方法を	ご説明できる.
	13週	チタン合金	の強化			チタン	合金の種類とその	の強化方法を説明で	できる.
	14週 金属基複合材料の強度				金属基	複合材料の製法の	上強度の関係を説明	見できる.	
	15週	金属間化合	物の強度			金属間	化合物のミクロ約	且織と強度の関係を	ご説明できる.
	16週								
評価割合									
	試験		課題	相互評価	態度	3		その他	合計
総合評価害			0	0	0			0	100
配点	100		0	0	0			0	100
HOW	1100		ı -	12	12	10	•	1~	1-00

	専門学校	開講年度 平成31年度 (2	2019年度)	4	教科名	エコマテリアル
科目基礎情報	131 33 121	1 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1			7111	
<u> </u>	0062		科目区分		専門 選択	
受業形態	授業		単位の種別の	上単位数	学修単位:	2
開設学科		ーション工学専攻(ロボットテクノ ス)	対象学年 専2		専2	
	後期		週時間数 2			
教科書/教材	ノート講義					
担当教員	小俣 香織					
到達目標						
環境問題と材料の関係 要と課題を説明できる		?し,環境問題に対して,自ら考えを	述べることが	できる. 代	表的なエコ	マテリアルについて理解し, その概
レーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到途	達レベルの目	3安	未到達レベルの目安
评価項目1		エコマテリアルの定義を詳細に説 明できる.	エコマテリス 説明できる.	アルの定義を	を大まかに	エコマテリアルの定義を説明できない.
評価項目2		環境問題を多面的・定量的にとらえ, それに基づいて自らの意見を述べることができる.	環境問題を多 えることが	多面的・定量 できる.	量的にとら	環境問題を多面的・定量的にとら えることができない.
評価項目3		代表的な環境問題と材料開発の歴 史について理解し、現在の課題や 解決に取り組みについて説明でき る.		代表的な環境問題と材料開発の歴 史について大まかに説明できる.		代表的な環境問題と材料開発の歴 史について説明できない.
評価項目4		複数の文献などから目的に応じて 適切な情報を収集し,整理・分析 することができる.	文献などから情報を収集する			文献などから目的に応じた情報を 収集することができない.
評価項目5		発表や討論において自らの意見を 論理的に受け手にわかりやすいよ う工夫して説明できる.	発表や討論(説明できる.	こおいて自ら	らの意見を	発表や討論において自らの意見を 説明できない.
学科の到達目標項	目との関係	Ŕ				
既要		さのみを追求するのではなく環境負債 続可能な人間社会を目指した物質・7				
授業の進め方と授業内 容・方法	・全ての内・「授業計	容は, 学習・教育目標(B) (専門) 画」における各週の「到達目標」は	〉およびJABE この授業で習	E基準1(1) 得する「知	の(d)(2)a) 識・能力」	に対応する. に相当するものとする.
<到達目標の評価方法と基準>この授業でより評価する。 <学業成績の評価方法および評価基準>する。ただし、中間試験にて60点に達しを上回った場合には、60点を上限として<単位修得要件>各目に与えられた課題のくあらかじめ要求される基礎知識の範囲>料の作成ができること			レゼンをすべて実施し,学業成績で60点以上を取得すること. カ学や構造科学の基礎を理解していること.また,パワーポイントによ てのプレゼンテーションを課すので,必ず予習を行い,プレゼン資料を作 図(中間試験、定期試験のための学習も含む)およびレポート作成にご			点50%の割合で成績を総合的に評価 再試験の成績が該当する試験の成績 点以上を取得すること. とと. また, パワーポイントによる資
週	授業内容・			週ごとの到		
1週		説明およびエコマテリアルとは				概念が理解できる.
2週		アルの概念―環境と科学―		<u></u> 上記1	<u> </u>	
3週					題を定量的	に理解することができる.
3週 トレードオフと全体最適			3. エコマテリアル開発の現状が説明できる。 4. 環境問題と材料の関係について説明することができる			

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
	1週	投業の概要説明およびエコマテリアルとは	1. エコマテリアルの概念が理解できる.
	2週	エコマテリアルの概念―環境と科学―	上記1
	3週	トレードオフと全体最適	2. 環境問題を定量的に理解することができる.
	4週	エコマテリアル開発の現状(環境と触媒)	3. エコマテリアル開発の現状が説明できる. 4. 環境問題と材料の関係について説明することができる.
	5週	エコマテリアル開発の現状(金属・無機材料)	上記3, 4
	6週	エコマテリアル開発の現状(有機材料)	上記3, 4
	7週	エコマテリアル開発の現状(複合材料)	上記3, 4
	8週	中間試験	
後期	9週	中間試験答案確認と解答解説、ディベート	5.情報を整理・分析することができる。 6.収集した情報や自らの意見を順序立てて論理的に説明 できる.
	10週	発表(自分の研究テーマと環境とのかかわり)	上記5,6
	11週	発表(自分の研究テーマと環境とのかかわり)	上記5,6
	12週	発表(最近のエコマテリアル)	上記5,6 7.最新のトピックスについて,情報を収集することができる.
	13週	発表(最近のエコマテリアル)	上記5,6,7
	14週	発表(最近のエコマテリアル)	上記5,6,7
	15週	発表(最近のエコマテリアル),レポート課題の説明,文献紹介	上記 5 , 6 , 7
	16週		
評価割合			

	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
配点	50	50	0	0	0	0	100

給鹿	江業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	孝	科名	インターンシップ I
科目基礎			_ N.I. CI4CO. 1	1 1 1-700 2 1 120 (2	1/2/	1 37	,, , ,,	1
<u>17 口坐员</u> 科目番号	ベード・	0063			科目区分	科目区分 専門 選択		₹
<u>170日7</u> 授業形態		実験・実習			単位の種別と単位			
開設学科			/ ノベーション工学専攻(ロボットテクノ		対象学年		専2	
開設期		•		週時間数		2		
教科書/教	斗書/教材 教科書:特		になし, 参考書:インターンシップの		の手引き			
担当教員		インターンシ	/ップ 担当教員					
到達目標	票							
れる		の問題点と認	果題を体験し,依	体験したことを日報	や報告書にまとめ	, それら	らをもとに	こ,発表資料を作成し,それを伝えら
ルーブリ	ノック				i			
		3	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目	安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1								
評価項目2								
評価項目3								
学科の到	到達目標項目	まとの関係						
教育方法	去等							
概要				問題点と課題を体験				h)に対応する. に相当するものとする.
授業の進& 容・方法	め方と授業内	資料を作成し 【実習機関】 機関. ただし 【内容】専巧 【期間】2週 【日報】毎日 【課題】イン	、発表を行う・学生の指導が拒 学生の指導が拒 り、専攻科2年次 は科生が従事でき 間以上の期間より、日報をであり、 ・クーンシップ	型当可能な企業また(の就職内定者についまる実務のうち、イ)施した場合において「ること・	は公共団体の機関 いては、内定先企覧 ンターンシップの こ、実働10日以上: 作成し提出するこ	で専攻科 美等への 目的にふ 19日以て	4分科会 <i>の</i> 実習とす なさわしい	iと課題を体験し,日報,報告書,発表 D推薦により校長が選定して委属した る. N業務 小,発表を行うこと.
		発表の項目を	2総合して評価す	「る.評価に対する	「到達目標」1〜50 「知識・能力」の	各項目0.	ノ里めはに	前じである.
注意点	F-	<務 < 務 く の く の が が が と が が が と が <td>評価方法および 最大学院 大学院 大学総合和 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の</td> <td>『発表により成績を』 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(! 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 職内定者についてに</td> <td>「知識・能力」のステンシップの成終すである。 すること。 時間の厳守(10分割 は提出すること。 は提出すること。 は要できる業等/ が、内定先たは1年 が、大行または1年</td> <td>責評価基 前集高し、),任 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td> <td>準」に定 挨拶,は 者の発表。 れて発表。 であるこ を を でなるこ</td> <td>められた配点に従って,勤務状況,勤 られなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること チに提出すること、インターンシップ</td>	評価方法および 最大学院 大学院 大学総合和 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の 大学の	『発表により成績を』 「可」以上を取得す 知識の範囲>心得(! 日,作成し,報告書 手学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 職内定者についてに	「知識・能力」のステンシップの成終すである。 すること。 時間の厳守(10分割 は提出すること。 は提出すること。 は要できる業等/ が、内定先たは1年 が、大行または1年	責評価基 前集高し、),任 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	準」に定 挨拶,は 者の発表。 れて発表。 であるこ を を でなるこ	められた配点に従って,勤務状況,勤 られなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること チに提出すること、インターンシップ
	1	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 データンシップの成 評価する・ すること・ 持間の厳守(10分 青も作成し、実習 に提出すること・ が従事できるまき は、内定先企業等/ 算攻主任または1年 習先から指定され	青評価基 前集合), 「高導表会」 「第表の実際を 「第一条の実際である。 「第一条のでは、 「第一。 「第一。 「第一。 「第一。 「第一。 「第一。 「第一。 「第一。	準」に定 挨拶, は 者に発力 間にイある が で り、 で り、 で り、 で り り で り り り り り り り り	められた配点に従って,勤務状況,勤 られなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること チに提出すること、インターンシップ
	担	<務 < 務 く の く の が が が と が が が と が <td>評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中</td> <td>評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、</td> <td>「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. けること 時間の厳守(10分 書も作成し、実習 に提出すること。 こが従事できるまき、 大文主任または1年 関先から指定され 週ご</td> <td>大学を表示を表示を表示を表示の実は表示の表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表</td> <td>準」に定 接の授予を 者に子の 持た が が が が が が が が で す の で う で う で う で う の う の う い う の う い う い う い う い う い う い</td> <td>められた配点に従って,勤務状況,勤 6礼など) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 上に提出すること.インターンシップ を持参すること.</td>	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. けること 時間の厳守(10分 書も作成し、実習 に提出すること。 こが従事できるまき、 大文主任または1年 関先から指定され 週ご	大学を表示を表示を表示を表示の実は表示の表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	準」に定 接の授予を 者に子の 持た が が が が が が が が で す の で う で う で う で う の う の う い う の う い う い う い う い う い う い	められた配点に従って,勤務状況,勤 6礼など) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 上に提出すること.インターンシップ を持参すること.
注意点 授 業計 個	1	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 「あこと 時間の厳守(10分詞 書も作成し、実習者 に提出するこる美術 、内定先企まは、 内定先とは1年 関先から指定され 週ご 1. 打	大学を表示を表示を表示を表示の実は表示の表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	準」に定 接の授予を 者に子の 持た が が が が が が が が で す の で う で う で う で う の う の う い う の う い う い う い う い う い う い	められた配点に従って,勤務状況,勤 られなど) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること チに提出すること、インターンシップ
	週 1週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 評価する. 時間の厳守(10分 計量も作成し,実習 に提出すできるま 大力を大ました 対文主任または14 関先から指定され 週ご 1. 打る.	請評価基 前等書発の実は が、の生は、物 でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが でいるが	準」に定 挨の発えの発してである。 大の発えのである。 大の発えのである。 大のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	められた配点に従って、勤務状況、勤られなど)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守することとに提出すること・インターンシップを持参すること・
	週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計を作成し, ここと に提出するきる業と、 が、内定任または1年 習先から指定され、 週こ1. 打 る。 2. 作	情評価基 前貨等表の貨場を が、学でいる物 が、といるが となっている となっといる となっと、 となっと となっと となっと となっと となっと となっと となっ	準」に定 接換機の発力を表現でする。 は、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	められた配点に従って,勤務状況,勤 6礼など) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 上に提出すること.インターンシップ を持参すること.
	週 1週 2週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する: 時間の厳守(10分詞 計ること・表 に提出するころま学 にが発生先をは1年 関先から指定され: 週ご 1. 打 3. を 3. を	情評価基 前貨業を 高り、 一般を である。 一般を である。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	準」には 接換の発力の主体	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる・
	週 1週 2週 3週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定さる業等/ 事は、 対の主任または1年 関たから指定され、 週ご 1. 打 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って,勤務状況,勤 お礼など) を受けて,インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること. ーンシップの目的にふさわしい業務で と.実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること.インターンシップ を持参すること. 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる.
	週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定さる業等/ 事は、 対の主任または1年 関たから指定され、 週ご 1. 打 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定さる業等/ 事は、 対の主任または1年 関たから指定され、 週ご 1. 打 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に資料および発表の準備をすること・ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること・任に提出すること・インターンシップを持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。といまとめることができる。とができる。とができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 主に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 3週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 アーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分詞 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定と、 まが、内定子をは1年 翌先から指定され1 週ご 1. 打 3. を 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる・ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 15週 3週 4週 5週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定さる業等/ 事は、 対の主任または1年 関たから指定され、 週ご 1. 打 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	<	評価方法および 景・大学では 東大学では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中では 中	評価基準>「インタ 外発表により成績を 「所」以範囲>ル線(に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	「知識・能力」の成 デーンシップの成 評価する. 時間の厳守(10分 計ること、 時間の厳し、実と、 まが、内定さる業等/ 事は、 対の主任または1年 関たから指定され、 週ご 1. 打 3. を 4. を	請評 集責発を含めている。 前等発え、学で、となる。 は、大きでは、ものできますが、たった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	準	められた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる。 報にまとめることができる。 表資料にすることができる。

1	10週		
1	L1週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

鈴鹿	工業高等専	門学校	開講在度	平成31年度 (2	0010年度)	教科名	14 52 - 55 11 1 1 1
			一时两十次	ルルフェナ/又(2	.Uエノ 十 /又 <i>)</i>	1 13/11/11	インターンシップ Ⅱ
	近1月ギ収	0064			初日区公	古田 224	9
科目番号 授業形態		0064 実験・実習			料目区分単位の種別と単位	専門 選択 位数 学修単位: 4	
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノ ロジーコース)		対象学年	專2	¬	
開設期 集中			•		週時間数	4	
教科書/教			 fになし,参考書:インターンシップの		•		
担当教員			/ップ 担当教員				
到達目標	======================================						
技術者が終 れる.	経験する実務」	この問題点と説	果題を体験し,何	体験したことを日報 ・	や報告書にまとめ,	それらをもと	こ,発表資料を作成し,それを伝えら
ルーブリ	<u> </u>						
		J.	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レベ	ルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の至	引達目標項目	目との関係					
教育方法	去等						
概要		技術者が経験	する実務上の問	問題点と課題を体験 ⁻	する		
授業の進& 容・方法	め方と授業内	機関. たたし 【内容】専攻 【期間】2週 【日報】毎日 【課題】イン	ル、専収科2年次 収科生が従事でき 間以上の期間実 Ⅰ、日報を作成す ルターンシップ総	の就職内定者につい る実務のうち,イン 施した場合において 「ること. §了後に.報告書を	↑ C は,内定先企業。 ンターンシップの目 「,実働20日以上29 作成し提出すること	寿への美容とす 的にふさわし()日以下	の推薦により校長が選定して委属したでる。 でる。 い業務 し、発表を行うこと。
				>下記授業計画の			
注意点		発 く 務 く 務 く く く 、 、 の が に の が に の が に の が に の が に の が に の が に に の が に に の が に に に ら が に に に に に に に に に に に に に	・総合して評価す 評価方法および 計、報告書評価を サースでは、14 で、15 で、15 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16	「る、評価に対する、評価に対する、評価基準>「インタ ・評価基準>「インタ ・発表により成績を に可」以上を取得す 知識の範囲>心得(明本のでは、 日、作成し、報告書 日、中では、 事攻科学生 でいてに でいてに	「知識・能力」の各 アーンシップの成績 評価する. ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	項目の重みは「平価基準」に定集合)、挨拶、 集合)、挨拶、 募責任者の検印 表会用に発表 のう実習であること とは事な副主	同じである。 おれなど) おれなど) おでである。 おれなど) かででは、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 かっンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ
		発 く 務 く 務 く く く 、 、 の が に の が に の が に の が に の が に の が に の が に に の が に に の が に に に ら が に に に に に に に に に に に に に	・総合して評価す 評価方法および 計、報告書評価を サースでは、14 で、15 で、15 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16 で、16	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 アーンシップの成績 評価する. ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	項目の重みは「平価基準」に定集合)、挨拶、 集合)、挨拶、 募責任者の検印 表会用に発表 のう実習であること とは事な副主	同じである。 おれなど) おれなど) おでである。 おれなど) かででは、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 かっンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ
	週週	発 く 務 く 務 く く く 、 、 の が に の が に の が に の が に の が に の が に の が に に の が に に の が に に に ら が に に に に に に に に に に に に に	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各アーンシップの人類である。 「一切である」である。 「一切ではないではない。 「一切ではない。」 「一切ではない。」 「一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、	項目の重みは「平価基準」に定集合)、挨拶、 集合)、挨拶、 募責任者の検印 表会用に発表 のう実習であること とは事な副主	同じである。 おれなど) おれなど) おでである。 おれなど) かででは、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 かっンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ
	週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 アーンシップの成績 評価する。 一ること、 時間の厳守(10分前 書も作成し、実習指 に提出すること、 に提出すること実務へ 対立生任またには1年で 関先から指定されて 週ごと 1. 技術	項目の重みは「評価基準」(こだ 集合)、挨拶、前 集合)、挨拶、前 算責任者の検託表会用に発表のうち、で ないま習で ないまい ない いる物、評定 に の 到達目標	同じである。 おれなど) おれなど) おでである。 おれなど) かででは、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 かっンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ
	週 1週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の名 アーンシップの成績 評価する. 時間の厳守(10分前) 書も作成し、実と. 時間の大きなできた。 に提出するきる業等できた。 大学性事性をはされて 関生が、内主任またにはされて 関連を表する。 1. 技術	項目の重みは「平価基準」(こだ 集合)、挨拶、付者に発 表合)、 挨拶、付着 の 発表の ティース で ない で ない ない の 到達 目標 で おおが 経験する	同じである。 おれなど) おれなど) のでではて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 がアンシップの目的にふさわしい業務で とと、実習機関の規則を厳守すること。 住に提出すること。インターンシップ 量を持参すること。
	週 1週 2週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 アーンシップの成績 評価する. 時間の厳守(10分前: 計作成し、実習指 に提出すること、 がは事できる実等へ すり主任または1年学 翌先から指定されて 週ごと 1. 技術 る. 2. 体験	項目の重みは「平価基準」(に定集合)、挨拶、付着の検証を受ける。 算責任者の検証を受ける。 等責任者の発表のの実質である。 ではではできます。 ではできますが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) Dを受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 Pーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 「実務上の問題点を体験することができる。
	週 1週 2週 3週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 アーンシップの成績 評価する。 時間の厳守(10分前: 書も作成し,実習指導 に提出すること。 が、内定先企とまり、 外主任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体調	項目の重みは「平価基準」に定集合)、挨拶を持った。 集責任用に発えるに発える。 を対してある。 は要ないである。 が生はでは、である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) Dを受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 アーンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 事実務上の問題点を体験することができる。 提出まとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 アーンシップの目的にふさわしい業務で とと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 は、まとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 でーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を競守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績をする 「可」以上を取得する 知識の範囲 > 心得(情報) 日,作成し、報告書 大学は、専攻副主任 内容は、東でいては である。 かたら、2年学生は基本	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デること・ 時間の厳守(10分前語 きも作成し、実と・系 に提出すできる実等へ が内定任または1年学 型先から指定されて 週ごと 1. 技術 2. 体調 3. 体標 4. 体標	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ と 2 備 る 評 手 項 旗 し の ポ 年 考 こ 定 引 は 日 で 報 で と き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と さ き き , ・ に か し ト と で き を 筆	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 15週 3週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 15週 4週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
注意点	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示して評しています。 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 11分前 17 11分前 17 11分前 18 11分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 Eめられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 でーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を競守すること 任に提出すること。インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	発 < 務 < < < , < あ . の 表 学 態 性 あ レ え 子 徳 . の 表 学 態 性 あ レ え 年 考 こ 定 引 頃 積 日 要 め な は シ 専 最 日 要 め な は シ 専 最 . の	総合して評価する。 評価が表示では、 というでは、 というでは、 というでは、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にできますが、 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にいる。	「る. 評価に対する 評価基準 > 「インタ 評価基準 > 「インタ 第発表により成績を 「可」以上を取得す 知識の範囲 > 心得(日, 作成し, 報告書 下学は、専攻副主任 内容は、専りいては かたら、2年学生は基	「知識・能力」の各 7-ンシップの成績 デることではできる。 時間の厳守(10分前語 15 10分前語 15 10分前 16 10分前 17 10分前 17 10分前 17 10分前 17 10分前 18 10分前	項目の重みは「 評価基準」に定 集真任用に対 集真長表うのとは専功のでは、 はまったでは、 に	同じである。 このられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をするごと。 で一ンシップの目的にふさわしい業務で こと、実習機関の規則を厳守すること 任に提出すること、インターンシップ 書を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。 会にまとめることができる。

1	10週		
1	L1週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

动形	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	孝	科名	インターンシップⅢ
—— <u>31-72</u> 科目基礎		13312	1/3613 1 /2	1 1000 = 1 100 (=	1,2)		<u> </u>	1122222
<u>17口坐り</u> 科目番号	AT CIT S	0065			科目区分	I	専門 選択	₹
授業形態		実験・実習			単位の種別と単位		学修単位	
開設学科				文(ロボットテクノ	対象学年		専2	· ·
開設期		集中			週時間数		6	
教科書/教	· 材	教科書:特(インターンシップの	の手引き			
担当教員		インターンシ	シップ 担当教員					
到達目標								
		の問題点と記	果題を体験し,体	本験したことを日報	や報告書にまとめ	, それら	うをもとに	こ,発表資料を作成し,それを伝えら
ルーブリ	ノック							
		;	理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目	l安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	1							
評価項目2	2							
評価項目3	3							
 学科の智	到達目標項目]との関係						
教育方法								
<u>教育カル</u> 概要	식됩	技術老が怒	命する宝数 トの即		 すス			
授業の進む 容・方法	め方と授業内	資料を作成し 【実習機関】 機関・ただし 【内容】専び 【期間】2週 【日報】毎日 【課題】イン	、発表を行う. 学生の指導が拒 シ、専攻科2年次 対科生が従事でき 間以上の期間ま 1、日報を作成。	型当可能な企業また(の就職内定者についまる実務のうち、イ) 施した場合においてすること・	は公共団体の機関 いては、内定先企覧 ンターンシップの こ、実働30日以上 作成し提出するこ	で専攻科 (等への) 目的にふ	4分科会 <i>0</i> 実習とす ふさわしい	iと課題を体験し,日報,報告書,発表 が推薦により校長が選定して委属した る.)業務 ,,発表を行うこと.
				(部が無す)住く レストンと	「知識・能力」の			ルにかたましたに従って 節数形し 節
注意点	_	務態度 原 原 修 単 あ が し に に に に に に に に に に に に に		「発表により成績を 「可」以上を取得す 対職の範囲>心得(! 日,作成し,報告書 丰学生は専攻副主任 内容は,専攻科学生 職内定者についてに	アーンシップの成終 評価する. 「ること、 時間の厳守(10分 書も作成し、実習 に提出すること. 上が従事できる実 ま、内定先定を業等/ 取主任または1年	前集合), 「導責任 発表会に ・ ・ の実習 ・ 学生は	挨拶, は 者の検印 用に発表。 インタ であるこ 専攻副主	められた配点に従って、勤務状況、勤 おれなど) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 壬に提出すること、インターンシップ ま存着すること。
^{注意点} 授業計画		務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成終 評価する. 「ること. 時間の厳守(10分詞 計作成し,実習打 に提出すること. が従事できるる実 は,内主任または1年 関先から指定され	前集合), 「導責任 発表会所 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	挨拶, は 者の検印 用に発表。 , であるこ す攻評定書	ら礼など) を受けて, インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 升に提出すること、インターンシップ
	週週	務態度 原 原 修 単 あ が し に に に に に に に に に に に に に	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成終 評価する. 「ること. 時間の厳守(10分詞 計作成し、実習打 に提出すること. が従事できる実務 、内定先企業等/ 政主任または1年 望先から指定され 週ご	前集合),	挨拶, は 者の検印 用に発えり、であ副主体 で、あいまで では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 壬に提出すること、インターンシップ を持参すること。
		務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成終 評価する. ・ でること. ・ 時間の厳守(10分 ・ 書も作成し、実習打 に提出すること. ・ が、対定先企業等/ すり、主任または1年 望先から指定され 週ご	前集合),	挨拶, は 者の検印 用に発えり、であ副主体 で、あいまで では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ら礼など) を受けて, インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 升に提出すること、インターンシップ
	週 1週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成 評価する. 「ること。 時間の厳守(10分詞 情間の成守(10分詞 情に提出すること. だ従事できる業等/ が発生にまたは14 関先から指定され. 週ご 1. 打る.	前集合),任 第書 第表会 第一条の 第一条の 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条 第一条	挨拶, は 者にイの発えが、 ・ですり、であいいであり、 ・ですり、 ・でり、 ・でり、 ・でり、 ・でり、 ・でり、 ・でり、 ・でり、 ・で	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務でと、実習機関の規則を厳守すること 上に提出すること、インターンシップ を持参すること。
	週 1週 2週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成 評価する. 「ること、 時間の厳守(10分詞 情に提出すること. まが従事できる実等/ 以主任または1年 習先から指定され 週ご 1. 打 る.	前集合),任第書義会に 計算表会に 発のうとはを でといる との到送 を が者が は を が との と に と が と に と の と に る の と に る の と に る り と の と の と の も が る し る し る し る し る が る が る は る が る し る に る し る し る し る と し る と し る と し る し と し と	挨拶, は 者に発えの発えの またでする。 でする。 でする。 でする。 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 壬に提出すること。インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成終 評価する. 計間の厳守(10分割 計作成し,実習計に提出すること. が従事定先では1年 関先から指定され. 週ご 1. 封 る. 2. 存 3. 存	前集章 計算書表の 所 等表の を 所の 生は も い と の 到 が を が と た の と も の と も る り で と も る り で と も る り と う と う と う と う と う と が る り も が る が も り を が る が し を し た し た し た し た し た し た し た し た し た	挨拶、おおおります。 者にイカの発ンの発ンの主体です。 ですり、評標を を を を を を を を を を を を を と と を を を を を	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること、 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 壬に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる。 告書にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる・ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
	週 1週 2週 3週 4週 5週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること、 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 壬に提出すること、インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる。 告書にまとめることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生という。 (学) 日本 (学) 日本 (で) 日本 (専攻主をはに、14 ターンシップの (専攻科2年次の就 (最終日に受け取っ (最終日に) メモ州 (最終日に) メモ州	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 告書にまとめることができる. 表資料にすることができる.
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後にを受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができる・ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる・
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生はる物 でいるが とが者が たた を検した に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
受業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発 (が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など)を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ 	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること。インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 告書にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること。インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 告書にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 15週 3週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第書 第表 第表 第の実 でいる を が と が と が した に は に に に に に に に に に に に に に	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること。インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 機にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること。 ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 託に提出すること。インターンシップ を持参すること。 実務上の問題点を体験することができる。 告書にまとめることができる。 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するころ実等 に提出するころ実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週	務 然 単 の に 大 に 大 に 大 に い に い に い こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ	限,報告書およて 発生、報告書およて 発生、 発生を はで、日本 で、日本 はで、日本 ので、日本	が発表により成績を記している。 「可」以上を取得する。 以知識の範囲>心得(は 日、作成し、報告書 手学生は専攻副主任 内容は、専攻科学生 がたら、2年学生は基	アーンシップの成編 評価する. 「一名こと、 持間の厳守(10分詞 情も作成し, 実と、 に提出するこる実等 に提出するこる実等 「政主任または1年 習先から指定され」 週ご 1. 打 る。 2. 存 4. 存	前集章 第表会 第表の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第の生は 第	挨拶検表 おいます 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	ら礼など) を受けて、インターンシップ終了後に 資料および発表の準備をすること・ ーンシップの目的にふさわしい業務で と、実習機関の規則を厳守すること 打に提出すること・インターンシップ を持参すること・ 実務上の問題点を体験することができ 報にまとめることができる・ 表資料にすることができる。

1	10週		
1	L1週		
1	12週		
1	13週		
1	L4週		
1	15週		
1	L6週		
評価割合			
		インターンシップ評価基準	合計
総合評価割合	ì	100	100
配点		100	100

鈴鹿	工業高等専]門学校	開講年度			4	 教科名	生産設計工学	
科目基礎				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		· · ·			
科目番号		0068			科目区分		専門 選択		
<u></u>		授業			単位の種別。	 と単位数	学修単位		
開設学科				攻(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		後期			週時間数	2			
教科書/教材	<u> </u>	必要に応じ	資料を配布する		•		•		
		平井 信充,村	黄山 春喜,飯塚 昇	 쿠					
到達目標		,	,						
		本的考え方で ナイクル設計	あるエンジニア に応用すること	リングデザインの要 ができる.	要諦を理解し,	生産活動に	おける安全	の考え方を身に付け、移動体通信シ	
ルーブリ	ック								
			理想的な到達し	/ベルの目安	標準的な到流	達レベルの目]安	未到達レベルの目安	
評価項目1			エンジニアデサ でき, 自らその とができる.	デインについて説明 O能力を向上するこ	エンジニア:	デザインにこ	ついて説明	エンジニアデザインについて説明 できない.	
評価項目2			NABC価値提案	を実践できる.	NABC価値扱	是案について	説明できる	NABC価値提案について説明できたい。	
評価項目3			インターネット , ネットワーク	への技術を応用して 7設計ができる.	インターネ おり, 基本に ができる.			インターネットの技術を理解しておらず、基本的なネットワーク設計ができない.	
評価項目4			インターネット 新規サービス開 る.	への技術を応用した 開発の提案書が書け	基本的なサー書ける.	ービス開発の	の提案書が	サービス開発の提案書が書けない・	
評価項目5			ライフサイクル 要について具体 説明できる.	ンアセスメントの概 は例も含めて詳細に	ライフサイ [・] 要についてf	クルアセスン 簡単に説明	メントの概 できる.	ライフサイクルアセスメントの概 要について説明できない.	
評価項目6				が析の概要について 詳細に説明できる	インベント簡単に説明	リ分析の概 できる.	要について	インベントリ分析の概要について 説明できない.	
学科の到	達目標項目	目との関係	{						
教育方法	等								
概要		企業等にお , ものづく	ける生産現場に りにおける基本!	おいて必要となる各 的考え方と設計の実	種システムの 際を身に付け	設計手法, : ると同時に	生産に関す , エンジニ	る技術, 安全に関する事項等を学び アリングデザイン能力の向上を図る	
授業の進め 容・方法	方と授業内	・授業は講	義およびPCをノ	学習・教育到達目標 用いた演習形式で行 週の「到達目標」は	う. 講義中は	集中して聴	講する. ^	l)(2)a)に対応する. に相当するものとする.	
注意点		価する. 達 点法により く学業成績 く単位修得	成度評価におけ 60点以上の得 の評価方法およる 要件> 学業成績	る各「知識・能力」 点を習得した場合に び評価基準>4回の で60占以上を取得	の重みは概ね 目標を達成し)レポートまた }すること	均等とする たことが確 は小テスト	. レボート 認できるよ の平均点を	回のレポートまたは小テストにより評課題, 小テストの問題のレベルは百うに設定する. 100%として評価する. む)及びレポート作成に必要な標準	
授業計画									
	週	授業内容・				週ごとの到	達目標		
	1週	第1週 現 デザイン(様	代における工業(黄山)	的生産活動とエンジ	ニアリング	1 現代に	おける「#	のづくり」=工業的生産活動とは何 活者に必要な素養や能力は何かが理解	
	2週	第2週 事 の要諦(1	例に学ぶエンジ) - 課題設定力	ニアリングデザイン ・課題解決力ほか –	√の基本とそ ·(横山)	2. 実践的事例研究を通して, エンジニアリングでの基本とその要諦を理解し, 適切な価値判断, 技行を行うことができる.			
	3週	第3週 の要諦(2 能力ほか—) ―技術者とし	ニアリングデザイン ての視野・コミュニ	√の基本とそ ニケーション 	3.技術開 きる.	発とそれに	続く技術管理の基本と勘所が理解で	
	4週		術者の喜びと責 ^ん について(横山)	任 – 技術開発と技術	経営	上記 3			
	5週		信システムの標	. ,		できる.	通信に関連	望する標準化、周波数割り当てが理解	
後期	6週			数割り当て(飯塚)		上記 4			
	7週	第7週 無	線通信機器の法	規制(飯塚)		上記 4			
	8週		ービス開発の概			きる.		いけるサービス開発とは何かが理解で	
	9週	1	ンターネットその	1 1			ーネットで	「用いられる技術が理解できる.	
	10週	+	インターネット			上記 6			
	11週	1	電波伝搬と回線	· · · · · ·				理解できる.	
	12週	筆12调	ニノコサノカル・	フセフィントの畑田	7/ T/ ++ \	18 ライフ	サイクルブ	'セスメントについて説明できる.	
		1		アセスメントの概要	(+++)		2 1 2 707	こハハントについて助りてとる.	
	13週	第13週	インベントリ分	析の概要(平井)		上記 8	J 1 J/V/	ころう 下に りい ていらり ここ かい	
	13週 14週	第13週 第14週	インベントリ分 ライフサイクル!	析の概要(平井) 影響評価の概要(平邦		上記 8 上記 8	J 1 J 7 V 7		
	13週	第13週 第14週	インベントリ分 ライフサイクル!	析の概要(平井)		上記 8	2 1 2707		

評価割合							
	試験	課題レポート	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
配点	80	20	0	0	0	0	100

	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度	(2019年度)	教科名	総合イノベーション工学輪請
科目基礎	情報						
科目番号		0070			科目区分	専門 必何	多
授業形態		演習			単位の種別と単位		
開設学科		総合イノベーロジーコープ		文(ロボットテク	ソ 対象学年	専2	
開設期		前期			週時間数	2	
教科書/教材	———— 材		指導教員に委ねる		導教員に委ねる.	•	
	-	全学科 全教					
<u></u> 到達目標	 §	,					
		₽₩₩₽₽₽₽₽		ガブキ 齢難した	- シャクロのをシェか	→ の日本に当日・	まる能力を持つるとができる
ルーブリ		<u> 19970万冊 又 0 万</u>	快米で1] フここ	かてき, 粣蒔した	- 神文の内合を神理的。	ル・フツル唯に武功。	する能力を持つことができる.
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到	達目標項目	ヨとの関係	:				
<u>, </u>		> > 0 0 0 0					
概要	7.43	特別研究に関 , その内容を 礎を培う.	関連した国内外のをまとめて紹介す	の論文などを講読 する能力を培う.	を或いは輪読して基 さらに,質疑応答な。	本的事項を理解し	ン,最近の研究動向を知るとともに 発展させ,特別研究を進める上での基
授業の進め 容・方法	う方と授業内	4. 有質し、5. 料サ機材 という は、 大学	用化学学 化学学 化学学 化物学学 化物理学 物理学 物理学 物材学 小数学 大数学 大数学	工学,分離工学,分離工学,分離工学,機器生学,無機能材整点,機能材整点,機能材整点,材料, 材料料 記載, 表表面, 表面, 表面, 表面, 表面, 表面, 表面, 表面, 表面, 表	プロセス工学,反応 , バイオテクノロジ・ , バイオテクノロジ・ , 生物学, 無機合成化	江学, 反応有機イ(植物), 分子, ブロセスエ学, 学等料組織, 材料強用電気化学, 無相晶成長, 熱表面如習得度を輪記の習得度を輪記る。の習得度を輪記	定講読或いは輪読し、研究動向を知る 就の理解力と発表能力を培う。また 大を得する。 一、弾性学、熱力学、熱工学、流体工学 力がずみ解析、真空工学等 性、放電が理、固体電子工学、集積値 心理工学、制御工学、の表記を選売で 境電磁工学、制御工学、有機合成化学 境電磁工学、自然言語処理、バーラ 通信伝送工学、自然言語処理、バーラ 工学、理論有機化学、有機合成化学 子移動工学、特体工学、分子生物学、学 分離工学、粉体工学、分子遺伝学 を、材料プロセス、金属材料、無機材 機材料、電気化学、表面処理、材料リ の機材料、電気化学、表面処理、材料リ で、大材料プロセス、金属材料、無機材 の機材料、電気化学、表面の理、材料リ の大きながそれらに関するレポートの内 たま、合計点の60%の点数を取得した。
注意点		成績を評価で <単位修得理 <あらかじと <備考>論な	する. 要件>学業成績で め要求される基礎	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の韓 すること。 別研究 に関連する	基礎的知識なら7	がに周辺技術についての知識
		成績を評価で <単位修得理 <あらかじと <備考>論な	する. 要件> 学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究Ⅱに関連する 研究の指導教員と十分	基礎的知識ならで 分に相談すること	らに関するレポートの結果により学業 がに周辺技術についての知識。 と、また,周辺分野の基本的な事項に
] 週	成績を評価で <単位修得理 <あらかじと <備考>論な	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 記別研究Ⅱに関連する記 研究の指導教員と十分 週ご	基礎的知識ならで分に相談すること	がに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に
^{注意点} 授業計画		成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する引 研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論	基礎的知識ならで分に相談することを がに相談することを をの到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講	がに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。
	週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する引 研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 別研究に関する 文)の論文の講 文の検索方法が の調査ができる	がに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について
	週 1週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する 例研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
	週 1週 2週 3週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する 例研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
	週 1週 2週 3週 4週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する 例研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する 例研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること. 別研究Ⅱに関連する 例研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介できる 読ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究について した論文について、内容をまとめる。
	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる。
授業計画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	成績を評価では、 く単位修得できる。 くあらかじる。 く備考ンは関連を持ちた関連を表する。	する. 要件>学業成績で め要求される基礎 文あるいは専門 心を払うこと.	び評価基準>各自 で60点以上を取得 歴知識の範囲>特	に課せられた論文の 引すること。 別研究 II に関連する I研究の指導教員と十分 週ご 1. 特 文論 2. 論文 3. 静	基礎的知識ならで 分に相談するこの との到達目標 特別研究に関する 文)の論文の講 介文の検索方法が の調査ができる 読あるいは輪読	びに周辺技術についての知識。 と、また、周辺分野の基本的な事項に 国内外(海外のものについては特に 読あるいは輪読ができる。 修得でき、関連する先行研究につい した論文について、内容をまとめる

	輪講・レポート	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

鈴鹿_	C業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	才	教科名	総合イノベーション工字実験 (2年次)
科目基礎	唐報							(= 1.90)
<u>刊口圣呢</u> 科目番号	ІН+К	0071			科目区分		専門 必修	5
<u>17日日 7</u> 授業形態		実験・実習			単位の種別と単	4.台类	学修単位	
				(ロボットテクノ		- 177 27		. 2
開設学科 —————		ロジーコー			対象学年		専2	
開設期		前期			週時間数		2	
教科書/教材	<u>† </u>			. 参考書:各指導	教員に委ねる.			
担当教員		全学科 全教	員					
到達目標								
専門分野の	実験技術の体	↓験を通して! - トにするこ		を修得し, 先行研!	究について調査・	・学修を	踏まえて,	実施した実験等について,目的・結
ルーブリ		1,000						
,, ,			理想的な到達レヘ	 バルの目安	標準的な到達レ	ベルのE	 3安	未到達レベルの目安
評価項目1			生心 からり 注し	<u> </u>	保中のおり達り	·· ()[00][<u> </u>	不可定と、ひの口文
評価項目2								
評価項目3								
	·	コレの門だ						
		目との関係	<u> </u>					
教育方法	等	Г						
概要		専攻科特別の 工学,電子 行う.	研究と,また,学 情報工学,生物応	位授与申請のための 用化学,材料工学の	の学修成果レポー 分野の研究室によ	- 卜作成: らいて,	の準備とし これまでの	、て, 配属された機械工学, 電気電子 分研究を一層進展させるための実験を
授業の進め 容・方法 注意点		つた実1.用,2.工気3.シー4,白,5.リ <価き<<<報けめ験<工機<学化<スチ<有質遺~サ 到する学単あ告るには機学械電,学電テャ生機化伝材イ 達るよ業位ら書と必特械,工気情等子ムル物光学子料ク 目.う成修か作と要別工弾作電報 情、リ応化、工工ル、標レに績得じ成	もな研学生去子科 報青ア用学生学学 が設の要めて「基本の」、「大学のでは、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を、大学を	理 連機破御工学、 一学に 学 一次 で 一次	プレイン スト ロバ物料理熱 「こ、 果るアレイン 野学・バースト ロバ物料理熱 「こ、 果るアレイン 野学・バイン 、	3、尺評にプラー・磁式・応グネと気と、と、最もいいでは、大学化学のでは、大学化学のでは、大学化学のでは、大学化学のでは、大学のいいのでは、大学のいいのでは、大学のいいのでは、大学のいいのでは、大学のいいのでは、大学のいいのでは、大学のいいがでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、まりには、大学のでは、はいいは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、いいは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のは、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のいいは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	を 材液,電, 、、 反物セ 無, 得を い 項 料混応子画 環通 応)ス 機環の取 よ にし 強相力物像 境信 有,工 材境 度得 び つて 度流欠性処 電符 機分学, 料科 合し レ て デ,ず,ず, 埋 秘号 コ子, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	り、コミュニケーション能力を身に技術者として自主的に仕事を進める 学、計算力学、有限要素法、計算機援液体の微粒化、機械力学、精密工学がか解析等のが理、固体電子工学、集積回路型、大工学、制御工学、高周波回路、生体工学、制御行理論、自然言語処理、人工知能、バロ学、理論有機化学、有機合成化学・移動工学、粉体工学、分子遺伝学、電気化学、複合材料、表面処理、材料、大量的質工学、有機材料工学等では、一下と実験操作・作業により評し場合に目標を達成したことが確認でポートにより学業成績を評価する。こと、お具、装置の使用に当たって
授業計画								
	週	授業内容・プ			调7	ごとの到	連目標	
	1週	,~~,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,						継続的学修を進めることができる.
	2週							則定器具の自作、組み立て、プログラション、測定準備の具体的作業を進め
	3週				3.	行った基	基本的な実際	験等について,目的,結果,考察をま ことができる.
	4週				4. 説	上記報告明するこ	i書に基づい とができる	いて, 指導教員に成果の内容を明確に 3.
	5週				5.	今後の研	肝究方針に	ついて展望を述べることができる.
前期	6週							
	7週							
	8週							
	9週							
	10週							
	11週							
	12週							
	13週							
	14週							

	15週				
	16週				
評価割合					
		実験操作・作業	レポート		合計
総合評価割	<u> </u>	70	30		100
配点		70	30	-	100

給鹿	工業高等専	門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	 教科名	特別研究Ⅱ
科目基礎			7 大田田山	1 1 1000 1 1712 (2	1/2/	3V11.H	192361204
79日圣顷 科目番号	CIHTK	0072			科目区分	専門 必何	冬
190番5 授業形態		実験・実習			単位の種別と単位数		
開設学科				文(ロボットテクノ	対象学年	専2	/
開設期		通年	V		週時間数	3.5	
<u>//102///3</u> 教科書/教		/ <u> </u>	 1道数量に委ねる		1	5.5	
<u> </u>		全学科 全教					
	<u> </u>	1 - 3 11 - 32					
持別研究 I カ,問題点	I のテーマに関 i を明確化しる	とれを解決する	事項を理解し,研 る能力,創造性を 身に付けている.	研究のプロセスを通 を発揮し計画的に仕	して高度な専門知識と 事ができる能力, 論理	:実験技術なり 性的に意思伝道	らびに継続的・自律的に学習できる能 達・討論・記述する能力, 英語による
レーブリ	Jック	<u> </u>		ベルの日安(原)	標準的な到達レベル	の日安(自)	未到達レベルの目安(不可)
评価項目1			生心的な到底と	700日女(俊)	保存的は到底というと	<u>の日文(区)</u>	<u> </u>
<u>- 岡境日 1</u> 平価項目2							
平価項目3							
		コレの即だ			1		
	列達目標項E	コとの関係					
<u>教育方法</u>	5等	1					
既要		める上での身 な文章表現力	具体的な課題を設	は定する能力,継続は 基本的なコミュニケ・	的・自律的に学習する	能力,創造力	析を総合的に応用する能力,研究を進 力,プレゼンテーション能力,論理的 き課題に対して創造性を発揮し,解決
受業の進 <i>8</i> ・方法 注意点	か方と授業内	5シー4	は、学、学、学、性、検金の時間を ・、イ:化薬工料学・アラウオ学・アラウラででは、 ・、イ:化薬工料学・アラウラででは、 ・、イ:化薬工料学学期 法るし法論業れすば、 ・、イ:化薬工料学学期 法るし法論業れすば、 ・、大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上信 学 分	トワーク、通信伝送工学、「一ク、通信伝送工学、「一ク、通信伝送工学、「一ク、「一ク、「一个才テクリー」、「一方、「一个才学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、」「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、」「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、一个大学、「一个大学、一个大学、「一个大学、一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、「一个大学、一个大学、一个大学、一个大学、一个大学、一个大学、一个大学、一个大学、	「学 が	, 〈英語〉, JABEE基準 野は次の通りである。 学, 計算力学, 有限要素法, 計算機打液体の微粒化, 機械力学, 精密工学, 水砂電物理, 固体電子工学, 集積回距工学, 制御工学, 電子線機器学, 電磁工学、制御工学, 自然言語処理、人工知能、 JOH (1) (1) (1) (2) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
受業計画	<u> </u>						
	週	授業内容・方	5法		週ごとの	D到達目標	
	1週				1. 研究	を進める上で	で解決すべき具体的な課題を設定し, 的に学習することができる.
	2週				ができる	3.	を把握し,その解決の方策を考えるこ
	3週				3. 研究の きる.	のゴールを意	識し,計画的に研究を進めることが
	4週						の創意・工夫を発揮することができ
前期	5週				とができ	き, 的確な討	て、理解しやすく工夫した発表をする 論をすることができる.
רוּאָניו	6週						, 英語による概要説明ができる.
	7週						倫理的に記述することができる. 文要旨を適切に記述することができ
	8週						
	9週						
	10週						
	11週			<u> </u>			
	12週						
	13调						

13週

	14週			
	15週			
	16週			
	1週			
	2週			
	3週			
	4週			
	5週			
	6週			
	7週			
後期	8週			
1女州	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			
評価割合				
		論文	発表	 合計
総合評価割	l合	70	30	100
配点		70	 30	 100

	工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)		教科名	移動現象論	
科目基礎				•	-	•			
科目番号		0073			科目区分		専門 コー	ス選択必修	
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位	2	
開設学科		総合イノベロジーコー	ーション工学専攻 ス)	(ロボットテクノ	対象学年		専2		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教林	 材	教科書:な	し、ノート講義参	考書:「Transpor	•	na (2nd	Edition) E	ird, Stewart, Ligh	tfoot (Wiley)
担当教員		船越 邦夫	,			-		, , , , ,	, , , ,
到達目標									
運動量移動	かれ熱移動・物	加質移動に関 熱・物質の	する相似性を理解 移動過程の計算に	し, これらの移動) 利用できる.	過程を記述す	る微分方	程式を導出あ	るいは利用するため	めの基礎知識を習
ルーブリ	リック								
			理想的な到達レヘ	ジルの目安	標準的な到	達レベル	の目安	未到達レベルの	目安
評価項目1			運動量移動に関す を解くことができ		運動量移動を解くこと	こ関する? ができる	基礎的な問題	運動量移動に関	する問題を解くこ
評価項目2			伝熱に関する応用 ことができる	目的な問題を解く	伝熱に関する ことができ		な問題を解く	伝熱に関する問題 きない	題を解くことがで
評価項目3			物質移動に関する 解くことができる	る応用的な問題を 3	物質移動に 解くことが	関する基礎 できる	逆的な問題を	物質移動に関するができない	る問題を解くこと
学科の到	J達目標項E	目との関係	-						
教育方法	 :等								
概要		移動現象論 移動の類似	は,運動量,熱, 性を学ぶとともに	物質が様々な過程で , 移動現象を記述	を通じて移動 する微分方程	する現象 式の導き	である. 本講 方を学ぶ.	義では,運動量移動	動・熱移動・物質
頃巻クギャ	ナレ哲学中	・すべての	授業内容は, 学習	・教育到達目標(B)					
授業の進め 容・方法	方と授業内	・授業は講	義形式で行う.					に相当するものとす	ナフ
注意点	<u> </u>	試く施くく))応く習験学し単あ、,工自時で業な位ら化物学己間でまなりで変しい。 で業な位らに物学己間でがでいる。 で業なができている。 で業なが、 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 で業ない。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる	. 1~12に関するのでは、1~12に関するの評価方法および要件> 学業成績を要の状態)は、1~12に関するでは、1~12に関	重みは同じである 評価基準> 中間 で60 点以上を取得 知識の範囲> 本 分に理解している う)、実験の履修が望 学習時間と、予習	. 合計点の6 . 合い期末の . 合い期末 . おいまいま . まいま . 会で . でいま . でい。 . でいま . でい。 . でいま . でいま . でいま . でいま . でいま . でいま . でいま . でいま . でいま . でい . でい . でい . でい . でい . でい . でい . でい	0%の得点 2回の試 教育科 数 育 科 き 進 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	記で目標の達成 験の平均点で の数学(微分 , 専門科目で 工学 I (3,4 期試験のため	1~12の確認を中	ルの試験を課す。 試験の再試験は実 や物理(力学 相平衡, 熱力学 , 化学工学Ⅲ, 反
ᅶᆓᇚᄈ	1				10/5 (C- <u>T/1+</u>)	<u>accn.</u>	里安 (める		
火木川巴	週	授業内容・方法			(1) (C-1)		里安である. 到達目標		
<u> </u>	1週	授業の概要		力の物理的意味, i		週ごとの	到達目標 vton の粘性注	5則,円管内流れの	
<u>,又未可</u> 世		授業の概要 Newton の	粘性法則, 剪断応	力の物理的意味, intum balance によ	重動量flux	週ごとの 1. Nev 説明でき	到達目標 vton の粘性活	芸則,円管内流れのこので説明できる。	圧力損失について
以未可世	1週	授業の概要 Newton の 流下液膜流	粘性法則,剪断応 れのshell momer		運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下	到達目標 vton の粘性活 る。 で変膜の流れに		圧力損失について
<u> </u>	1週 2週	授業の概要 Newton の 流下液膜流 円管流れの	粘性法則,剪断応 れのshell momer	ntum balance によ	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管	到達目標 vton の粘性流 る. 液膜の流れに 内を流れる流	ついて説明できる	圧力損失について いて説明できる.
<u> </u>	1週 2週 3週	授業の概要 Newton の 流下液膜流 円管流れの 連続の式,	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの	ntum balance によ 機構:層流・乱流,	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管	到達目標 vton の粘性流 る. 液膜の流れに 内を流れる流	こついて説明できる 体の流動状態につ	圧力損失について いて説明できる.
<u>以未叫吧</u>	1週 2週 3週 4週	授業の概要 Newton の 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式	ntum balance によ 機構:層流・乱流, の式	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記4	D到達目標 vton の粘性流 る。 T液膜の流れに 内を流れる流 の式, Berno	こついて説明できる 体の流動状態につ	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
<u> </u>	1週 2週 3週 4週 5週	授業の概要 Newton の 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続	ntum balance によ 機構:層流・乱流, の式	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記4	D到達目標 vton の粘性流 る。 T液膜の流れに 内を流れる流 の式, Berno	ついて説明できる 体の流動状態につ pulli の式について記	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業の概要 Newton の 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三 運動方程式 中間試験 伝熱の機構	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続	ntum balance によ機構:層流・乱流, の式 応用 射	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 記明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記 4 5. 運動	到達目標 vton の粘性が る. 液膜の流れで 内を流れるが の式, Berno 力方程式, 運動	こついて説明できる 体の流動状態につ pulli の式について記 力量保存則について いて説明できる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三 運動方程式 中間試験 伝熱の機構 伝導伝熱:	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放	tum balance によ 機構:層流・乱流, の式 応用 射 面壁の伝導伝熱	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 記明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記 4 5. 運動	回達目標 vton の粘性を る。 で液膜の流れで 内を流れるが の式, Berno 可方程式, 運動	こついて説明できる 体の流動状態につ pulli の式について記 力量保存則について いて説明できる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三 運動方程式 中間試験 伝熱の機構 伝導伝熱: 多層平板,	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平i	tum balance によ 機構:層流・乱流, の式 応用 射 面壁の伝導伝熱 管壁の伝導伝熱	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記4 5. 運動 6. 伝禁 7. 伝導	回達目標 vton の粘性を る。 で液膜の流れで 内を流れるが の式, Berno 可方程式, 運動	でいて説明できる。 体の流動状態について記 の式について記 の式について記 の式について記 の式について記 が記明できる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元,三 運動方程式 中間試験 伝熱気伝熱、 多層平板, 対流伝熱:	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平i 単一円管,多層円	tum balance によ機構:層流・乱流,の式 応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱 括伝熱係数	運動量flux る定式化	週ごとの 1. Nev 説明でき 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記4 5. 運動 6. 伝禁 7. 伝導	到達目標 vton の粘性溶え。 液膜の流れに 液膜の流れに の式, Berno n方程式, 運動 の機構につい	でいて説明できる。 体の流動状態について記 の式について記 の式について記 の式について記 の式について記 が記明できる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元, 運動式 中間試験 伝熱の機構: 多層平板, 対流伝表: 二重式熱:	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積	tum balance によ機構:層流・乱流,の式 応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱 括伝熱係数	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nev 2. Nev 2. 流下 3. 円管 4. 連続 上記 4 5. 運 6. 伝伝 7. に対 8. 対流 上記 8	到達目標 vton の粘性溶え。 液膜の流れに 液膜の流れに の式, Berno n方程式, 運動 の機構につい	でいて説明できる。 はいて説明できる。 はいの式について記 はは、の式について記 は、これできる。 は、これできる。 は、これできる。 は、これできる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れの 連続の式, 二次元方程動 中間試験 伝熱の 会層平板熱 対流医管系 放射伝熱 放射伝熱 放射伝熱	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積	mum balance によ 機構:層流・乱流, の式 応用 射 面壁の伝導伝熱 管壁の伝導伝熱 括伝熱係数 の算出 nn の法則, 放射伝	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nev 2. Nev 2. Nev 3. 円連 4. 連 4. 正記 4 5. 運 6. 伝伝 7 上記 7 8. 対 8 9. 放 9.	対達目標 vton の粘性を る。 液膜の流れを 内を流れる の式,Berno の方程式,運動 の機構について に 大熱について	でいて説明できる。 はいて説明できる。 はいの式について記 はは、の式について記 は、これできる。 は、これできる。 は、これできる。 は、これできる。	圧力損失について いて説明できる. 说明できる. 説明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	授業の概要 Newtonの 流下液膜流 円管流れ式, 二次元,三 運動試験 伝熱等伝教 多層平板, 対流重管熱: 対射伝熱: 方にkの法則	粘性法則,剪断応れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 」,物質移動境膜,	mum balance によ 機構:層流・乱流, の式 応用 射 面壁の伝導伝熱 管壁の伝導伝熱 括伝熱係数 の算出 nn の法則, 放射伝	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nev 1. Nev 2. 流下 3. 円連続 4. 連続 5. 運 6. 伝伝 7. 記7 8. 記8 9. 放射 10. Fi 11. 匿	対達目標 vton の粘性がる。 液膜の流れないで、 の式,Berno の大程式,運動の機構について な人類について な人類について なくないでは、 ないでは、 ないで	でいて説明できる。 は本の流動状態について記して説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 ご説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. 説明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	要Newton の 流下ででである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、できますな。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できまなな。 では、できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	粘性法則,剪断応れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 」,物質移動境膜,	ntum balance によ機構:層流・乱流,の式応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱がある。 括伝熱係数の算出 nnの法則,放射伝物質移動係数 ル相互拡散,一方抗	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nev 1. Nev 2. 流下 3. 円連続 4. 連続 5. 運 6. 伝伝 7. 記7 8. 記8 9. 放射 10. Fi 11. 匿	到達目標 vton の粘性がる。 液膜の流れる流内を流れる流の式,Berno が方程式,運動の機構について はた熱について はたぬについて はたの第一に対する。 はないではないではないではないです。 はないではないではないです。	でいて説明できる。 は本の流動状態について記 の式について記 の量保存則について いて説明できる。 説明できる。 説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. 説明できる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	要Newton の 流下ででである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、できますな。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できまなな。 では、できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 」,物質移動境膜, 対する流束,等モ	ntum balance によ機構:層流・乱流,の式応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱がある。 括伝熱係数の算出 nnの法則,放射伝物質移動係数 ル相互拡散,一方抗	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nev 2. Nev 2. 流下管 3. 円連続 4.記4 5. 連 6. 伝伝7 上記7 8. 放射 10. 同 11. 固 12. 運	到達目標 vton の粘性がる。 液膜の流れる流内を流れる流の式,Berno 力方程式,運動の機構について はた熱について はたぬについて はたの第一に対する。 はないではないではないではないです。	でいて説明できる。 は本の流動状態について記して説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 ご説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. 説明できる.
	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	要Newton の 流下ででである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、できますな。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できまなな。 では、できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,單 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 月,物質移動境膜, 対する流束,等モ ・熱移動・物質移	ntum balance によ機構:層流・乱流,の式応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱括伝熱係数の算出 nn の法則,放射伝物質移動係数 ル相互拡散,一方抗動のアナロジー	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nevel 2. Nevel 2. Nevel 3. 円連 4. 記 4. 記 5. 運 6. 伝 7. 記 7 上記 9. 放 10. 固 11. 明 11. 明 11. 明 11. 明	対達目標 vton の粘性活 る。 液膜の流れは 内を流れる の式, Berno 力方程式, 運動 な低熱について は依熱について は体の第一法 に定座標に対す 動きる。	でいて説明できる。 はいの流動状態について記 はいの式について記 ははいの式について記 はいできる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. ごろ. できる. のできる. のできる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	要Newton の 流下ででである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、できますな。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できまなな。 では、できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,平 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 」,物質移動境膜, 対する流束,等モ	ntum balance によ機構:層流・乱流,の式 応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱 括伝熱係数 の算出 nn の法則,放射を物質移動係数 ル相互拡散,一方抗動のアナロジー 相互評価	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nevel 2. Nevel 2. 不管 4. 円連 4. 記 4 5. 運 6 伝 7 8. 記 数 9. 放射 10. Fi 11. 問 12.明	到達目標 vton の粘性がる。 液膜の流れる流内を流れる流の式,Berno 力方程式,運動の機構について はた熱について はたぬについて はたの第一に対する。 はないではないではないではないです。	でいて説明できる。 はいの流動状態について記 はいの式について記 ははいの式について記 はいできる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. 説明できる.
前期	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	要Newton の 流下ででである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型になりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 一型にはなりである。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、のでは、できます。 では、できますな。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できますできます。 では、できます。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、では、できますな。 では、できますな。 では、できますな。 では、できまなな。 では、できまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	粘性法則,剪断応 れのshell momer 圧力損失,流れの Bernoulli の式 次元的流れの連続 ,運動量保存則の :伝導,対流,放 Fourier の式,單 単一円管,多層円 境膜伝熱係数,総 交換器の伝熱面積 Stefan – Boltzma 月,物質移動境膜, 対する流束,等モ ・熱移動・物質移	ntum balance によ機構:層流・乱流,の式応用 射面壁の伝導伝熱管壁の伝導伝熱括伝熱係数の算出 nn の法則,放射伝物質移動係数 ル相互拡散,一方抗動のアナロジー	重動量flux る定式化 Re 数	週ごとの 1. Nevel 2. Nevel 2. Nevel 3. 円連 4. 記 4. 記 5. 運 6. 伝 7. 記 7 上記 9. 放 10. 固 11. 明 11. 明 11. 明 11. 明	対達目標 vton の粘性活 る。 液膜の流れは 内を流れる の式, Berno 力方程式, 運動 な低熱について は依熱について は体の第一法 に定座標に対す 動きる。	でいて説明できる。 はいの流動状態について記 はいの式について記 ははいの式について記 はいできる。 説明できる。 説明できる。 説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。 がはいて説明できる。	圧力損失について . いて説明できる. 説明できる. 説明できる. ごろ. できる. のできる. のできる.

鈴鹿	 工業高等専	 門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	教科	名 4			
科目基礎										
科目番号		0074			科目区分	専門	専門 コース選択必修			
授業形態		授業			単位の種別と単位	立数 学修	学修単位: 2			
開設学科		総合イノベー ロジーコース		文(ロボットテクノ	対象学年	専2	専2			
開設期		前期			週時間数	時間数 2				
教科書/教	材	ROBERTS/ V	用しない. 配布 MALTER 著 中	資料およびノート. 2村桂子, 松原謙一	参考書:「細胞の 監訳 ニュートン	分子生物学 プレス 第5版	ALBE 仮ほか	ERTS/ JOHNSON/ LEWIS/RAFF/		
担当教員		今田 一姫								
到達目標										
子の多様な	な機能性に関す	に関する基礎的 する専門的知識]事項を理解し, 线を身に付け, <i>)</i>	タンパク質が集合 (イオテクノロジー	して形成された生 ^ん へ応用することが	体超分子の構 できる.	觜造, 梭	機能ならびに構築機構から生体超分		
ルーブリ	<u> </u>	1_			I			T		
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目			未到達レベルの目安		
評価項目1	1		様々な生体分子がどのような構造 をつくるか説明できる.		代表的な生体分子について説明で きる.		明で	代表的な生体分子について説明で きない.		
評価項目2	2	2	生体分子の応用	例を挙げ、どのよ られているのか説	生体分子の応用例を挙げることだ できる.			生体分子の応用例を挙げることができない.		
評価項目3	3	5 6	分子レベル捉え	ることによって生 きる可能性を説明	生命現象を分子レベルで説明する ことができる.			生命現象を分子レベルで捉えることができない.		
学科の発	到達目標項目		<u> </u>		ı			1		
教育方法										
概要	Δ ()	生体を構成す 子となって全 機能を理解し	成する核酸, タンパク質, 多糖, 脂質などの生体分子は, それぞれ独立して働いているだけでなく, 生体超分に全く異なった作用をすることが数多く知られている. ここでは, 初めに生体分子および生体超分子の構造と 曜した後, 超分子のバイオテクノロジーへの応用化について学ぶ.							
授業の進 容・方法	め方と授業内	・授業は講義	・すべての授業内容は,学習・教育到達目標(B)<専門>,JABEE基準1(2)(d)(2)a)に相当する. ・授業は講義形式で行う. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で修得する「知識・能力」に相当するものとする.							
注意点		〈学業成績の評価方法および評価基準〉前期中間・前期末の2回の試験の平均を70%,レポートの評価を15%,小テスの評価を15%として評価する。ただし,前期中間において60%に達していない学生には再試験を実施し,再試験の成終が前期中間試験の成績を上回った場合には,60点を上限として再試験の成績で置き換えるものとする。ただし前期中間試験を無断欠席した学生には再試験を実施しない。また前期末試験においては再試験を行わない。<単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。<あらかじめ要求される基礎知識の範囲>本教科の学習には,生物化学,微生物学 II ,分子生物学,細胞工学,生物化学、文ンパク質化学,生物情報工学,生体材料工学,分子生命科学(専攻科)の習得が必要である。<自己学習、学業で保証する学習時間の総計が,90時間に相当する学習内容である。 〈注意事項〉各項目でキーワードをあげるので,これらについて必ず理解すること。						には再試験を実施し, 再試験の成績 換えるものとする. ただし前期中間 検を行わない.		
授業計画	<u> </u>									
	週	授業内容・方	法			との到達目標				
	1週	生体高分子から生体超分子へ				1. 生体高分子と生体超分子の違いを説明できる.生体超分子の応用例を挙げることができる.				
	2週	生命を維持する生体高分子の構造と機能 (1) タ								
	3週	生命を維持す	る生体高分子の	D構造と機能 (2) 核	酸 上記	上記 1 3. DNAおよびRNAの性質,構造,機能を説明できる				
	4週	生命を維持する生体高分子の構造と機能 (3) 多			4. 多	4. 多糖の性質,構造,機能を説明できる.複合糖質について説明できる.				
	5週	両親媒性物質による超分子集合体の形成			5. リ	上記 1 5. リン脂質などの両親媒性物質が作る構造について説明できる.				
前期	6週	タンパク質のスイッチON/OFF			6. ゟ によ	6. タンパク質同士またはタンパク質と低分子間の相互作用による, タンパク質の機能制御について説明できる.				
	7週	ウイルスの構	造と宿主への愿	蒸染		7. ウイルスを生体超分子として説明できる.				
	8週	前期中間試験			これがで	これまでに学習した内容を,例を挙げたり,説明することができる.				
	9週	中間試験の解説 DNAコンピューター				8. DNAコンピューターの構想について説明できる.				
	10週	運動する生体超分子			9. 迢	9. 運動に関わる超分子構造について説明できる.				
	11週	イオンチャネ	ルとイオンポン	10. きる	10. イオンチャネルとイオンポンプの構造と働きを説明できる.					
	12週				相互	11. 抗体の構造と機能が説明できる. 核酸とタンパク質の相互作用がつくる構造と機能を説明できる. また, その応用例を挙げることができる.				
	13週	生体超分子の	生体超分子の解析方法			12. 生体超分子の構造や動きの解析方法を説明できる.				
	14週	生体分子を分	生体分子を分ける・つなげる			13. 生体分子を分割したり,他分子と融合することによる機能創出について説明できる.				
		バイオ医薬とドラッグデリバリーシステム			1及月七		C 12/0 /3	じさる		
	15週	バイオ医薬と	:ドラッグデリノ		14.			できる. の超分子の応用例や可能性について		

評価割合								
	試験	レポート	小テスト	合計				
総合評価割合	70	15	15	100				
配点	70	15	15	100				

	工業高等専	 門学校	開講年度	 平成31年度 (2	.019年度)		 教科名	細胞情報科		
科目基礎			,	(=		I				
村日					科目区分	専門 選択				
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	学修単位:			
開設学科		総合イノベーション工学専攻(ロボットテクノロジーコース)			対象学年		専2			
開設期前期					週時間数		2			
教科書/教	材	「分子生物:	学講義中継 Part2	2」井出 利憲 著	(羊土社)					
担当教員		山口 雅裕								
到達目標	Ē									
御されて紹	肥および組織	子集合の過 戦としての働	程における分子機 きを担っているか	構の認識についてのにていてでいる。 について理解する。	の専門的知識	を身に付け	け、さらに、	それらの分子だ	べどのように統合,制 	
ルーブリ	リック					油しが川の日 宮		未到達レベルの目安		
評価項目1			理想的な到達レベ 細胞内シグナル位 て理解し、実際の つけて説明できる	細胞内シグ	標準的な到達レベルの目安 細胞内シグナル伝達の概要につい て理解している.			<u>の目安</u> -ル伝達の概要につい いない.		
評価項目2			細胞接着・細胞質 て理解し, 細胞増 明できる.	格の概要につい	細胞接着・	着・細胞骨格の概要につい 細胞接着・細胞骨格の している.				
評価項目3			細胞周期の概要での制御機構につい	いて理解し, そ いて説明できる.	そ 細胞周期の概要ついて理解している.			細胞周期の概要ついて理解していない.		
学科の到	達目標項	目との関係	÷							
教育方法	·等									
概要		講義では, 伝達や分子: 動物発生の	解析の研究は、ゲノム中にどのようなタンパク質がコードされ、それらのタンパク質がどのように協調しあるを伝達しあって)遺伝、発生、分化などの機能をしているかを解明することに焦点が移ってきている。この機能発現や相互作用解析の基礎となるタンパク質の、分子レベルの相互作用について学び、細胞内外の情報集合の過程における分子機構の認識を理解できるようにする。この科目は、企業・研究所で医薬品の研究やM研究に携わっていた教員が細胞内シグナル伝達や細胞分裂の分子機構について講義形式で行うものである。							
授業の進め 容・方法	か方と授業内	授業は講義	容は学習・教育目標(B)〈専門〉, JABEE基準 1 (1) (d)(2)a)に相当する. ・聴講形式で行う. 」における各週の「到達目標」は、この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする							
注意点		験を行わな <単位取得 ないしと 報工学,遺	い 要件>学業成績で6	0点以上を習得する 知識の範囲>微生物 料工学,分子生命	ること. 9学II, 分生生 4学の内容を	E物学, 細臓習得してい	包工学, 生物 ること.	加化学工学,夕江	の成績を上回った場 を試験については再試 ンパク質化学,生物情	
授業計画	Ī									
	週	授業内容・	・方法			週ごとの至	列達目標			
	1週	細胞におけるシグナル伝達				1. 細胞は外部からのシグナルを受容し、それによって細内の変化が誘導されることを理解している.				
	2週	代表的な細胞	長的な細胞内シグナル伝達系			2. 細胞間シグナルを受容する4種類の受容体を理解している.				
	3週	細胞間のシ	 胞間のシグナルを伝達する因子			3. 細胞間シグナルを伝達する因子について理解している				
		サイトカインとその受容体・シグナル伝達				4. サイトカインとそれが伝達する細胞内シグナルについて				
	4週	サイトルイ.	ンとその安谷体・:		理解している。					
	5週		内細胞の増殖 子受容体からの細胞内シグナル伝達(1)MA			5. 生理的再生系組織, 条件再生系組織, 非再生系組織にいて簡単に説明できる.				
	6週	ケード	一件ルグジ河間地内)	MENA	6. MAPK	カスケードカ	「増殖に与える影	影響を説明できる.		
	7週	増殖因子受容体からの細胞内シグナル伝達(2)リン朋カスケード				7. リン脂	ー 質のカスケ-	_ - ドが増殖に与	える影響を説明できる	
前期	8週	中間テスト				8. これまでの学習内容を説明できる				
		細胞接着(9. 代表的な細胞接着の様式の構造について説明できる.				
	9週									
	10週	細胞接着(2)				10. 細胞接着の制御とシグナルについて説明できる.				
	11週	細胞骨格				11. 微小管, アクチン線維, 中間径線維の働きについて説明できる.				
	12週	細胞周期(1) 概論				12. 細胞周期進行を司る分子群について簡単に説明できる				
	13週	細胞周期(2) 各期で起きること				13. 細胞周期の各期で起きることについて簡単に説明できる。				
	14週	細胞周期(3) 制御と監視				14. 細胞周期の監視について説明できる.				
	15週	タンパク質の分解				15. タンパク質分解について説明できる				
	16週									
評価割合			T	I.==	T 10 12 13	1 .			T = -	
~~ ~ · · ·	試験		課題	相互評価	態度	発表	ξ	その他	合計	
総合評価害	引合 100		0	0	0	0		0	100	

			_	_			
配点	100	0	0	0	0	0	100